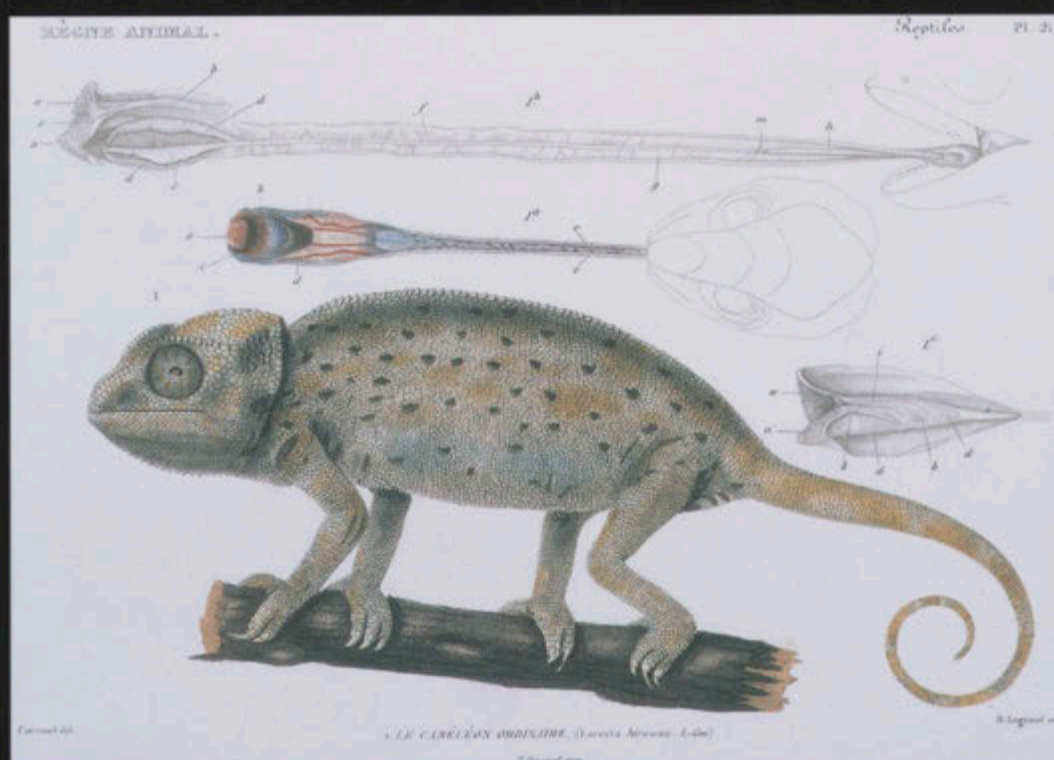


# 繁殖する自然 博物図鑑の世界

主催：慶應義塾図書館 協賛：丸善株式会社



キュヴィエ「動物界」より



(31) 鳥類 2

レッスン『ハチドリ』(1829-1830)「サフォーと渾名されたアカフトオハチドリ」エッチング  
(手彩色)







(64) 水棲生物 1

ゴス 『英国イソギンチャク・サンゴ自然誌』 (1860) 「イソギンチャク類」 リトグラフ (手彩色)





(79) 花と植物

ソーントン『フローラの神殿』(1812)「スタペリア」エッチング、スッティプル(多色刷、手彩色)

## ご 挨 拶

限られた地域にしか生息しない動物、これまで見たことのない形の植物、さらには自分たちとは顔や姿、生活・風俗が異なる人々などの存在は、いつの時代でも私たちの知的好奇心を刺激してきました。未知の世界を見たい、知りたいという願望は万国共通のもので、それが知らざる世界の探求、秘境探検に結びついたのでした。

アリストテレスの時代までさかのぼれるといわれるこうした知的好奇心は、博物学と呼ばれる学問分野の確立に貢献しました。そして、その成果の一部は、博物図鑑の形で人々を楽しませてきたのです。博物図鑑は、それぞれの時代で、人々が世界をどう捉えていたか、どう理解していたか、どのようなものに関心・興味を抱いていたかを知らせ、その時代の知識・学識のレベルや特徴を示すものでもあります。時代の鏡とさえいえることができます。

ルネサンス期から18世紀にかけて、ヨーロッパは2期に及ぶ大規模な大航海時代を迎えています。その間に行われた世界各地への探検によってヨーロッパにもたらされた多くの珍奇な動植物の情報や標本は、長い歴史をもつ博物学や博物図鑑に大きな転機をもたらしました。また、印刷術の発明や図版作成技術の進歩は、図鑑出版の新たな力となったといえます。

今回、「繁殖する自然—博物図鑑の世界」をテーマとして、16回目の慶應義塾図書館貴重書展示会を開催する運びとなりました。本展示会では、ヨーロッパに的を絞り、「鳥」、「蝶」、「虫」、「花」、「水棲動物」のような動植物だけではなく、「大航海」や「日本」と係わる、代表的でユニークな博物図鑑100点あまりを選んで、展示・解説することに致しました。また、初めての試みとして、図鑑に見られる様々の画像をデジタル形態で鑑賞できる場も用意しました。展示書の選定・解説およびデジタル画像の作成は、鷺見洋一慶應義塾大学文学部教授にお願いしました。仏文学者である鷺見教授は、博物学に対しても造詣が深く、本図書館に収蔵されている博物図鑑や百科事典を対象とする研究プロジェクトを現在進めておられます。

昔はテレビや映画などがありませんでしたし、交通手段も未発達でしたから、多くの人にとって未知の世界に触れる唯一の手段は、博物図鑑だったといえます。図鑑で見るエキゾチックな世界に、人々はさぞ心を躍らしたことでしょう。

本展示会は、博物図鑑やデジタル画像などを通じて、それぞれの時代の人々にとって、未知の世界がどのようなであったか的一端をお見せするとともに、銅版画の技法など図鑑制作技術の発展に関する状況も紹介することを意図しております。この展示会が博物図鑑の面白さを実感していただく機会となるだけでなく、こうした図鑑に接したときの彼らの驚きや感銘に思いをはせていただければ、幸いです。

最後に、この企画にご賛同下さり、種々ご協力いただいた丸善株式会社に深く感謝申し上げます。

慶應義塾図書館長  
細野 公男

# 目 次

グラビア (カラー 4 点)

ご 挨拶…………… 慶應義塾図書館長 細野 公男…… i

## 目 次

繁殖する自然 — 博物図鑑の世界…………… 慶應義塾大学文学部教授 鷺見 洋一…… iii

## 凡 例

展示書籍解説…………… 鷺見 洋一…… 1

主要参考文献リスト…………… 鷺見 洋一……195

人名索引…………… 鷺見 洋一……198

図版制作者名索引…………… 鷺見 洋一……202

展示品リスト…………… 鷺見 洋一……209



# 繁殖する自然 —— 博物図鑑の世界

鷺見 洋一

## 序：慶應義塾大学博物誌資料の構築

慶應義塾大学図書館には、グーテンベルク以後のヨーロッパ印刷本が多数収蔵されている。とりわけ木版、銅版、石版の印刷技術を駆使して制作された図版を含む古版本が多い。そうした稀覯本の中でも一際個性ある輝きを放っているのが「慶應義塾大学博物誌資料コレクション」である。本大学の卒業生で作家の荒俣宏氏が、1995年に慶應義塾大学図書館に譲られた200余タイトルの資料を中心に構築されつつあるコレクションである。

博覧強記の荒俣氏は驚くべき広範な分野にまたがる著作活動で知られるが、『世界大博物図鑑』（平凡社、全5巻、別巻2巻）刊行の偉業によって、わが国における博物学再興の祖とも言われている。荒俣氏が博物学研究、とりわけ『世界大博物図鑑』執筆のために収集された博物誌の書籍は夥しい量におよび、16世紀から20世紀にかけて刊行された欧米の博物図譜を柱に、解剖図、地図、旅行記、美術関係などの図像資料を網羅している。慶應義塾大学図書館ではこの荒俣氏のコレクションに、17・18世紀ヨーロッパの辞典や百科事典、さらにそれ以外の博物誌資料などを加えて、近代西欧の「知」を形作る文字と図像による巨大な資料庫を作り上げている。今回の展示は、数多い博物誌資料の中から、原則として図版を伴う書物、いわゆる博物図鑑を中心に約100点を選び出し、時代と主題に即して並べてある。

美しい図版に描かれた珍しい鳥や蝶や花を愛でる目の快楽だけでも、この展示会の存在理由としては十分すぎるほどであろう。だが、博物誌、博物図鑑はそれ自体一個の「知」のシステムとして、さまざまな角度から考察され、論じられるべき分野でもある。目の快楽については「展示書籍解説」のページを彩る魅惑の図版で堪能いただくとして、以下の小論ではもっぱら断章形式による記述によって、そうした博物誌資料の持つ歴史的、または今日的意味を考えるための糸口となるような考察を試みたい。

## I 分類すること

生きることとは分類することである。私たちは身の回りのすべてのものを整理し、しかるべき枠やカテゴリーに位置づけないと気がすまないし、落ち着かない。狭い生活圏域で暮らしている場合はともかく、かなり長い時間をかけて移動したり、旅行したりする時でも、ふだん目にできない珍しい風景や人や存在に目を見張り、やがてそれらの対象を自分の意識の中に取り込んで、なんとか「正常化」しようとする。そのとき、私たちがやっている営みは、まさしく分類なのである。

博物学とは何よりもまず分類の学であった。たとえば、古代のアリストテレスは、動物学の創始者であり、400種以上の動物を知っていた。うち50体は解剖までしている。『動物誌』において、アリストテレスは動物について二つの大きなカテゴリーを区別する。血液が赤い動物とそうでない動物。前者が脊椎動物であり、後者は無脊椎動物である。これは動物に関するもっとも古くて、新しい「分類

法」の一つであった。

アリストテレスの後、何人かの自然学者が動物学に手を染める。とりわけ『博物誌』を著したプリニウスがいる [カタログ通し番号(1)]。だがプリニウスをもってしても、肝心の分類にさしたる進歩は見られなかった。時代は下っても、ギリシア・ローマの観察に新しい知見をもたらすような寄与はなかなか生まれなかった。コンラート・ゲスナー (1515-1565) は素晴らしい版面に彩られた『動物誌』 [カタログ通し番号(4)] (1551-1558) を書き、ウリッセ・アルドロヴァンディ [カタログ通し番号(5)] (1552-1607) の 10 巻におよぶ百科事典は動物学に関する知識の集大成であるが、そこで採用された分類はアリストテレスのものとさしてえらぶところがなかった。そこに見られるのは、動物に関する文学的ともいえるような情報の歴史なのであって、信じ難いほどの誤解や思い込みが紛れ込むことになった。また、ゲスナーは『動物誌』で、アルファベット順というきわめて非科学的な配列法を採用している。

17 世紀、英国人 J・レイ (1628-1704) とその友人のウィラビー (1635-1672) は、解剖学的な観察のおかげで脊椎動物の分類を改良した。レイは、魚はえらによって呼吸するが、他の脊椎動物は肺を持っていることを発見した。心室が一つしかない心臓をもつ蛇は、心室が二つある四足動物や鳥類、爬虫類から区別される。毛皮のある四足獣は胎生であるが、羽毛を持つ鳥類は卵生である。一方、ウィラビーは鯨類に胎生四足獣のあらゆる特徴を発見した。

人間解剖学の発達で動物の解剖学的研究を進め、資料が蓄積されて比較解剖学が生まれる。1675 年頃のことである。脊椎動物についての知識にくらべて、無脊椎動物の研究は今一歩であったが、マルピーギ (1628-1694)、レーウェンフック (1632-1723)、スワンメルダム (1637-1680) などが、顕微鏡を用いた微小世界の研究を進めた。スワンメルダムは昆虫、甲殻類、多くの軟体動物やさその組織を研究した。

17、18 世紀人が新しいコンセプトに基づいた分類を考えるとき、なによりもまず心がけたのは、偉大な先人たちが打ちたてた巨大な世界体系との関わりであった。植物学の領域でラマルクが行った先行システムの網羅と批判がまさにそれである。『フランスの植物相』(1778 年) でラマルクは、先人の業績をおおいに評価しながらも、それらがすべて「体系」すなわち「人為分類」であることを批判した。「人為分類」は実践的、教育的な目的をもち、動植物の種類を見分けるのに役立つだけの、比較的安易な分類法である。それに対し、多くの博物学者が試みようとしていた「自然分類」とは、全生物の本質を把握したいという哲学的要請に促されており、当然ながら個々の動物や植物のすべての特徴や性質を網羅することから始めなければならない。これはほとんど人間の能力を超えた企図であり、その仕事は果てしがない。

宇宙を単純な法則で説明しようとするニュートン哲学全盛の時に、「カオス」や「堆積」という無秩序をあらわす言葉で、人々が世界について思い描くイメージを形容していたことは注目されてよい。とりわけ、無脊椎動物たちが示す收拾のつかないほどの多様な混沌ぶりは、パリ自然史博物館に集う学者たちを絶望させるだけの迫力に満ちていたのである。

啓蒙の世紀はリンネ [カタログ通し番号(11)] (1707-1773) の世紀であり、その作品は分類に関して決定的に重要である。リンネは『自然の体系』(1735) の初版以来、諸存在の分類法を確立しようと試み、存在間の本当の類縁性を表すシステムを構築しようとした。彼は外的特徴も把握するが、同時に存在内部に関わる解剖学、呼吸器官や生殖器官なども研究する。リンネは動物を六つの綱に分類する。すなわち四足獣、鳥類、両生類、魚類、昆虫、蠕虫である。昆虫以外のすべての無脊椎動物は蠕虫の

中に分類される。さらにリンネは独自の命名法を提案して大きな成功を取めた。各動物の学名は二つのラテン語の単語で成り立っている。最初は名詞で属を表し、大文字で書かれる。二つ目は形容詞か、多くの場合属格の名詞で種を表す。飼犬のことを *Canis familiaris* というがごとくである。この二名法という近代的分類システムは『自然の体系』第 10 版 (1758 年) に基づいて確立され、その中でリンネは 4730 の種を記述している。

リンネの同時代人であるビュフォン[カタログ通し番号(16)～(27)] (1707-1788) は動物学に専心し、多くの著作を刊行した。『四足獣の自然誌』(1755-1767)、『鳥類の自然誌』(1770-1783) などである。ビュフォンは必ずしもリンネの考えに同調するものではなく、むしろ反対であった。二名法を馬鹿にしたビュフォンは、属や綱や目などは我々の想像力の中にしか存在せず、自然には個体しかないのだと言って憚らなかった。

ビュフォンの協力者であった解剖学者のドーバントン (1716-1800) は、哺乳類の記述解剖学を創始する。それ以外にもさまざまな動物のグループを研究する動物学者たちがいた。アルテディは魚、パラスは虫、アダンソンは軟体動物、レオミュールは昆虫、スパランツァーニ (1729-1799) は実験によって蛙のような動物の受胎を研究した。トランブレ (1700-1784) はヒドラの再生能力を発見する。

19 世紀におけるラマルク (1744-1829) とキュヴィエ (1769-1832) の貢献は重要である。『動物界のタブロー』(1806) において、ラマルクは脊椎を持った動物 (哺乳類、鳥類、爬虫類、魚類) と無脊椎動物 (軟体動物、環形動物、蜘蛛類、昆虫、腸を持った虫、ポリープ) を認める。1807 年、彼はそれまでポリープに分類されていた滴虫類を加え、蔓脚類を軟体動物と環形動物の間に位置付け、結局 14 の綱となった。そこには誤りも多かったが、一つ重要な区別が設けられた。それは脊椎のあるなしということである。

一方キュヴィエ分類はまったく違う。『動物界』[カタログ通し番号(48)(57)(72)] (1817) で、彼はあらゆる動物が構成される四つの一般的プランを認めた。その四つとは、脊椎動物、軟体動物、関節動物、腔腸動物の門に対応している。キュヴィエの仕事は比較解剖学を抛りどころにしておき、初めて化石の研究が現在の形態研究に結びつけられた。ラマルクとキュヴィエに共通の問題意識、そしてまた確執や相違は、今日なお私たちにとっても無視できない問題をはらんでいる。

## II 博物学とは何か

17 世紀末から 18 世紀初頭にかけて成立した自然誌という学問は、それまで支配的だった自然についての素朴な説明・解釈に対し、森羅万象、すなわち自然のすべての存在についての全的記述をもって置き換えようとした。古典古代からルネッサンスまで、生きとし生けるものについての知識が形成されてきたやり方とは反対に、今後、世界の理解はもっぱら諸存在の目に見える外観や相貌を手がかりになされることになったのである。

16 世紀の末まで、自然を知るとは、空間に散在する諸存在がたがいに照応しあっている類似の網の目を解読することであり、目に見える相似の彼方に自然の秘密を発見し、個々の存在に隠れた同一性へと送り返す印を見つけ出すことなのであった。古典時代とは、明証と空間の感覚である視覚の特権化し、それ以外の感覚を疎かにした。そうすることで、事物の間の目に見えない密かな関係を遠ざけ、事物の可視的構造のみを優先したのである。かくして自然誌とは、目に見えるものについての命名と分類の企てとなり、生き物に関する一つの総体知として現れるのである。

自然誌の狙いは、目に見えない機能や組織ではなく、表面や輪郭であった。自然誌は組成や従属と



いった内的な関係を無視する限りにおいて、生物学として自立することはできなかった。自然誌にとって、実際、生命とは分類の一カテゴリー、諸存在の配列の一つの特徴にすぎなかった。18世紀の末になって、ようやく構造は有機体に、目に見える特徴は内的な従属関係に席を譲り、かくして生物学出現の条件が整うのである。

古典時代における生物学の命名と分類の仕事の中で、自然誌は次の三つの難問にぶつかっていた。一つ目は生物界の多様性という問題。17世紀末には、すでに何万という生物種が知られていた。自然の形態は、古典的な分類概念の狭隘な枠組に還元しきれなくなっていたのである。二番目の難問は生物界の連続性である。自然は飛躍を行わない。従って、どのような形態にもそれなりの必然性があると考えられた。「奇形」に対する異常ともいえる関心が生まれてくるゆえんである。三番目の難問は、自然界には個体しか存在せず、種や類といったものは人類の想像の産物でしかない、という疑問である。これはリンネに対してビュフォンが差し向けた根本的異議であった。すると必要になるのは、この上なく「自然」で、神がかったところのない秩序の発見であった。それには二つのやり方があった。一番目は「体系」である。体系とは一定数の特徴を選び出し、観察しうるすべての個体においてその恒常性と変異を研究する、というものである。この整合性を優先する方法は、それがためにまた、古典的な分類の枠組みが陥った硬直や人為性を背負い込む危険があった。二番目のやり方は「方法」である。方法は体系とは逆に、いかなる先見性からも出発しない。方法は対象物同士の厳密な比較から出発して、徐々にそれらの相違を演繹するのである。

以上を別な見方から言い直すなら、近代（17、18世紀）を特徴づけるものは、どこまでも水平の広がりを持つ空間の表象である。この時代の人々が、探検や夢想で見つけ出すさまざまな存在や現象は、一枚の表象図面に散在する多様な要素として捉えられ、同質と差異の織りなす複雑にして単純な網の目に位置づけられる。そうした地平の開けを可能にしたのは、いわゆる旅行、とりわけ遠洋航海であり、その最大の学問的形象化が、遠洋航海からもたらされた珍奇な収獲物を分類・整理する営みから生まれた博物学であった。博物学とは、この世界の果てまで充満する物質をことごとく記述しようとする学問であり、世界の混沌や錯綜をそのまま受け入れて、溢れ出る「もの」に呑み込まれることを厭わない、何とも楽天的な知の集積なのである。

とりわけ18世紀博物学、すなわち「自然誌」の哲学上の基礎となるのは、伝統的な「存在の連鎖」という思想の18世紀風読み替えであった。被造物はすべて連続して結びあっており、宇宙は無限の充満をなしているというポーブやロックまでの連鎖観念を、啓蒙主義者は批判して、古代唯物論の流れを汲む万物連鎖説に置き換えた。上下の別なく、すべての存在が平等な隣接関係に位置づけられる自然界では、正常と異常の区別さえあやふやになる。万物の間に必ずや連結の鎖がある以上、人間の知性が捉えきれない分類の網の目に、「異常」な中間的存在が現れても何ら驚くには足らないのである。こうして18世紀「自然誌」は、現実の「旅行」、「航海」、「探検」などに支えられながら、観念の世界に「異常」、「奇形」、「怪物」への強い関心を呼び覚まし、さらには「ユートピア」という究極の空間を夢想するにいたるのである。

### III フランス挿絵本の浮沈

いうまでもないことだが、本展示が扱う博物図鑑は、テキストと図版の二つの部分から成り立っている。つまり、博物図鑑は挿絵本の一形態なのだ。歴史を俯瞰して見ると、たとえばフランスの場合、印刷物の発明この方、挿絵本が隆盛をきわめた時期と沈滞気味の時期とが散見される。その浮沈のリ

ズムは、当然のことながら博物図鑑の浮沈のそれと一致する。

まず、フランス挿絵本の危機、停滞の時代を拾い出してみると、三つの時期が浮かび上がってくる。一番目は1690年～1710年、ルイ14世治世末期である。この時期、フランスは勝ち目のない対外戦争に明け暮れ、また国内では度重なる大規模な凶作によって飢饉が広がっていた。大規模な不況期に贅沢な絵入り本の制作などことの外である。第二番目の時代は1815年～1828年。ナポレオン・ボナパルトが百日天下に失敗し、セントヘレナ島に島流しになるエピソードから始まるこの時期は、ルイ18世、シャルル10世と続く王政復古、白色テロなどによって象徴される反動政治の時代だった。第三の時期は1890年～1900年、いわゆる世紀末である。二つのパリ万国博覧会に挟まれたこの時期は、ドレフュス事件によってフランス社会全体が大いに揺れ動いた時期であり、社会主義者や急進党主義者たちの活躍で、政治が混迷をきわめていた。

一方、フランス挿絵本が繁栄した時代は四つある。まず1545年～1565年。この20年間は、フランス・ルネッサンスの促進者であるフランソワ1世の晩年から、アンリ2世、フランソワ2世、シャルル9世と王位がめまぐるしく交代する時期で、対外的には戦争、国内でも宗教戦争が始まるなど、決して平和な時代ではなかった。だが当時のフランス文化は、デュ・ベレー『フランス語の擁護と顕揚』をもって始まるプレイヤード詩派の活躍があり、また何よりもラブレール『第三の書』、『第四の書』が刊行されるなど、きわめて充実した時期にあった。第二番目の繁栄期は、1755年～1775年まで。この期間はいわゆるフランス啓蒙主義文化の隆盛期にあたり、またディドロ、ダランベールによる『百科全書』[カタログ通し番号(14)(15)]の刊行期ともほぼ重なる。第三の隆盛期は1828年～1870年まで。七月王政と第二帝政期をほぼ完全にカバーする時期で、ロマン主義から始まる19世紀フランス文化の隆盛期にあたり、また挿絵本にとって欠かせない銅版画と出版文化が栄えた時代でもあった。最後の時期は20世紀に入って1918年～1940年。これは兩次大戦間と呼ばれる時代で、20世紀芸術・文化のあらゆる運動・動向が出揃い、さまざまな実験や模索を繰り返していた、きわめて創造的で野心的な時代である。

#### IV 博物図鑑の誕生背景と発展

ルネッサンス期の大航海による諸発見は、薬草園や動物園の発達を促した。画家自身が大旅行を試みるようになり、16世紀以降は、自然の偉大な景観を描出するようになる。異国趣味もそこから生まれる。王侯や聖職者、法律家は、珍品陳列室に思い思いの品を収集し始める。さらにオリエント、ビザンチン、イスラムの写本、あるいは西洋の彩色写本に直接想をえて、図版集が制作され始めた。

画家は庭で栽培した植物か、あるいは標本から写生した。動物は動物飼育所で見ると、剥製をモデルにする。だが、19世紀までは、どちらかというと先行図版をコピーすることが多かった。

かつての博物図鑑と呼べるものには二種類あった。まず、布、木、銅版に描かれた多彩な画材のもので、王侯貴族の陳列室用に制作された作品。王侯貴族の博物誌に対する関心を証立てると同時に、お抱えの高名な画家の写実力を示すことが多い。もう一方は、より個人的な作品群である。なめし皮に描かれ、さまざまな種を画像で分類保存し、愛好家への啓蒙にもなった。また、学者と協同することで、人体の神秘を発見したり、鉱物学や化石に通暁することにもなるのである。こうして見てくると、自然の細密描写は素描の発達と無関係ではない。素描の多くは博物図版に使われるようになるが、ただし多くの場合、彫版師の仕事が素描のせつかくの出来映えを裏切ってしまうこともある。素描はそれ以外にも、刺繍、織物、磁器などの職人のために用立てられることがあった。

こうした気運を背景にして、大コレクションと呼べる装置が整い始めることになる。「驚異の部屋」(ドイツ語で「ヴンダーカマー」)への趣味が培われ、諸種の大発見や思想上の大変動を促した。この動きは当然ながら、博物画の進展にも寄与することになる。

メディチ、ハプスブルク、ブルボンの王家たちのコレクションの中でも、一際群を抜いて、画家たちの上質なでき映えが目されるのが、「王のヴェラム」と呼ばれるフランス宮廷のコレクションであった。17世紀フランスは、博物画集の編纂という事業で博物図鑑史上でも最重要の時代である。

ガストン・ドルレアン(1625-1686)のヴェラム・コレクションに端を発するこの図版収集は、1631年に画家のダニエル・ラベールがプロワで制作を始めたのが最初と言われる。だが、当時の最大の絵師はニコラ・ロベール(1614-1685)であった。ロベールは当代一の花の画家という名声を確立しており、1645年から1660年まで、プロワでガストン・ドルレアンに仕えた。ガストン・ドルレアンは1660年に没。コレクションを甥のルイ14世に遺贈し、ここに、ヴェラムに描かれた花と鳥を中心とする世界に誇るコレクションが、ヴェルサイユ宮廷で構築され始めるのである。

1666年、ルイ14世はニコラ・ロベールを「国王御用の細密画家」に任命し、年棒600リーヴルで24点のヴェラム制作を義務づけた。ロベールは全部で727点を制作する。これらのヴェラムは博物画に大きな影響を与えることになり、大勢がコピーをした。また、芸術ジャンルの絵画にも影響が大きく、布やヴェラムに描いた花束絵などが流行する。大革命期の1793年、国民公会は王のヴェラムを自然史博物館に移す。コレクションの継続が決定し、動物と植物の専門画家を任命する公募があった。ニコラ・マレシャルが動物専門、ルドゥーテ兄弟が植物専門にそれぞれ任命される。とりわけピエール＝ジョゼフ・ルドゥーテは、18世紀末から19世紀初頭にかけての最大の博物画家で、国家コレクションに519点制作している。ナポレオンによるエジプト戦役のあと、この国の博物誌記述にも多くのヴェラムが制作された。アンリ＝ジョゼフ・ルドゥーテ[カタログ通し番号(81)(82)]は114点のヴェラムを制作している。

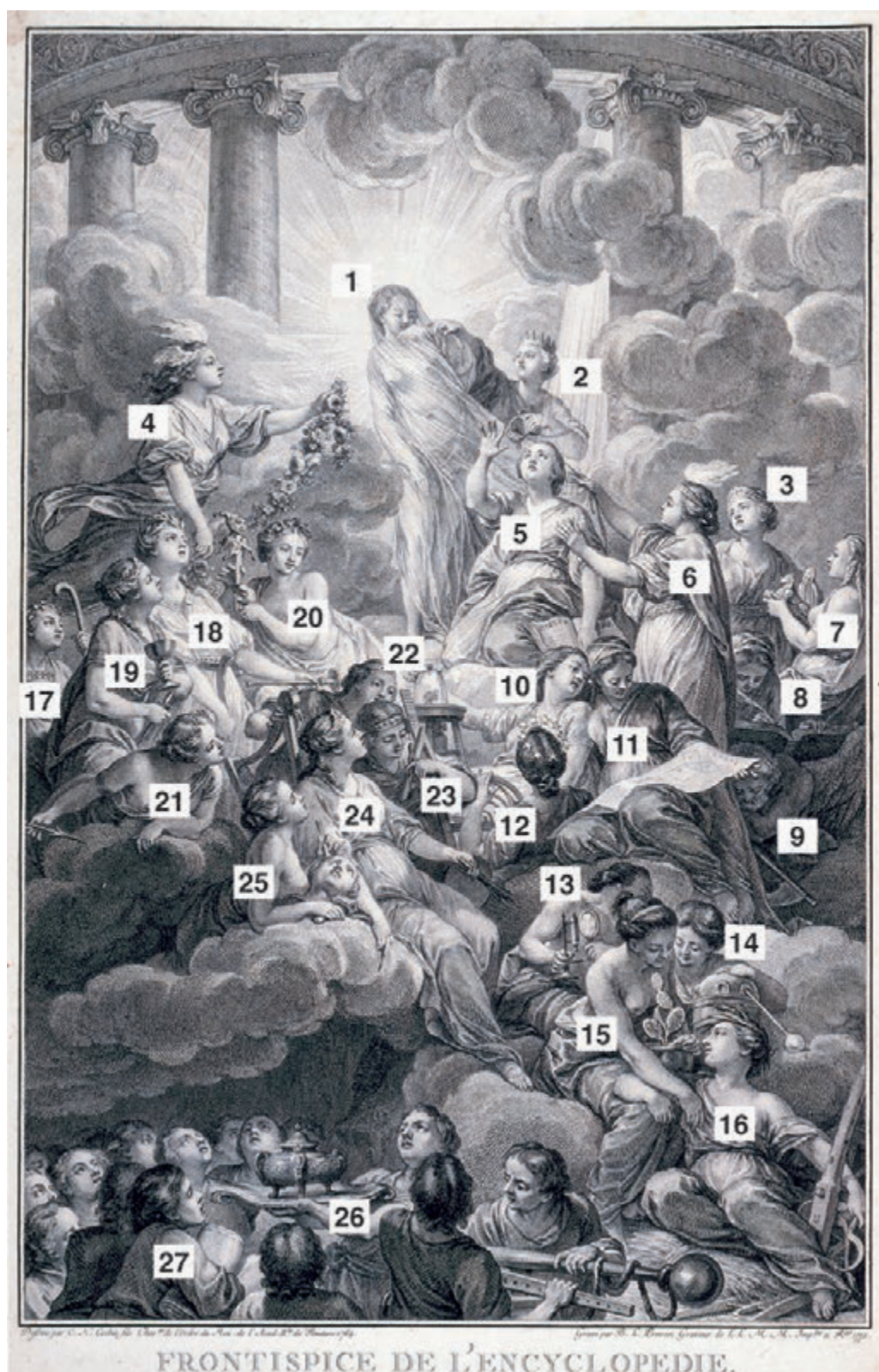
## V 言葉と図版

西欧における書物の歴史は、パピルス紙でできた線状の巻物から、羊皮紙を切り分けて綴じ合わせたCODEX(冊子体の綴じ本)が生まれたとき、大きな転換を経験した。巻物は読書の時間に合わせて繰り延べられる線的特質を有し、連辞性(syntagme)が特徴である。一方、CODEXはページを備え、どこからでも読み始められる範列性(paradigme)を有している。カセットテープ、マイクロフィルム、ビデオテープは、CODEXに比べると、本質的に連辞性を本質とする。だから、頭出しができず、不便なことこの上ない。CODEXは、現在の書物と同じで、好きなページにどこからでもアクセスできる範列性が強みである。ところが、その後も読書行為は、なぜか線に即した連辞性を軸に行われた。

さらに、17世紀までは、図版の文法ですらもが言葉の文法に従い、もっぱら連辞性に絡め取られていた。ホラチウスの*Ut pictura poesis*「詩は絵のごとくに」は、やがて*Ut poesis pictura*「絵は詩のごとくに」と読みかえられた。すなわち絵を見る者は、文章を読み解くように、描かれた対象を解読しなければならない。寓意の約束事に通じている必要があるのである。挿絵は原テキストが伝える唯一の「意味」を媒介する道具である。絵の構成要素を「文」にまとめて読者に教えること、これこそがイメージの役割であった。読者に読みの余地を与えない、図像表現というわけである。

ここで、分かりやすい一例として、ディドロとグランペールの『百科全書』巻頭に掲載された扉絵[カタログ通し番号(14)]を解読してみよう。これは挿絵画家コシャンの原画に基づく扉絵で、『百科





全書』本文第1巻に後から挿入されたものである。「啓蒙」(理性の光で無知の闇を照らす)の旗印をそのまま絵にした寓意画だ。画の中に見られる27名の人物(女性26名、男性1名)を、手にしている「持ち物」などから絵解きした結果は以下の通りである。1:「真理」(ヴェールを纏っている。「理性」(2)「哲学」(6)にヴェールを脱がされかけて、光を発し、それが周囲にある無知蒙昧の黒雲を吹き散らしかけている)。2:「理性」(右手で真理のヴェールを脱がせようとしている。左手には轡があり、手前の「神学」を牽制している。この轡は、本来は罪深い情念を抑制する「キリスト教理性」を表す)。冠も、もともとは諸学の王である「神学」(5)がかむるべきものだ。3:「記憶力」(光の方を見ている)。4:「想像力」(裸体になる「真理」(1)に花飾りを差し出している)。5:「神学」(真理に背を向け、天から射してくるはずの光を待って仰ぎ見ている。左手に聖書。本来は地球儀の上に坐っているはずである。また、跪いた姿勢は「祈祷」を表すもの。啓示を待つ恍惚の表情からすると「聖性」。きわめて曖昧に描かれた寓意図である。要するに「宗教」が「理性」(2)に負けている事態がカムフラージュされていると解せる)。6:「哲学」(右手で「真理」(1)のヴェールを引っ張り、左手で「神学」(5)を制している)。7:「古代史」(右手に骨董屋で売っているような小像、左手にスフィンクスとプレスレット)。8:「近代史」(暗闇で光に背を向け、一心不乱に年代記を執筆中)。9:「時」(足下に鎌を持った老人で、「近代史」(8)のノートを背中で支える)。10:「物理学」(ロバート・ボイルの実験器具に右手で触っている。器具の中では空気を抜かれた小鳥が死んでいる。画中の多くの女性は、「真理」(1)ではなく、この器具を注視しているように見える。これは図像学の伝統を打ち破る新しい要素である)。11:「幾何学」(ピタゴラスの定理を描いた図形を眺めている)。12:「天文学」(後ろ姿で、髪の毛に星があしらわれており、左手で天球儀に触っている)。13:「光学」(右手にルーペ、左手に顕微鏡)。14:「化学」(左手で実験器具を抱えている)。15:「植物学」(左手に鉢植を抱える)。16:「農業」(右手に新型の鋤を抱え、左手で「植物学」(15)と接触。この新型鋤も、図像学の伝統を打ち破る新しい要素である)。17:「牧歌詩」(牧人の杖と笛)。18:「叙事詩」(右手に竖琴、左手にラッパ)。19:「悲劇」(右手に短剣、左手に「おそろくは」毒の入った杯)。20:「喜劇」(右手に道化杖、左手に仮面)。21:「風刺詩」(右手に矢)。22:「音楽」(右手にハープ)。23:「建築」(右手に定規、物差し、コンパス)。24:「絵画」(左手に絵筆の束)。25:「彫刻」(右手に鑿、左手に槌)。26:「金銀細工師」(お盆に乗ったスプーン皿)。27:「織物職人」(布地)。

だが、上にのべたようなお行儀のいい寓意絵の伝統は、18世紀になると、図版がテキストを裏切り、過剰な意味や刺激やほのめかしを発信するようになって、たちまち揺らぎ始める。本展示からは省略したが、『百科全書』補遺の巻に収録された一連の「両性具有者」解剖図などは、科学や教育を隠れ蓑にした、きわめて隠微な欲望の発現形態として解釈することもできよう。

## VI 本展示の流れ

この展示会では、まず博物図鑑の初期から18世紀までを時代順に辿り、ついでテーマ別に動植物や鉱物の図版を並べるという構成になっている。それぞれのパートを理解していただくために必要と思われる背景や状況について、若干記しておきたい。

### <初期博物図鑑>

16世紀フランス・ルネッサンス期の博物学について、興味深い記述を残してくれているのは、やはりラブレーであろう。1534年、ラブレーは若い王子ガルガンチュアが受けた博物学教育について、こ



ういう言葉で説明している。「最初の幾月かの間は、麵麴や酒や水や塩や肉や魚や果実や草の葉や草の根、またこれらに添える調味料など、食卓へ出された一切の品物に備わった力・特質・効能・本性について論じられた。こうしているうちに、ガルガンチュアは僅かの中に、これらのものに関してプリニウス、アテナエオス、ディオスコリデス、ユリウス・ポルックス、ガレノス、ポルフィリウス、オピヤヌス、ポリビウス、ヘリオドルス、アリストテレス、アエリヤヌスその他の人々の述べている言葉を、すっかり覚えこんでしまった」(ラブレール『第一之書 ガルガンチュア物語』渡邊一夫訳、岩波文庫、1973年、p.117)。

さて、そのような帝王学を修めたガルガンチュアが、今度は父親として、パリに留学中の王子パンタグリュエルに書き送った「教育書簡」がある。そこで父王はやはり博物学についてこんなことを書いている。「また、大自然の事物を識るためには、これに熱心に傾倒されたく、いかなる海原、河川、泉水といえども、これに棲まう魚族のことは心得置かれたく、空翔ける鳥類の一切、森林の樹木、灌木、草藪の一切、大地に生い立つ草根の一切、深淵奥潭に潜む金属の一切、全東邦及び南海の珠玉宝玉の一切、何一つとして、そなたの識らざるものなきようにと希い居り候。更に、ギリシャ、アラビア及びラテンの医家の書をば入念に繰返して朗読する傍、ユダヤ經典医師及びユダヤ秘教杏林をも蔑にすることなく、人体解剖を度々行いて人間と申す別個の一字宙の完全なる智識を修められたく候。また、一日の数時間を先ず聖書の考究に当てられたく、第一に、ギリシャ語にて『新約聖書』ならびに諸々の使徒の手になる『書』を、これに次いで、ヘブライ語にて『旧約聖書』を繙かれたく候」(ラブレール『第二之書 パンタグリュエル物語』渡邊一夫訳、岩波文庫、1973年、p.70)。

前段のガルガンチュアが受けた博物学教育は、いわゆる「本草学」の実習と、ブッキッシュな自然誌資料の学習であり、後段の教育書簡では、さらにスケールの大きな森羅万象に関わる総合的「知」としての博物学が推奨されている。おおよそ、本展示の最初のパート、「初期博物図鑑」という主題で括られたルネッサンス期の4点の背後には、上に引用したようなラブレールのコスモロジカルな認識が働いていると考えてよい。

近代の曙に生まれた博物図鑑を考える上で、当時の大航海を無視する訳にはいかない。技術の進歩に支えられて、多くの探検家が海を渡り、未知の大陸を踏査・探検することが可能になった。コロンブス、ヴァスコ・ダ・ガマ、マゼランといった人たちが探検隊を組織して遠隔の土地を発見し、そこで見つかったさまざまな人間や事物を連れ帰ったり、持ち帰ったりしはじめる。旅行家の中には紀行文を残す人もいれば、画家や学者に記録させて、後にそれが博物図鑑のような形になる場合も多かったようである。

## <17世紀><収集><博物誌の原点>

**記号と図像：**17世紀以降、中世以来の世界共通語であったラテン語が衰退するにおよんで、代わりに科学や哲学の世界に重用され始めたのは「記号」と「図像」だった。記号とは専門述語のことであるが、さらに図像が加わって、視覚の支えをえることが、真理への到達や十全なコミュニケーションに必須の条件であることが認められたのである。

すでに16世紀頃から、書物は豊富な版画や挿絵がつき、たとえば機械の部品の働きを説明したり、幾何学的推論や物理学的法則を読者に理解させるような場合、絶大な威力を発揮した。ルネッサンス期画家たちは科学的な訓練を受け、断面図や透視図といったさまざまな人工的図解法を確立し、目に見えるものばかりではなく、概念、定義、意味といった非図像的な抽象物をも表現するメディアを育



てた。このようにしてルネッサンス期から図像は美術の独占物ではなく、たとえば本展示における博物画などのように、新しい役割を担うジャンルとして独立したのである。

17、18 世紀、すなわち思想史上で古典時代と呼ばれる時期に、図像はテキストと並んできわめて重要な役割を担うようになる。1609 年 11 月 30 日、ガリレイは月面観測の結果、月にも地表と同じ凹凸があり、山や火口などのシルエットが認められることを発見したが、図版付きの書物でなければ、読者は容易に納得しなかっただろう。デカルトの『屈折光学』（1637）も、説得的な図版なくしては、虹をめぐって展開する光の屈折に関する論述を理解させることは困難だったと思われる。1831 年、キュヴィエは科学アカデミーに提出した報告書の中でこう書いている。「素描の技術なくしては、現在あるような自然誌も解剖学も不可能であつたろう」。

**収集：**事物や情報の収集への情熱が、大航海時代を背景にしたヨーロッパ・ルネッサンスのきわめて人間的で、かつ攻撃的、積極的な心性を特徴づけるものであるとすれば、少し下ってフランス 17 世紀には、集めた物、蓄積した知識や観念を今度は組織的に分類しようとする新しい動きが出てくる。すでにゲスナーの『書誌総覧』[カタログ通し番号(9)] がそうした方向への力強い第一歩であった。デカルトのような合理主義哲学の主導者が、「分析」「枚举」「総合」といった知性の機能で人間の思考を体系化したことも、無関係ではない。いろいろなものを集めて並べ、吟味を加えたり、並べ替えたりしながら、一つのシステムに分類・整理していく方法である。

この整理は主として二つの方向に向かったようである。まず、言葉を収集・分類して辞典・辞書を作っていく方向。もう一つは事物を収集・分類して、いわゆる事典を作る方向。言葉を集めて辞書を作る試みは、フランスの場合、40 名の文学者や学者を擁するアカデミー・フランセーズが、1635 年の創立以来、重要任務の一つとして準備していた画期的な作業だった。アカデミーの仕事は遅々として捗らず、その間にリシュレという人物が単独でフランス語事典を出版してしまう。1680 年のことである。これがフランスにおける真に近代的な国語辞典の最初の達成ということになる。アカデミーの初版は大幅に遅れて 1694 年に出た。フランス語の単語をアルファベット順に整理し、ラブレールなどが愛好したであろうような卑猥な言葉は排除して、洗練された言葉に語彙を限定し、政府のお墨つきの国語辞典を作った訳である。もちろん、あまり実際の辞書ではでないというので、出版当初から評判は悪かったが、フランス政府としては、その後世界にその名を謳われる文化政策の礎の一つに、国語の整備を考えていたことになる。

フランス語事典の刊行に平行して、やや少し遅れる形で、今度は科学アカデミーが物や事の網羅と整理という大事業に着手する。後に科学アカデミーの図版集として 18 世紀半ばに出版されるが、準備が始まったのは 1699 年のことである。主として職人のさまざまな技術の集大成といった趣の資料集で、それまで個々のアトリエで孤立した形で伝えられてきた技芸を、一挙に国家的規模でまとめてしまおうとする画期的な試みであった。

**分類：**17、18 世紀の人々は、身の回りのくさぐさのみならず、思惟や知覚のあらゆる対象物の整理・配置・列举を心掛けていた。語学事典の数々もさることながら、この整頓熱は言語の交通整理に留まらず、人間生活の全領域にまで広まっていく。そうした営みの中でも「網羅」や「収集」に重点が置かれたものに、各種のテーマ別事典類がある。

一方、自然界の膨大な対象物を、ある秩序や法則の支配下に置いて系統づけようとする、より理性的な試みがある。スウェーデンのリンネは二分法という分類法で植物を分類して一世を風靡した。突飛な飛躍と叱られるかもしれないが、フランスの大作曲家ラモーが近代和声学を確立して、音の組み

合わせを組織化し、体系づけたのも同じ流れの中で考えることができるかも知れない。そうした「収集」と「分類」を「図像」の力を借りて遂行する果敢な試みの成果として、まずは英国のハリス [カタログ通し番号(12)] とチェンバーズ [カタログ通し番号(13)]、そしてフランスのディドロとダランベールの『百科全書』 [カタログ通し番号(14) (15)]、博物誌の原点とも言うべきビュフォンの『博物誌』 [カタログ通し番号(16)～(27)] が挙げられる。

### <鳥類>から<水棲生物>まで ― 動物図鑑の流れ

ここからは、テーマ別の記述に入る。まず、動物誌を中心に、ルネッサンスから 19 世紀にいたるヨーロッパの博物図鑑の流れを略述してみたい。

**第 1 期**は古代の復刊期とも呼ばれるもので 1529 年までを指す。ルネッサンス人にとって古代人の書物はきわめて重要であった。命名と分類に腐心したアリストテレス、さらにアリストテレスの知識に挿話や奇跡を追加して浩瀚な博物誌を執筆したプリニウスが好んで読まれた。むろん宗教性の色濃い時代であり、聖書は依然として自然学や動物誌の発想源であった。前世紀半ばに発明された印刷術のおかげで、多くの古い動物誌が無差別に印刷されたため、たくさんの神話や幻想がルネッサンスの人間に受け継がれた。印刷術で図像の役割は大きく変わった。印刷それ自体はモノクロームであったから、彩色は書物の購入者の仕事になる。ある意味で彩色を施された図像は、著者とは何の関係もない、別な情報ということことになる。

**第 2 期**は古代との照合作業期といわれ、1520 年頃から始まる。この頃になると、ようやくオリジナルの動物誌が制作され始めた。古代にいくら学んでも、プリニウスやアリストテレスの書物からは、実際の動物を確認できないからである。こうして物と言葉の照合を目指す努力が営まれるようになる。往々にして、動物誌は辞書や索引の形をとるようになった。書物はやっと手稿のくびきを脱し、タイトルページが充実し、作者名や印刷所名が記載されるようになった。また、功利主義的な観点から、動物を医学へ適用しようとする試みもみられる。

**第 3 期**は 1550 年から 60 年にかけてである。図像というメディアを介して、自然の記録を試みた時期で、この時代の立役者はコンラート・ゲスナーであった。古代人と絶縁した新しい図版が制作され、これが次々と複製されて、書物の内容にまで影響するようになる。この頃から博物学者たちは、おたがいに引用しあう習慣を身につけた。そして図版はテキスト同様に重要な存在となる。

**第 4 期**は探検の時期で、1610 年頃から始まる。新世界の動物がくまなく調査され、研究されるようになった。当時、図版は二つの役割を果たしていた。一つ目は動物の同定である。読者にとって、図版から与えられる新しい発見はなく、ただ動物を再認するだけである。再認とは、読者の心にあらかじめ存在するイメージを確認するだけの営みで、図版の現実の動物との類似は問題外であった。二番目の役割は動物の説明である。対象はどちらかといえば幻獣を含む未知の動物、新世界から入ってきた動物である。この同定と説明の両者の役割は、いうまでもなく交換可能であった。この時期は、ルネッサンス期の百科全書的な探究を無謀な試みとあきらめ、解剖や分類に向うものが多かった。いわば転換期にあたる。

**第 5 期**はアカデミックな時期で、1660 年から 1700 をカバーする。この 17 世紀後半期は、アカデミーや科学研究所の誕生と期を一にし、図版の記述の歴史では銅版が木版にとって代わった。それによって図版と本文は、同時に印刷することができなくなり、図版は文から分離して編集されるようになる。また顕微鏡が発明され、微生物への関心が生まれ、解剖が注目されるようになる。博物誌は各国語で

執筆され、ラテン語は衰退し、書物は薄く小さくなり始めた。この時期、科学革命を担った人々は、貴族のサロンや知的なサークルを活動の場にしていたが、フランス政府は 1666 年に科学アカデミーを創設し、科学の国家規模利用を目指した。科学アカデミーは王立コレージュ、植物園と並んで、科学研究の中心的存在になった。

17 世紀から 18 世紀にかけて、博物図鑑を含む、いわゆる挿絵本といわれる書物が人気を博するようになった経緯を、本作りの社会的な条件という側面から考察してみよう。まず新しい読者層と出版業者が、それまで強大な権力を振るってきたルイ 14 世システムから離脱したことが挙げられる。活字製造業者は王立印刷局から独立し、製本職人と金箔師は出版業者から独立した。このように、出版業の内部で、中央集権的システムが崩壊し、分業体制が兆したのである。次に画家、素描家が彫版業から独立したことも大きい。この独立は、双方にとって顧客の増加を意味し、また挿絵がテキストと同列に並ぶことで、文学の側からの庇護を勝ちえることにもつながった。挿絵本は人気があったため、画家にとっても大きな経済的な利益をもたらしたのである。

三番目に書物全体が小型化したことが上げられる。in-folio、in-quarto といった大型サイズが、in-octavo、in-12、in-18 という小型判型に道を譲り始める。歴史的にみて、大型本が重用される時期は、知の階層化と安定化の時期であり、小型本が流行する時代は社会と文化が流動的な時期にあたるようである。

動物誌の第 6 期は、啓蒙時代から 19 世紀へかけての充実した時代である。17、18 世紀は植物、とりわけ花を好んだが、19 世紀は動物、とりわけ哺乳類を好んだ。

ヨーロッパ博物学の全盛期はフランスの場合、ナポレオンが覇を唱えた 1800 年前後の時期、それから 19 世紀後半のビクトリア朝と呼ばれるイギリスであった。なかでも、フランス国立自然史博物館に収蔵されている、6000 枚におよぶヴェラムに描かれた細密画のコレクションは、後世の挿絵本や図鑑のための原画として利用された。

だがフランスの博物学挿絵本を支えたのは、細密画師だけではなかった。歴代の王朝やナポレオンは、海外政策を絡めて世界の地勢を探る探険船を送り出し、これに大勢の博物学者を乗り込ませた [カタログ通し番号(107)]。アフリカから南米を周った博物学者ルヴァイヤンは、鳥の専門絵師バラバンと組んで、フウチョウを始めとする熱帯産鳥類に関わる、まことに豪華な挿絵本を出版した。他に猿類の図版を初めて集大成したオードベール、その後継者で、鳥類図譜の専門家ヴィエイヨ [カタログ通し番号(33)] らも重要である。当代最高という評判の花の絵師ルドゥーテも活躍していた。またコキユ号に乗って探険旅行を行なったレッスン [カタログ通し番号(31)(32)(38)] も、細密画家プレートルの協力をえて、熱帯産の鳥や魚や貝に関する挿絵本を刊行した。すなわち冒険好きな博物学者と画家のコンビによって、優れた博物図鑑が日の目を見たのである。

この時代の図譜がことごとく大判なのは、図像を実物大で描き出そうとしたためである。今回は、ガラスケースのサイズのに限度があり、エレファント・フォリオ版などと呼ばれる巨大博物図鑑をほとんど展示できなかったが、会場の一隅に設けられたパワーポイントによる映写コーナーで、それら巨大本の図譜の魅力を満喫していただきたい。

## <花と植物>

植物学の歴史は古く、遠いギリシャ・ローマの古典古代にまでさかのぼる。古代人たちは植物を命名記述し、その医学的な効能を探しもとめた。ヨーロッパでは 16 世紀頃まで、薬物といえばほとんど



が植物であり、植物の薬効を研究する本草学が博物学の主流であった。そのため薬用植物を同定する必要から、正確な図像を旨とする図版の制作が欠かせなかった。

16世紀に入ると、植物学は本物の科学となり、植物の分類を目指す著作が登場し始める。17世紀まで作家は植物を人工的な方法によって分類しようとした。もっともよく知られているのが、花卉の分析に基づいたトゥルヌフォール〔カタログ通し番号(87)〕のそれである。

18世紀に入ると、植物学は自然分類のシステムを採用することで、目覚ましい発展を遂げた。この分類は植物の間の類縁関係が発見されたことで可能になった。その功績は、なかでもリンネ、そしてジュシュー家とアダンソンに帰せられる。当時、フランスの原生地帯での植物探究や外国旅行が増えるに従い、植物相はその数を増した。初めて隠花植物や、とりわけ茸が記述され、植物生理学の初期の実験が試みられ、また近代農学の基礎が据えられた。こうして植物種、その分類やさまざまな観察が、多くの著作の主題となったのである。パリ周辺の植物種を研究したので有名なのがビュイヤールであり、彼は1774年に『パリの花々』、1780年から93年にかけて『フランスの植物図鑑』を刊行した。アメリカ、アジア、アフリカへの旅行も、新しい種類の植物の発見をもたらした。たとえばミシェル・アダンソン(1727-1806)は、1749年にセネガルに赴き、1754年、ブレストに帰還すると、著名な『セネガルの自然誌』を刊行して、30歳にして科学アカデミーの会員に選ばれることになる。

南アメリカに赴いたのはジョゼフ・ドゥ・ジュシュー(1704-1779)で、彼はここに35年も滞在することになった。ジュシュー家はジョゼフ以外にも多くの自然学者を輩出し、さらにペルナル・ジュシューの弟子であるミシェル・アダンソンも加わって、それまで権威を保っていたトゥルヌフォールの人工的な分類を完全に否定し、「自然そのもののの中に自然の体系を探しもとめるべきだったのだ」という信念のもとに、植物の厳密な観察に基づく自然分類法を確立したのであった。

植物図鑑について調べてみよう。古代からお馴染みであった植物の図、とりわけ薬用植物の図版は印刷本にすぐに姿を現した。1480年代、多くの植物標本の書物が刊行される。図の正確さは問題ではなく、それは木版では詳細な表現が叶わないことから当然だった。だが植物学の進化は迅速であり、50年後には、レオンハルト・フックスの書物のような、本当に学問的な植物図が出現する。17世紀に銅版画が普及し始めると、版画はますますもって科学に利用されるようになる。あらゆる細部を正確無比に表現することが困難であることや、手彩色を塗り加える問題などがあり、独自の方法がもめられた。乾燥した標本を押絵代わりにした植物図鑑とか、植物自体をプレスにかけてえられる自然の刻印など、さまざまな方法が試みられた。

花の静物画ともいべき「フラワーピース」というジャンルがある〔カタログ通し番号(76)〕。元来は美術作品として制作されながら、博物画と呼ばれたいような芸術である。中国や日本では「花鳥画」と呼ばれる作品のカテゴリーがそれである。

花を中心とする植物図鑑の着想源は、何といっても庭園である。庭園は古来画家お気に入りの領分だった。外の自然をもとめる画家もいるが、多くの人々は庭園内部で自然を研究しがった。中世以来、庭園は都市の各所に設置され、そこに画家、学者、素描家が集い、教育や研究の場として重要な役割を果たした。その意味で、建築、自然科学、医学、画家、庭園は、おたがいに密接な関係を持つ。

中世の細密画以来、とりわけ北方諸国では、室内を描いた絵の窓越しに見える庭が特長である。囲いのある庭園図ともいえるその画想は、フランドルやオランダで流行した。中に動物飼育所なども見え、鳥瞰気味に花壇を広く描く手法が普及した。そこはかたない「静謐」の印象を醸し出すのが、このジャンルの特徴である。

18世紀末の庭園は、画家にとって重要な素材だった。文学、詩、科学や旅行のおかげで、画家は外気や自然を発見し、それが庭園にも新しい眼差しを注ぐ結果となった。庭園というテーマの英仏での流行には注目すべきものがある。

さらに、植物園という存在はきわめて重要である。まずそれは、イタリアと全ヨーロッパにおける薬草園の流行で始まった。1533年、パドヴァ大学に薬草学の講座が開設されたのは、事件といえるものだった。ピサの植物園は1543年創立で、ヨーロッパ最古である。やがて王侯や貴族が競って植物園を建てたのは、大航海の土産である珍しい植物の出現と軌を一にしていた。その背景には英国の大博物学者の役割があり、クック船長に随行したバンクスへの貢献がある。

フランスの王立植物園の一般公開は1636年だった。そこではジュシューやビュフォンの植物学や動物学の講義を聴くこともできた。フランスの王立植物園は、革命下の1792年に国有化され、館長のサン＝ピエールは熱心に存続を主張したのである。

### <地下世界>

水平方向への「旅」に対して、垂直方向の「旅」がある。注目すべきは「地下世界」のテーマ系だろう。理性的探究が大地を対象とした時、「鉱山」や「墓場」のテーマがえられる。もともと近代ヨーロッパ人の地中探訪への志向は、ダンテの『神曲』地獄篇最終歌が描出したサタン像以来のものである。17世紀にはキルヒヤーの『地下世界』のような奇書も刊行されている。地下小説とでも呼べるジャンルが流行するかたわら、鉱山への関心も強かった。溶鉱炉にコークスを大量に使用するようになった関係で、石炭の需要が増し、世紀初頭から鉱山への関心は強かった。1789年、フランス最大の炭鉱企業は4000名の坑夫を雇用していたという。この頃の石炭産出量は45万トンで、これでも消費の3分の2がやっとならあり、英国とベルギーからさらに輸入しなければならなかった。『百科全書』の図版「鉱物学」における炭鉱断面図もさることながら、アベ・プレヴォ『賛成と反対』中のスウェーデンの鉱山に関する記述などが注目される。また、地下は歴史上の過去が埋葬されている資料庫でもあり、古生物学にとっては宝の山であった。

### <大航海>

啓蒙時代の申し子、あのモーツアルト本人がまずもって大の旅好きだった。

「旅をしないひとは（少なくとも芸術や学問にたずさわる人たちでは）まったく哀れな人間です！「……………」凡庸な才能の人間は、旅をしようとしまいと、常に凡庸なままです。でも、優れた才能の人は（僕自身にそれを認めなければ、神を冒瀆するものです）—いつも同じ場所にいれば、だめになります」（『モーツアルト書簡全集Ⅳ』海老澤敏・高橋英郎編訳、白水社、p.274）

博物図鑑の担い手である学者や画家と大航海、大旅行との関わりをみていきたい。長年、北ヨーロッパ人の憧憬の対象だったイタリアを皮切りに、イスラム圏（ピエール・ブロン）、南北アメリカ（ジョン・ホワイトと西インド諸島ほか、ジャック・ル・モワヌ・ド・モルグとフロリダなど）と、人々の関心の範囲は拡大する一方だった。東インドにはめばしい大画家が行っていないが、皆が夢中になった貝類のコレクションは見逃せない。

南アメリカがオランダ人の領分だった。アンチル諸島はフランス人が探訪したが、ここにも大画家

は足を運んでおらず、博物学者が科学的なスケッチを残すぐらいだった。シャルル・プリュミエ神父のアンチル諸島滞在が有名である。

ルイ・フィエ神父は天文学者で博物学者。東方、アフリカ、アンチル、南アメリカ、カナリア諸島に旅行した。ジョゼフ・ド・ジュシューは、1735 年、ラ・コンダミーヌらの派遣団に随行して、ペルーに行き、36 年間も滞在。植物学研究に専心し、植物と鳥類の図版を制作した。

北アメリカは英国人が関心を持った。マーク・ケイツビーは北米南東部の動植物を研究した最初のヨーロッパ人である。1714-1719 にヴァージニア、ついで南カロライナ、ジョージア、フロリダ、バハマ諸島をめぐった。

おしなべて、17、18 世紀を通じ、地球の全地域が研究対象になった。まず、ヨーロッパでは、古い伝統に従って、地中海周辺、北方、シベリア止まりだった。トゥルヌフォールはルイ 14 世に抜擢されて、東方へ出発し、画家のオーブリエが随行した。マルセイユを 1700 年 5 月 9 日に出航、1702 年に帰国する。オーブリエは旅の間に 500 枚以上の植物の素描と、40 枚前後の動物の絵を制作し、その一部は 1717 年に刊行されたトゥルヌフォール『東方紀行』の挿し絵となった。

シャップは天文学者だが、1761 年、シベリアを訪れ、カリフォルニアで 1769 年に没する。シャップの旅に随行した画家はいなかったが、ロシアを知っているジャン＝バチスト・ル・プランスがシャップの本の挿し絵を担当する。シャップの 2 回目の低カリフォルニア紀行（1769）には、画家のアレクサンドル＝ジャン・ノエルが随行した。ノエルは低カリフォルニアのインディアンを描いた。これがアメリカ民俗学に重要な文献となる。インディアンの顔が図版に描かれるというのは、ヨーロッパ人が徐々に博物誌と同時に、他民族の風俗や習慣に目を開き始めたことを示すものであった。

北方世界も博物学者の関心を惹きつけた。スウェーデン人のルドベックはラポニアに何度も行き、鳥を描いた。筆、黒インク、水彩かグワッシュを用い、リンネ、ブロン、ゲスナー、アルドロヴァンディの先行図版に、鳥類の名前、性、典拠を示した。

また、18 世紀に復活する世界周航で、多くの探検団に画家が同行し、絵を制作して、船長、士官、学者、博物学者、地理学者、天文学者らの記述を補った。中でも 17 世紀は、アメリカ発見の世紀だったが、18 世紀末は太平洋が舞台となり、タヒチ神話が誕生するのもこの頃である。これは、ブーガンヴィル [カタログ通し番号(99)]、クックから始まって、19 世紀まで続き、セガーレンやゴーギャンまで続く巨大な幻想の歴史である。

クックの 3 度にわたる大航海も、博物図鑑に縁の深いものになった。第 1 回目の旅行におけるクックの使命は天文学だった。1769 年 6 月 3 日、太平洋上の一点で、金星の太陽通過を観測する。職業画家は乗り組んでいなかったが、クックを始め、多くのメンバーが絵を描いた。ジョゼフ・バンクス、ダニエル・ソランダー、シドニー・パーキンソンなどである [カタログ通し番号(100)]。第 2 回目の航海は 1772-1775 年。ウィリアム・ホッジズが随行画家で、風景画を多く制作した。第 3 回目にはジョン・ウェッパーが参加。この画家は風景画が得意で、その画業は太平洋諸島の理解に必須のものである、といわれている。画家は原住民にも熱い関心を寄せている。タヒチの祭礼や住居図などは多くの、クックの版本で版画になった。

ラ・ペルーズ (1785-1788) の随行画家は、ド・ヴァンシーとプレヴォである。また、行方不明のラ・ペルーズを探索に出かけた、アントワヌ・ド・ブリュニーに随行したピロンもいる。

19 世紀はオーストラリア探検の時代だった。その背景には政治的・科学的事情が複雑にからみあう。英国はこの植民地を流刑地にするほどだった。オーストラリアは、19 世紀を通じて多くの画家の関心



を惹き、挿し絵本でたびたび取り上げられた。

アメリカ合衆国は、独立戦争に画家が従軍したのがきっかけとなり、英国側もフランス側もこの新興国に関心を持った。彼らを魅惑した大陸の巨大性が、19世紀アメリカの風景画にも影響の跡を留めている。米仏の学者、あるいはアメリカの博物学者とフランスの画家との関係がさまざまな形で織りなされた。ウィリアム・バートラムの仕事は、アメリカの記述が主だが、フランスのシャトーブリアンのような文学者にまで影響がある。ピエール・テュルパンはフンボルトの素描家になったが、ゲーテまでが自著の挿し絵をテュルパンに所望したほどであった。また、巨大鳥類図鑑で有名なジョン＝ジェームズ・オーデュボンも重要である。波乱の生涯を送った人だったが、彼の図版は現在もっとも高い値をつけられている。

ナポレオンのエジプト遠征の意義も大きい。博物図譜作成を任されたのが、アンリ＝ジョゼフ・ルドゥーテだった。これら博物画の影響で、19世紀の風景画に異国趣味が横溢するようになったことは確かである。

## VII 図鑑制作技術

博物図鑑を画像表現という観点から大別するとすれば、「原画」と「版画」に分かれるだろう。本展示はいうまでもなく、本物の押し葉を見せてくれるたった1枚のページを別にすれば、すべて版画作品である。だが、忘れてはならないことだが、これら版画は原図なくしては成り立たない芸術なのである。しかも、フランス17世紀に成立した「王のヴェラム」と呼ばれるコレクションの場合は、グワッシュなどで制作された貴重で上質な花や鳥の絵が、それ自体で高い芸術価値を持つと同時に、後世の版画を中心とした博物誌の図版制作のためのモデルになっていた事情を忘れてはならない。

### <原画>

中世では、動物や花を教会の石に刻んだり、紙に描いたりする営みがあった。また、修道僧が写本の余白部分に絵を描いたりもした。13世紀からは羊皮紙に描くようになる。描かれる図像は大部分が類型的であるか、想像の産物だが、後世のモデルになるものも多かった。

これらの図版は、テンペラで描かれることが多かった。動植物性顔料に卵を加え、砂糖水に浸したものである。亜麻油を加えると、とろ味が出て、制作は早まり、種々の色調を重ねることができるようになる。

15、16世紀で博物図の大綱は決まる。なめし皮にグワッシュで描くという型がそうで、これは19世紀まで続く。ヴェラムは死産した子牛の皮で、表面に粒々があるのを磨いて滑らかにする。画家は皮を堅い紙の上に張り付けて、湿気や皺から守る。ヴェラムの美質はその白さとくすみなのである。光を受けると黄ばむので、多くのコレクションは秘蔵である。多くの画家はヴェラムの白をそのまま地にするが、17、18世紀の画家の中には、それを無視して黒く塗ったりする者もいた。

博物図版では、とりわけグワッシュと水彩が常用された。だが画家はおのれのルセットについては口が堅い。グワッシュとは、不透明な顔料を水か鉛白に溶かし、桜の樹脂かアラビアゴムを加える。腰を強めるために、砂糖水、蜜、卵を加えることもあった。博物画家がもっとも使用した技術である。背景をさまざまな色調に塗り分け、そこに白や金や明るい色を加筆できた。素描に手を加え、水で色を明るくしたり、水を白に混ぜて、葉の茂みの表現に銀色の調子を出すことができた。

水彩画とは、色彩顔料を水に溶かし、アラビアゴムで定着する。18世紀には英国の画家の影響でこ

の手法が商業化するが、それ以前は淡彩画法と呼ばれた。水彩はグワッシュと違い、明色から暗色までのグラデーションに用いられ、修正がきかなかった。

画家はグワッシュと水彩とをよく併用した。前者の不透明な色彩と、後者の透明な色彩とが対立し、装飾的効果が出た。またこの併用は、明暗の効果、花の雑色、動物の斑を表現するにも有効だった。

## ＜版画技術＞

博物図鑑の歴史は、また版画技術の歴史でもある。その意味では本展覧会に展示された 100 点余の図版は、多様な彫版技術や色彩表現の成果とみなすこともできる。ここでは博物図鑑で用いられた版画技術を理解するための、必要最小限度の知識を書き留めることにする。( ) 内の数字は、これまで同様、カタログの通し番号である。まず版画は大きく凸版、凹版、平板の三つに分かれる。凸版とは版の表面に出っ張った部分をつくり、それが図柄となる版画のことである。逆に凹版とは、版に彫った溝の部分が図柄になる版画である。また平版とは版の表面に凹凸のない版画を指している。

### 1. 凸版

**木版：**普通、木版とは木目に沿って切り出した版を使い、彫り残した出っ張り部分に、絵の具インクなどを塗ってプレスする。歴史がもっとも古い版画技術である。刷り上った木版画に、手で色を塗り加えたものが(4)のような木版（手彩式）本である。

**木口木版：**18 世紀末から 19 世紀初頭にかけて、英国のトマス・ビューイックが得意にした木版技術で、ツゲのような硬い木材を使う。ビュランという鑿で、細かい線を彫りこんでえられる効果が人気を集め、書籍雑誌など多くの出版物で使われた(97)。

### 2. 凹版

**銅版：**「エングレービング」は、ビュランで銅版面に直接彫りこんで、溝を作る版画技法。直刻法ともいう。「エッチング」は腐食法ともいい、版面を耐酸性防食剤で覆い、ニードルで線を描き、腐食液を施して孔版とする。エッチングに手彩色を塗り加えたものが(31)である。「アクアチント」は腐食銅版画面技法の一つで、松脂を使って面のグラデーションをつくる技術である。(105)はエッチング、アクアチント（手彩色）による。(91)ではエッチング、アクアチント（手彩色）にさらに多色刷りが加えられている。ステイップルは英国で発展した技法で、針で版面に点刻し、点の濃淡だけで立体感を表す。(57)のように、爬虫類に使うと生々しい効果を生み出す。この場合は、腐食法のエッチングと直刻のステイップルとが併用されていることになる。

(93)はエッチング、ステイップル（多色刷り）にプペ法が加えられたものである。プペ法とは、プペ＝タンポの先に色インクをつけて部分的にインクを詰め分け、一度で刷る方法である。(79)の場合はエッチング、ステイップルに多色刷りと手彩色の技法が加えられた例である。

**鋼版：**現在、紙幣や切手の印刷に使われる、銅よりも硬い鋼鉄を用いたエングレービング。彫りは難しいが、大量に刷りが可能になる。(60)は鋼版（手彩色）の版画である。

### 3. 平版

**リトグラフ：**別名、石版画ともいう。18 世紀末に考案され、脂肪が水をはじくという原理を利用して、図柄をチョークで石版の表面に直接描いてプリントする。(74)は多色刷りのリトグラフ、また(100)は

さらに手彩色が加わっている。

## VIII 版画の変遷

15世紀の活版印刷術は、凸版の活字に同じ原理に基づく木版画を組み合わせる1ページに収める傾向があった。当時の版木が、大型のフォリオ版全面をカバーするほど大きくなかったからである。コンラート・ゲスナー『動物誌』はこのような初期博物図鑑の傑作である。この頃の主流はなんといっても画家デューラー、そしてゲスナーを中心とするドイツ主体であった。だが17世紀に入ると、博物図版制作の拠点はドイツからオランダ、イタリアに移り、銅版画が精密な複製図の主流におどりだす。

ここで、17、18世紀頃に「版画」というメディアが置かれていた状況を見ておくことは重要である。コピー機械も写真もまだ存在しなかった時代、銅版画はほとんど唯一の複製メディアであった。そもそもフランス・アカデミーが版画に認める価値はたった一つ、絵画の複製という従属的役回りのみであった。なぜ従属的か。すなわち、当時の美学では、芸術は自然を模倣するものであるからして、絵画の複製物にすぎない版画は、言い換えるならば模倣のまた模倣でしかないことになるからである。それと、版画が色彩と無縁であることもまた、致命的であった。色彩をもたない「模倣」は、ではいかにしてモデルを「表象」できるのか。版画が描いている対象物（＝絵画）と、版画の表現との間にはいかなる種類の「類似」があるのか。いうまでもなく、版画が絵画から引き継いで残しているものは、素描である。あえて言うならば、版画とは特別な支持材に引き写された素描にほかならないのである。

さきほど触れた『屈折光学』で、デカルトはこの問題を論じてこう書いている。

「銅版画技法は、紙の上にわずかなインキをあちこちおくことによって行われるにすぎないが、われわれに森、町、人物、さらには戦争や嵐さえも表現してみせる。もっともその場合、形像がこれらの対象についてわれわれに知らしめる無数の異なった性質のなかには、その形像がぴったり似ているような図像は一つとしてないのである。しかもそれはきわめて不完全な類似である。というのは、形像がまったく平らな面の上に、さまざまな起伏をもった物体を表現し、透視画法の規則に従って、形像が円をよりよく表現するには他の円によらないで卵形を使う方がよいとか、正方形については他の正方形によらないで菱形を使用する方がよいとかいうことはしばしばあるのであって、他の図形についても同じことだからである。したがって、形像がその性質に関してより完全であり、対象をよりよく表現するためには、その対象に似てはならないことがある」（水野和久・青木靖三訳、『デカルト著作集』白水社、1973、pp.136-137）。

こうした「類似」の信念に基づいて、版画は徐々に絵画に接近する。17世紀には、植物学の領域で花譜の傑作が銅版で制作され、その頂点ともいえるのが、フランスの博物写生図コレクション（通称「王のヴェラム」）を作り上げた博物絵師ニコラ・ロベールの作品であった。この頃、花譜の内実は本草書から植物書へと移って行った。薬物とは違う花壇や庭園用の花譜が作られ始めたのである。

17世紀末、アムステルダムには100人を超える銅版画制作職人が住み、手彩色銅版画を収めた博物図版の書物を、オランダの商品として売り出していた。主力はエングレービングによる作品であった。一方、フランスやイギリスでは、素人でも制作できるエッチングを用いた腐食銅版図譜が作り出された。



英国はエッチングによる博物図の開祖といえる国だった。最初の手彩式銅版は、バード・ウォッチングを愛する国にふさわしく鳥類図版であった。

博物画は何よりもまず、版画でコピーされるべきものという役割を負っていた。リンネ以降、博物学は本格的な分類学と化し、種の同定を行うためには、ついに絵画並みに彩色した図版が必要になる。自然物を極力精密に描き出す必要上、木版よりも銅版、銅版のうちでも、よりいっそう微細な表現が可能となるエングレービングやスティップル（点刻）技法を選んでいったプロセス、これこそが博物図版の辿る道程なのだった。さらに 19 世紀に入りコストの点で石版が重用され、ついには 20 世紀に色刷りオフセットによる大量生産が始まる。

## IX デジタル・マイクロ・スコープ

この展覧会では、ケースごとにめばしい図版を選んで、その部分を拡大撮影し、さながらロバート・フックの蚤の絵のごとく、版画技術を細部において観察し、分析できるように配慮した。撮影に使用した機器は、キーエンス社製のデジタル・マイクロ・スコープで、本来は精密機械の微細な部品などを検査するために製造されたものであるが、本機を版画作品に応用したのは今回が最初ではないかと思う。

## X 謝辞

なお、本展に出品する博物図鑑の版画技術鑑定に際しては、町田市立国際版画美術館学芸員の佐川美智子、高木幸枝両氏の全面的な協力をえた。ここに深い謝意を表したい。

本展覧会開催は、ほかにも多くの方々の好意的なサポートや協力がなければ到底実現できないものであった。まず、展示書籍を所蔵する慶應義塾図書館の全面的な支援に感謝したい。なかでもメディアセンター所長の細野公男教授、三田メディアセンター事務長の加藤好郎氏、同総務の小松雅高氏、同貴重書室の市古健次氏と柳下俊江氏の好意は忘れられない。協賛の丸善からは、とりわけ連絡役として佐伯伸夫氏、それから展示それ自体の設営に関して中村美智子氏にご協力をいただき、おおいに助けられた。筆者の遅筆をはらはらしながら最後まで暖かく見守って下さった、昭和情報プロセスの榊原修氏と廿日岩尚氏にも心からお詫びとお礼を申し上げる。二名の写真家の撮影によるすばらしい図版なくしては、本展示は成り立たなかったろう。図録所載の図版はすべて山本忠雄氏撮影によるものであり、また展示会場の一角で映写された博物図鑑ハイライトの図版集は、大部分が西松克洋氏の撮影による。両氏に厚く感謝申し上げます。

また、図録やキャプションの執筆にあたって、筆者のさまざまな疑問に答えて下さった慶應義塾大学文学部の同僚にも謝意を表したい。とりわけ西村太良（古典学）、渋谷誉一郎（中国文学）、大串尚代（英米文学）、和泉雅人、齋藤太郎（ドイツ文学）の五氏には、暮れ正月の多忙な時間を割いてまでお付き合いいただいた。有り難うございました。

慶應義塾大学博物誌資料コレクションという企画は、もともとは、筆者が属する慶應義塾大学アート・センターが大型助成金を受けて手がけた「ジェネティック・アーカイヴ・エンジン」企画の一部としてスタートし、荒俣宏氏のコレクションの詳細な書誌記述から始まった数年におよぶ歴史がある。初期から現在に至るまで、多くの学生や卒業生諸君の協力をえて、それこそ蝸牛の歩みのような足取りで蓄積を重ねてきた。データベースの最初期を支えた小林拓也、佐藤大輔両氏、今年に入ってから準備期間に献身的な協力を惜しまれなかった細貝健司、五味田泰、竹内美紀の諸氏にはお礼の言葉

がない。

最後になったが、この企画の最初期から筆者と苦楽をともにしてきたアシスタントの久納鏡子氏(慶應義塾大学アートセンター訪問所員、メディア・アーティスト)には、月並みなお礼や感謝ではとても意を尽くせない。本展示のすくなくとも図版に関するほとんど一切は、久納さんの努力と協力の賜である。とりわけ、展示会場で披露されるパワーポイントによる映像作品は、撮影を除けば久納氏の個人作品といっても過言ではないし、また本図録の各書誌記述を締めくくる、デジタル・マイクロ・スコープによる二種類の拡大画像は、選定、撮影からトリミングにいたるまですべてのプロセスを彼女が担当した。時間に追われるつらい重労働だったが、よく乗り切ってくれたという思いを禁じえない。

この展覧会を一つのステップとして、慶應義塾大学博物誌資料コレクションは、さらに徹底した記述と図版のデジタル化を進めていきたい。

## [凡例]

以下の展示品カタログである「展示書籍解説」について、若干の原則を記しておく。

まずお断りしたいのは、展示のために博物図鑑を記述するという特殊な事情から、通常の書誌記述の文法とはかなり異なる方針が採用されていることである。

冒頭の（ ）内に示された数字は、展示書籍の通し番号である。その次に展示主題（鳥類2）が記してある。「ケース」とは会場内に設置された全部で36台（および別置の巨大ケース1台）あるケース番号のことで、たとえば「11-2 上」という表示は、「展示書籍がケース11番の右上方に置かれている」ことを表す。

**著者名**（原語）：判明する限りのフルネームをまず原綴で示し、[ ] 内に生没年を記した。著者によっては名前がイニシアルでしか分からない者もあり、生没年が不明な場合は [?] としてある。（日本語）：姓のみを記した。

**翻訳者名**：翻訳書の場合、訳者名を著者名と同じ要領で記した。

**書名**（原語）：原題は、タイトルページに印刷された情報をなるべく忠実に移したが、あまりにも長すぎるものについては途中省略もある。ラテン語の綴りで、当時の書記習慣（たとえば u を v と表記するなど）を改めた場合もある。（日本語）：原題が長いので、訳題はできるだけ短めにし、かならずしも原題の忠実な翻訳でないケースが多い。

**叢書名**：当該書籍が大きなシリーズや叢書の一巻である場合、判明する限りその叢書名を明示した。

**発行者・出版社・印刷所**：ある時期まで、書物の制作は現在のように分業体制をとらず、出版社と印刷業者が同一であったり、場合によっては作者本人がすべてのプロセスを担当していたりする。従って、この部分の記載事項はあくまで目安にすぎない。

**発行地**：分かっているものについて、なるべく現地綴りで表記した。

**刊行年**：書物に記載がない場合は、別の資料から確認して、[ ] 内に記した。

**版**：当該書の版について記し、初版年号が分かっている場合は、それを（ ）内に記した。

**巻数**：単巻か複数巻かを記す。ただし、複数巻の合本や、フォリオの綴じ合わせについては、「3 pts into 1v.」という具合に示した。

**総頁数**：序文などの部分のローマ数字によるページ付けと、本文のアラビア数字によるページ付けを分けて示してある。（xlvi, 223 p.）また、ノンブルが明記されていない場合については、数字を（ ）内に記した。

**総図版数**：ほとんどは実際に数えた結果を示している。というのも、Nissen などのデータは、たとえ同じ書物であっても、こちらのデータと数字が合わないケースが多く、19 世紀においても、こと博物図鑑に関する限り、印刷本は各刷ごとに微妙に違った相貌を呈していると考えられるからである。

**図版制作者**：調べられる限りで、素描家、彫版師、刷り師などを区別して記したが、同一人物が制作工程を一人でやってしまう場合もあり、詳細は不明である。また、ここでも、Nissen のデータと、展示書籍について実際に調べた結果はかならずしも一致しないことが多い。

**使用言語**：今回対象となった言語は、頻度数順にフランス語、英語、ラテン語、ドイツ語、オランダ語、イタリア語である。

**序文、目次、図版目次、索引**については、ただ有無を記した。ただし、古い書物の場合、目次と索引が区別できないようなケースもある。

**書籍サイズ**：ヨコ×タテ×見開きのヨコの順に、ミリメートル単位で示してある。この三つのデータ、とりわけ「見開きのヨコ」のサイズは、巨大本が多い博物図鑑に関してはきわめて重要で、今回の準備でも、図版撮影の現場や、展示ケースとの兼ね合いを考える上で、決定的な手がかりになった。ただし、あくまで外側のおおよその寸法であるにすぎない。

**慶應義塾大学図書館の分類番号**：未分類のもの一点を除き、すべて慶應義塾大学三田図書館に収蔵されており、その番号を記した。

**展示図版**：展示されている図版下部（場合によっては本文中）にあるラテン語その他の言語で書かれた名称や説明文を、できるだけ日本語の学名にして記したが、これは至難の業であり、多くの場合「未詳」とした。

**参考図版**：展示されないが、同一本の違ったページや、別な巻から、展示図版に優るとも劣らない出来栄の版画を選んで、図録だけに掲載してある。

**巻号頁数**：当該図版が書籍の何巻目の何頁にあって、図版番号が何番かを記してある。表記は原書に合わせてあり、従って統一されていない。

**制作者**：図版下部に記されている限りの、素描家、刷り師、彫版師などをそのまま記した。たとえ、制作者が分かっている場合でも、図版に記載がないときは記していない。

**版画技法**：鑑定結果を記してある。

**刊行年**：複数巻の書籍の刊行が複数年にわたる場合、当該巻の刊行年を記した。単巻の場合は、書籍自体の刊行年と一致する。

**デジタル・マイクロ・スコープ (DMS) による拡大写真**：版画技術の細部を確認していただくために、2種類の拡大図を掲載した。すなわち、左端が「全体図」（拡大部分を四角で示してある）、真ん中が「50倍」、右端が「175倍」。175倍を超える拡大図は、紙それ自体の繊維などが見えてきてしまい、図版研究の対象にはなりえない。



# 展示書籍解説

## 初期博物図鑑からビュフォンまで

初期博物図鑑

17世紀

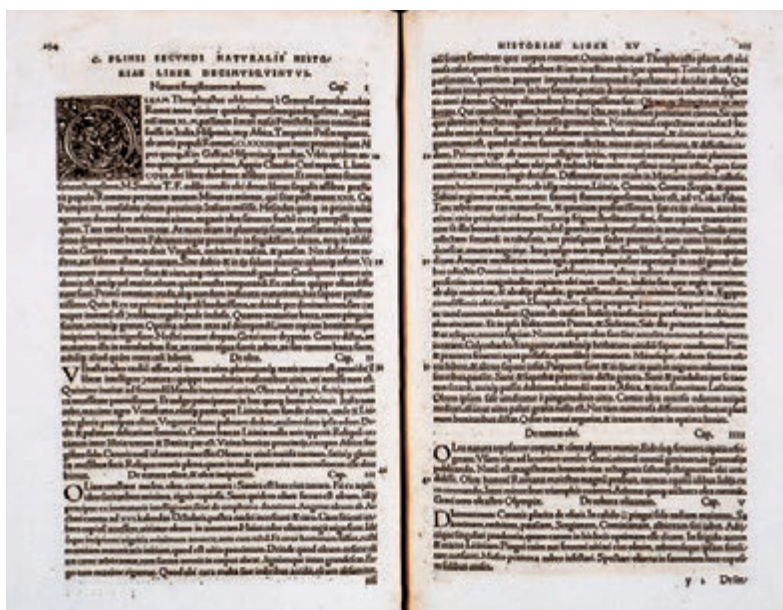
収 集

博物誌の原点：ビュフォン

# (I) 初期博物図鑑 1 ケース：1-1

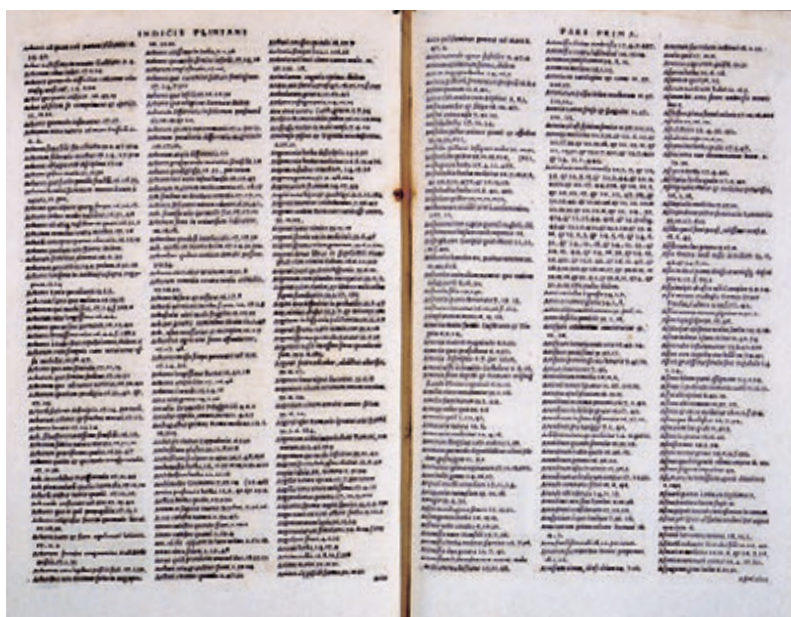
**著者名**（原語）：Plinius Secundus, Gaius [23-79]（日本語）：プリニウス **書名**（原語）Historia mundi（日本語）：『博物誌』 **発行者・出版社・印刷所**：Froben **発行地**：Basel **刊行年**：1525版：（初版 1469） **巻号数**：1v. **総頁数**：(2), (34), 671p., (1), (142), (2) **総図版数**：印刷工房の木版商標が4カ所にある **使用言語**：ラテン語 **序文**：皇帝ティトゥスへの献呈文 **目次**：有（第2巻以降の内容と典拠作家一覧） **索引**：有 **書籍サイズ**：245×357×540 **慶應義塾大学図書館の分類番号**：未分類

プリニウスは軍人として各地を訪れ、79年、ヴェスヴィオ火山の噴火の犠牲となる。『博物誌』全37巻は自然のありとあらゆる現象を網羅した最初の百科全書の集大成。約2万項目を収録し、参考文献は2000におよぶ。プリニウスの分類法は独自のもので、宇宙、気象・地球、地理、人間、動物、植物、農業、植物性薬物、動物性薬物、金属などの鉱物という配列になる。随所に非科学的な記述が散見され、彼の科学的合理精神を疑う向きもあるが、当時として最大規模の博物誌であったことは疑いない。なお写真で示すことはできなかったが、本書は、バーゼル市の代表的な印刷工房であるフローベンで印刷された。この工房は先代の息子ヨハン・フローベンが経営していた。ヨハンは1517年以来、マーキュリーの杖に二匹の蛇が巻きつき、鳩が止まった図柄の商標を使っており、本書でも、四箇所で見ることが出来る。近代ヨーロッパにおけるプリニウス『博物誌』の印刷本は、1469年にヴェネツィアで刊行されたものが最初とされているが、本書はロッテルダムのエラスムスが編集したと言われる。



**展示図版**：果樹の性質について **巻号頁数**：第15巻、p.254-255

テオフラストスほかギリシアの著述家を引いて、オリーブの普及に関する歴史、またその栽培や採取期について述べている。



参考図版：索引のページ 巻号頁数： p.7-8

「インデックス」の語源は「指し示す」という意味のラテン語動詞 *indicare*。初期印刷本では目次を兼ねることも多かったが、やがて目次と索引を分離し、索引は巻末に置くことが習慣化する。本書のインデックスは一応アルファベット順に編集されている。プリニウスの『博物誌』は、ルネサンス期に異常な人気を博し、100 前後の版を重ね、そのうち 19 版は初期印刷本であった。

15 世紀の印刷術発明以来、徐々に現在の書物の基本的な体裁が確立する。二つ折り、四つ折り、八つ折りといった判型、扉ページ、序文、目次、注、索引など、とりわけ本文に付加される「パラテキスト」に関わる習慣の定着である。書体はゴシック体、ローマン体、イタリック体が開発され、標準書体となった。現代日本で索引が脚光を浴びたのは、滝川事件で有名な民法学者の末川博が刊行した『岩波六法全書』（1930）であろう。判事や大学院生の協力で完成した労作で、事項索引、参照条文付きの画期的な編集が評判となった。



全体図



DMS : 50 倍



DMS : 175 倍

## (2) 初期博物図鑑 1 ケース：1-2

著者名（原語）：Vesalius, Andreas [1514-1564]（日本語）：ウェサリウス 書名（原語）：De humani corporis fabrica libri septem（日本語）：『人体の構造』（通称『ファブリカ』） 発行者・出版社・印刷所：Johannes Oporinus 発行地：Basel 刊行年：[1543] 版：初版 巻号数：1v. 総頁数：(2), (8), (2), 659 p.[i.e.663 p.], (1), (34), (2) 総図版数：230 図版制作者：Kalkar 使用言語：ラテン語 序文：有（オポリヌスへの書簡とカルロス5世への献辞） 索引：有 書籍サイズ：290×423×629 慶應義塾大学図書館の分類番号：142X-62-1

5万年前に出現したホモ・サピエンスは、その後解剖学的にはほとんど変化していないと言われている。だが、解剖図譜の歴史となると、レオナルド、そしてとりわけアンドレアス・ウェサリウスらが活躍した16世紀から始まって、写真が発明される19世紀までのわずか3世紀余りということになる。解剖学は16世紀までほとんど進歩していないのである。大学教授が執刀を嫌い、ただマニュアルを読み上げ、執刀人が解剖するという手順に終始したためである。ウェサリウスはベルギーの解剖学者。パリ大学で医学を学び、パドヴァ大学で医学博士号を取得。同大学の解剖学と外科の教授に就任。長いこと西洋世界で医学界を支配してきたガレノスの理論を批判し、レオナルド・ダ・ヴィンチの試みをうけて、人体解剖や動物実験による近代解剖学の基礎を据えた。ヴェネチアの画家カルカル Jan Stephan van Kalkar に解剖図作成を依頼し、1543年、「ファブリカ」と呼ばれる『人体の構造』を刊行。こうして解剖学はパドヴァを中心に、イタリアで急速に進歩することになる。



展示図版：第5番目の筋肉図 巻号頁数：p.184 版画技法：木版 刊行年：1543

本書に挿入された画家カルカルによる解剖図は、とりわけ骨、筋肉についての表現や構図が高い評価をえた。また従来の類書と異なり、身体の器官がそれぞれの機能を抛り所とした系統別に分類、構成されるという記述方式を採用しており、現在の系統解剖学の基本が確立されている。



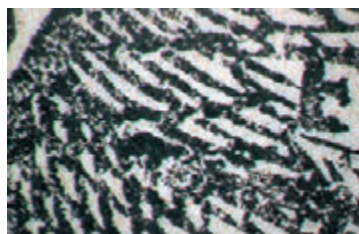


参考図版：解剖器具さまざま 巻号頁数：p.237 版画技法：木版 刊行年：1543

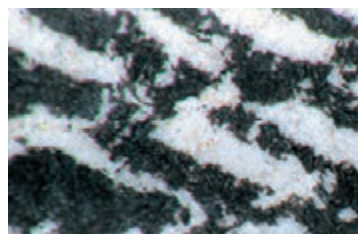
本書が出版された 1543 年は、コペルニクスの『天球の回転について』が出版された年であり、医学と天文学・物理学の歴史で新たな展開を予感させる年になった。なお、本書を出版したオポリヌスは、パラケルススの弟子だったこともある元内科学の教授で、出版業に転じた変わり種。ウェサリウスの新作の画期的意義を理解して、出版に踏み切った。



全体図



DMS : 50 倍



DMS : 175 倍

### (3) 初期博物図鑑 2 ケース：2-1

著者名（原語）：Lykosthenes, Conrad [1518–1561]（日本語）：リュコステネス 書名（原語）：Prodigiorum ac ostentorum chronicon quae praeter naturae ordinem, motum, et operationem, et in superioribus & his inferioribus mundi regionibus, ab exordio mundi usque ad haec nostra tempora, acciderunt...（日本語）：『怪異と不思議の年代記』 発行者・出版社・印刷所：Henricus Petri 発行地：Basel 刊行年：[1557] 巻号数：1v. 総頁数：(12), 670p., (2) 総図版数：1495 使用言語：ラテン語 書籍サイズ：205×289×416 慶應義塾大学図書館の分類番号：120X-999-1

猟奇的博物図鑑の母胎とも言える珍書。著者はドイツのユマニストで、ヴォルフファルト (Wolffalt) というドイツ名をギリシャ化して、リュコステネスと名乗った。年代順の記述を採用しているが、ルネサンス期を通じてもかなり挿絵の豊富な書物として知られ、1500点近い木版画が掲載されている。図版の多くが重複して使用されているのもご愛敬。右隣のゲスナー『動物誌』の場合と同じように、中世以来のさまざまな空想旅行譚などを典拠とする集合的無意識の表象である。15～16世紀の宗教改革期は、戦乱の中で終末思想が猖獗をきわめ、奇形の誕生は破局の意識と強く結びついて恐怖を煽った。本書はその間の事情を余すところなく語ってくれる奇書である。



展示図版：水棲生物群 巻号頁数：p.24-25 版画技法：木版 刊行年：[1557]

ゲスナーの場合でも同様だが、水中に棲息する生物に対する想像力には、極度の好奇心と恐怖心が働いているように見受けられる。





参考図版：犀 巻号頁数：p.24-25, p.518 版画技法：木版 刊行年：[1557]

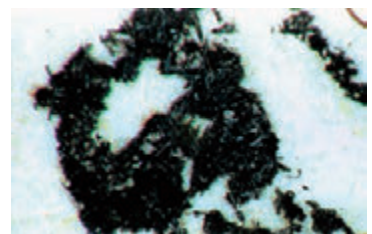
本図版の犀も、本書の多くの図版と同じで2回登場する。恐らくカンボジアのムサファール王がポルトガル王エマヌエル1世に贈ったインド犀を、無名画家が写生し、ニュルンベルクのデューラーが実物を見ずして、その写生からスケッチをとり、木版に起こしたものと何らかの係わりがあると思われる。



全体図



DMS：50 倍



DMS：175 倍

#### (4) 初期博物図鑑 2 ケース：2-2

著者名（原語）：Gesner, Konrad [1516-1565]（日本語）：ゲスナー 翻訳者名（原語）：Forer, Conrad（日本語）：フォラー 書名（原語）：Thierbuch, Das ist außführliche beschreibung, und lebendige ja auch eigentlich Contrafactur und Abmahlung aller vierfüssigen thieren（日本語）：『動物誌』（「四足動物」） 発行者・出版社・印刷所：A. Cambier 発行地：Heidelberg 刊行年：1606 版：ラテン語初版のドイツ語訳 巻号数：第1分冊 総頁数：(3), 172p. 総図版数 150：使用言語：独語 序文：有 目次兼索引：有 書籍サイズ：280×402×620 慶應義塾大学図書館の分類番号：142X-72-1

ゲスナーは1551年からラテン語による『動物誌』初版の刊行を始め、「胎生の四足動物」、「卵生の四足動物」、「鳥類」、「魚類と水棲動物」、「蛇類」の5巻を出した。本書はそのドイツ語版で、「四足動物」（1606）、「鳥類」（1598）、「魚類」（1598）、「蛇・怪物類」（1589）の合本である。このドイツ語版の図版は、当時の職人の手で彩色が施しており、きわめて資料価値は高い。本文は短縮され、新しい木版画が若干加えられ、初版本の四足類に関する2巻が1巻にまとめられている。ゲスナーの科学に対する最も偉大な貢献は、生物の研究に挿絵を導入したことであろう。この動物誌は、17世紀半ばまで多くの入門書の基礎となった。以下、合冊のほかの部分を紹介しておく。

書名（原語）：Vogelbuch oder außführliche Beschreibung, und lebendige ja auch eygentliche Contrafactur und Abmahlung aller und jeder Vögel（日本語）：『動物誌』（「鳥類」） 翻訳者名（原語）：Heusslein, Rudolf（日本語）：ホイスリー 発行者・出版社・印刷所：R. Cambier 発行地：Franckfurt am Main 刊行年：1600 巻号数：第2分冊 総頁数：(16), 556p. 総図版数：218 使用言語：独語 序文：有 目次兼索引：有

書名（原語）：Fischbuch, Das ist, außführliche beschreibung und lebendige Contrafactur aller und jeden Fischen, von dem kleinsten Fischlein an biß auff den grösten Wallfisch（日本語）：『動物誌』（「魚類」） 翻訳者名（原語）：Forer, Conrad（日本語）：フォラー 発行者・出版社・印刷所：R. Cambier 発行地：Franckfurt am Main 刊行年 1598：巻号数：第3分冊 総頁数：[6], 202p. 総図版数 700：序文：有 目次兼索引：有

書名（原語）：Schlangenbuch, Das ist ein grundtliche und vollkomne Beschreybung aller Schlangen, so im Meer, süßen Wassern und auff Erden ir wohnung haben, Sampt der selbigen Contrafactung....（日本語）：『動物誌』（「蛇・怪物類」） 翻訳者名（原語）：Carron, Jacob（日本語）：カロン 発行者・出版社・印刷所：Froschower 発行地：Zürich 刊行年：1589 巻号数：第4分冊 総頁数：[3], 72p. 総図版数：38 序文：有 目次兼索引：有.





展示図版：犀 巻号頁数：p.131 版画技法：木版（手彩色） 刊行年：1606

16世紀初頭、ポルトガルは遠征軍をインドに派遣し、ゴア、マラッカを攻め落として、通商の自由を獲得した。香料やさまざまな貴重品、珍品に混じって、当時のヨーロッパでは想像上の珍獣でしかなかったインドサイのゴムダが、かくしてリスボンに上陸したのである。サイは陸揚げされるとすぐ、競技場でゾウと対決したが、驚いたゾウが逃げ出して、勝負にならなかったという。ゴムダはポルトガル王がローマ法王に献上することになり、ふたたび船に運び入れられた。マルセイユに寄港した際には、フランス王フランソワ1世がわざわざ見に来たほどの人気であった。ところが、ローマへの航路で船が難破し、ゴムダはジェノヴァ沖で海の藻屑と消えた。海岸に漂着した遺体はすぐに剥製にされ、剥製はローマ法王レオ10世のもとに贈られている。

ゴムダはインド洋を航海する船の湿った船倉で皮膚病に罹っていた。その時の斑点が、到着先のリスボンでこのサイを写生した画学生から、モデルを知らずして木版画を制作したデューラーを経て、ゲスナーにいたるまで忠実に写しとられている。18世紀末まで、全ヨーロッパはサイという動物をデューラーの版画によってしか知ることがなかった。すなわちこの期間のサイの図像史とは、ただひたすらデューラーというモデルのコピーの歴史にほかならなかったのである。

このサイの図は、後ろ足の部分を除いて、デューラーの有名な木版画と寸分違わないコピーであることが、デジタルマイクロスコープによる分析によって判明した。またこのドイツ語版のサイは、ラテン語版のサイの版画と同じ版木を用いていることも明らかになった。

本書においては、各章ごとに動物が一種取り上げられ、通常は8つの節で構成されている。各節は欄外に印刷された文字で示されるが、同義語、住处、形態、生理学、心理的特徴、人間による利用、食用としての価値、医療上の効能、そして最後がそれ以外の追記事項すべて、たとえば名称の語源、その動物にまつわる寓話、諺のたぐいなどである。動物がアルファベット順に配列されていることは、よく非難の対象になるが、科学者としての怠惰を責めるよりは、むしろ本書を辞書として編集したいというゲスナーの意志を読みとるべきであろう。



参考図版：鯨 5 態（その 1） 巻号頁数：p.97 版画技法：木版（手彩色） 刊行年：1606

鯨は犀と並ぶ珍獣で、バルト海などで目撃されたことから、多くの幻想や想像を刺激した。上図は鯨の親子と、子鯨を狙うシャチ。真ん中の図は船を襲う鯨。この絵はオラウス・マグヌス（1490-1558）『北方民族誌』（1555）の木版からの逆さまのコピーで、未知の北方地域に対する西洋人の関心のあり方を物語る。下図は解体作業図。ヨーロッパにおける組織化された捕鯨は、さかのぼれば 9 世紀頃に起源を見る説もある。とりわけスペインのバスク人がビスケー湾で捕鯨活動を展開した。はじめは沿岸に限定していたが、捕獲量が減少するにつれ、遠方へと乗りだし、16 世紀からは北アメリカのニューファンドランド島沿岸やスピッツベルゲン島周辺にまで漁場を拡大するようになった。17 世紀には、イギリスを初めとするヨーロッパ諸国が、バスク人を雇って、アイルランドやグリーンランドなどの北極圏を操業海域として、本格的な捕鯨を開始する。



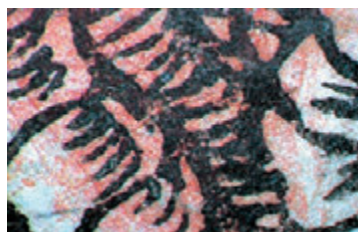


参考図版：鯨5 態（その2） 巻号頁数：p.98 版画技法：木版（手彩色） 刊行年：1606

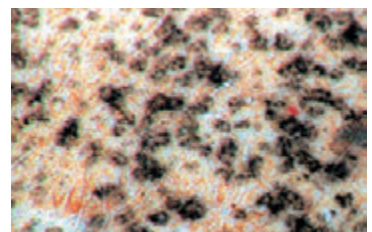
上図では、陸に向けて曳航される死んだ巨大鯨の背中を、陸地と勘違いした男たちの煮炊き姿が微笑ましい。下図は迫りくる鯨を追ひ払おうと、船の上から樽を投げたり、大きな音を出したりしている。



全体図



DMS：50 倍



DMS：175 倍

## (5) 17世紀1 ケース：3-1

著者名 (原語) : Aldrovandi, Ulisse [1522-1605] (日本語) : アルドロヴァンディ 書名 (原語) : Monstrorum historia, cum paralipomenis historiae omnium animalium (日本語) : 『奇形誌』 発行者・出版社・印刷所 : Nicolas Tebaldinus 発行地 : Bononia (現在の Bologna) 刊行年 : 1642 巻号数 : 2 pts. in 1 v. 総頁数 : (8), 748p., 28p., 159p., (6) 総図版数 : 477 (366, 111) 使用言語 : ラテン語 序文 : 有 書籍サイズ : 253×364×540 慶應義塾大学図書館の分類番号 : 141X-122-1

アルドロヴァンディはボローニャに貴族の子として生まれた博物学者。恵まれた条件のもとで数学、法学、哲学、医学、古典語を学んだ後、ローマでフランスの博物学者ロンドレ (1507-1556) と出会い博物学を志した。法王グレゴリウス 13 世の保護を受け、ボローニャに植物園を設立、初代園長をつとめたほか、1599 年から大動物学書『万物論』を出版。自身では 5 巻を刊行したのみだが、死後他の動物学者たちによって補われ、全 13 巻を数えた。ゲスナーの木版画を流用したことでも知られる。だが、ここで強調されるべきは、なによりもまずこのやや遅れてきたルネサンス人に備わった、知的構築への執拗な願望と倦むことのない百科全書的網羅への意志であろう。本書は奇形を扱った代表的な作品。奇形への強い関心はこの時代独自のものである。そもそも奇形の誕生は昔から凶兆とされ、本書の表題でもあるラテン語の *monstrum* は、もともと「兆候、警告」を意味する。



展示図版 : 2 組の奇形双生児 巻号頁数 : p.638-639 版画技法 : 木版 刊行年 : 1642

怪物の記録はプリニウス『博物誌』にすでに見られる。もっぱら異国の人間や動植物を歪曲するのである。「中世動物寓意譚」はそうした伝統に立脚して出来上がる。だが、徐々に怪物や奇形を予兆や凶兆ではなく、より自然に即して捉えようとするゲスナーのような人物が現れる。アルドロヴァンディもそうした流れを汲んでいる。





参考図版：魚の奇形 巻号頁数：p.64 版画技法：木版：刊行年：1642

中世伝来の想像上の怪物はその後も生き続けるが、18世紀に入ってビュフォンなどの博物誌から姿を消し、代わって「奇形」が科学者およびジャーナリズムの大きな関心の的となった。たとえばラーファターの観相学における動物と人間の表情比較、定期刊行物の奇形誕生に対する異常なこだわり、『百科全書』別巻の『半陰陽』の図版、ビュフォンの奇形の図版などが有力な手掛かりになろう。そしてこの線上にカゾット『悪魔の恋』の化け物、レチフ『南方大陸の発見』における動物人間の夢想が花開くことになる。



全体図



DMS：50 倍

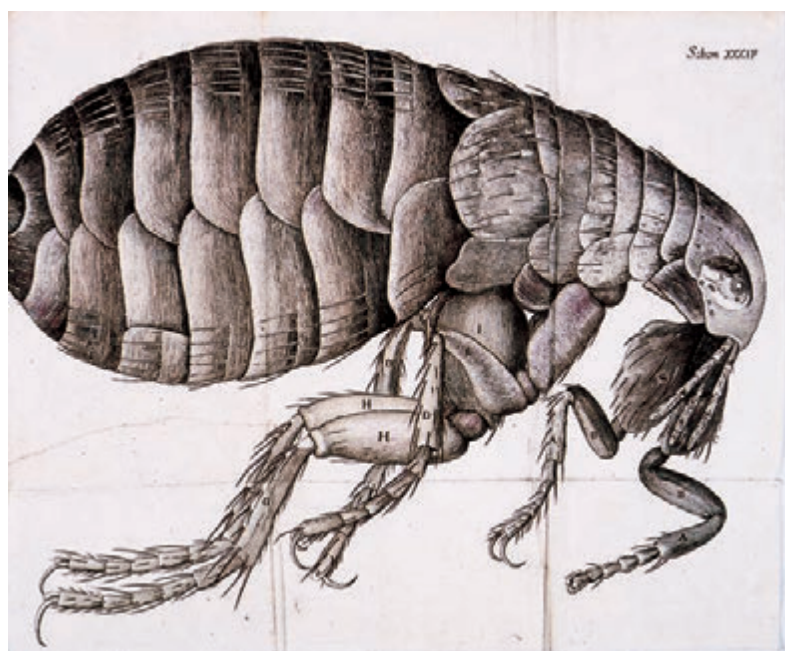


DMS：175 倍

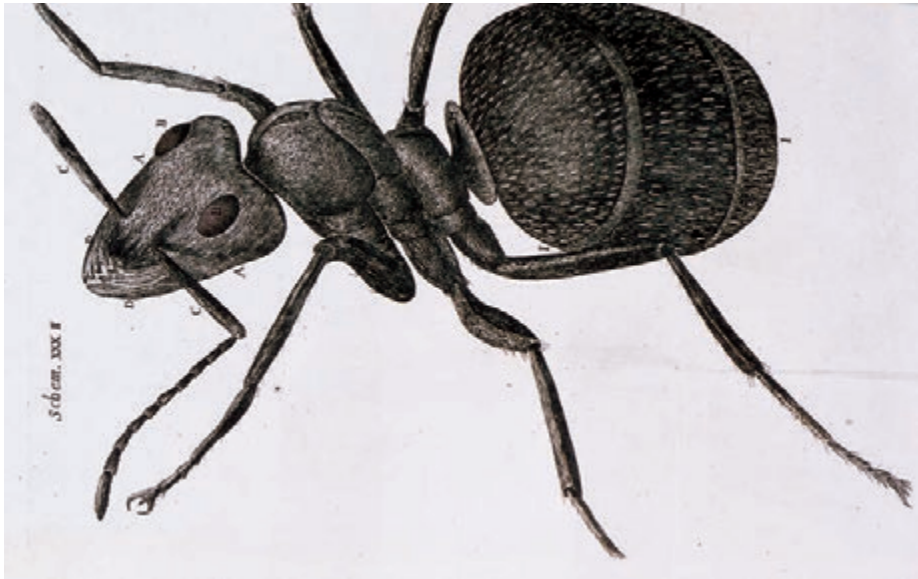
## (6) 17 世紀 1 ケース : 3-2

著者名 (原語) : Hooke, Robert [1635-1703] (日本語) : フック 書名 (原語) : Micrographia: Or, some physiological descriptions of minute bodies made by magnifying glasses. With observations and inquiries thereupon (日本語) : 『ミクログラフィア』 発行者・出版社・印刷所 : J. Martyn & J. Allestry 発行地 : London 刊行年 : 1665 版 : 初版 巻号数 : 1v. 総頁数 : 18p., 1p., 246p., [10] p. 総図版数 : 34 使用言語 : 英語 序文 : 有 目次 : 有 書籍サイズ : 208×296×430 慶應義塾大学図書館の分類番号 : 120X-649-1

オックスフォードに学んだロバート・フックは、その驚くべき才気煥発によって人々の注目を引き、ロバート・ボイルは彼を 1655 年実験助手に任命した。彼は師のボイルと協力して空気ポンプを製作、そのおかげでボイルは空気の役割についての実験をすることができた。1665 年以降フックはグresham・カレッジの幾何学教授に任命される。1663 年、ロンドンのロイヤルソサエティーに会員となり、ついで 1678 年には書記となる。万有引力の法則の発見をめぐって、ニュートンに対し優先権を主張した逸話は有名である。化学の領域では、燃焼の初期理論に関心を持ち、燃焼や呼吸の原理を探究した。生物学においても、顕微鏡を製作しそれによって数多くの観察の結果を発表した。



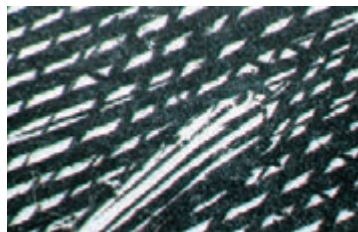
展示図版 : ノミの拡大図 巻号頁数 : p.210, Schem. XXXIV 版画技法 : エッチング 刊行年 : 1665 『ミクログラフィア』は顕微鏡による昆虫の羽根やノミやシラミの拡大図が有名である。このノミは、シラミと並んで、フランスの『百科全書』が折り込みの巨大図版で再使用していることでも知られる。『ミクログラフィア』において、フックは初めてコルクの断面に観察される蜂の巣状の穴を「細胞」と呼んだ。しかしその意図は、コルクが軽く丈夫である理由の探求にあり、必ずしも生物学的関心からではなかった。



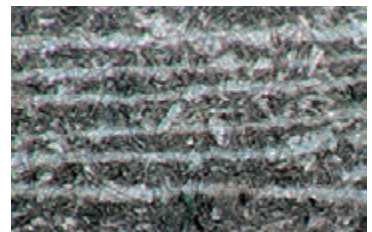
参考図版：蟻の拡大図 巻号頁数：p.202-203, Schem. XXXII 版画技法：エッチング 刊行年：1665  
 対物レンズと接眼レンズを組み合わせる複式の光学顕微鏡は、オランダの眼鏡師ヤンセン父子によって1590年頃に偶然に発見されたといわれている。その後、ガリレイらの改良をへて、17世紀中頃にはかなりの普及を見た。17世紀の生物学が発展した背景には、ミクロの世界への執拗な関心が挙げられようが、ただし当時の複式顕微鏡は収差が大きく、単レンズの方が性能が良かったともいわれる。植物を対象とした顕微鏡の活用で大きな成果と呼べるのは、イギリスのグルーによる『植物の解剖』（1682）である。また、オランダのレーウエンフックやイタリアのマルピーギらによる、血液や血管に関する発見や観察も無視できない。



全体図



DMS：50 倍



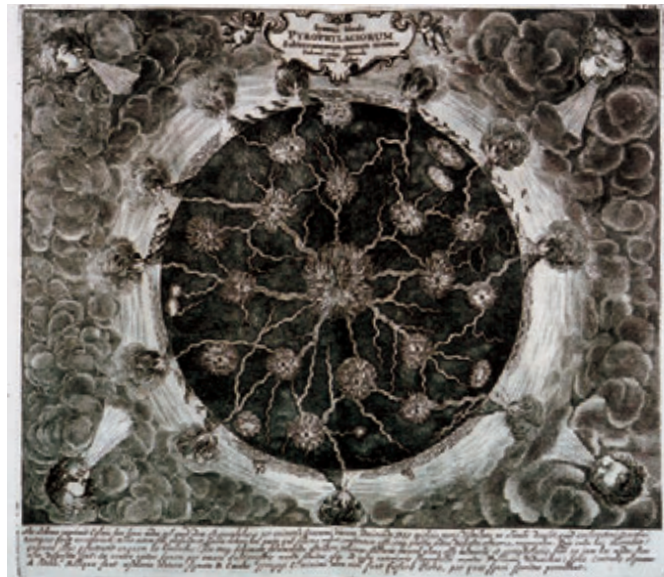
DMS：175 倍



## (7) 17 世紀 2 ケース：4-1

著者名 (原語) : Kircher, Athanasius [1602-1680] (日本語) : キルヒャー 書名 (原語) : Mundus Subterraneus, in XII libros digestus : quo Divinum Subterrestris Mundi Opificium, mira Ergasteriorum Naturae in eo distributio, verbo pantamorphon Protei Regnum, universae denique naturae majestas & divitiae summa rerum varietate exponuntur... (日本語) : 『地下世界』 発行者・出版社・印刷所 : Johannes Janssonius 発行地 : Amsterdam 刊行年 : 1678 版 : 第 3 版 (初版 1665) 巻号数 : 2 pts. in 1 v. 総頁数 : t.1 : (18), 366p., (6) ; t.2 : (8), 507p., (8) 総図版数 : 339 使用言語 : ラテン語 序文 : 有 書籍サイズ : 267×399×584 慶應義塾大学図書館の分類番号 : 142X-61-1

キルヒャーは生前「学者たちの不死鳥」と呼ばれた。当代の知のあらゆる領域に手を染め、天文学、光学、地質学、音楽、磁気、象形文字、錬金術あるいはカバラなどについてすばらしい挿絵入りの書物を著した。ドイツ生まれ、イエズス会のコレージュに学び、その後も各地を遍歴しながら諸学を修める。また 1628 年にはイエズス会の僧侶に任ぜられる。1637 年から 1638 年にかけて貴族のお供で、告解師として南イタリア、シチリア、マルタ島に渡り、自然科学の観察を行なった。とりわけエトナとストロンボリの噴火に立会い、緩慢な噴火状態にあるヴェスヴィオ火山の火口にロープ一本で降りることまでしている。1643 年、教職を投げ打って著作に専念、40 点近い書物を残した。また古代の遺物や自然の珍品のコレクターとしても知られている。



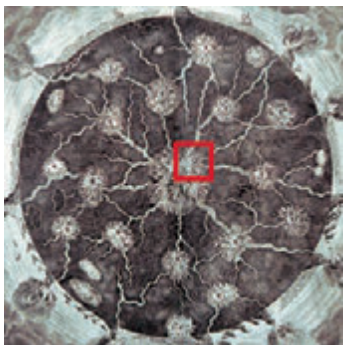
展示図版 : 地球内部図 巻号頁数 : t.1, p.194-195 版画技法 : エングレーヴィング (本文中の図版は木版) 刊行年 : 1678

地球内部に関するきわめて早い時期の研究書。地球内部への学問的関心は、まず地質学から始まり、たとえば英国のジョン・ウッドウオード『地球の自然史の試み』(1695 年) などが有名だが、本書はその 30 年も前に刊行されているのである。キルヒャーは、地球の中心に燃えている火を想定し、火は地球内部に生じた無数の裂け目を通路として、ときに地上に姿を現したときに火山となるとした。キルヒャーはまた、同じような理論で水のシステムを説明し、泉水や河川などの起源に根拠をあたえた。



参考図版：人面岩さまざま 巻号頁数：t. 2, p. 39, Tab. IV 版画技法：エングレーヴィング 刊行年：1678

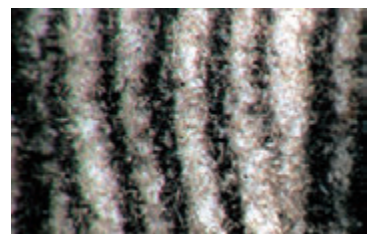
鉱物の形成を説明する中で、キルヒャーは、石が幾何学的な文様や生物、人間やキリストの姿をなぞるのは偶然による場合もあるが、植物や動物が残した痕跡でもあり、また天使の介入によるとも言っている。



全体図



DMS：50 倍



DMS：175 倍

## (8) 17世紀2-2 ケース：4-2

著者名（原語）：Perrault, Claude [1613-1688]（日本語）：ペロー 翻訳者名（原語）Pitfield, Alexander [1658-1728] & Waller, Richard [?-1657]（日本語）：ピットフィールド & ウォラー 書名（原語）：Memoir's for a natural history of animals : containing the anatomical descriptions of several creatures dissected by the Royal Academy of Sciences at Paris（日本語）：『動物誌覚え書き』 発行者・出版社・印刷所：Basset 発行地：London 刊行年：1688（フランス語版初版 1671-1676） 巻号数：1v. 総頁数：(11), 267p., (13), 40p. 総図版数：35 使用言語：英語 序文：有 索引：有 書籍サイズ：198×282×413 慶應義塾大学図書館の分類番号：120X-1032-1

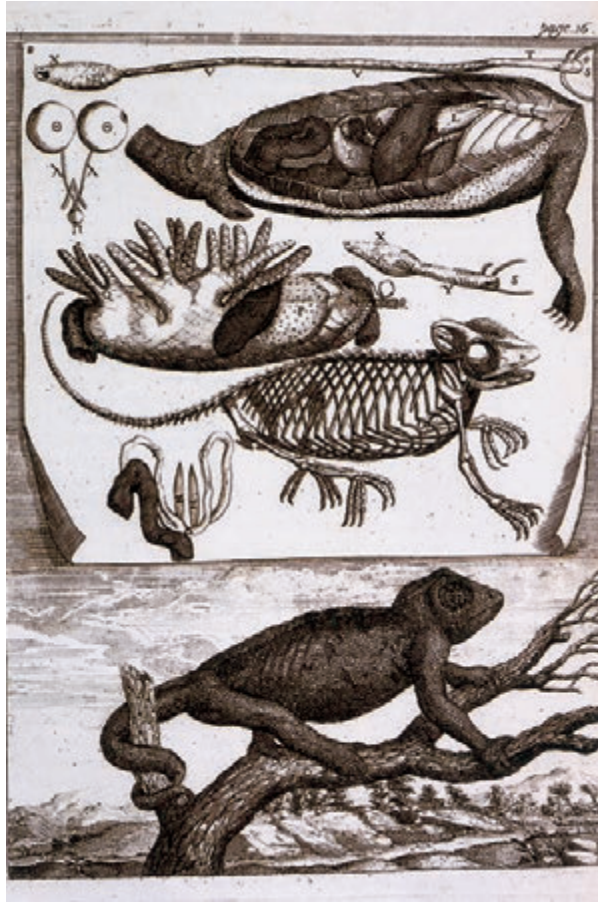
フランス語で刊行された動物誌の英訳本。原著者はクロード・ペローをリーダーとする科学アカデミーの会員で、いずれも高名な解剖学者であった。ペローは17世紀フランスの医者で建築家。コルベールの命でウィルトルウィス『建築書』を仏訳したり、ルーヴル宮の列柱やパリ天文台の建築を手がけたりもしているが、医学の研究にも精を出し、とりわけ「パリ派」と呼ばれるチームを組んで、王立動物飼育所（現在の植物園）で死んだ動物の解剖を徹底的に遂行し、成果を科学アカデミーの年報に報告した功績が大きい。『鳶鳥おばさんのお話』で有名なシャルル・ペロー（1628-1703）の兄であり、兄弟で文学史上に名高い「新旧論争」で近代派の論客としてボワローらと対立した。



展示図版：アザラシ 巻号頁数：p.119 版画技法：エッチング 刊行年：1688

2002年の前半期、折しも、横浜を中心に日本中の老若男女を騒がせた、迷いアザラシ「タマちゃん」を彷彿させる図版。



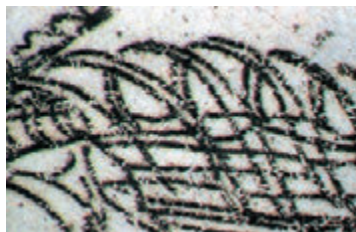


参考図版：カメレオン 巻号頁数：p.16 版画技法：エッチング 刊行年：1688

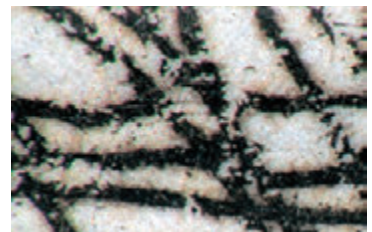
「サラムンドル」(火蜥蜴)、「ペリカン」と並んで、本書で評判の図版。カメレオンは本展示のスター的存在で、幾種類もの図像が用意されているが、これはそのもっとも古いものの一つ。顕微鏡と分析に秀でた世紀の図版らしく、カメレオンの本体に加えて、上半分はその身体部位の描写にあてられている。カメレオンは100種以上知られており、アフリカ、マダガスカル、スペイン、ヨーロッパ南部、アラビア、インド、スリランカ、セイシェル諸島に棲息する。



全体図



DMS：50 倍

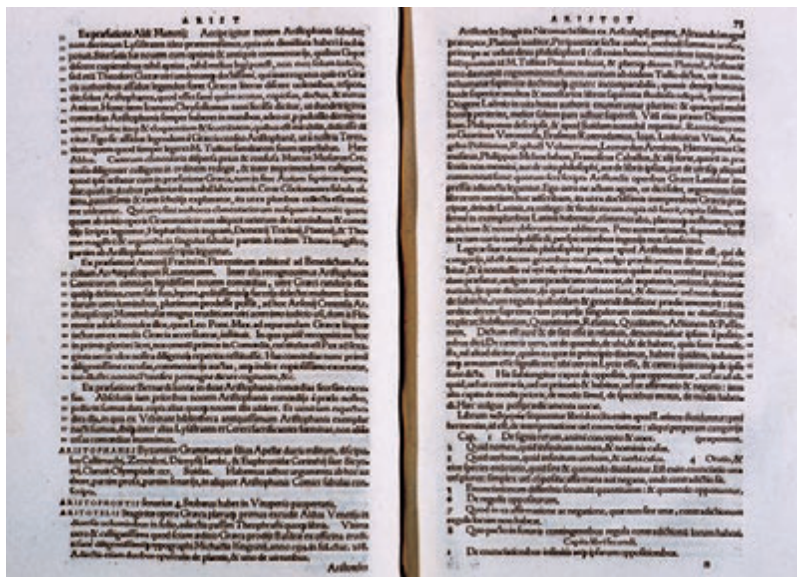


DMS：175 倍

## (9) 収集1 ケース: 5-1

著者名 (原語): Gesner, Konrad [1516-1565] (日本語): ゲスナー 書名 (原語): Bibliotheca universalis: sive catalogus omnium scriptorum locupletissimus, in tribus linguis, Latina, Graeca et Hebraica: extantium et non extantium, veterum et recentiorum in huncusque diem, doctorum et indoctorum, publicarum et in bibliothecis latentium... (日本語): 『書誌総覧』 発行者・出版社・印刷所: Christophorus 発行地: Zürich 刊行年: 1545 版: 初版 巻数: 1v. 総頁数: 30 (序、index)、1262p. 使用言語: ラテン語、ギリシャ語、ヘブライ語 序文: 有 書籍サイズ: 350×510×710 慶應義塾大学図書館の分類番号: 141X-40-1

現在、世界中で採用されている書物のDC分類は、あらゆる書物から著者に関する情報を消し去って、書物を一個の閉じられた最終単位と見なして分類整理する。ところが、1545年に刊行された目録学・書誌学の草分けともいえるコンラート・ゲスナーの『書誌総覧』は、そうした近・現代の洗練された整理学を知らない雑多な情報の坩堝であり、古代記憶術との深い関連の相の下に置かれた興味深い著作になっている。これは注釈付図書目録で、ラテン語、ギリシャ語、ヘブライ語で書かれたすべての書物の網羅を目指すシリーズの第1部をなす。数万点にのぼる著作目録にすべての著述家の略歴資料を付した著者名索引(3千人)が付き、総合的学者人物伝、著述家事典になっているばかりか、各書物の内容の要約、抜粋や、序言の内容までが収録されるという凄まじさである。



展示図版: アリストテレスの項目 巻号頁数: p.72-73 刊行年: 1545

ゲスナーは紹介する各書物を静態的な分類システムに封じ込めてしまわず、書物の背後に潜み隠れる「著者」にまで思いをめぐらせ、アリストテレスのような物故者はともかく、相手が生きている場合は、ヨーロッパ各地を旅して著者を訪問し、インタビューして歩くことまで辞さなかったと言われる。書物から著者へ、また別の書物へと検索範囲を広げていく、まことに今様の研究アーカイブの活動に相応しい調査ぶりである。



参考図版：タイトル・ページ 刊行年：1545

サブタイトルはこうなっている：「すなわち、ラテン語、ギリシア語、ヘブライ語の3カ国語で書かれた書物一切の内容豊富な目録。これらの書物は私たちの世代にまで伝えられたもの、失われたもの、古典から現代にいたるまでのもの、知識人によるもの、学者でない作者によるもの、出版されたもの、未発表のまま図書館に埋もれているものの一切を含む。チューリヒの医師コンラート・ゲスナー著」



全体図



DMS：50 倍



DMS：175 倍



## (10) 収集 1 ケース：5-2

著者名（原語）：Comenius, Johann Amos [1592–1670]（日本語）：コメニウス 書名（原語）：Orbis sensualium pictus : hoc est, omnium fundamentalium in mundo rerum & in vita actionum, pictura & nomenclatura = Die sichtbare Welt : das ist, aller vornehmsten Welt-Dinge und Lebens-Verrichtungen, Vorbildung und Benahmung（日本語）：『世界図絵』 叢書名：Die bibliophilen Taschenbücher ; Nr. 30 発行者・出版社・印刷所：Harenberg 発行地：Dortmund 刊行年：1991（初版 1658） 総頁数：405p. 巻号数：1v. 総図版数：170 使用言語：独語 序文：有 索引：有 書籍サイズ：122×176×250 慶應義塾大学図書館の分類番号：B-371.2348-Co1-2

コメニウスはチェコの宗教家、教育思想家。チェコ名はコメンスキーという。ここではコメニウスの近代教育学、とくに幼児教授学の成果に注目したい。コメニウスは、世界中の人間が同じ言語によって、徹底した平等主義の学校制度の中で、学問の全分野を統合した普遍的知識の体系（パンソフィア）を学ぶべきであると主張。その実践化のための教育方法を追求した。1658年に刊行された世界最初の絵入りの言語入門教科書『世界図絵』は、一般大衆向きの絵と、知識人がよくする文字とを対応させることによって、自然と文化に関する知識を万人のものにしようとした。いわゆる視覚教材の走りである。



展示図版：製粉業 巻号頁数：p.100, XLVIII 版画技法：原書木版の複製本 刊行年：1658

この挿し絵入り教科書で「製粉業」の占める位置は、まさしく自然世界の中で水車が占める場所に対応し、「自然を変形して生活に利用する」中間地点にある。木版による図版第 48 番の「製粉業」はそれ自体が小さな自然の縮図であり、モラヴィアの製粉業者の子に生まれたという著者の来歴も、この図版の面白さに無縁ではないだろう。絵の左半分を占める前景の巨大な製粉所の内部では、人力と馬力とでそれぞれ回転する車輪が描き分けられる。手前の土手から画面右手奥に向かって流れる小川には船水車が浮かび、右端に水車小屋が見える。さらにその背景の丘の上に風車が回っている。たった一枚の版面が製粉業の一切を包含しているのである。絵の部分部分には計 13 の番号が付され、説明文へと送っている。イメージとテキストとの相関関係は単純ながら、この教科書はそれ自体が「世界という書物の縮小版」を形作っているのである。



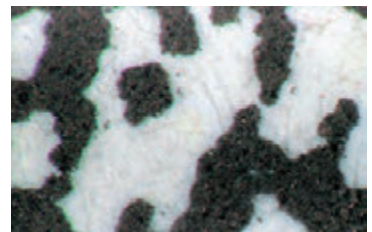
参考図版：ヨーロッパ全図 巻号頁数：p.220, CVIII 版画技法：原書木版の複製本 刊行年：1658  
 コメニウスの『世界図絵』に先駆けること約1世紀、1570年に、フランドルのオルテリウスによって、70の地図を掲載した最初の近代的な地図帳「世界の舞台」が出版された。表題の類似はたんなる偶然の暗合を超えていよう。その後、大航海の成果を取り入れ、メルカトルなどの偉大な地図学者が輩出する。緯度・経度や地球の規模、形状などがより厳密に測定されるようになるにつれ、地図の精度は増すようになる。



全体図



DMS : 50 倍

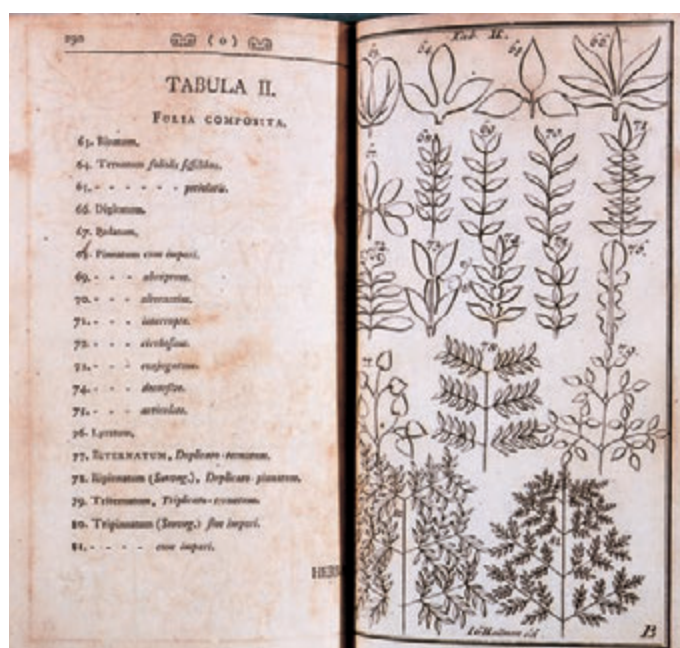


DMS : 175 倍

## (11) 収集 1 ケース：5-3

著者名（原語）：Linné, Karl von [1707-1778]（日本語）：リンネ 書名（原語）：Philosophia botanica, in qua explicantur fundamenta botanica cum definitionibus partium, exemplis terminorum, observationibus rariorum, adjectis figuris aeneis（日本語）：『植物哲学』 発行者・出版社・印刷所：Godofried Kiesewetter 発行地：Stockholm 刊行年：1751 版：初版 巻号数：1v. 総頁数：362 p. 総図版数：9 図版制作者：I.G.Hallman（素描家） 使用言語：ラテン語 序文：有 書籍サイズ：134×204×280 慶應義塾大学図書館の分類番号：B-470-L1-1

リンネはスウェーデンの医師で植物学者。画期的な植物の命名法でよく知られる。植物をその性的特徴に従って24種目に大別、さらに2名法によってあらゆる生物に属名と種名とを組み合わせた名前を付けたのである。ヒトに二語式の名前 *Homo sapiens* をあたえたのもリンネであった。代表作『自然の体系』は、初版（1735）がわずか11ページだったのが、版を重ねるごとに膨れあがり、リンネ自身が改訂増補の手を加えた最後の第12版（1766-1768）にいたっては、なんと2355ページにまで増大した。リンネ没後もこの主著は後輩や信奉者たちの手で成長を続け、第13版（1788-1793）は、10冊総計6257ページという天文学的な大冊になっている。この『植物哲学』は、そうした『自然の体系』の成長過程で生み出された、これまた数多い副産物の一つ。リンネが痛風で病臥中に、弟子に口述筆記させたとされている。



展示図版：複葉の図 巻号頁数：p.291, Tab. II 制作者：I.G. Hallman（素描家） 版画技法：エッチング 刊行年：1751

一個の葉が複数の小さな葉の集合で成り立つもの。3出複葉、2回3出複葉、2回羽状複葉、奇数羽状複葉、偶数羽状複葉などある。





参考図版：果実部分 巻号頁数：p.302, Tab. VIII 版画技法：エッチング 刊行年：1751

17世紀末から燎原の火のごとくヨーロッパを覆い尽くした植物趣味や園芸趣味に、リンネも決して無縁ではなかった。彼もまた幼少期から父親譲りの熱狂的な植物愛好家であり、実家の庭は県で一番美しい庭園として有名だった。

さて、この図版にある果実とは子房の成熟したもので、心皮が成熟してできた果皮に包まれ、種子を宿す。リンネは当時まで知られた動植物のすべてを有用、無用の別なくすべて同様に命名し、記述し、彼が認知した生物は1万2,100種に及ぶと言われている。ただし、リンネ生前の名声は、生物の二語式命名法という功績によるよりも、植物の分類に当たってその生殖器官の構造の違いに注目し、植物の「性体系」(Systema sexuale)を雄しべと雌しべの果たす役割の相違によって説明した着眼のゆえであった。「創世記」で神が万物に類ごとの繁殖を義務づけた以上、敬虔な信者であるリンネにとって、これは必然の定めであった。だが、植物に動物に見られるような「性」の現象があるなどということは、それまで誰も考えなかったので、この学説はそれ自体で一人歩きを始め、リンネはそれがためにあらぬ濡れ衣を着せられる羽目になる。



全体図



DMS：50 倍



DMS：175 倍

## (12) 収集2 ケース：6-1

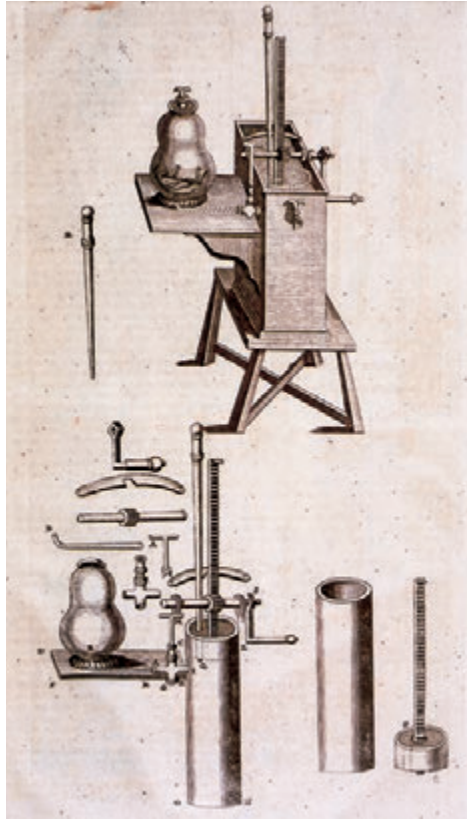
著者名（原語）：Harris, John [1667-1719]（日本語）：ハリス 書名（原語）：Lexicon technicum, or, an universal English Dictionary of arts and sciences : explaining not only the terms of art but the arts themselves（日本語）：『技術用語辞典』 発行者・出版社・印刷所：Dan. Brown [and 9 others] 発行地：London 刊行年：1716 版：第3版(初版1704) 巻号数：2v. 総頁数：878p. 総図版数：7（他、挿絵多数） 図版制作者：Huet, B. Lens（以上素描家）；Louveau, Mesnel, Noël, G. Severeys（以上彫版師）；Becquet, Lemer cier（以上刷り師） 使用言語：英語 序文：有 目次：有 書籍サイズ：220×350×515 慶應義塾大学図書館の分類番号：141Y-11-1

18世紀ヨーロッパの産業先進国イギリスが世紀前半に刊行した事典は、技芸・工芸に重きを置く徹底して実用的なものであった。ハリスはケンブリッジで学士となって後、王立協会の研究員となり、会長ニュートンの下で副会長をつとめたこともある。『技術用語事典』は英語で書かれた最初期の百科事典であり、アルファベット順の配列や、「辞典」ならぬ「事典」という自覚など、その構想は画期的であり、17世紀以来の輝かしい科学上の発明・発見の数々を網羅した貴重な資料として高い評価を受けた。フランス『百科全書』の編集者がモデルとした先行事典の一つ。



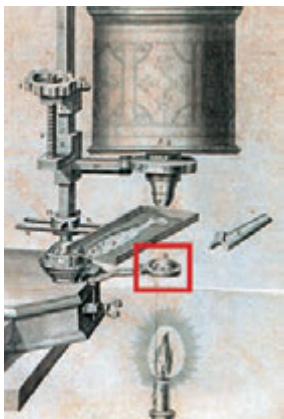
展示図版：顕微鏡全図 巻号頁数：p.474 制作者：B. Lens（素描家）；Sturt（彫版師） 版画技法：エングレーヴィング 刊行年：1716

ジョン・マーシャルの新作2重顕微鏡で、血液の循環を調べるためのもの。

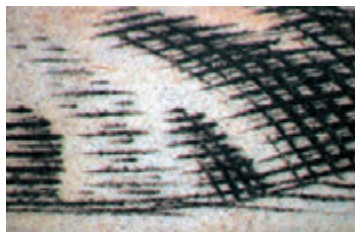


参考図版：空気ポンプ 巻号頁数：p. 26 版画技法：エングレーヴィング 刊行年：1716

項目《空気ポンプ》についている2枚の図版の1枚目。上図は、瓶の中に閉じこめられ、窒息死する哀れな小動物が見える。にわかアマチュア科学者が輩出した当時、社交界を騒がせた実験の一つ。本図録の巻頭論文にある図版、フランス『百科全書』劈頭に掲げられた「人間知識の系統樹」を表した銅版画にも、この器具は見受けられる。



全体図



DMS：50 倍



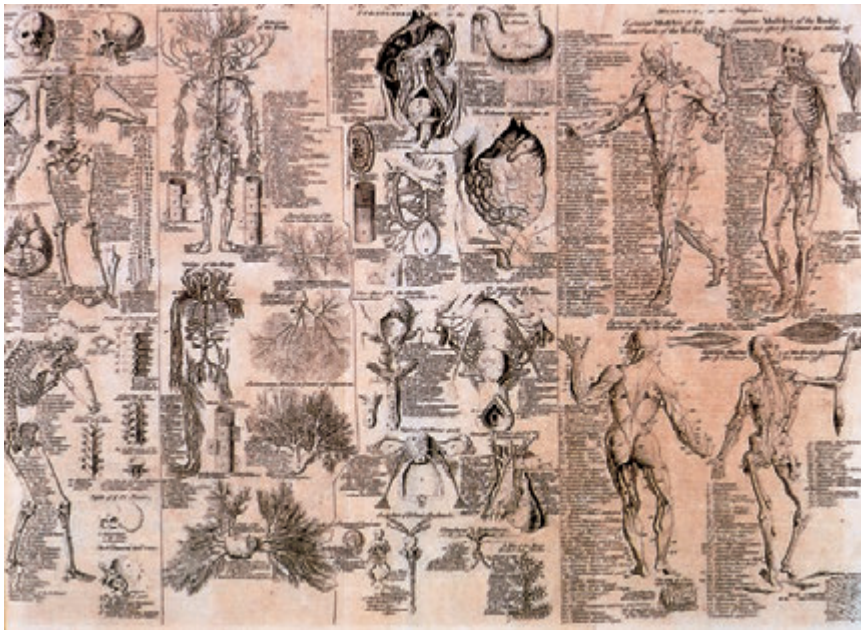
DMS：175 倍



### (13) 収集2 ケース：6-2

著者名（原語）：Chambers, Ephraim [1680 -1740]（日本語）：チェンバーズ 書名（原語）：Cyclopaedia, or, An universal dictionary of arts and sciences : ... the whole intended as a course of ancient and modern learning / compiled from the best authors, dictionaries, journals, memoirs, transactions, ephemerides, &c. in several languages by E. Chambers（日本語）：『サイクロピーディア』 発行者・出版社・印刷所：J. & J. Knapton ... [et al.] 発行地：London 刊行年：1728 版：初版 巻号数：2 v. 総頁数：t.1 : XXX, 878 p.; t.2 : 1065 p. 総図版数：t.1 : 10 ; t.2 : 5 図版制作者：T. Van Gucht, J. Sturt, I. Fletcher（以上彫版師） 使用言語：英語 序文：有 書籍サイズ：400×500×810 慶應義塾大学図書館の分類番号：142X-58-2-1～2

1728年から1742年までに5回も版を重ねた英国の人気事典。ハリスの『技術用語事典』を単独で凌駕する目的で制作された。パリの出版業者ル・ブルトンがこれに目をつけ、若いディドロやダランベールを起用して仏訳出版を企画したのがフランスの『百科全書』事業のそもそもの発端である。各項目は英国における技芸・工芸の諸分野の知識や技術の総まとめであるが、英語タイトルの後半でも断っているように、先行類書からのおびただしい引用やコピーを含み、フランス『百科全書』編集者たちは、往々にして英国モデルの背後で自国の先達とめぐり会うというケースもしばしばであった。ハリスの事典同様、図版はきわめて少ない。



展示図版：解剖図集 巻号頁数：第1巻、p.84-85 版画技法：エッチング 刊行年：1728  
折り込みの巨大な図版。チェンバーズ独自のものはなく、ウェサリウスなど、すべて先行図版のコピーであるが、これだけのスペースに解剖図版を凝縮・網羅した事典は珍しい。



参考図版：博物誌 巻号頁数：第2巻、p.616-617 制作者：T. Van Gucht（彫版師） 版画技法：エッチング 刊行年：1728

上記「解剖図集」に勝るとも劣らない、チェンバーズの網羅的特徴がよく出ている図版集。博物誌が関わるあらゆる対象を、あえて雑多に無秩序に紹介する。図1、2：Death Watch はシバンムシ（カブトムシの一種）のことであるが、この2匹を見ていると「弱肉強食」といった含意もうかがえる；図3、4、5：羽；図6、7、8：可塑性；図9、12：シビレエイ；図10：チョウセンニンジン；図11：声；図12：大結節（解剖用語）；図13、14、15：植物、など。



全体図



DMS : 50 倍



DMS : 175 倍

## (14) (15) 収集3 ケース：7-1、2

著者名（原語）：Diderot, Denis [1713-1784] & Alembert, Jean Le Rond d' [1717-1783]（日本語）：ディドロ、ダランベール 書名（原語）：Encyclopédie : ou, Dictionnaire raisonné des sciences, des arts et des métiers / par une société de gens de lettres ; mis en ordre & publié par M. Diderot... & quant à la partie mathématique, par M. d'Alembert ...（日本語）：『百科全書』 発行者・出版社・印刷所：Briasson [etc.] 発行地：Paris 刊行年：1751-1765（本文）；1762-1772（図版） 版：初版 巻号数：17v.（本文）；11v.（図版） 総頁数（本文）：I：914p.；II：871p.；III：905p.；IV：1098p.；V：1011p.；VI：928p.；VII：1030p.；VIII：936p.；IX：956p.；X：927p.；XI：936p.；XII：965p.；XIII：914p.；XIV：949p.；XV：950p.；XVI：962p.；XVII：890p. 総図版数：I：269；II：233；III：201；IV：298；V：248；VI：294；VII：259；VIII：254；IX：253；X：337；XI：239 図版制作者：Charles-Nicolas Cochin, Delacroix, Louis-Jacques Goussier, Pierre Laurent, J.-R. Lucotte（以上素描家）；Aubin, Robert Bernard ou Besnard, Juste-François Boucher, A.J. de Fehrt ou Defehrt, François-Nicolas Martinet, Bonaventure-Louis Prévost（以上彫版師）；La Rue（刷り師）；Jean-Jacques de Boissieu, Bourgeois, Jacques-Nicolas Bellin, Degerantins ou Desgerantins, Charles Delusse, Madame Delusse, Michel-Ange-André Le Roux Des Hauterayes, Guillaume Dheulland, Pierre-Etienne Falconet, Harguiniez, Le Canu, Niodot, Paillason, Jean-Baptiste Pappillon, Jean-Rodolphe Perronet, Radet, Mademoiselle Richomme, Rogeau ou Rojau, Johann-Eleazar Schenau ou Schönauf, Pierre Soubeyran, Jacques-Germain Soufflot, Guillaume Viallet ou Viallet（以上不明、あるいは複数の仕事を同時に果たす者）；[以下は『百科全書』中には名前がないが、他の資料から協力者と目される者] Bricault, Marc-Antoine Eidous, Favre Le Gras ou Gras, Riollot（以上不明） 使用言語：仏語 序文：有（「読者への通知」や、故人への「賛辞」などが含まれる） 目次：有 図版目次：有 書籍サイズ：570×400×116 慶應義塾大学図書館の分類番号：142X-37-1～17；142X-38-4-1～4；142X-39-11-1～11；142X-41-2-1～2

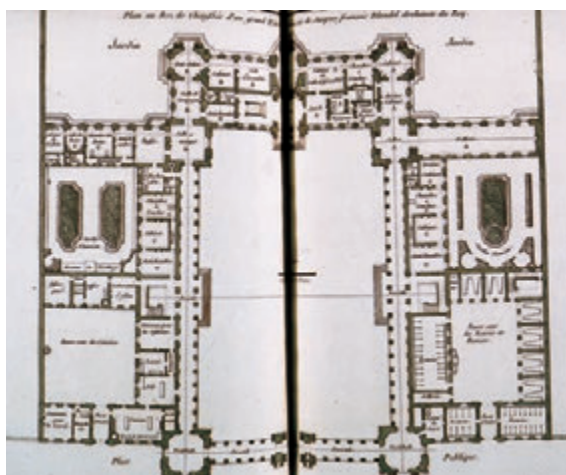
フランス 18 世紀最大の百科事典（1751～1772）。英国のチェンバース『サイクロピーディア』2 巻本の仏訳企画から始まったが、構想は少しずつ膨れ上がり、ついに本文 17 巻、図版 11 巻という巨大な事典となる。ピエール・ベール以来の批判的哲学史の伝統と、容赦のない真相暴露および徹底網羅の意志に貫かれた『百科全書』は、さまざまな反対運動にもかかわらず、政府内外の支持者も多かった。予約購読者は 4 千人を数え、空前の商業的成功をおさめる。あらゆる思想をカトリック教会とソルボンヌ神学部が独占していた時代に、民間企業が在野の知識人の編集になる巨大な思想の集大成を刊行したことにこそ、『百科全書』刊行の歴史的意義があった。ルネサンス以来およそ考えられる限りの知の全領域をくまなく探査しようとした本文は、表面上のアルファベット順の背後に独自の分類システムを隠している。神を中心とした伝統的枠組みを破壊し、「人間知性」という新しい参照枠を導入することで、人間中心の枠組み「人間知識の体系詳述」（本文第 1 巻冒頭）が提唱される。この分類システムが全項目を結び合わせ、壮大な知の宇宙を形成するのである。『百科全書』のもう一つの魅力は図版にある。後年刊行された補遺を入れると、全 12 巻のフォリオ版に、数千枚におよぶ精緻な銅版画が収録され、テキストと共に当時の社会や技術を知る一級の資料を構成する。





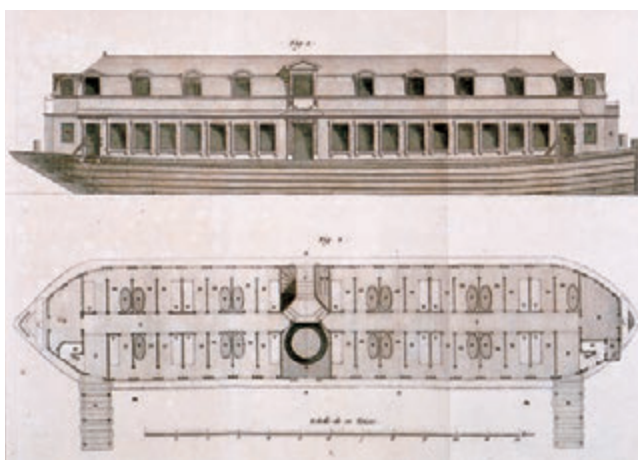
**展示図版：**巻頭の扉絵 **巻号頁数：**t.1 (Texte) (ただし、この版画は最終期に予約購読者へのお土産として単独に配布されたため、掲載場所については一定していない) **制作者：**C.N. Cochin fils (素描家)；B.L. Prévost (彫版師) **版画技法：**エッチング **刊行年：**(コシャンの原画は1765、版刻は1772) この寓意画の絵解きについては、本カタログ巻頭の論文を参照のこと (p. ix)。

『百科全書』の編集者ディドロが、『自然の解釈について』(初版1753年、翌年改訂版)の中でニュートン流の数理科学を批判し、新しい可能性を化学、実験物理学、そして博物学に求めたことはよく知られている。数学は抽象であり、とうに滅びたはずの形而上学が形を変えて現れ出た姿にすぎない。これからは、大自然という現実と直面してこれを注視し記述する、実験的記述的自然学こそが優遇されねばならない。『百科全書』巻頭に掲げられたコシャンによるやや古びた寓意画から、そのような博物学への嗜好を読みとることは難しいが、この事典に対するビュフォンの協力ぶり(政治的にはいつも賢明に距離を置くことを忘れなかったが)が、何よりも時代の博物学化を雄弁に証し立てている。フランス大革命下、科学アカデミーを初めとしてほとんどの研究施設は閉鎖の憂き目にあうが、王立植物園は廃止を免れた。幾多の公開講座で市民を啓蒙してきた実績を買われたためであり、またディドロが愛した博物学や、ルソーが死の直前までこだわりつづけた植物学の、大衆の人気という側面も無視できない。それと、ベストセラー『ポールとヴィルジニー』を擁する『自然の研究』(1784-1788)で一世を風靡したルソー派の作家ベルナルダン・ド・サン＝ピエールが、一時園長を務めたことも強調されてよいだろう。



参考図版：貴族の邸館図 巻号頁数：t. 1 (Planches)、項目《建築》の図 XXIII 版画技法：エッチング  
刊行年：1762

貴族の結婚生活の実態について教えてくれるのがブロンデルの図面である。ブロンデルは王室御用の建築家で、ディドロたち編集部の依頼で作成したのがこの貴族の典型的な館の図面なのだが、ここでは夫婦は左右に別居して暮らし、中央上部の共通スペースで会う形の生活を営んでいる。これは当時ブルジョワジーを中心に育まれつつあった近代的な夫婦や家庭の概念、すなわち現在の私たちの概念とはまったく異質なものであると言わざるをえない。『百科全書』の図版はそのような社会史的情報を、おそらくは図版製作者の意図とは無関係に私たちにあたえてくれるからこそ面白いといえる。



展示図版：銭湯船 巻号頁数：t. 8 (Planches)、項目《鬘職人》の図 X 制作者：Lucotte (素描家)；Bernard (彫版師) 版画技法：エッチング 刊行年：1771

1761年、ポワトヴァンという男が大きな船を改造して、セーヌ河に銭湯を開いた。当時、パリの衛生状態は芳しいものではなく、セーヌの水もひどく汚染されていたから、この商売は繁盛したようだ。図面は見取図と地階の平面図で、2階は事務所と従業員の宿泊施設、地階が浴場になっている。浴場は右半分が男子用、左半分が女子用。男子コーナーで見ると、個室の浴場が9室、それにベッドのある寝室が10室用意されている。温水と冷水どちらの入浴もできたらしい。ポワトヴァンは翌62年、ある雑誌に寄稿してシャワーの医療効果を力説し、この件では医学アカデミーから御墨付を貰ったと豪語しているが、図面ではシャワーがある様子はない。



参考図版：幼児解剖図 巻号頁数：t.1(Planches)、項目《解剖》の図 XVI 制作者：Prévost（彫版師）  
版画技法：エッチング 刊行年：1762

徹底的網羅と理性的系統化を特徴とする分類は、往々にして事物にあたえられた価値の序列を転倒させ、従来光の当てられなかった対象や領域に意外な関心や発見を誘発する。たとえば『百科全書』に固有な方法の一つは、既知の世界の表面に飽き足らず、その内部にどこまでも分け入ろうとして容赦なく振るわれる、「分解」「切断」「侵入」などのメス捌きである。図版の多くは断面図であり、普通は見ることのできない建物や装置や風景の隠れた裏側や内部を描きだしている。科学や合理の名の下に強行される、これは一種の合法的侵犯なのである。

ここにおいて、『百科全書』の図版は、理性のメス捌きによって人間や世界や自然を透視し、分類、解剖しようとしたこの時代の文学と軌を一にする。断面への関心は社会内部に注がれる飽くことのない好奇の眼差しとなり、人々の私生活や団欒風景をスナップショットのように捉えてみせる。人間存在それ自体を断面から追求する図版もある。幾多の人体解剖図や外科手術の説明図は、冷徹な理性の観察眼が把握した情念の外形といえるだろう。



全体図



DMS：50 倍



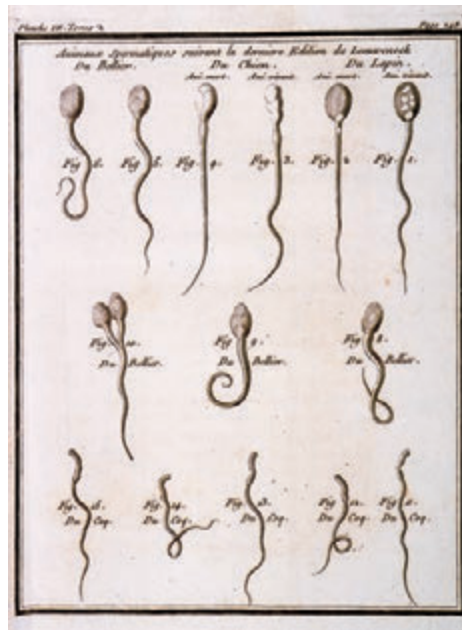
DMS：175 倍



**(16)～(21) 博物誌の原点：Buffon 1 ケース：8-1 上・下、8-2 上・下  
8-3 上・下**

著者名（原語）：Buffon, Georges Louis Leclerc, comte de [1707-1788]（日本語）：ビュフォン 書名（原語）：Histoire naturelle, générale et particulière, avec la description du Cabinet du roi（日本語）：『一般と個別の自然誌』 発行者・出版社・印刷所：Imprimerie royale 発行地：Paris 刊行年：「総論と四足獣」（1749-1767, 15 v.）；「補遺」（1774-1789, 7 v.）；「鳥類」（1770-1783, 9 v.）；「鉱物」（1783-1788, 5 v.）；「ラセペードの補遺：四足獣ほか」（1788-1789, 2 v.）；「ラセペードの補遺：魚類ほか」（1798-1804, 6 v.） 版：初版 巻号数：44 v. 総図版数：1295 図版制作者：De Sève, Buvée l' Américain（以上素描家）Aubert, Babel, C. Baquoy, Cl. Baron, F. Basan, Mad. Basseporte, Beissein, Benazeth, Bigand, Blanchon, Caquet, M.C. Chahau, Chambrars, Chambris, Chapuy, Dambrun, J. Daullé, Delignon, Droyer, Dufour, Duhamel, de Fehrt, Ferandiny, Cl. Fessard, Gaillard, Cl. Fse, Guélard, Carl G. ou H. Guttenberg, Charles Guyot, Eth ou Cath. Haussard, Helman, F. Hubert, Jardinier, R. de Launay jr, Le Charpentier, Louis Legrand, L. Lempereur, Letellier, Levillain, Mme Levillain, Lhalbou, Lorieux, Lucas, Jnne Mansard, Mesnil, Michel, P.E. Moitte, L. Monnier, Divione, Ouvrier, Pelletier, Pitre, J.B. Racine, J. Robert, Magd. Th. Rousselet, Fme Tardieu, Schmitz, De Sève fils, P.F. Tardieu, N. Thomas, Valperga（以上彫版師） 使用言語：仏語 序文：有（Buffon, Daubenton） 目次：有 図版目次：t. 8. Avis au relieur 索引：t.5: Table des matières, t. 30: Table alphabétique 書籍サイズ：205×260×445 慶應義塾大学図書館の分類番号：120Y-544-36-1～37；120Y-544-29-F；120Y-544-36-S-1～7

ビュフォンの代表作『一般と個別の博物誌』は、1749年、王立印刷所から最初の3巻が公刊された。版型は4つ折り、挿絵本という大型2つ折り版が普通であった時代にしては小型であった。1749年以降、この大著はいくつかの段階を踏んで日の目を見る。まず1749年に刊行されたのは「一般の自然誌」の部分であり、地球の理論、生殖の構造、人間の自然誌が含まれ、そのほとんどをビュフォン自身が執筆した。続いて1753年から68年にかけてドーバントンが担当した『四足獣の自然誌』、同じくドーバントンとギュノー・ド・モンベアールが協力した『鳥類の自然誌』（1770-83）、そして1778年に『自然の諸時期』、1783年から88年までに『鉱物の自然誌』を刊行した。1788年にビュフォンが没しても、まだ『一般と個別の自然誌』の刊行は続き、ラセペードの手で1798年から1808年にかけて『両性・爬虫類誌』が加えられた。モノクロームの図版は、当時最大の素描家ジャック・ド・セーヴとアメリカ人のビュヴェとが制作し、手彩色を施さない銅版図入りで販売された。原画はドーバントンが王立図書館に寄贈。そこに保存されているフォリオ各巻は同じ体裁をとり、上部にオリジナルの素描が張り付けられ、下部の左右に4つ折り版と12折り版に対応する版画がある。最初の素描では対象の動物に背景を付け、生活条件や出身地を表す。背景は往々にして時代の好みを反映し、廃墟や新古典主義風建築だったり、あるいは岩山や人工滝だったりする。2番目の素描では、骸骨や甲殻が描かれる。さらに部分図が加わる。こうした分析と総合とが織りなされる手順は、同時代の『百科全書』とまったく同じである。



展示図版：雄羊、犬、兎の精子 巻号頁数：t.2, p. 248-249, Pl.VIII 版画技法：エッチング 刊行年：1750



展示図版：幼児解剖図 巻号頁数：t.3, p. 204-205, Pl.VIII 版画技法：エッチング 刊行年：1750



展示図版：犬2頭（左マスチーフと右グレートデーン） 巻号頁数：t.5, p.300, Pl.XXV, Pl.XXVI 制作者：Pl. XXV：De Sève（素描家）、Moitte（彫版師）；Pl. XXVI：De Sève（素描家）、P.F.Tardieu（彫版師） 版画技法：エッチング 刊行年：1755

徹底した体系主義者のリンネと異なり、ビュフォンは人間中心主義者だった。『一般と個別の自然誌』は一般理論に当てられた第1巻に続き、第2巻と第3巻が「人間の自然誌」、その後の第4巻には誰もが期待する「サル」ではなく、人間にもっとも近い動物、すなわち「家畜」がくる。すなわち「ウマ」、「ロバ」、「ウシ」である。第5巻にはさらに「ヒツジ」、「ヤギ」、「ブタ」、「イヌ」が紹介される。



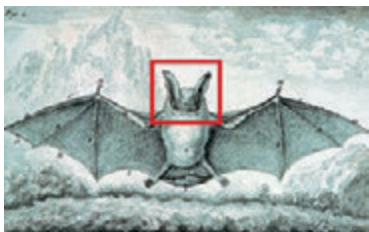
展示図版：蝙蝠2態（翼を広げた姿と、翼をたたんだ姿） 巻号頁数：t.8, p.154, Pl. XVI 制作者：Buvée l'Américain（素描家）；Moitte（彫版師） 版画技法：エッチング 刊行年：1760



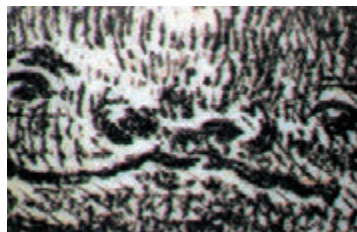


**展示図版（左）：マストドンの歯の化石** 巻号頁数：Supplément, t. 5, p. 512, Pl. VI 制作者：De Sève (素描家)；Chevillet (彫版師) 版画技法：エッチング 刊行年：1778  
 アフリカと東インドに棲息。この個体はセネガルから「王の陳列室」(Cabinet du Roi)へ持ち込まれたとある。

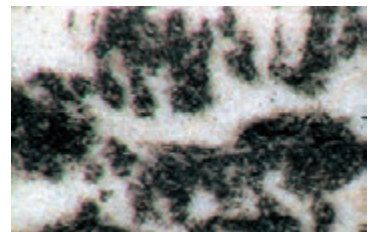
**展示図版（右）：瘤のあるヒキガエル** 巻号頁数：t.1, p. 599, Pl. LX 制作者：De Sève (素描家)；Veuve Tardieu (彫版師) 版画技法：エッチング 刊行年：1788  
 マストドンは絶滅種のゾウ類。漸新世から更新世にかけて広く分布し、化石は数多い。マンモス同様に、長い毛でおおわれていたが、歯が特徴的で、臼歯に乳房状の突起が並んでいるのがゾウやマストドンとは違う。マストドンとは「乳房状の歯」を意味する。



全体図



DMS：50 倍



DMS：175 倍

**(22)～(27) 博物誌の原点：Buffon 2 ケース：9-1 上・下、9-2 上・下、  
9-3 上・下**

著者名（原語）：Buffon, Georges Louis Leclerc [1707-1788] & Sonnini de Mononcourt, Charles Nicolas Sigisbert [1751-1812]（日本語）：書名（原語）：Histoire naturelle : générale et particulière. Nouv. édition. accompagnée des notes... Ouvrage formant un cours complet d'histoire naturelle, rédigée par Charles N. Sigisb. Sonnini（日本語）：『一般と個別の自然誌』 発行者・出版社・印刷所：F. Dufart 発行地：Paris 刊行年：1799-1808 版：第2版 巻号数：127v. 総図版数：1123 図版制作者：De Sève, Barraband, Denys Monfort, Adel Daudin（以上素描家）：Baquoy, Bertheauld, Bigant, Blanchard, Delignon, Delvaux, Demonchy, Duhamel, Goulet, Hubert, Jourdan, Julie Lerambert, Md Levé, S. Lettelier, Moithey, Perée, Philipeau, J. B. Racine, Tardieu, Vve Tardieu, Voyez, E. Voysard（以上彫版師） 使用言語：仏語 序文：有 目次：有 書籍サイズ：140×213×285 慶應義塾大学図書館の分類番号：120Y-543-127-1～127

周知のようにビュフォンは生前に『一般と個別の自然誌』を完成させることができなかった。ビュフォンが長きにわたって園長を務めた王立植物園には、その優れた指導のお陰で多くの俊英が輩出していた。だが、総帥の死後、そのライフワークを引き継いだラセペードも、皆から事実上の後継者と目されていたにもかかわらず、『一般と個別の自然誌』完成に導くことはできなかった。革命後は研究職を離れ、ナポレオンのもとで行政に専念するようになったからである。事業完成は意外にも王立植物園の外部にいた人物によって実現した。それがソンニーニである。ソンニーニはフランスの博物学者で旅行家。リュネヴィルに生まれ、パリで没した。父はローマから来た商人で、ロレーヌ地方に定住し、そこで財をなし、スタニスラス王から貴族の称号まで授かっている。息子のシャルルはボン＝タ＝ムソンのイエズス会コレージュで英才ぶりを発揮。16歳で哲学の博士号を取得している。自然科学への関心と裏腹に、父を喜ばせるために法律を学び、1768年、ナンシーで弁護士になる。生来の冒険好きが高じて、法曹界を飛び出し、海軍に入る。1772年、南アメリカ北部のギアナに派遣されると、水をえた魚のごとく探訪と調査に没頭、広大な植民地を踏査してペルーまで足を運んだ（1774年）。熱病に罹って治療のため帰国。持ち帰った珍鳥の貴重なコレクションを王立植物園の陳列館に寄贈し、モンバールのビュフォンのもとに数ヶ月滞在する。ビュフォンは折から執筆刊行中の『一般と個別の自然誌』の「鳥類」の巻のために、26種の異国の鳥についての記述をソンニーニに依頼した。ついで、エジプトに赴いて当地の自然をくまなく調査、さらにトルコ、ギリシャを訪れる。1780年に帰国して、死んだ父が所有していたマノンクール土地を継承。園芸に没頭し、珍しい異国の植物を育てる。革命下では、アッシニア紙幣の暴落で財産を失う。パリに戻って科学研究に打ち込むが、イゼール県のヴィエンヌでコレージュの校長職を命ぜられ、2年ほどで退職。異国への憧憬やみがたく、1810年、モルダヴィア地方のダニューブ流域を訪れるが、またもや悪質な熱病をえて帰国。まもなく帰らぬ人となった。本書はいわゆるソンニーニ版と呼ばれる『一般と個別の自然誌』127巻で、初版本にはない総数1123枚の手彩色図版が収録されているのが強みである。ビュフォンの生前に刊行されていた総論、四足獣の自然誌、鳥類の自然誌、鉱物の自然誌、地球の歴史、さらに補作となる両性・爬虫類の自然誌に加えて、魚類・昆虫・軟体動物・植物の自然誌を加えた網羅的な版本である。



**展示図版：**卵形の玄武岩（アルデンヌの丘陵産） **巻号頁数：**t.14, p.210, Pl. II **版画技法：**エッチング（手彩色）

18世紀末、鉱物学関係の図版が博物図鑑でふんだんに使われるようになったのは、ヨーロッパ各地で巨大な化石が発見され始めたことと無関係ではない。地球それ自体の研究と古生物学とは表裏一体であり、キュヴィエやラマルクの仕事もそれを出発点にしている。

玄武岩は、もっともありふれた火山岩であるが、アイルランドのジャイアンツ・コーズウェーにみられるような柱状節理を呈すると、観光客の人気を呼ぶ。ジャイアンツ・コーズウェーは、伝説では巨人がアイルランドとスコットランドを往復するためのものとされてきたが、実際は玄武岩質の溶岩流の堆積物である。『百科全書』の図版項目「博物誌」にも、フランス中央部の火山地帯に見られる巨大玄武岩堆積風景が巨大図版化されている。



**展示図版：**1：デユニオンホンセイインコ 2：セキナナクサ **巻号頁数：**t. 64 (t. 63), p.162, Pl.CCX-LIX **制作者：**De Sève（素描家）；Hubert（彫版師） **版画技法：**エッチング（手彩色）

鳥類は28巻分あり、バラバンとド・セーブの原図を銅版で256図カラー印刷したものである。





展示図版：インドのニホンヅノカメレオン 巻号頁数：t. 82 (t. 4), p.217, Pl.LIV 制作者：Adel Daudin (素描家)；Bigant (彫版師) 版画技法：エッチング (手彩色)

インドはカメレオンのもっとも繁殖する土地であることは、すでにプリニウスが『博物誌』第8巻第51章で書いている。さらにプリニウスは第28巻第29章では、デモクリトスを引用し、カメレオンの魔術的効能として、頭と喉を櫟の木の上で焼くと雨と雷を誘発できると述べるが、プリニウス自身がまるで信用していない様子である。



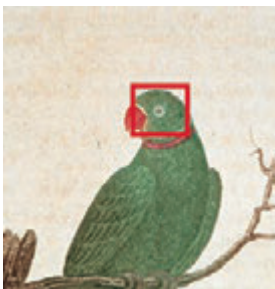
展示図版：1：アオブダイの1種 2：ヨーロッパヘダイ 巻号頁数：t. 74 (t. 9), p.362, Pl.XLVIII 制作者：De Sève (素描家)；J.B. Racine (彫版師) 版画技法：エッチング (手彩色)



**展示図版 (左)：**船を襲うオオダコ 巻号頁数：t. 88 (t. 2), p.256, Pl.XXXVI 制作者：Denys Montfort (素描家)；E.Voysard (彫版師) 版画技法：エッチング (手彩色)

英語でデビルフィッシュ、すなわち「悪魔の魚」とも呼ばれるタコは、伝説上の海の怪物と混同されることが多かった。ケース 2-1 のリュコステネスや同じく 2-2 のゲスナーたち近代初期の博物図鑑に現れる怪物と、さして選ぶところがないのである。19 世紀になっても、海の底に船をたやすくひきずりこむ力をもつクラークンこそがタコである、と主張する博物学者もいた。

**展示図版 (右)：**ウチワサボテンの一種 巻号頁数：t. 123 (t. 17), p.5, Pl.CXXI 制作者：De Sève (素描家)；Ve Tardieu (彫版師) 版画技法：エッチング (手彩色)



全体図



DMS：50 倍



DMS：175 倍

# 増殖する動物たち

鳥 類

蝶 類

虫

動 物

爬虫類

水棲生物



## (28) 鳥類1 ケース：10-1

著者名 (原語) : Jonston, Johannes [1603-1675] (日本語) : ヨンストン 書名 (原語) : Theatrum universale de avibus (日本語) : 『鳥類図譜』 発行者・出版社・印刷所 : Franc. Jos. Ekebrecht. Christianus de Lannoy 発行地 : Heilprunna 刊行年 : 1756 版 : (初版 1650) 巻号数 : 1v. 総頁数 : xiii, 238 p., 9p. 総図版数 : 62 図版制作者 : H. Deuchert, S. Slocombe 使用言語 : ラテン語 序文 : 有 目次 : 有 図版目次 : 有 書籍サイズ : 220×350×455 慶應義塾大学図書館の分類番号 : 141Y-54-1-2

スコットランド系の旧家で、ポーランド生まれの医者・博物学者。ドイツ、英国、オランダ、フランス、イタリアを遍歴。各地の大学で医学、解剖学、植物学を修め、1640-1655 年、ライデン大学で医学部教授。晩年はポーランド南西部のシロンスクに隠遁。自然学を研究する傍ら、医療を実践した。この鳥類図譜の 18 世紀版には、プリニウス、ゲスナー、アルドロヴァンディーラの著作がふんだんに利用され、先行鳥類図鑑類の集大成といった趣がある。



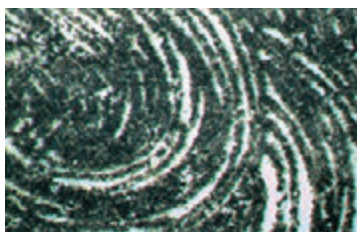
展示図版 : 幻の怪鳥たち 巻号頁数 : p.224-225, Tab. 62 版画技法 : エッチング 刊行年 : 1756  
いわゆる「幻獣」を扱った唯一のページ。上から、嘴で自らの胸を突いて出した血を雛にあたえるペリカヌス；不死鳥フェニックス；人面鳥ハルピュイア；獅子と鷲で合成されたグリュプス。



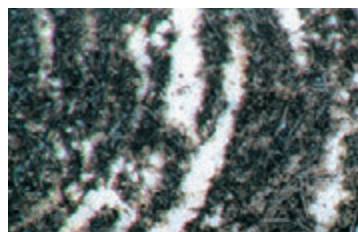
参考図版：白孔雀ほか 巻号頁数：p.52-53, Tab. XXIII 版画技法：エッチング 刊行年：1756



全体図



DMS : 50 倍



DMS : 175 倍

## (29) 鳥類 1 ケース：10-2

著者名(原語)：Temminck, Coenraad Jacob [1778-1858](日本語)：テミンク 書名(原語)：Nouveau recueil de planches coloriées d'oiseaux, pour servir de suite et de complément aux planches enluminées de Buffon (日本語)：『新編彩色鳥類図譜』 発行者・出版社・印刷所：L. Imbert/F.G. Levrault 発行地：Paris 刊行年：1838 版：ビュフォンの1770年版『鳥類誌』への補遺として企画された版 巻号数：5v. 総図版数：600 図版制作者：Huet, Prêtre (素描家)；Lebrun (彫版師)；Tourfaut, Mme.V.Vaillant (以上刷り師) 使用言語：仏語 序文：有 (Cuvierの趣意文) 目次：有 書籍サイズ：275×335×570 慶應義塾大学図書館の分類番号：141Y-50-5-1～5

ビュフォン「鳥類誌」を継ぐ新記載鳥類カタログ。全600図はいずれもニコラ・ユエカプレートル原画による手彩色銅版画である。

テミンクはオランダの博物学者。ライデンに生まれて没する。とりわけ鳥類に情熱を燃やした人である。ハーレムの科学芸芸アカデミー所長、ネーデルラント自然史博物館長をつとめる。自作が全ヨーロッパに普及するように、ほとんどの著作をフランス語で執筆したことも有名。



展示図版：雄鳥 巻号頁数：t.5, 232 制作者：Huet 版画技法：エッチング、ステイップル(手彩色)  
刊行年：1838





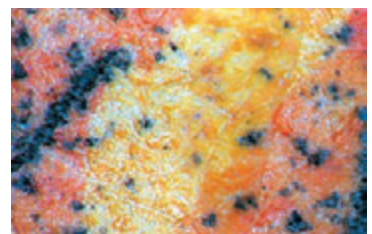
参考図版： 1. ハチドリの成鳥オス；2. 同若いオス； 3. 同メス 巻号頁数：t. 4, 317 制作者：Prêtre  
 版画技法：エッチング（手彩色） 刊行年：1838



全体図



DMS：50 倍



DMS：175 倍

### (30) 鳥類 2 ケース：11-1

著者名（原語）：Brown, Peter [1766-1791]（日本語）：ブラウン 書名（原語）：New Illustrations of zoology, containing fifty coloured plates of new, curious, and non-descript birds, with a few quadrupeds, reptiles and insects, together with a short and scientific description of the same（日本語）：『新動物学図解』 発行者・出版社・印刷所：B. White 発行地：London 刊行年：1776 版：初版 巻号数：1v. 総頁数：[4], 136p. 総図版数：50 図版制作者：Gény-Gros, Oudart 使用言語：英・仏語 序文：有 図版目次：有 書籍サイズ：235×290×490 慶應義塾大学図書館の分類番号：120Y-525-1

ブラウンは英国ウェールズの花専門の画家。「これまで未知の鳥を描いた」と謳っているが、50点の版画の内、若干のものはセイロンの総領事が現地で実物をモデルに描かせた絵のコピーであることが分かっている。



展示図版：ヒタキ科ウグイス亜科 2 羽と獲物の蝶 巻号頁数：p.84-85, Plate 33 版画技法：エッチング（手彩色） 刊行年：1775



参考図版：バタインコ 巻号頁数：p.10-11, Plate V 版画技法：エッチング（手彩色） 刊行年：1776



全体図



DMS : 50 倍



DMS : 175 倍



### (31) 鳥類 2 ケース：11-2 上

著者名 (原語) : Lesson, René Primevère [1794-1849] (日本語) : 書名 (原語) : Histoire naturelle des oiseaux-mouches : ouvrage orné de planches dessinées et gravées par les meilleurs artistes (日本語) : 『ハチドリの自然誌』 発行者・出版社・印刷所 : Bertrand 発行地 : Paris 刊行年 : 1829-1830 版 : 初版 巻号数 : 1v. 総頁数 : xlv, 223p. 総図版数 : 86 図版制作者 : Prêtre, Melle Loë Dumont, Bévalet, Bessa, Vauthier, Mme Lesson, Bévalet fils (以上素描家) ; Rémond (刷り師) ; Coutant (彫版師) 使用言語 : 仏語 序文 : 有 目次 : 有 (図版目次を兼ねる) 図版目次 : 有 書籍サイズ : 153×230×335 慶應義塾大学図書館の分類番号 : 120Y-541-1

レッスン は幼年時代から博物学に才能を示し、12歳ですでに地元の樹木や植物のコレクションを作り上げるほどであった。1809年、ロシュフォールの海軍医学校に入り、幾度か従軍した後、ロシュフォールの植物園長に任ぜられる。次いで、総指揮官デュベレ、副指揮官デュモン・デュルヴィル率いるコキユ号に船医として乗組み、1822年から1825年に世界周航の旅をした。



展示図版 : 「サフォー」と渾名されたアカフタオハチドリ 巻号頁数 : p.104-105, Pl. 27 制作者 : Bévalet (素描家) ; Rémond (刷り師) ; Coutant (彫版師) 版画技法 : エッチング (手彩色) 刊行年 : 1829 ハチドリの中でも人気があるのは、2本の尾羽のためで、英語では red-tailed comet (赤い尾を引く彗星) と呼ばれる。本書はプレートルとベヴァレが描いた原図を、名刷り師レモンが刷り上げた傑作図版。

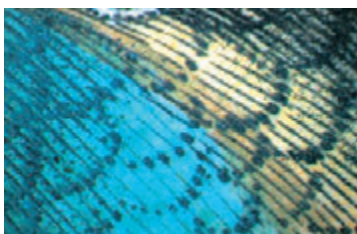


参考図版：ハチドリの巣 巻号頁数：p.220, Pl. 82 制作者：Bévalet（素描家）；Rémond（刷り師）；Coutant（彫版師） 版画技法：エッチング（手彩色） 刊行年：1829

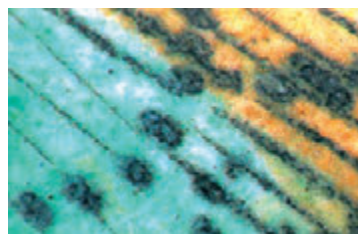
ハチドリは姿や色の美しさから鳥類図鑑の人気者だが、南米を中心に棲息。鳥というよりも虫やフランス語名前の蠅に近く、羽を高速度で回転させて空中で停止もできる。レッスンはこの鳥を肉眼で見た数少ないヨーロッパ人だった。



全体図



DMS：50 倍



DMS：175 倍

### (32) 鳥類2 ケース：11-2 下

著者名（原語）：Lesson, René Primevère [1794–1849]（日本語）：書名（原語）：Histoire naturelle des oiseaux de paradis et des épimaques : ouvrage orné de planches, dessinées et gravées par les meilleurs artistes（日本語）：『フウチョウの自然誌』 発行者・出版社・印刷所：Bertrand 発行地：Paris 刊行年：1834–1835 版：初版 巻号数：1v. 総頁数：vii, 34p., p.248 p. 総図版数：43 図版制作者：Prêtre, Oudart, Lesauvage（以上素描家）；Viste, Schmeltz, Guyard, Lallmand, Massard, Oudet, Migneret, Legrand, Melle. Massard, Heina, Duménil（以上彫版師）；Rémond（刷り師） 使用言語：仏語 序文：有 目次：有 書籍サイズ：180×235×375 慶應義塾大学図書館の分類番号：120Y-540-1

レッスン是世界周航の途上で、ペルー、チリ、マルイヌ諸島などを調査、動物や人種に関する得難い資料を集める。これらの資料はパリ自然史博物館に収蔵された。1825年、レジオン・ドヌール勲章を授与され、政府の委嘱でコキユ号の遠征記録出版準備に専念するが、7月革命が勃発して、ロシュフォルに隠遁する。晩年は栄誉に包まれ、教育、出版、政務に忙殺された。



展示図版：オナガフウチョウのオスとその嘴 巻号頁数：No. 22 版画技法：エッチング（手彩色） 刊行年：1835

一種類のみで、ニューギニアに棲息。一般にフウチョウはオスの羽の美しさで知られ、ニューギニア、オーストラリア東部に棲む。メスと幼鳥は、天敵から身を護るために羽の色がくすんでいる。16世紀、ヨーロッパに姿を現した標本にたまたま足がなかったため、地面に降りることなく飛び続ける鳥と誤解された。

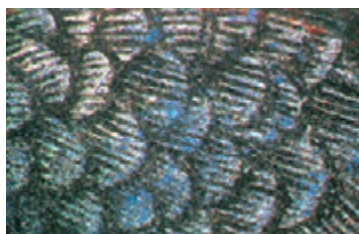




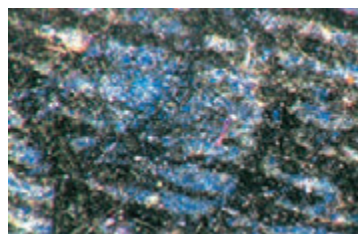
参考図版：ベニフウチョウ、オスの成鳥 巻号頁数：No.7 制作者：Prêtre（素描家）；Lesauvage（刷り師）；Oudet（彫版師） 版画技法：エッチング（手彩色） 刊行年：1835



全体図



DMS：50 倍



DMS：175 倍

### (33) 鳥類 2 ケース：11-3 上

著者名（原語）：Vieillot, Louis Jean Pierre Oudart, Paul [1748-1831]（日本語）：ヴィエイヨ 書名（原語）：La Galerie des oiseaux du cabinet d'histoire naturelle du Jardin du Roi（日本語）：『鳥類画廊』 発行者・出版社・印刷所：Constant-Chantpie 発行地：Paris 刊行年：1825 版：初版 巻号数：2v. 総頁数：t.1: iii, 344p.; t.2: 336p. 総図版数：t.1: 168; t. 2: 186 図版制作者：B.W. Hawkins（素描家）；P. Oudart（素描） C. Motte, G. Engelmann, Demanne, R. d'Enghien（以上リトグラフ） 使用言語：仏語 序文：有 出版者序文：有 目次：有 書籍サイズ：225×280×490 慶應義塾大学図書館の分類番号：120Y-517-2-1～2

ヴィエイヨは1780年にフランスを出て、サント＝ドミンゴ島に家の問題を処理しに赴いた。現地で熱帯の鳥類の美しさに驚嘆して標本を収集して帰り、ビュフォンに自分の記録を提供したりもした。また、19世紀初頭から『フランス鳥類学』、『キバシリとフウチョウの自然誌』、『北米鳥類自然誌』などの著作を刊行。本書は博物図譜の専門画家ウダールの協力をえて刊行した鳥類総覧。



展示図版：ダチョウ（実物の1/12） 巻号頁数：t.2, p.70、Pl. 223 制作者：P. Oudart（素描家） C. Motte（リトグラフ） 版画技法：リトグラフ（手彩色） 刊行年：1825

この澄ましたようなポーズが、当時はこの鳥の「決まった」姿絵だった。

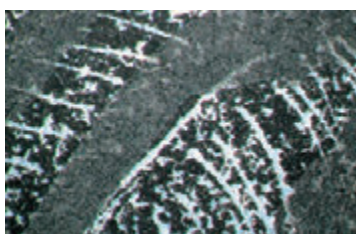


参考図版：オナガオンドリタイランチョウ（実物の7/8） 巻号頁数：t.1, p.210、Pl. 131 制作者：P. Oudart（素描家）C. Motte（リトグラフ） 版画技法：リトグラフ（手彩色） 刊行年：1825

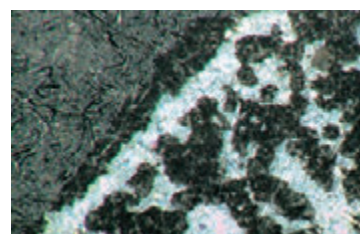
鳥の図像は18世紀に入って飛躍を遂げる。鳥をペットとして飼育する習慣が定着したのと、剥製術が普及したためである。鳥類図鑑には止まり木が描かれることが多い。19世紀末までの鳥類図譜のどれを見ても、陸鳥であれば止まり木、水鳥であれば大地が必ず描かれている。人間を含む哺乳類についても地面や大地や建物などが添えられている。いうまでもなく、これは植物画における露と同様、寓意を持つシンボルであった。だが、こうした持ち物「アトリビュート」は、時代とともに形骸化して単なる飾り物になり、簡略化されてくる。



全体図



DMS：50倍



DMS：175倍



### (34) 鳥類 2 ケース：11-3 下

著者名（原語）：Prévost, Florent [fl. 1838-1843] & Lemaire, C. L.（日本語）：プレヴォ & ルメール  
書名（原語）：Histoire naturelle des oiseaux exotiques（日本語）：『異国鳥類自然誌』 発行者・出版社・印刷所：Savy 発行地：Paris 刊行年：[1836] 版：初版 巻号数：1v. 総頁数：156p., xii 総図版数：84 図版制作者：Poiteau, Pauquet（以上素描家）Mme. V. Bonnefoi, Chailly, Dien, Gabriel, Legrand, T. Susemihl, Texier（以上彫版師） 使用言語：仏 序文：有 書籍サイズ：170×245×360 慶應義塾大学図書館の分類番号：120Y-490-1

プレヴォはパリ自然史博物館の動物学助手、ルメールは医師。プレヴォには、鳥類の餌となるコガネムシに関する著作のほかに、共同編集で自然史博物館の目録を刊行している。



展示図版：アカフタオハチドリ（実物大） 巻号頁数：p.18 版画技法：エッチング（手彩色） 刊行年：1836

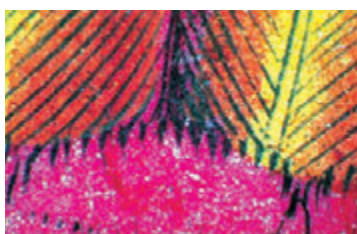
(31)のレッスンと同じ鳥である。比較していただきたい。レッスンの方は、名手プレートルとレモンの協力で仕上がった傑作であるが、光沢感で勝負するレッスン版にに対し、こちらは尾羽よりも胴体の羽毛の描出になかなかの地味な味わいを出している。



参考図版：コトドリ 巻号頁数：p.36 版画技法：エッチング（手彩色） 刊行年：1836  
オーストラリアに棲息。尾羽目当てに大量虐殺された歴史もある。



全体図



DMS : 50 倍



DMS : 175 倍

### (35) (36) 鳥類 3 ケース：12-1, 2

著者名（原語）：Orbigny, Alcide Dessalines d' [1802-1857]（日本語）：書名（原語）：Ornithologie de l'île du Cuba, in Ramon de la Sagra: Histoire physique, politique et naturelle de l'île de Cuba（日本語）：『キューバ鳥類誌』 発行者・出版社・印刷所：A. Bertrand 発行地：Paris 刊行年：1839 版：初版 巻号数：1v. 総頁数：xxxi, 336p. 総図版数：33 制作者：Borromée, E.Traviès, Hublier（素描家）；Bougeard（刷り師）；Melle Masson, Corbié, Davesne, Millot, Pardinel, Breton, A. Fournier, Melle. Massard, Annedouche, Guyard, J. Douliot, Mme. Douliot, Coutelot（彫版師） 使用言語：仏語 図版目次：有 書籍サイズ：268×380（未製本の零葉状態で所蔵） 慶應義塾大学図書館の分類番号：142Y-42-2-1

この鳥類図鑑は、(58) (59) のサグラ『キューバ自然誌』仏訳刊行に際して、フランス人のドルビニが独自に追加したもの。なお、慶應義塾大学所蔵本は、いっさいテキストがなく、図版のみが未製本の状態で重ねられている。しかし、1830年代の銅版画技術の充実ぶりには目を奪われる。



展示図版（左）：ナンペイトラフズク 巻号頁数：Tab. II 制作者：E.Traviès（素描家）；Bougeard（刷り師）；A. Fournier（彫版師） 版画技法：エッチング、ステイップル（多色刷り、手彩色） 刊行年：1839

展示図版（右）：アンチルバト 巻号頁数：Tab. XXVIII 制作者：Prêtre（素描家）；Bougeard（刷り師）；Guyard（彫版師） 版画技法：エッチング（多色刷り、手彩色） 刊行年：1839



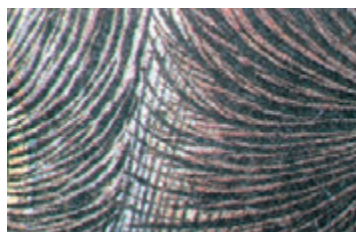


参考図版(左)：フラミンゴ 巻号頁数：Tab. XXIX 制作者：Traviès (素描家)；Bougeard (刷り師)；Fournier (彫版師) 版画技法：エッチング (多色刷り、手彩色) 刊行年：1839

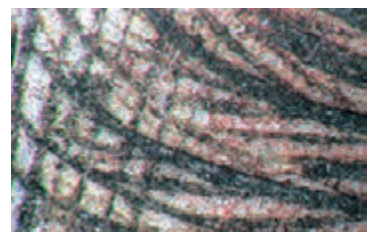
参考図版(右)：1. ノドアカハチドリ 2. キューバエメラルドハチドリ 巻号頁数：Tab. XXI 制作者：Traviès (素描家)；Bougeard (刷り師)；Fournier (彫版師) 版画技法：エッチング (手彩色) 刊行年：1839



全体図



DMS：50 倍



DMS：175 倍

### (37) 鳥類 3 ケース：12-3 上

著者名（原語）：Wilson, Alexander [1766–1813]（日本語）：ウィルソン 書名（原語）：American Ornithology : or, the natural history of the birds of the United States（日本語）：『アメリカ鳥類学』  
発行者・出版社・印刷所：Cassell, Peter & Galpin 発行地：London 刊行年：[1878] 版：初版は 1808–1814 巻号数：3v. 総頁数：t. 1: cv, 408p.; t. 2: vii, 495p.; t.3: vii, 540p. 総図版数：t. 1: 27; t. 2: 40; t. 3: 35 図版制作者：. A. Wilson, Titian. R. Peale, John. J. Audubon, A. Rider（以上素描家）；W.H. Lizars（彫版師） 使用言語：英語 書籍サイズ：150×220×335 慶應義塾大学図書館の分類番号：120Y-513-3-1～3

ウィルソンはスコットランド生まれの鳥類学者。1794 年に北米に渡り、当地の鳥類研究で先駆的な存在となる。博物学者ウィリアム・バートラムに影響され、1804 年に北米鳥類誌を執筆する決意を固める。当時商人だったオーデュボンと出会い、彼に鳥類図譜を刊行する勇気をあたえたのはウィルソンだったと言われている。



展示図版：1. アメリカヨタカ 2. メス 巻号頁数：t. 2, p.161 制作者：A. Wilson（素描家）；W.H. Lizars（彫版師） 版画技法：銅版（手彩色） 刊行年：1878



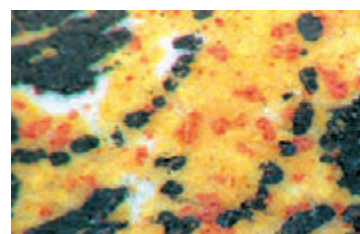
参考図版：キツツキ、ゴジュウカラ、コチョウゲンボウ、アメリカムシクイ、など 巻号頁数：t. 1, p. 251 制作者：A. Wilson（素描家）；W.H. Lizars（彫版師） 版画技法：鋼版（手彩色） 刊行年：1878



全体図



DMS : 50 倍



DMS : 175 倍



### (38) 鳥類 3 ケース：12-3 下

著者名（原語）：Lesson, René Primevère [1794-1849]（日本語）：レッスン 書名（原語）：Compléments de Buffon（日本語）：『ビュフオン補遺』 発行者・出版社・印刷所：Pourrat Frères 発行地：Paris 刊行年：1838 版：再版 巻号数：2v. 総頁数：t.1：676p.；t.2：733p. 総図版数：t.1：70；t.2：49 図版制作者：Prêtre（素描家）；Bévalet, A.Duménil, Forget, Guyard, Massard, Mougeot, Lecerf, Legrand, Lesson, Mme. Lesson, Oudet, Quoy, Rémond, Schmelz, Teillard, Victor（以上彫版師） 使用言語：仏語 序文：出版者序文 目次：有 書籍サイズ：180×265×400 慶應義塾大学図書館の分類番号：120Y-495-2-1～2

詳細は(32)(33)を参照のこと。

2巻本のうち、第1巻は人類と哺乳類に、第2巻が鳥類にあてられている。



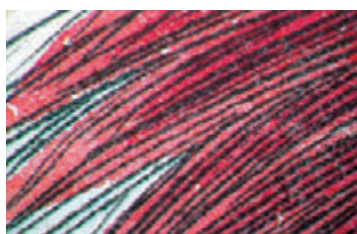
展示図版：ウズラの一種 巻号頁数：t. 2, p.210-211 版画技法：木口木版（手彩色） 刊行年：1838



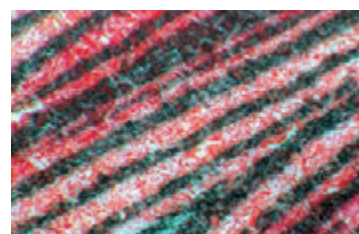
参考図版：カマハシフウチョウ、オスの成鳥 巻号頁数：t. 2, p. 536-537 版画技法：木口木版（手彩色） 刊行年：1838



全体図



DMS : 50 倍



DMS : 175 倍

### (39) 鳥類 3 ケース：12-4

著者名（原語）：Schinz, Heinrich Rudolf [1777-1862]（日本語）：シンツ 書名（原語）：Naturgeschichte der Vögel（日本語）：『鳥類の自然誌』 発行者・出版社・印刷所：F. Hanke 発行地：Zürich 刊行年：1854 版：1830年に刊行された以下のタイトルの著作の再版：Naturgeschichte und Abbildungen der Vögel-Gattungen 巻号数：1v. 総頁数：xxvii, 253p. 総図版数：126 図版制作者：Conradkull 使用言語：独語 序文：有 目次：有 書籍サイズ：250×320×520 慶應義塾大学図書館の分類番号：141Y-22-1

シンツはチューリッヒで生涯を送った博物学者。青年期にフランスとイタリアに旅し、1778年以来チューリッヒに定住。本書はシンツの残した手彩色石版画集。



展示図版：ムシクイの巣 巻号頁数：F 版画技法：リトグラフ（手彩色） 刊行年：1854





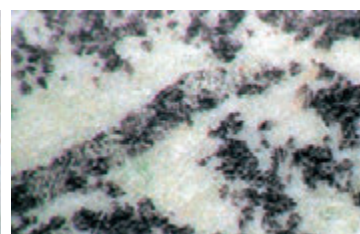
参考図版：1. ヤケイの一種 2. ヒオドシジュケイ 巻号頁数：70 版画技法：リトグラフ（手彩色）  
刊行年：1854



全体図



DMS：50 倍



DMS：175 倍

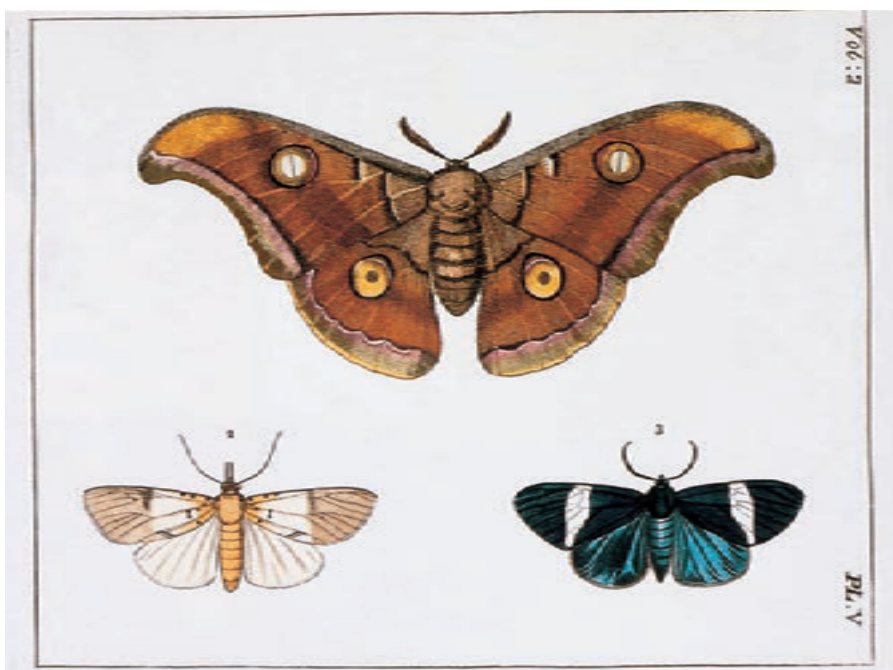
#### (40) 蝶類 ケース：13-1

著者名（原語）：Drury, Dru [1725-1803]（日本語）：ドルーリー 書名（原語）：Illustrations of natural history : wherein are exhibited upwards of two hundred and forty figures of exotic insects, according to their different genera... with a particular description of each insect : interspersed with remarks and reflections on the nature and properties of many of them（日本語）：『自然誌図解』 発行者・出版社・印刷所：J.C. Sepp [販売]（t. 2, 3 のみ B. White 販売） 発行地：London 刊行年：1770-1782 版：初版 巻号数：3v. 総図版数：151 使用言語：英・仏語 序文：有 図版目次：有 書籍サイズ：255×315×520 慶應義塾大学図書館の分類番号：141Y-17-3-1～3

ドルーリーはロンドンの富裕な宝石商で、昆虫の収集家として知られた。死後、彼の膨大なコレクションは 12,000 点にもおよび、ロンドンのオークションで 614 ポンドの値が付けられた。ドノヴァンが英国種を入手したと言われる。ところで、蝶の図譜には、魚類や爬虫類の図版と似たところがある。いずれも死んだ状態で描出されているということである。もう一つの共通点は、どれをとっても身体を彩る模様や斑点が画家を魅惑することだ。博物学的研究眼を忘れ、たんなる色彩や形態の抽象的たわむれとして蝶を描くという営みは、博物画家にとって少なからぬ美的快楽であったはずだ。蝶と貝殻と虫とを同じ画面に揃えるという当時の絵画や版画の狙いも、明らかに同じである。



展示図版：ヤマムガの一種 巻号頁数：t. III, Pl. XXIV 版画技法：エッチング（手彩色） 刊行年：1782



参考図版：1. アメリカヒョウモンモドキ 2. ヤガの一種 3. ヒトリガの一種 巻号頁数：t. II, Pl. V

版画技法：エッチング（手彩色） 刊行年：1773

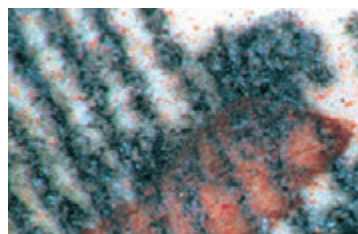
蝶は美しく、蛾は不気味というわれわれ日本人の感覚は、それほど普遍化できない。というのも、たんに言葉だけを調べてみても、両者を「butterfly」と「moth」として区別している英語を別にすれば、ドイツ語では両方を併せて *Falter* といい、フランス語でも *papillon* という。学問的にはあまり意味がないらしいが、蝶は昼、蛾は夜行性と相場が決まっていて、フランス語でも「*papillon de nuit*」とすれば、蝶ではない、蛾の意味になる。



全体図



DMS：50 倍



DMS：175 倍

#### (41) 蝶類 ケース：13-2

著者名（原語）：Cramer, Pieter [?-1777]（日本語）：クラマー 書名（原語）：De uitlandsche Kapellen, voorkomende in de drie Waereld-deelen Asia, Africa en America / Papillons exotiques des trois parties du monde l'Asie, l'Afrique et l'Amérique, rassemblés et décrits par Pierre Cramer...（日本語）『世界三地域異国珍蝶』：発行者・出版社・印刷所：S. J. Baalde / Barth. Wild & J. v. Schoonhoven / Graevius 発行地：Amsterdam / Utrecht / Amsterdam 刊行年：1779-1791 版：初版 巻号数：5v.（第5巻は補巻） 総頁数：t. 1: xxx, 301p.; t. 2: 473p.; t. 3（図版のみ）; t. 4: 8p.; t. 5: viii, 184p. 総図版数：t. 3: 192; t. 4: 208; t. 5: 42 図版制作者：C. J. de Huyser（素描家） 使用言語：仏語、オランダ語 序文：有 書籍サイズ：255×310×525 慶應義塾大学図書館の分類番号：141Y-1-5-1～5

クラマーはスペインの布地を手がける商人だったが、蝶に大変な情熱を燃やすコレクターでもあった。本書は最初期の外国産蝶類に関する書物で、リンネの体系を尊重し、美しい手彩色の図版が付いている。作者が1777年に没すると、Stoll が刊行を続けて完成した。



展示図版：タテハチョウの仲間 巻号頁数：t. III/IV, Pl. CCXVIII 版画技法：エッチング（手彩色）  
刊行年：1782





参考図版：アゲハチョウの仲間 巻号頁数：t. III/IV, Pl. CCCLXXIII 版画技法：エッチング（手彩色）  
刊行年：1782

18世紀後半になって、突然美術の世界で復活する「プシュケー神話」がある。ローマの作家アプレイウスの「黄金のろば」がその底本で、クピド（アモル）に恋する美少女プシュケーの物語であり、17世紀のラ・フォンテーヌにも類似作品がある。エロスに激しく恋するプシュケーは、多くの場合、蝶蛾の翅を背に生やした不思議な姿で描かれるが、それというのも、蛾に炎の中にみずから飛び入って身を焼く自滅行為があり、それがわれわれに一種の浄化作用を想起させるためなのである。



全体図



DMS：50 倍



DMS：175 倍

#### (42) 蝶類 ケース：13-3

著者名(原語) : Donovan, Edward [1768-1837] (日本語) : ドノヴァン 書名(原語) : The natural history of British insects : explaining them in their several states, with the periods of their transformations, their food, conomy, etc. (日本語) : 『英国昆虫の自然誌』 発行者・出版社・印刷所 : F. & C. Rivington 発行地 : London 刊行年 : 1792-1813 版 : 初版 巻号数 : 16v. 総頁数 : t.1 : 180p.; t.2: 96p.; t.3: 98p.; t.4: 96p.; t.5: 110p.; t.6: 86p. 総図版数 : t.1: 36; t.2: 36; t.3: 36; t.4: 36; t.5: 36; t.6: 36 使用言語 : 英語 序文 : 有 書籍サイズ : 150×235×325 慶應義塾大学図書館の分類番号 : 120Y-437-3-1/2~5/6

このイギリス人博物学者、図版制作者は、博物学の全分野にわたる図鑑を制作したことで知られる。『英国自然誌』(1792-1816) 全 10 巻に続く代表作は、熱帯アジア昆虫三部作といわれる『中国昆虫史要説』(1798)、『インド昆虫史要説』(1800)、『オーストラリア昆虫史要説』(1805)である。ドノヴァンは学問上重要な発見を成しとげた人物ではないが、英国に博物学の思想を普及させることに大きな貢献をした。ドノヴァンの書物は人気を博し、よく売れた。だが、彼自身は後年回想録を著し、出版業者の暴利に比べ、自分が破産寸前だったことを述懐している。本書には図版制作者の名前がないが、おそらくはドノヴァン本人によるものであろう。



展示図版 : スズメガの一種 巻号頁数 : t. 6, pl. 190 版画技法 : エッチング、ステイップル (手彩色)  
刊行年 : 1796

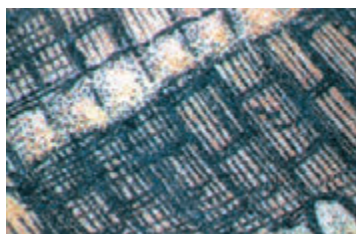


参考図版：ゴートモス（オオボクトウ） 巻号頁数：t. 4, pl. 114 版画技法：エッチング、ステイップル（手彩色） 刊行年：1794

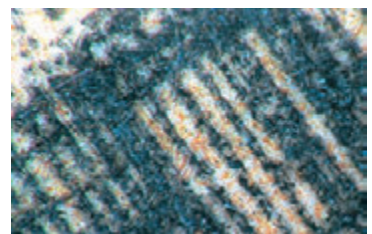
蝶が神話になぞらえられるのは、愛をめぐるプシュケー物語に欠かせない「道具」であるばかりか、毛虫から蛹、そして蝶という成長過程が、人間のかりそめの死と魂の復活という道行きを辿るかに見えるからであろう。



全体図



DMS：50 倍



DMS：175 倍

### (43) 虫 ケース：14-1

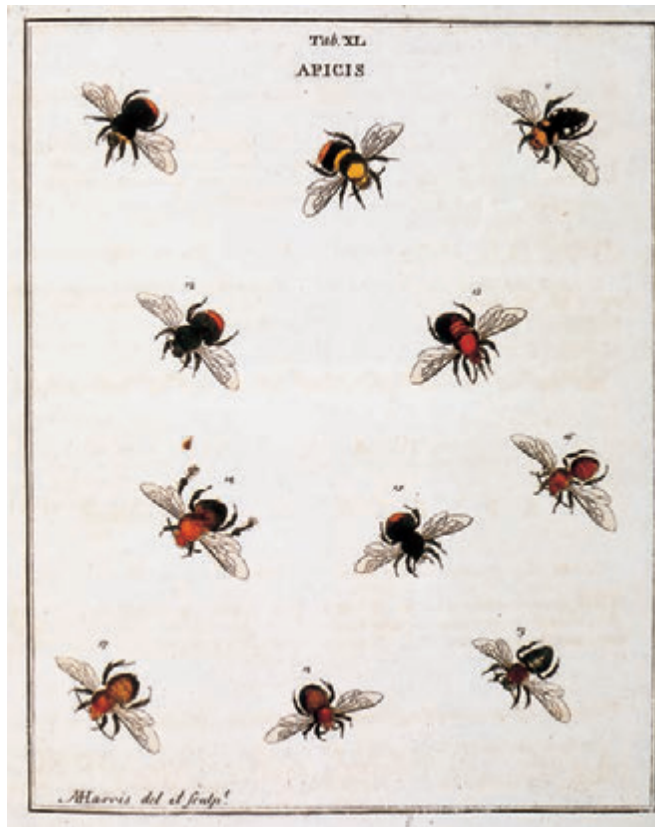
著者名（原語）：Harris, Moses [1731-1785]（日本語）：ハリス 書名（原語）：An Exposition of English insects : including the several classes of Neuroptera, Hymenoptera & Diptera, or bees, flies and libellulae（日本語）：『英国産昆虫図譜』 発行者・出版社・印刷所：White & Robson 発行地：London 刊行年：1782 版：第3版（初版1776） 巻号数：1v. 総頁数：viii, 166 p. 総図版数：51 図版制作者：M. Harris（素描家兼彫版師） 使用言語：英語、仏語 序文：有 書籍サイズ：240×295×490 慶應義塾大学図書館の分類番号：120Y-472-1

ハリスは、蝶の収集家で結成した、ロンドンの有名なオーレリアン協会の創立メンバーの一人。本書では500を超える個体が紹介されており、すべてがリンネの体系に準拠して整序されている。



展示図版：羽を広げた蜻蛉 巻号頁数：p.49, Tab. XII 版画技法：エッチング（手彩色） 刊行年：1782

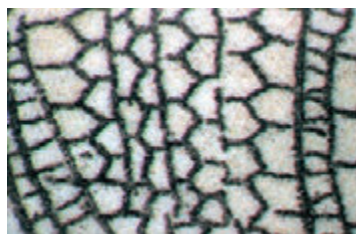




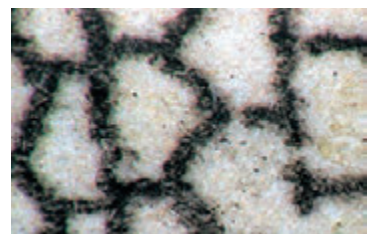
参考図版：小バチ 巻号頁数：p.136, Tab. XL 制作者：M. Harris (素描家兼彫版師) 版画技法：エッチング（手彩色） 刊行年：1782



全体図



DMS : 50 倍

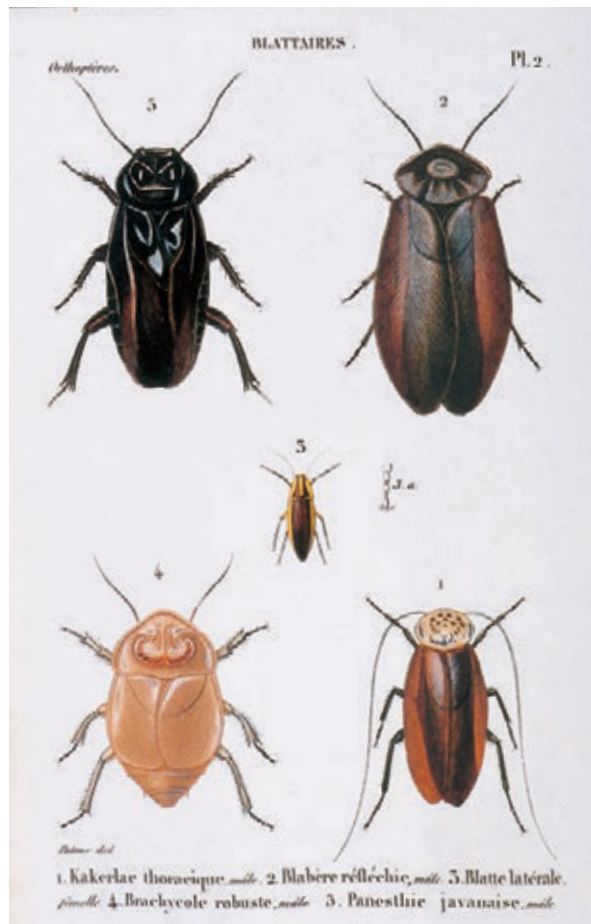


DMS : 175 倍

#### (44) 虫 ケース：14-2

著者名（原語）：Audinet-Serville, J.-G. [1775-1858]（日本語）：オディネ=セルヴィル 書名（原語）：Histoire naturelle des insectes : Orthoptères（日本語）：『昆虫の自然誌 直翅目』 発行者・出版社・印刷所：Librairie encyclopédique de Roret 発行地：Paris 刊行年：1839 版：初版 巻号数：1v. 総頁数：xviii, 776p. 総図版数：14 図版制作者：Patras（素描家）；Forget, Mougeot（以上彫版師） 使用言語：仏語 図版目次：有 書籍サイズ：140×220×290 慶應義塾大学図書館の分類番号：120Y-435-1

オディネ=セルヴィルに関する情報は乏しい。アミヨと共著で仕事をし、本書をその1巻とする『昆虫の自然誌』シリーズを手がけていること、それから『フランスの動物誌、あるいはフランスに棲息する動物の一般と個の自然誌』というビュフォン風の題を付けた書物で、「膜翅目」、「甲虫目」を担当していることぐらいである。



展示図版：ゴキブリ諸種 巻号頁数：p.68-69, Pl. 2 制作者：Patras（素描家） 版画技法：エッチング、ステイップル（手彩色） 刊行年：1839



参考図版：ナナフシ（「七つの節をもつ虫」の意） 巻号頁数：p.264-265, Pl. 7 制作者：Patras（素描家）；Forget（彫版師） 版画技法：エッチング、ステイプル（手彩色） 刊行年：1839



全体図



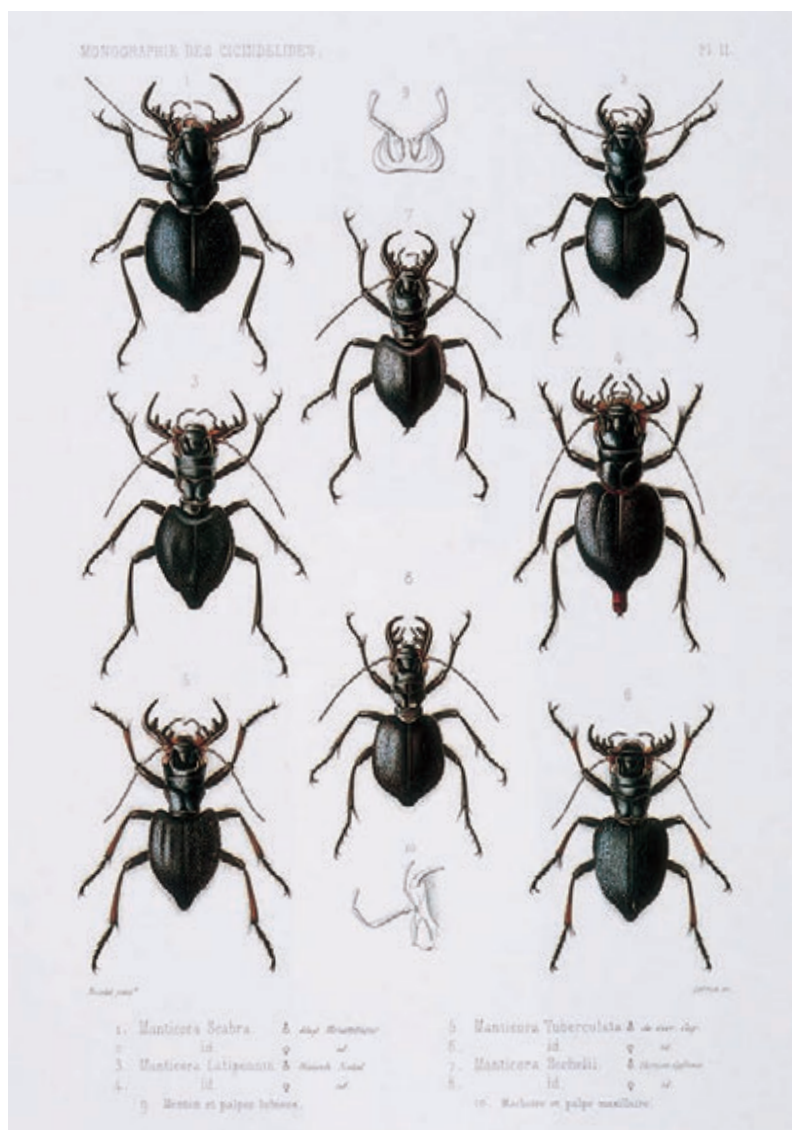
DMS：50 倍



DMS：175 倍

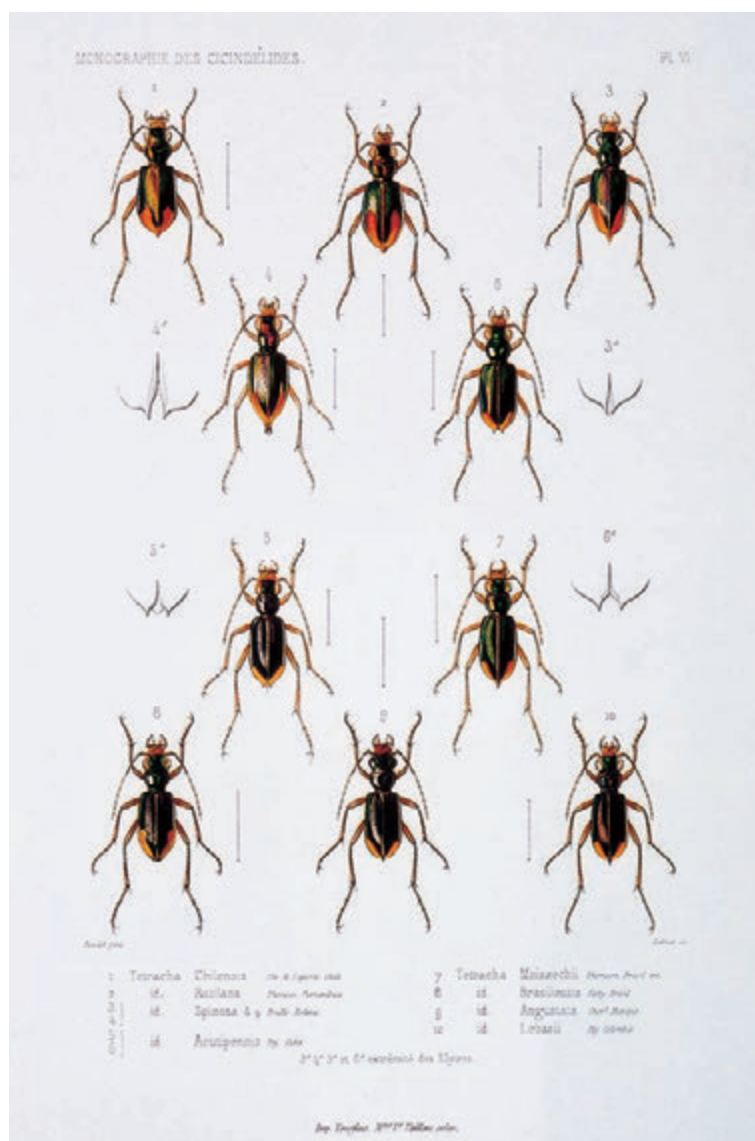
# (45) 虫 ケース：14-3

著者名（原語）：Thomson, James [1828-1897]（日本語）トムソン；書名（原語）：Monographie des Cicindélides : ou, Exposé méthodique et critique des tribus, genres et espèces de cette famille（日本語）：『鞘翅類図鑑』 発行者・出版社・印刷所：Société entomologique de France 発行地：Paris 刊行年：1857 版：初版 巻号数：1v. 総頁数：xv, 66p. 総図版数：10 図版制作者：Nicolet（素描家）；Lebrun（彫版師）；Tourfaut（刷り師）；Mme.Ve.Vaillant（手彩色） 使用言語：仏語 序文：有 目次：有 書籍サイズ：255×330×510 慶應義塾大学図書館の分類番号：141Y-28-1



展示図版：ハンミョウ数種（オオマエハンミョウの雌雄など） 巻号頁数：Pl. II 制作者：Nicolet（素描家）；Tourfaut（刷り師）；Lebrun（彫版師） 版画技法：エッチング（手彩色） 刊行年：1857





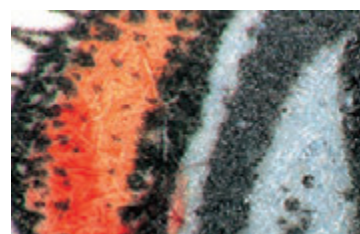
参考図版：テトラカと呼ばれる種。 巻号頁数：Pl. VI 制作者：Nicolet（素描家）；Tourfaut（刷り師）；Mme. Ve. Vaillant（手彩色）；Lebrun（彫版師） 版画技法：エッチング（手彩色） 刊行年：1857



全体図



DMS : 50 倍

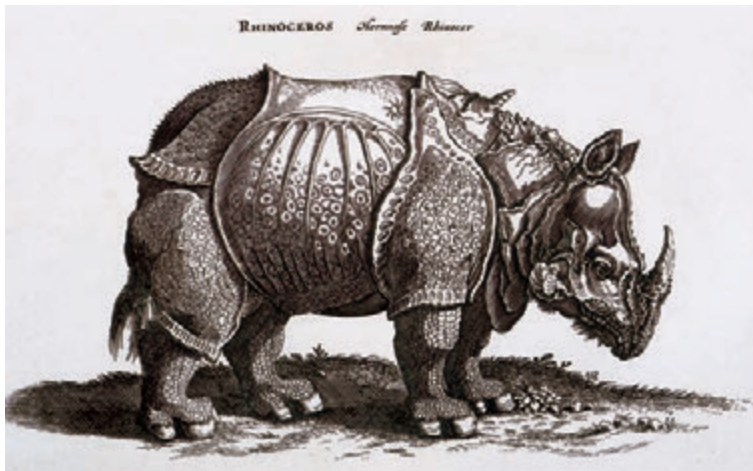


DMS : 175 倍

#### (46) 動物1 ケース：15-1

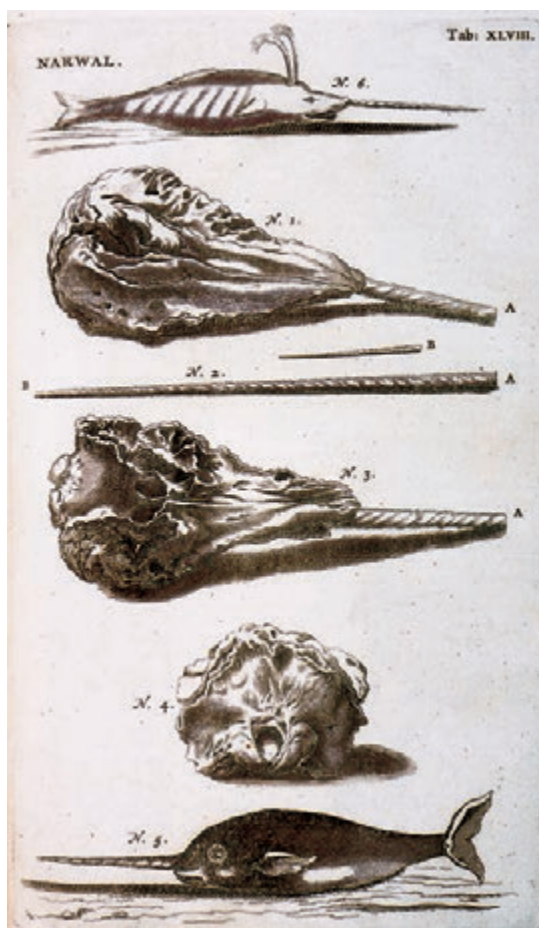
著者名（原語）：Jonston, Johannes [1603-1675]（日本語）：ヨンストン 書名（原語）：Naeukeurige Beschryving van de Natuur der Vier-voetige Dieren, Vissen, en Bloedlooze Water-Dieren, Vogelen, Kronkel-Dieren, Slangen en Draken（日本語）：『諸動物の詳説』 発行者・出版社・印刷所：J.J. Schipper 発行地：Amsterdam 刊行年：1660 版：『自然誌』 Historia naturalis (1657) のオランダ語訳 巻号数：6v. in 1 総頁数：194p., 178p., 58p., 181p., 152p., 39p. 総図版数：LXXX, XLVIII, XX, XXIX, 30-62, XXVIII, XII 使用言語：オランダ語 序文：有 図版目次：有 書籍サイズ：260×378×558 慶應義塾大学図書館の分類番号：142X-75-1

ヨンストンは、ライデンで医師として働くかたわら、巨大な動物誌の執筆を悲願にしており、1649年から4点の動物誌をラテン語で刊行する。すなわち、『魚類・クジラ誌』（1649）、『鳥類誌』（1650）、『四足獣誌』（1652）、『昆虫誌およびヘビ・トカゲ類誌』（1653）である。これらは1657年にアムステルダムで一巻本にまとめられ、広く大衆の人気を博した。本書は1660年のオランダ語版である。1663年、長崎のオランダ商館長ヘンドリック・インディクは、2点の博物学書を江戸幕府に献上した。ドドネウス（ドドエンス）の『草木誌』と、このヨンストン『諸動物の詳説』である。江戸幕府の医師で本草家、野呂元丈が、これを元に『阿蘭陀禽獣虫魚図和解』を制作したことは知られている。元丈は将軍吉宗の命で、江戸城内に収蔵されている西洋本草書の翻訳を手がけ、寛保元年（1741）から寛延3年（1750）までの間に、江戸に参府する長崎のオランダ商館長らの助力をえて、いくたびか研究集会を開催している。最初にヨンストンの本書が取り上げられたが、本草学の記述が少ないので、急遽、ドドネウス『草木誌』に切り替えたという。



展示図版：一角犀 巻号頁数：p.78-79, Tab. XXXVIII 版画技法：エッチング 刊行年：1660

よく批判されるように、ヨンストンの多くの記述は先行出版物の焼き直しであり、とりわけアルドロヴァンディの焼き直しであるという非難が後を絶たない。だが、彼がゲスナーやアルドロヴァンディといった偉大な先達に見られる人文主義臭の強い文章癖を嫌い、より近代的な記述に徹したことは認められてよいだろう。各動物について、言うべきことと言わなくてもよいことを、ヨンストンは心得ていたのである。ドドネウスの『紅毛本草』と、このヨンストン『禽獣譜』である。デュラーの犀が、ゲスナーを経てここにもまた登場する。日本博物学の曙にはインド犀が重要な役を演じたのである。

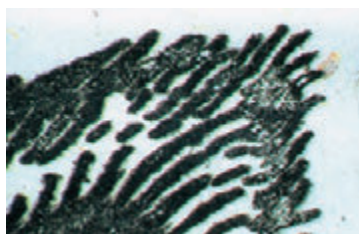


参考図版：イッカク 巻号頁数：p.178-179, Tab. XLVIII 版画技法：エッチング 刊行年：1660

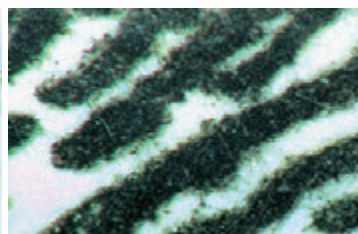
すべてを網羅したいという気持ちから、ヨンストンはあえて想像上の幻獣をも自著に収録した。鳥類を形態と食餌によって分類しようとする方法もまったく陳腐であったし、蝙蝠は鳥類に組み入れられ、新世界の鳥は恣意的なグループにまとめられる。もっとも、ここに掲載された動物は、歯クジラ亜目イッカク科の哺乳類で、別に一角獣として紹介されてはいない。1、2メートルに達するキバが、一角獣の角としてよく騒がれた経緯はあるが。



全体図



DMS：50 倍



DMS：175 倍



#### (47) 動物1 ケース：15-2

著者名(原語)：Meyer, Johann Daniel [1713-1752](日本語)マイヤー：書名(原語)：Angenehmer und nützlicher Zeit-Vertreib mit Betrachtung curioser Vorstellungen allerhand kriechender, fliegender und schwimmender, auf dem Land und im Wasser sich befindender und nährenden Thiere, sowohl nach ihrer Gestalt und äußerlichen Beschaffenheit als auch nach der accuratest davon verfertigten Structur ihrer Scelete oder Bein-Körper... (日本語)：『這い、飛び、泳ぎ回る、陸と水に棲息するありとあらゆる獣たちの珍奇なるありさまを観察することによる、愉しくて有用なる暇つぶし。その骨格あるいは骨体の精密きわまりない仕上げの構造によつてのみならず、形姿と外見上の形状によつて描かれている』(まさに噴飯もののタイトルなのであえて全訳した) 発行者・出版社・印刷所：J.J. Fleischmann 発行地：Nürnberg 刊行年：1748-1752 版：初版 巻号数：2v. 総頁数：t.1:28p.; t.2:56p. 総図版数：t.1:102; t.2:102 図版制作者：J.D. Meyer(素描家)；W. Dickes(彫版師)；V. Brooks(刷り師)；Schuh, Foll, M. Tüscher(以上不明) 使用言語：独語 序文：有 書籍サイズ：300×430×620 慶應義塾大学図書館の分類番号：142Y-37-2-1～2



展示図版：仰向けのハリネズミとその骨格 巻号頁数：t.2, Tab. XCVI 制作者：J.D. Meyer(素描家)；Norib(彫版師) 版画技法：エッチング(手彩色) 刊行年：1752

いかにも大らかな18世紀らしい、抱腹絶倒ものの図版ではある。よくもまあ、こんな組み合わせを思いつくものだ。ルソーのような誠実な人間なら「メメント・モリ」を連想して厳粛な言葉を口にするだろうし、ブリヤ＝サヴァランであれば骨に付着していたはずの肉の行方と処方について思いめぐらすだろう。





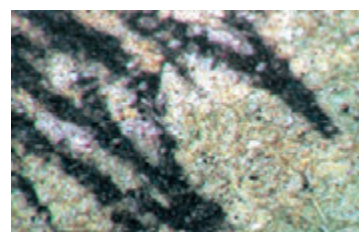
参考図版：ハムスター 巻号頁数：t.1, Tab. LXXXI 版画技法：エッチング（手彩色） 刊行年：1752



全体図



DMS：50 倍



DMS：175 倍

## (48) 動物2 ケース：16-1

著者名（原語）：Cuvier, Georges, baron de [1769-1832]（日本語）：キュヴィエ 書名（原語）：Le règne animal distribué d'après son organisation : pour servir de base à l'histoire naturelle des animaux, et d'introduction à l'anatomie comparée（日本語）：『動物界』 発行者・出版社・印刷所：Fortin, Masson 発行地：Paris 刊行年：[1836-49] 版：第3版、通称『門徒版』（初版1817） 巻号数：20v. 総頁数：t.1: xxxvi, 346p.; t.2: 120p.; t.3: 370p.; t.4: 102p.; t.5: 169p.; t.6: 46p.; t.7: 392p.; t.8: 122p.; t.9: 266p.; t.10: 150p. t.11: 557p. t.12: 83p.; t.13: 443p.; t.14: 128p.; t.15: 160p.; t.16: 59p.; t.17: 278p.; t.18: 87p.; t.19: 254p.; t.20: 100p. 総図版数：t.2: 120; t.4: 102; t.6: 46; t.8: 122; t.10: 150; t.12: 83; t.14: 128; t.16: 59; t.18: 87; t.20: 100（総計997） 図版制作者：Blanchard, F.Doyère, Vaillant, Werner, Em.Beau, Traviès, Roulin, Verner, Klein, Oudart, Acarie Baron, Mlle.Perrot, Teillard, M.Edward, E.Roch, Thiolat, Villant, Emile Brd, A.Dugès（以上素描家）；N.Rémond（刷り師）Victor, Schmeltz, Bonne Dequevauviller, Mme Rabel, Fournier, Mécou, Annedouche, Guyard, Mme Fournier, Forget, Mougeot, Manceau, Mme.Bourrey, Guillard, Giraud, H.Legrand, Visto, Lanvin, Lebrun, Oudet, Davesne, Sébin, Bocourt, E.Roch, Leleu（以上彫版師） 使用言語：仏語 序文：有 目次：有 図版目次：有 書籍サイズ：200×275×410 慶應義塾大学図書館の分類番号：120Y-521-20-1～20

キュヴィエは、大革命とナポレオン時代にまたがるフランス博物学黄金時代を代表する学者である。ビュフォンの『一般と個体の自然誌』を継承するかのような、総合的で大規模な博物学書、あるいは事典が刊行された時期であり、キュヴィエの『比較解剖学講義』全5巻（1800-1805）や『動物界』（初版1817）は、そうした流れの頂点に立つ大作だったのである。

キュヴィエは、ドイツ領だったモンベリアル生まれ。幼くしてビュフォンの『一般と個体の自然誌』を全巻読破するほどの早熟ぶりを示し、シュツットガルトの大学で学んだのち、ノルマンディーで海産動物の研究に打ち込み、博物学者としての才能をあらわした。ジョフロア・サン・ティレールに認められて、パリ自然史博物館の比較解剖学教授に就任。科学アカデミーとアカデミー・フランセーズの会員になり、ナポレオン時代にはパリ大学の副総長をつとめ、教育行政にまで腕を振るい、王政復古後にも権勢を維持しつづけた。

主著『動物界』は動物の分類について決定的な寄与と言われている。この第3版は全部で20巻あるが、偶数巻の10冊がすべて図版で、1000点弱を収録する。その多くは手彩色で、おそらくはフランス19世紀銅版画芸術の最高レベルを達成している出来映えの図版集である。

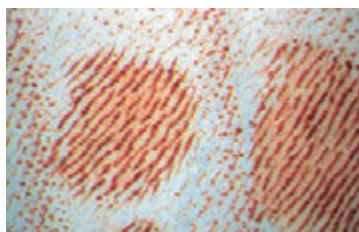


展示図版（左）：キリン 巻号頁数：t. 2, Pl. 89 制作者：R. Annedouche（彫版師）；N. Rémond（刷り師） 版画技法：エッチング、ステイップル（手彩色）

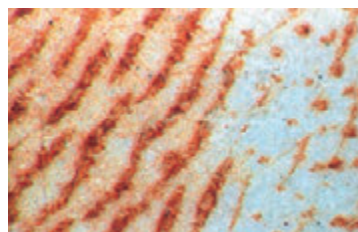
参考図版（右）：1. フタコブラクダ 2. グアナコ（ラマの一種） 巻号頁数：t. 2, Pl. 85 制作者：R.F. Fournier（彫版師）；N. Rémond（刷り師） 版画技法：エッチング、ステイップル（手彩色）



全体図



DMS：50 倍



DMS：175 倍



## (49) 動物2 ケース：16-2

著者名（原語）：Schinz, Heinrich Rudolf [1777-1861]（日本語）：シンツ 書名（原語）：Monographien der Säugethiere（日本語）：『哺乳動物図譜』 発行者・出版社・印刷所：Meyer und Zellen  
発行地：Zürich 刊行年：1848 版：初版 巻号数：1v. 総頁数：5p., 4p., 5p., 12p., 5p., 10p.  
総図版数：26 図版制作者：G. Dadelbeek（素描家）；S. Fokke（彫版師）；C. Kull（リトグラフ）  
使用言語：独語 書籍サイズ：235×315×470 慶應義塾大学図書館の分類番号：141Y-23-1

詳細については(39)を参照のこと。

シンツの著作には、さらに次のようなものがある。『哺乳類の自然誌と図譜』（1827）、『爬虫類の自然誌と図譜』（1833）、『魚類の自然誌と図譜』（1836）、『哺乳類の体系の一覧』（1844-1845）。



展示図版 二角サイ 巻号頁数：（通しで）p.20, Tab.3. 版画技法：リトグラフ（手彩色） 刊行年：1848

デューラー、ゲスナー、ヨンストンと伝えられるインドの一角サイの図像に対して、ここには二本角のクロサイが描かれる。そもそもサイはアジアに3種、アフリカに2種棲息し、アジアのサイでは、インドサイとジャワサイが一角で、スマトラサイおよび、アフリカのクロサイとシロサイは2角である。サイをめぐる伝説はそれ自体が一つの文学といえるもので、鎧のような外皮から、戦闘的で獷猛なイメージが肥大するあまり、ゾウの天敵とみなされた。いついかなる時でもサイはゾウに対して好戦的に振る舞い、なすすべを知らない相手の身体の下に潜り込んで、角で腹を裂くと信じられたのである。

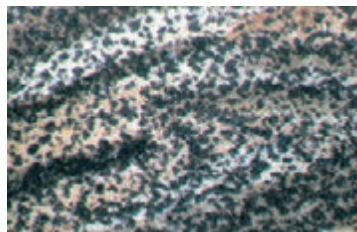




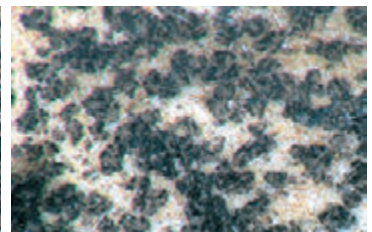
参考図版：バク 巻号頁数：(通しで) p.28, Tab.3. 版画技法：リトグラフ（手彩色） 刊行年：1848  
 古くから、貴族や王族は権勢誇示のために珍獣（サイ、ゾウ、ラクダ、キリン、ヒクイドリなど）を飼育したり、狩猟に熱中したりして、動物との関わりを絶やそうとはしなかった。やがて、17、18 世紀になると、ヴェルサイユ宮やシェンブルン宮の動物飼育所が人気を集めるが、徐々に飼育された動物から、世人の関心はさらに珍しい奇獣、珍獣をもとめるようになる。19 世紀初めのマレーバクは、まだ乱獲前。ミャンマー、タイ、マレー半島、スマトラ島に棲息し、アフリカバクがおしなべて褐色であるのに対し、白黒の二色で人気を集めた。



全体図



DMS : 50 倍



DMS : 175 倍

## (50) 動物 2 ケース：16-3

著者名(原語)：White, Adam [1817-1879](日本語)：書名(原語)：A popular history of mammalia : comprising a familiar account of their classification and habits (日本語)：『哺乳類の一般誌』 発行者・出版社・印刷所：Reeve and Benham 発行地：London 刊行年：1850 版：初版 巻号数：1v. 総頁数：viii, 346p., 14p. 総図版数：16 図版制作者：A. Wilson (素描家)；W.H. Lizars (彫版師)；B.W. Hawkins (素描家兼リトグラフ)；R.B. & R (刷り師) 使用言語：英語 序文：有 図版目次：有 書籍サイズ：130×160×280 慶應義塾大学図書館の分類番号：120Y-460-1



展示図版：サル群像 巻号頁数：Plate I 制作者：B.W. Hawkins (素描家兼リトグラフ)；R.B. & R (刷り師) 版画技法：リトグラフ (手彩色) 刊行年：1850



参考図版：陸に打ち上げられたセミナグスクジラとマッコウクジラ 巻号頁数：Plate IX 制作者：B.W. Hawkins (素描家兼リトグラフ)；R.B. & R (刷り師) 版画技法：リトグラフ (手彩色) 刊行年：1850

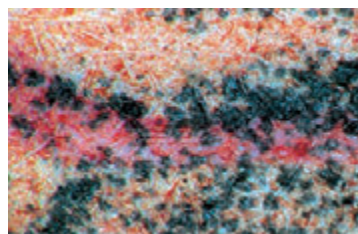
クジラの死骸というテーマは、16 世紀にまでさかのぼる。オランダの画家ヘンドリック・ゴルチウスは、1598 年 2 月 3 日、浜に打ち上げられた巨大なクジラを観察し、スケッチすることができた。この種のトポスは、その後も繰り返し多くの画家を魅惑する。動物の死体を描くという後世の流行の先駆である。そこには明らかに「死」の寓意が込められ、背景や周囲の状況を精密に描き込むことで、画家の死生観が読みとれる。



全体図



DMS : 50 倍



DMS : 175 倍



### (51) 動物3 ケース：17-1

著者名（原語）：Milne-Edwards, Henri [1800-1885]（日本語）：ミルン＝エドワーズ 書名（原語）：Recherches pour servir à l'histoire naturelle des mammifères : comprenant des considérations sur la classification de ces animaux（日本語）『哺乳類誌研究』：発行者・出版社・印刷所：G. Masson 発行地：Paris 刊行年：1868-1874 版：初版 巻号数：2v. 総頁数：t.1：394p. ; t.2：viii, 105p. 総図版数：105 図版制作者：Huet（素描家）；F. Boucourt（彫版師）；Lemercier, Bequet（以上刷り師）；Mesnel, Louveau, G. Severeys, Noël（以上リトグラフ） 使用言語：仏語 序文：有 目次：有 図版目次：有 書籍サイズ：250×320×515 慶應義塾大学図書館の分類番号：141Y-47-2-1～2

ミルンはブリュージュ生まれのフランスの博物学者。兄のアルフォンスに倣って、パリで医学を学び、しばらく医療に専念するが、まもなく博物学に転向。やがてフレデリック・キュヴィエの後任として、1838年には科学アカデミーの会員となる。さらに、1841年、自然史博物館で昆虫学の講座を担当、2年後にはパリ大学理学部の比較昆虫学と生理学教授に就任し、学部長まで務めた。本書のサブタイトルには、兄のアルフォンスによる「リベリアのカバに関する考察、および中国と東チベットの動物に関する研究」を含むと謳われている。



展示図版：カバ 巻号頁数：Pl.1 制作者：Huet（素描家）；Mesnel（多色リトグラフ）；Lemercier（刷り師） 版画技法：リトグラフ（多色刷り） 刊行年：1868-1874





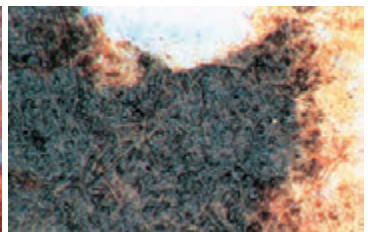
参考図版：モグラ 巻号頁数：Pl. 46 制作者：Huet (素描家)；Severeys (多色リトグラフ) 版画技法：リトグラフ (多色刷り) 刊行年：1868-1874



全体図



DMS : 50 倍



DMS : 175 倍

## (52) 動物3 ケース：17-2, 3

著者名（原語）：Schreber, Johann Christian Daniel [1739–1810]（日本語）：シュレーバー 書名（原語）：Die Säugethiere in Abbildungen nach der Natur : mit Beschreibungen（日本語）：『哺乳類図譜』 発行者・出版社・印刷所：W. Walther 発行地：Erlangen 刊行年：[1774]–1846 版：初版 巻号数：7v. 総図版数：738 図版制作者：Cosway, S. Edwards, I.E. Ihle Henderson, Opie, Pether, Reinagle, Russell, De Sève（以上素描家）；Bartolozzi, J.C. Bock, Burke, Dunkarton, Gaugain, Landseer, D. Maddau, Maddocks, I. Nufstiegel, Quilley, R. Roffe, Stadler（以上彫版師） 使用言語：独語 書籍サイズ：240×310×500 慶應義塾大学図書館の分類番号：t.1-3: 141Y-42-7-1/3; t.4: 141Y-42-7-4; t.5. Bd. 1: 141Y-42-7-5-1; t.5. Bd. 2: 141Y-42-7-5-2; Plates [1]: 141Y-42-7-7-1; Plates [2]: 141Y-42-7-7-2

シュレーバーはドイツの医者で植物学者。1758年、ウプサラにリンネを訪ね、翌年からルツェルンで医学を講じる。ついで、1764年ライプツィヒに、1769年、エルランゲンで医学、自然誌、植物学の教授に任命される。1791年には帝国博物学アカデミーの委員長に推挙されて、名誉の頂上をきわめた。



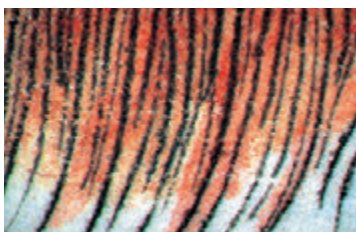
展示図版：リス 巻号頁数：7-2, CCCXVI 制作者：I.E. Ihle（素描家）；I. Nufstiegel（彫版師） 版画技法：エッチング（手彩色）



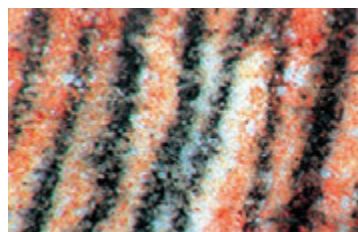
展示図版：ロバ 巻号頁数：7-2, CCCXV 制作者：De Sève（素描家）；J.C. Bock（彫版師） 版画技法：エッチング（手彩色）



全体図



DMS：50 倍



DMS：175 倍

### (53) 動物3 ケース：17-4

著者名（原語）：Hollard, Henry [1801-1866]（日本語）：オラール 書名（原語）：Nouveaux éléments de zoologie, ou, Etude du règne animal : disposé en série, en marchant des espèces inférieures aux supérieures（日本語）：『動物学新解』 発行者・出版社・印刷所：Labé 発行地：Paris 刊行年：1839 版：初版 巻号数：1v. 総頁数：xlviii, 602p. 総図版数：22 図版制作者：Acarie Baron（素描家兼彫版師）；Lemercier, Bernard（以上刷り師） 使用言語：仏語 序文：有 目次：有 書籍サイズ：137×210×290 慶應義塾大学図書館の分類番号：120Y-440-1

オラールはスイス、ローザンヌ生まれの医師。パリで医学を修め、博士号を取得後、公開講義を開講、多くの科学雑誌に寄稿したりもした。1842年、ローザンヌで自然史と比較解剖学の教授に任命されるが、ヌーシャテルに移り、さらにパリの理学部でブランヴィルの後任を務め、ついでポワチエ大学で自然史の教授に就任する。



展示図版：哺乳類5種：有蹄類(1. イボイノシシ 2. ハイラックス [イワタヌキ])；げっ歯類(3, 4, 5)；貧歯目(6. クジラ；6a. クジラのひげ；7. アルマジロ；8. センザンコウ) 巻号頁数：PL. XX 制作者：Acarie Baron（素描家兼彫版師）；Lemercier, Bernard（以上刷り師） 版画技法：エッチング（手彩色） 刊行年：1839





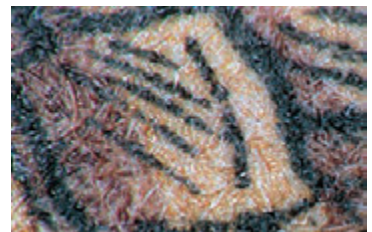
参考図版：哺乳類4種：1. ヒヨケザル；2. キツネザル；3. リスザル；4. オナガザル；5. チンパンジー  
 巻号頁数：PL. XXII 制作者：Lemercier, Bernard（刷り師）；C. Acarie Baron（素描家兼彫版師） 版画  
 技法：エッチング（手彩色） 刊行年：1839



全体図



DMS：50 倍

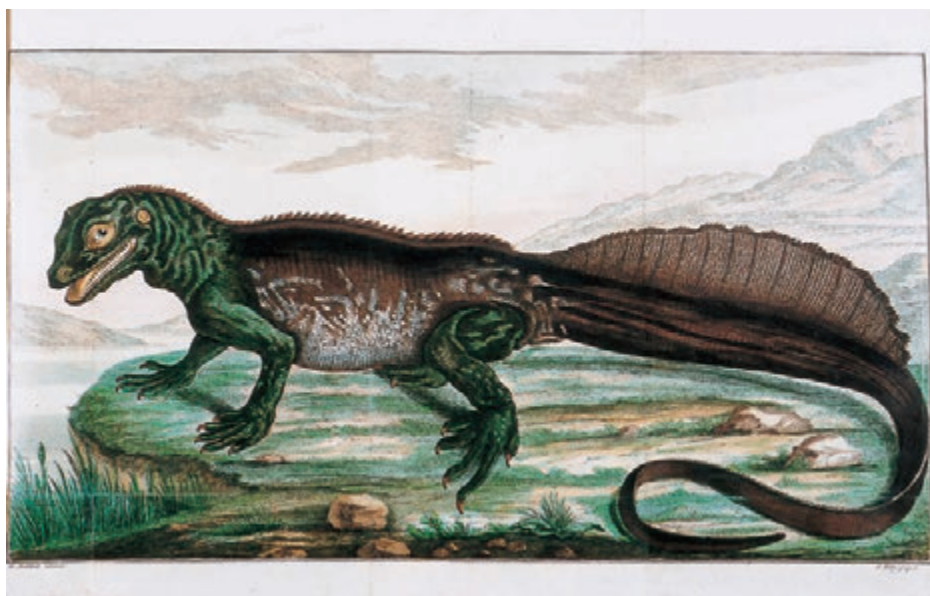


DMS：175 倍

## (54) 爬虫類 1 ケース：18-1

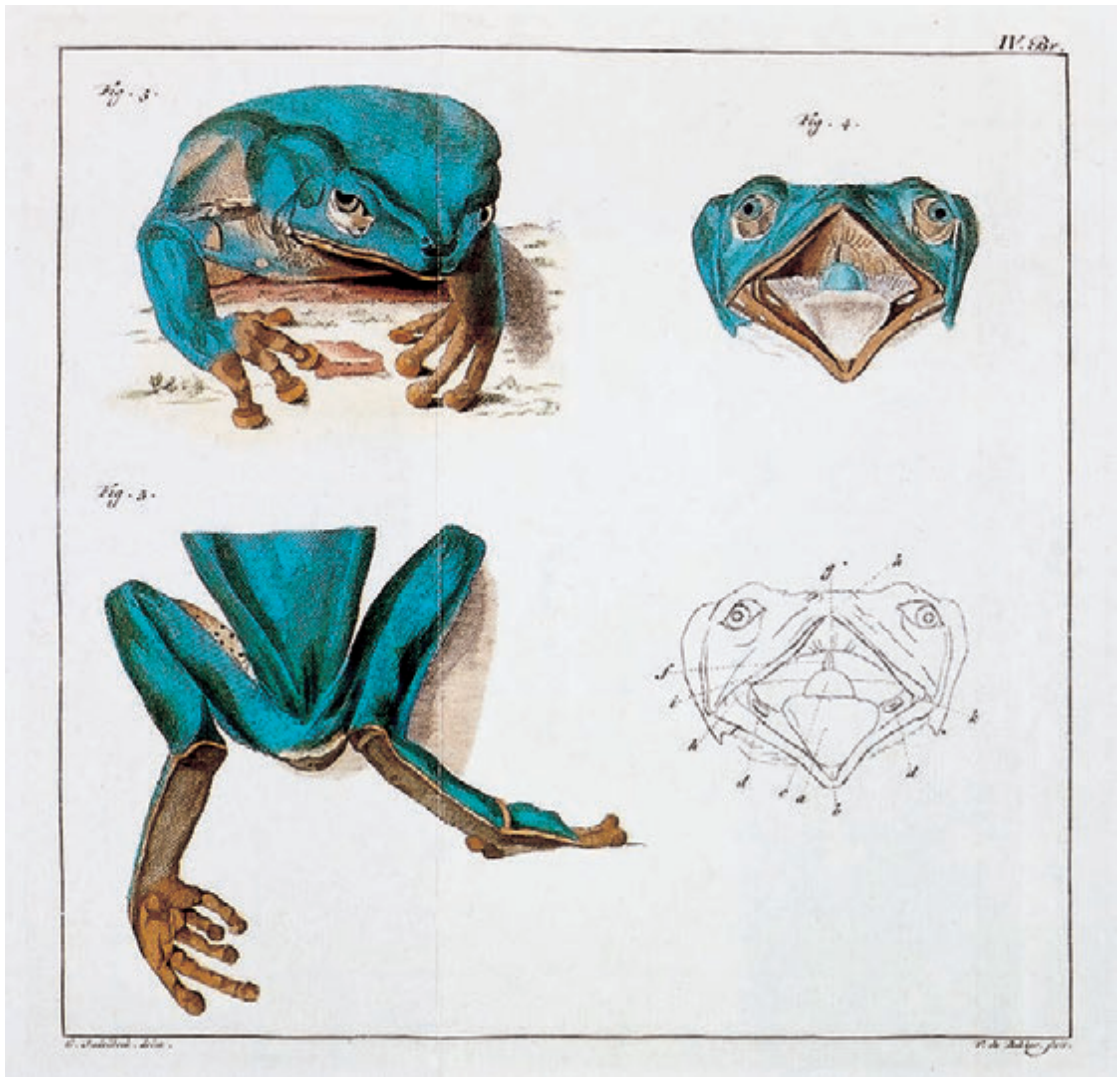
著者名(原語)：Schlosser, Johannis Alberti [1730-1769] (日本語)：シュロッサー 書名(原語)：De Lacerta Ambroinensi (日本語)：『アンボイナの自然誌』 発行者・出版社・印刷所：筆者自宅  
発行地：Amsterdam 刊行年：1768 版：初版 巻号数：5pts. in 1v. 総頁数：213p. 総図版数：7 図版制作者：G. Dadelbeek (素描家)；F. de Bakker, S. Fokke (彫版師) 使用言語：オランダ語、ラテン語 序文：有 書籍サイズ：260×315×530 慶應義塾大学図書館の分類番号：141Y-53-1

アンボイナはインドネシアのモルッカ諸島にあり、アンボン島ともいう。火山があり、各種の珍獣がいるというので、博物学者の憧れの地になった。また、香料の名産地であり、地理的にも戦略上絶好のロケーションで、列強の争うところとなり、17世紀以来、オランダの支配下に置かれた。住民は性質が温順で、忠実なオランダ軍兵士として務めた実績もある。



展示図版：アンボイナホカケトカゲ 巻号頁数：I巻末(p.18の裏) 制作者：G. Dadelbeek (素描家)；S. Fokke (彫版師) 版画技法：エッチング(手彩色) 刊行年：1786

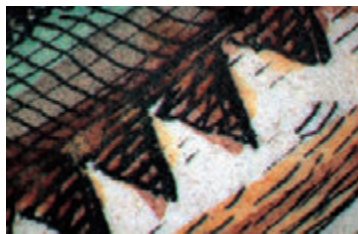
猛毒で有名なアンボン貝と並んで、この島の名産動物。アガマ科に属し、かつて日本で人気を呼び、かつ虐待されたあの哀れなエリマキトカゲとは親類筋。尾が異常に長く、また頸部から尾にかけて生えた櫛歯状の飾りウロコが売り物。体長は1メートルを超える。



参考図版：カエル 巻号頁数：IV 巻末 (p.48 の裏) Fig. 3,4,5. 制作者：G.Dadelbeek (素描家)；F.de Bakker (彫版師) 版画技法：エッチング (手彩色) 刊行年：1786



全体図



DMS : 50 倍



DMS : 175 倍



## (55) 爬虫類 1 ケース：18-2

著者名（原語）：Buonanni, Filippo [1638-1725]（日本語）：ブオナンニ 書名（原語）：Rerum naturalium historia, nempe quadrupedum, insectorum, piscium, variorumque marinorum corporum fossilium, plantarum exoticarum ac praesertim testaceorum exsistentium im Museo Kircheriano（日本語）：『博物誌』 発行者・出版社・印刷所：Zempellianus 発行地：Roma 刊行年：1773 版：初版 巻号数：1v. 総頁数：xl, 259p. 総図版数：51 使用言語：ラテン語 序文：有 書籍サイズ：305×450×650 慶應義塾大学図書館の分類番号：142Y-23-1-1

ブオナンニはイタリアの博物学者。イエズス会に入会して重要な任務につくが、とりわけかのキルヒヤーが収集した珍品を取めたローマの「キルヒヤー博物館」の整理を任された。その成果は1709年に発表されている。彼はとりわけ顕微鏡に興味を持ち、当時学界で話題になっていた動物の「自然発生説」を擁護する手がかりを、ミクロの世界の観察に求めた。

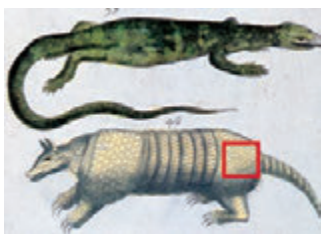


展示図版：37：コロコダイル；38：ヘビ；39：オオトカゲ；40：アルマジロ 巻号頁数：Tab. VII  
版画技法：エッチング（手彩色） 刊行年：1773

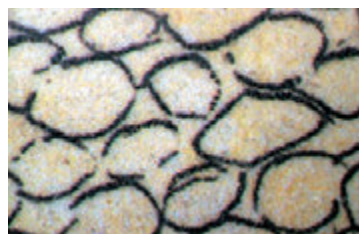




参考図版：41, 42. クサリヘビのなかま；43. クサリヘビのなかま；44. カメレオン；45. トカゲ 巻号  
 頁数：Tab. IX 版画技法：エッチング（手彩色） 刊行年：1773  
 プオナンニは動物を3つのカテゴリーに分類する。1) 同種の両親からしか生まれえないもの（ライオンなど）、2) 自然発生からしか生まれえないもの（ミミズなど）、3) 両方のやり方で生まれえるもの（カエルなど）。



全体図



DMS：50 倍



DMS：175 倍

## (56) 爬虫類 2 ケース：19-1

著者名（原語）：Lacépède, Bernard Germain Etienne de La Ville sur Illon, M. le comte de [1756-1825]（日本語）ラセペード：書名（原語）：Histoire naturelle des quadrupèdes-ovipares : suite et complément des Œuvres de Buffon (t. 1 のみ) ; Histoire naturelle des poissons (t. 2-5)（日本語）：『卵生四足獣の自然誌』；『魚類の自然誌』 発行者・出版社・印刷所：Rapet 発行地：Paris 刊行年：1819 版：（初版 1788） 巻号数：5v. 総頁数：t.1: iv, 620p.; t.2: 561p.; t.3: 527p.; t.4: 585p.; t.5: 588p. 図版数：t.1: 22; t.2: 24; t.3: 24; t.4: 22; t.5: 23 図版制作者：N. Blakey, Prêtre（以上素描家）；Delahaye, Guyard, David, M. Massard, Dequevauvilliers, Plée père, Plée fils, Melle. Coignet, Sophie Cornu, Mme. Rebel（以上彫版師） 使用言語：仏語 序文：有 目次：有 書籍サイズ：140×210×290 慶應義塾大学図書館の分類番号：120Y-500-5-1～5

魚類と爬虫類研究に貢献したフランスの博物学者。ラセペードの初期の論文に驚嘆したビュフォンが、彼を王立陳列室の実験助手に採用し、また自身の『一般と個別の自然誌』への執筆協力をもとめたエピソードは有名である。こうして本書『卵生四足獣の自然誌』（1788）や、『蛇類の自然誌』（1789）が刊行された。革命期、ラセペードはパリ植物園の魚類・爬虫類担当教授に任命される。さらに『魚類の自然誌』（全5巻、1798-1803）や『鯨類の自然誌』（1804）を刊行。世紀末、国民議会の議員に選出され、後半生は政治家としての名声を全うする。だれもが期待した師ビュフォンの『一般と個別の自然誌』の増補と完成は、結局ラセペードではなく、ソニーニによって実現された。本書は1819年に出た『卵生四足獣の自然誌』1巻本と、同じ年に刊行された『魚類の自然誌』4巻本とが合体したもの。



展示図版：1. カエル、2. ヨーロッパアカガエル、3. ウシガエル 巻号頁数：t.1, p.264 制作者：Prêtre（素描家）；Plée fils（彫版師） 版画技法：エッチング（手彩色） 刊行年：1819

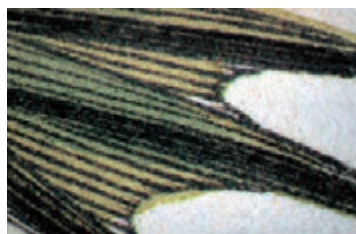


参考図版：3. スキンクトカゲほか2種 巻号頁数：p.152 制作者：Prêtre（原画）；Dequevauvilliers（彫版師） 版画技法：エッチング（手彩色） 刊行年：1819

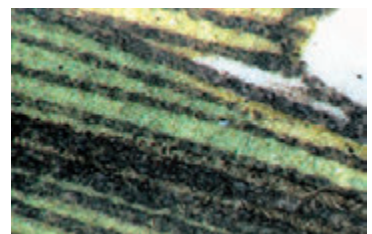
爬虫類の専門家であったラセペードは、大の音楽好きで、また作曲もした。若い頃は、博物誌のビュフォンに憧れるのとまったく同様に、グルックを敬愛した。自作のスコアを携えて大作曲家を訪問し、かなり社交的な賛辞を貰って有頂天になったらしい。オペラ「オンファール」や「レクイエム」を書き、また人気小説『テレマック』の主要場面を音楽にしていたというから驚く。



全体図



DMS：50 倍



DMS：175 倍



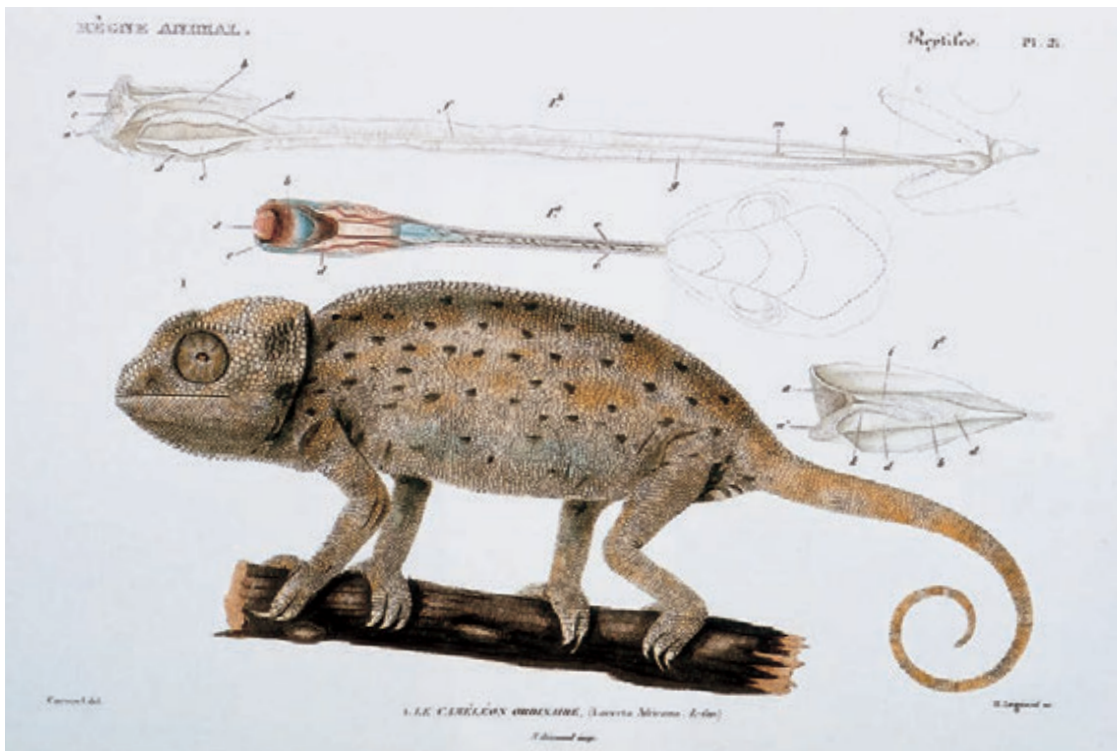
## (57) 爬虫類 2 ケース：19-2

著者名（原語）：Cuvier, Georges, baron de [1769–1832]（日本語）：キュヴィエ 書名（原語）：Le règne animal distribué d'après son organisation...（日本語）：『動物界』

詳細については(48)を参照のこと。

18世紀末のパリ自然史博物館で、無脊椎動物を研究して動物学の体系化に大きな貢献をしたのが、ラマルク(1744–1829)だった。彼は、伝統的な自然の階梯説を踏まえた、いわゆる「セリー」(系列化)にもとづく、やや直線的な生物進化の思想を打ち出したが、25歳若いキュヴィエは、それに反対し、動物界を四つの「門」に分けて、それぞれを細分するという新しい主張を唱えた。主著『動物界』でまとめられた動物の総合分類は、キュヴィエが1812年に発表した学説を踏まえたものである。以下にその分類表の大枠を掲げる。

- I. 脊椎動物部門：哺乳綱、鳥綱、爬虫綱、魚綱
- II. 軟体動物部門：頭足綱、翼足綱、腹足綱、無頭綱、腕足綱、蔓足綱
- III. 体節動物部門：環虫綱、甲殻綱、蜘蛛綱、昆虫綱
- IV. 放射動物門：食虫動物綱、棘皮綱、腸虫綱、棘胞綱、水綱、適虫綱



展示図版：カメレオンモドキ 巻号頁数：t. 6, pl. 21 制作者：Cornuel（素描家）；H. Legrand（彫版師）；N. Rémond（刷り師） 版画技法：エッチング、ステイップル（手彩色）



参考図版：ウミガメ 2 種 巻号頁数：t. 6, pl. 6 制作者：Klein（素描家）；H. Legrand（彫版師）；N. Rémond（刷り師） 版画技法：エッチング、ステイップル（手彩色）



全体図



DMS : 50 倍

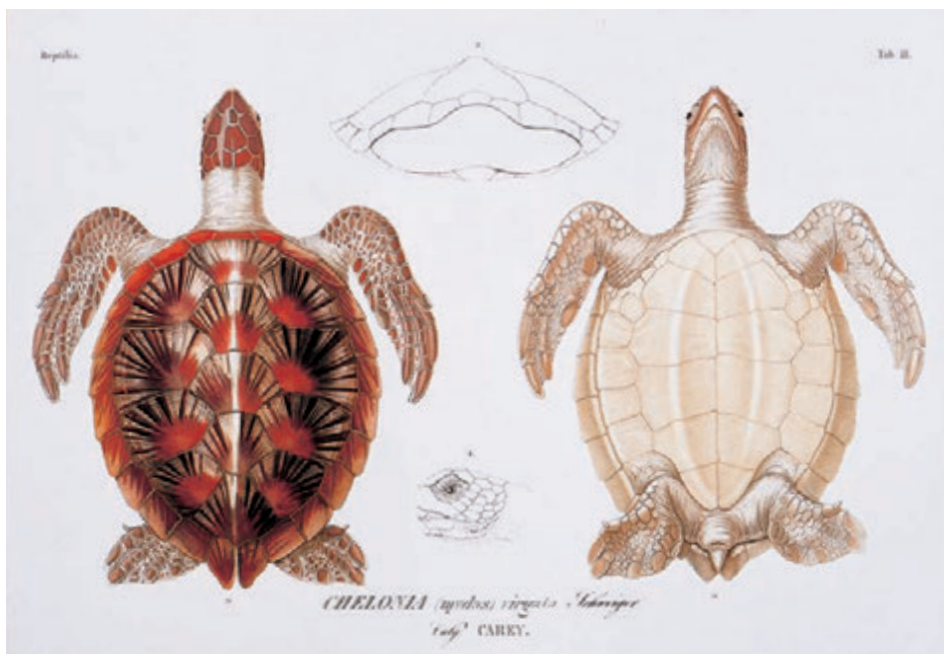


DMS : 175 倍

## (58) (59) 爬虫類 2 ケース：19-3 上・下

著者名（原語）：Sagra, Ramon de la [1801-1871]（日本語）：サグラ 翻訳者名：（原語）：Berthelot, M. S. [ ? - ? ]（日本語）：ベルトロ 書名（原語）：Histoire physique, politique et naturelle de l'île de Cuba（日本語）：『キューバ自然誌』 発行者・出版社・印刷所：Bertrand 発行地：Paris 刊行年：1839 版：（スペイン語初版 1839-1861） 巻号数：1v. 総頁数：xxxi, 336p. 総図版数：33 制作者：Borromée, E.Traviès, Hublier（素描家）；Bougeard（刷り師）；Melle Masson, Corbié, Davesne, Millot, Pardiné, Breton, A.Fournier, Melle. Massard, Annedouche, Guyard, J. Douliot, Mme. Douliot, Coutelot（彫版師） 使用言語：仏語 図版目次：有 書籍サイズ：268×380（慶應義塾大学本は図版のみであり、未製本の零葉状態で所蔵） 慶應義塾大学図書館の分類番号：142Y-42-2-2

サグラはスペインの高名な経済学者。マドリッドでの勉学を終えた後、22歳でハヴァナ植物園長および同市近郊の農学校校長に任命される。1832年、米国に渡り、3年後にヨーロッパに戻る。パリに滞在中、学士院の外国人会員に推挙される。1831年、キューバに関する博物図鑑をハヴァナで刊行。これを改訂し、歴史や社会に関する考察を加えた再版を1837年に出版。ベルトラが仏訳したのが本書である。



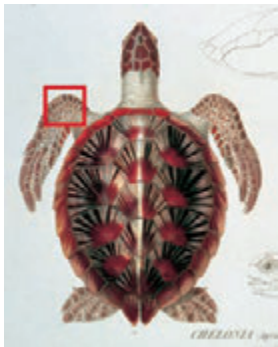
展示図版：アオウミガメ 巻号頁数：Tab. III 制作者：Prêtre（素描家）；Bougeard（刷り師）；H. Le-grand（彫版師） 版画技法：エッチング、ステイップル（多色刷り、手彩色） 刊行年：1843





展示図版 カメレオン 巻号頁数：Tab. XV 制作者：Prêtre (素描家)；Bougeard (刷り師)；Visto (彫版師) 版画技法：エッチング、ステイップル（多色刷り、手彩色） 刊行年：1843

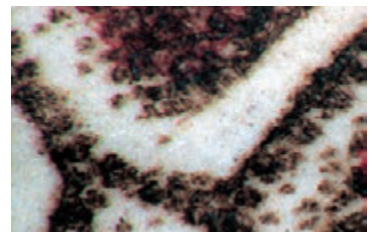
サグラは博物学者であるにとどまらず、政治、宗教、道徳と広い分野で旺盛な執筆活動を繰り広げた。『北米合衆国での五ヶ月』（1836）、『オランダとベルギー紀行』（1837）など。また、スペインでの政治や社会問題にも深い関心を寄せ、マドリッドでルフィーノと協力して週刊誌『商業案内』を主宰し、また経済学に関する著書を刊行した。『社会経済学教程』（1840）、『スペインの産業に関する考察』（1842）、『ベルギー産業研究』（1842）、『ドイツ産業研究』（1843）、『スペイン経済学者の書斎のための素材』（1848）。1848年の2月革命に際しては、サグラはパリに駆けつけて運動に参加し、プルードン思想を支持し、「民衆銀行」の企画実現に全力を傾注したのである。1854年以降、相次ぐ事件に触発されて、サグラは次第に政界に接近し、そのリベラルな立場で大きな勢力を獲得した。



全体図



DMS : 50 倍



DMS : 175 倍



### (60) 爬虫類 3 ケース：20-1

著者名（原語）：Lacépède, Bernard Germain Etienne de La Ville sur Illon, M. le comte de [1756-1825] ; Desmarest, Anselme-Gaetan [1784-1838] ; Cuvier, Georges, baron de [1769-1832]（日本語）：ラセペード、デマレ & キュヴィエ 書名（原語）：Histoire naturelle de Lacépède : comprenant les cétacés, les quadrupèdes ovipares, les serpents et les poissons（日本語）『ラセペードの自然誌』 発行者・出版社・印刷所：Furne et cie 発行地：Paris 刊行年：1841 版：「キュヴィエによるラセペード賛と、デマレによる注および新分類付きの新版」 巻号数：1v. 総頁数：xii, 668p. 総図版数：23 図版制作者：J. Bindweed, D.W. Campbell, L. Chorley, W.M. Craig, J. Davies, F. Dixon, T. Dix-on, G. Dobie, H. Frederick, L.M. Gahey, Halpin, R. Hicks, F. Hilliard, W. Mallinson, H. Robinson, T. Smith, W. Smith, Edouard Traviès（以上素描家）；Beyer, Manceau, Fournier, Forget（以上彫版師） 使用言語：仏語 序文：有 目次：有 書籍サイズ：175×265×375 慶應義塾大学図書館の分類番号：120Y-455-2-1～2

ラセペードの略歴については(56)の説明文を参照のこと。



展示図版：人間の赤ん坊をさらうワニ 巻号頁数：t. 1, p.158 制作者：Edouard Traviès（素描家）；Beyer（彫版師） 版画技法：鋼版（手彩色） 刊行年：1841

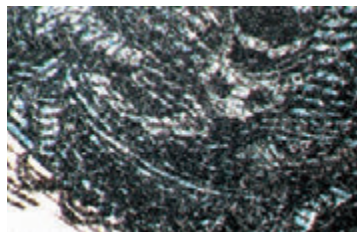


参考図版：ボア 巻号頁数：t.1, p.403 製作者：Edouard Traviès (素描家)；Forget et Beyer (彫版師)  
 版画技法：銅版（手彩色） 刊行年：1841

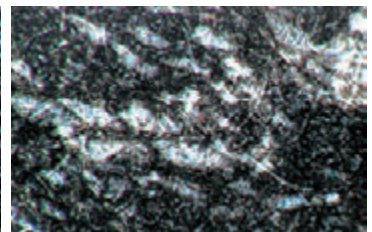
古来、爬虫類、とりわけ蛇は、画家たちの関心を強く惹いた。まずもって、その皮膚にプリントされたまだら模様が美しく、また獲物を呑み込む仕方がとりわけ恐怖心をそそったからである。いうまでもなく、ヨーロッパ人の蛇に対するこの恐怖心には、メデューザの頭に射すくめられる伝説が大きな役割を果たしている。フランス伝統のヴェラム・コレクションでも、蛇は徐々に鎌首をもたげたり、蝮のように絡み合った姿で描かれるようになるが、19世紀に入っても、この図版のような、読者の側の怖いもの見たさの好奇心に訴えるような版画が制作された。



全体図



DMS：50 倍

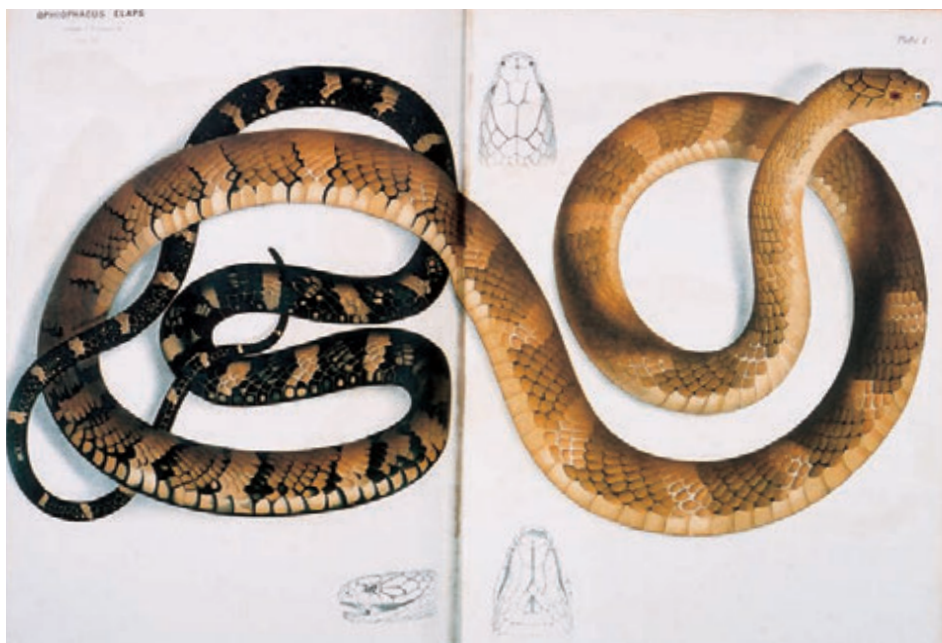


DMS：175 倍

## (61) 爬虫類 ケース：20-2

著者名 (原語) : Fayrer, Joseph, Sir [1824-1907] (日本語) : フェイラー 書名 (原語) : The Thanatophidia of India : being a description of the venomous snakes of the Indian Peninsula, with an account of the influence of their poison on life and a series of experiments (日本語) : 『インドの毒蛇類』 発行者・出版社・印刷所 : Churchill 発行地 : London 刊行年 : 1874 版 : 初版 巻号数 : 1v. 総頁数 : 178p. 総図版数 : 11p., [1], 31p. 図版制作者 : Fuber, Annoda Prosad Bagchee, C. Abbay Madras, Hurrish Chunder Kahn, Behary Lall Das, Nityanunda Dey (素描家) ; Smith, M&N. Hanrart (彫版師) [カルカッタ国立芸術学院の生徒が多い] 使用言語 : 英語 序文 : 有 目次 : 有 図版目次 : 有 書籍サイズ : 340×455×700 慶應義塾大学図書館の分類番号 : 143Y-6-1

フェイラーはイギリスのプリマス生まれの科学者。ロンドンのチャーリング・クロス病院で医学を修めて後、1847年、軍医としてヨーロッパをめぐる。1850年、軍医助手としてベンガルに渡り、頻発する暴動に際して北インドのラクノーをはじめ各地に赴任。1859年から1872年まではカルカッタの医学校で外科学教授をつとめる。英国皇太子がインドを訪問した際は随行員として活躍。帰国して1874年から1895年まで、インド省医務局の局長をつとめた。1877年、王立協会会員に推挙され、1896年、男爵に任ぜられる。著書の多くはインドでの医療にかかわるもので、とりわけ彼の地の毒蛇に関する研究は有名である。本書は代表作。



展示図版 : キングコブラ 巻号頁数 : Plate 7 制作者 : カルカッタ国立芸術学院の生徒 版画技法 : リトグラフ (多色刷) 刊行年 : 1874  
長さ 7'9"、胴回り 8"と記されている。





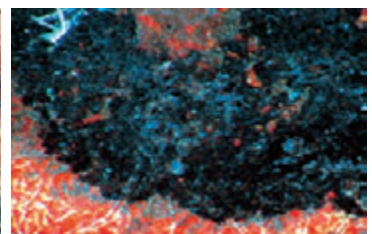
参考図版：メガネコブラ 巻号頁数：Plate 3 制作者：カルカッタ国立芸術学院の生徒 版画技法：リトグラフ（多色刷） 刊行年：1874  
長さ4'3"、胴回り4"と記されている。



全体図



DMS : 50 倍



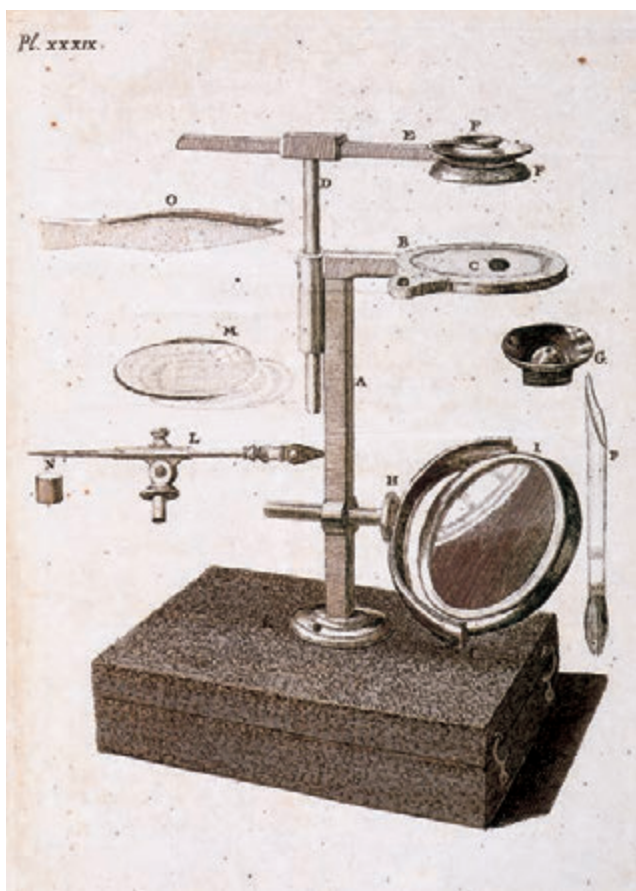
DMS : 175 倍



## (62) 水棲生物 1 ケース：21-1

著者名(原語)：Ellis, John [1710-1776] (日本語)：エリス 翻訳者名(原語) Allamand, Jean Nicolas Sébastien [？-1787] (日本語) アラマン 書名(原語)：Essai sur l'histoire naturelle des corallines (日本語)：『サンゴの自然誌』 発行者・出版社・印刷所：Pierre de Hondt 発行地：Den Haag 刊行年：1756 版：仏訳版(英語初版は 1755) 巻号数：1v. 総頁数：xvi, 125p. 総図版数：39 図版制作者：J. Barnes (素描家兼彫版師)；P. Mazell, J. Roberts (以上彫版師) 使用言語：仏語 序文：有 目次：有 書籍サイズ：210×265×430 慶應義塾大学図書館の分類番号：120Y-425-1

アイルランド生まれのジョン・エリスは、商業を生業とし、一方で博物学に並々ならぬ情熱を燃やしていた。とりわけ、植虫類、なかんずくサンゴの研究で名をなした。当時数十年にわたり、植物か動物か、あるいは鉱物か処遇の決まっていなかったサンゴ類を動物であると断定したのである。本書『サンゴの自然誌』は、多くの反論にあったエリスが、この問題に決着をつけようと企てた書物であった。本書の詳しい標題は以下の通りである：『英国とアイルランドの海岸に通常見られるサンゴおよび同種の海産物に関する自然誌、さらに付録として 1753 年夏に北極近くで鯨捕りが採取した巨大な海洋性ポリプについての記述付き』。



展示図版：顕微鏡 巻号頁数：p.124-125, Plate XXXIX 版画技法：エッチング 刊行年：1756



参考図版：クダサングの一種 巻号頁数：p.104-105, Plate XXXVI 版画技法：エッチング 刊行年：1756



全体図



DMS : 50 倍



DMS : 175 倍

### (63) 水棲生物 1 ケース：21-2

著者名（原語）：Ellis, John [1710-1776] & Solander, Daniel Charles [1733-1782]（日本語）：エリス & ソーランドー 書名（原語）：The natural history of many curious and uncommon zoophytes : collected from various parts of the globe（日本語）『植虫類の自然誌』：発行者・出版社・印刷所：Benjamin White and son [etc.] 発行地：London 刊行年：1786 版：初版 巻号数：1v. 総頁数：xii, 206p 総図版数：63 図版制作者：A.P. Bagchee, Behary, J. Fayrer, H.C. Khan, C.A. Madras, P. Mazell, Fam. Roberts, J. Barnes（素描家）；Mand, N. Hanhart, P. Mazell, Fam. Robert, J. Barnes（刷り師） 使用言語：英語 序文：出版者序文有 図版目次：有 書籍サイズ：245×300×500 慶應義塾大学図書館の分類番号：120Y-515-1



展示図版：イシサンゴ 巻号頁数：Tab. 43 制作者：J. Barnes（素描家兼刷り師） 版画技法：エッチング（手彩色） 刊行年：1786

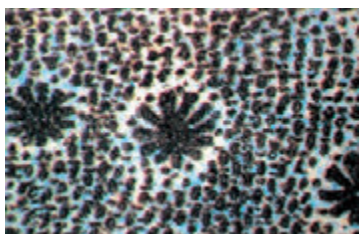




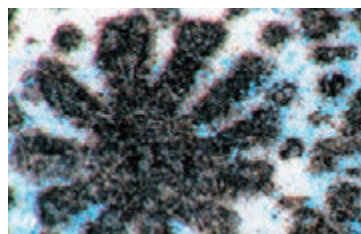
参考図版：ヤギの一種 巻号頁数：Tab. 10 版画技法：エッチング（手彩色） 刊行年：1786



全体図



DMS：50 倍



DMS：175 倍

## (64) 水棲生物 1 ケース：21-3

著者名（原語）：Gosse, Philipp Henry [1810-1888]（日本語）：ゴス 書名（原語）：A History of the British sea-anemones and corals（日本語）：『英国イソギンチャク・サンゴ博物誌』 叢書名：Actinologia Britannica 発行者・出版社・印刷所：Van Voorst, Paternoster Row 発行地：London 刊行年：1860 版：初版 巻号数：1v. 総頁数：xl, 362p. 総図版数：12 図版制作者：P.H. Gosse（素描家）；W. Dickes（手彩色リトグラフ） 使用言語：英語 序文：有 索引：有 図版目次：有 書籍サイズ：145×220×295 慶應義塾大学図書館の分類番号：120Y-424-1

1827年、ゴスはニューファンドランドに商業目的で赴き、8年滞在、ついでカナダに3年、アラバマに1年居留した。幼い頃から博物学に強い嗜好を持っていたゴスは、こうした多様な異国経験を活かして、昆虫採集に精を出し、とりわけ鱗翅類のコレクションは傑出していた。1844年、ジャマイカに移った彼はキリスト教普及協会のために博物学の入門書を幾点も執筆する。1848年以後は顕微鏡を多用し、そのためカワムシ類のような微細な動物をも記述できるようになった。



展示図版：1. ベニヒモイソギンチャク 2. ヤドリイソギンチャク 3. ヤドリイソギンチャクのなかま 4. 未詳 5. サンゴイソギンチャク 6. 未詳 巻号頁数：p.234-235, Plate VIII 制作者：P.H. Gosse（素描家） Dickes（リトグラフ） 版画技法：リトグラフ（手彩色） 刊行年：1860



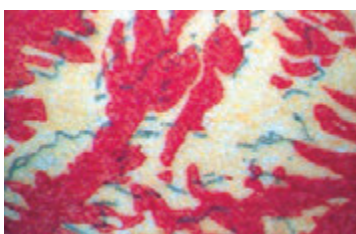


参考図版：1. ウメボシイソギンチャクの種類 2. 未詳 3. セイタカイソギンチャクの種類 4. 未詳 5. ナゲナワイソギンチャクのなかま 巻号頁数：p.V 制作者：P.H. Gosse (素描家) Dickes (手彩色) 版画技法：リトグラフ (手彩色) 刊行年：1860

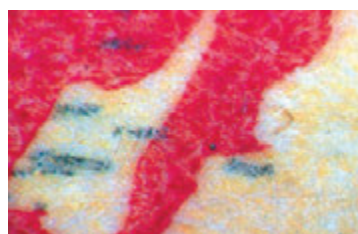
魚の図版は多くの場合、浜辺にさながら魚屋の店先のような格好で何匹もが重なり合って横たわる姿を描くのが、ひとつの規範になっていた。(73) (75) の図版がまさにその好例である。ゴスはその伝統を打破して、水中写真のような精細きわまりない海中風景を描出することに成功した。このリトグラフは、質の高さもさることながら、その意味で、博物画の歴史を画する「事件」であった。



全体図



DMS：50 倍



DMS：175 倍



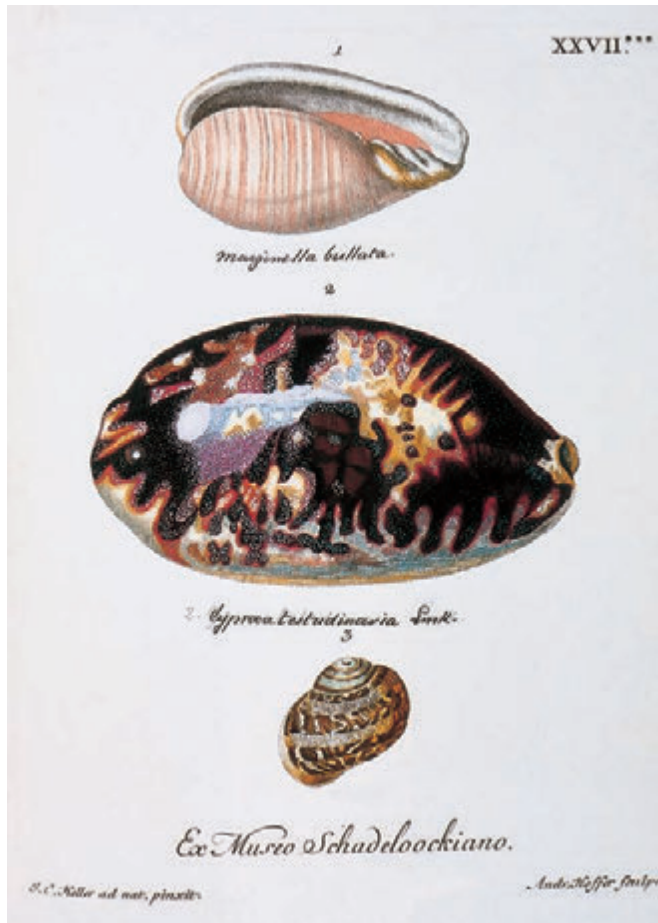
**(65) (66) 水棲生物 2 ケース：22-1 上・下**

著者名（原語）：Knorr, Georg Wolfgang [1705-1761]（日本語）クノール：書名（原語）：Les délices des yeux et de l'esprit, ou, Collection générale des différentes espèces de coquillages que la mer renferme（日本語）：『目の悦び』 発行者・出版社・印刷所：[Knorr] 発行地：Nürnberg 刊行年：1764-1773 版：（独語初版 1751） 巻号数：6 v. in 3. 総頁数：t.1: 108p.; t.2: 144p.; t.3: 124p. 総図版数：196 図版制作者：G.W. Knorr, J.C. Dietzsch, J.C. Kleemann, Christian Seingerger, J.C. Keller, J.L. Cobre（以上素描家）；Gust. Phil. Trautner, Jac. Andreas. Eisenmann, Joh. Adam Joninger, Paul Küffner, Valentin Bischoff, Andr. Hoffer（以上彫版師） 使用言語：仏語 序文：有 書籍サイズ：207×259×429 慶應義塾大学図書館の分類番号：120Y-814-3-1〜3

クノールはニュルンベルクに生まれて死んだ博物絵師で彫版師。轆轤工だったが、絵と彫刻を学び、最初は風景画を手がけていた。やがて博物図鑑に馴染むにつれて、博物学への関心が目覚め、植物、花、貝類などを描いては彫るようになった。



展示図版：タカラ貝の一種 巻号頁数：t.1, p.13, Tab.V 版画技法：エッチング（手彩色） 刊行年：1764



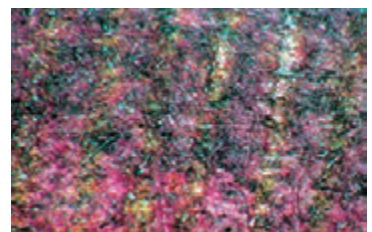
展示図版：1. オオヘリトリ 2. ムラクモダカラ 3. 未詳 巻号頁数：t.4, p.47, XXVII\*\*\* 制作者：J.C. Keller（素描家）Andr. Hoffer（彫版師） 版画技法：エッチング（手彩色） 刊行年：1768



全体図



DMS：50 倍



DMS：175 倍

## (67) 水棲生物 ケース 22-2

著者名 (原語) : Blainville, Henri-Marie Ducrotay de [1777-1850] (日本語) : ブランヴィル 書名 (原語) : Conchyliologie et malacologie (日本語) : 『貝類と軟体動物図譜』 叢書名 : Dictionnaire des sciences naturelles ; Planches, 2e partie. Règne organisé ; zoologie 発行者・出版社・印刷所 : F.G. Levrault 発行地 : Paris 刊行年 : 1816-30 版 : 初版 巻号数 : 1v. 総頁数 : 36p 総図版数 : 118 図版制作者 : Turpin (監督) ; P. Bleeker, C.v. Emrik, B. Haarlem, L. Speigler, Prêtre (以上素描家), Coignet, Massard, Forestier, H. Legrand, Bessin, Turcaty, Giraud, Perrot, Plée, Boutelou, Victor, Dien, Schmelx, Guyard, Joyeau, David, Calais, Louviers, Gabriel, Carnonkel, Rebel (以上彫版師) 使用言語 : 仏語 図版目次 : 有 書籍サイズ : 130×215×280 慶應義塾大学図書館の分類番号 : 120Y-447-1



展示図版 : セイヨウカサガイのなかま 巻号頁数 : No. 69 制作者 : Turpin (監督) ; Prêtre (素描家) ; Coignet (彫版師) 版画技法 : エッチング、ステイプル (手彩色) 刊行年 : 1816-1830

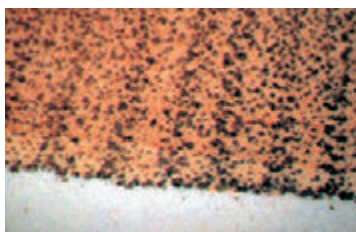




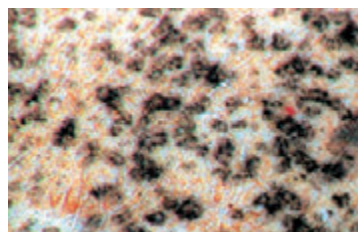
参考図版：カキのなかま 巻号頁数：No.85 制作者：Turpin（監督）；Prêtre（素描家）；Massard（彫版師） 版画技法：エッチング、スティップル（手彩色） 刊行年：1816-1830



全体図



DMS：50 倍



DMS：175 倍

**(68) (69) 水棲生物 2 ケース：22-3 上・下**

著者名 (原語) : Borowski, Georg Heinrich [1746–1801] (日本語) : ボロウスキー 書名 (原語) : Gemeinnützige Naturgeschichte des Thierreichs : darinn die merkwürdigsten und nützlichsten Thiere in systematischer Ordnung beschrieben, und alle Geschlechter in Abbildungen nach der Natur vorgestellt werden fortgesetzt (日本語) : 『公益に資する動物界自然誌』 発行者・出版社・印刷所 : G.A. Lange 発行地 : Berlin 刊行年 : 1780–1789 版 : 初版 巻号数 : 10v. (慶應義塾大学は 2 巻のみ) 総頁数 : 不明 (t. 9: 214p.; t. 10: 134p.) 総図版数 : 454 (t. 9: 48; t. 10: 34) 図版制作者 : C.F.C. Kleemann (素描家兼彫版師) ; P. Roefel, C.F. Lotter (素描家) ; D. Veelwaard (彫版師) 使用言語 : 独語 書籍サイズ : 135×215×280 慶應義塾大学図書館の分類番号 : 120Y-478-2-9~10

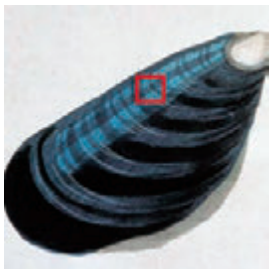


展示図版 : アノミア (ナミマガシワガイのなかま) ; ムラサキガイ 巻号頁数 : t. 9, p.163, XXXVIII 版  
画技法 : エッチング (手彩色) 刊行年 : 1788

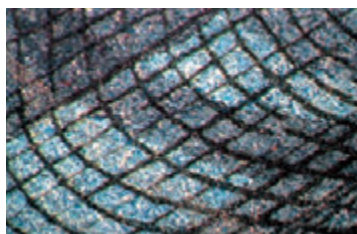


展示図版：マイマイのなかま（ニシキウズガイなど） 巻号頁数：t. 10, LII 版画技法：エッチング（手彩色） 刊行年：1789

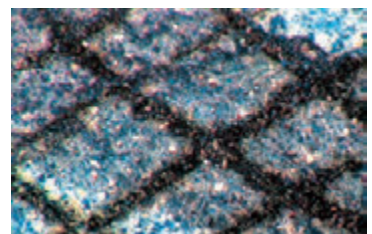
17世紀には、博物図版に限らず、博物誌にことよせた絵はけっこう多い。その多くは愛好家の陳列室向けであった。黒檀や鼈甲製の額縁などがそうである。小さな絵で、木や銅や布に描かれ、陳列された標本に寄り添うのが常だった。たとえば厚布やビロードを敷いたテーブル上に、書物、金細工品、科学の道具類と並んで、愛好家が溺愛した貝殻が置かれているのが目を引く。愛好家の肖像画にも貝殻は姿を見せる。この貝殻への偏愛はボロウスキーらの活躍した18世紀まで続いた。貝殻は「ヴァニタス」と呼ばれるジャンルとも縁が深い。やはり「死」と結びついた主題を喚起するからであろう。貝殻は遠洋航海を、さらには生の儚さを暗示するのであった。



全体図



DMS : 50 倍



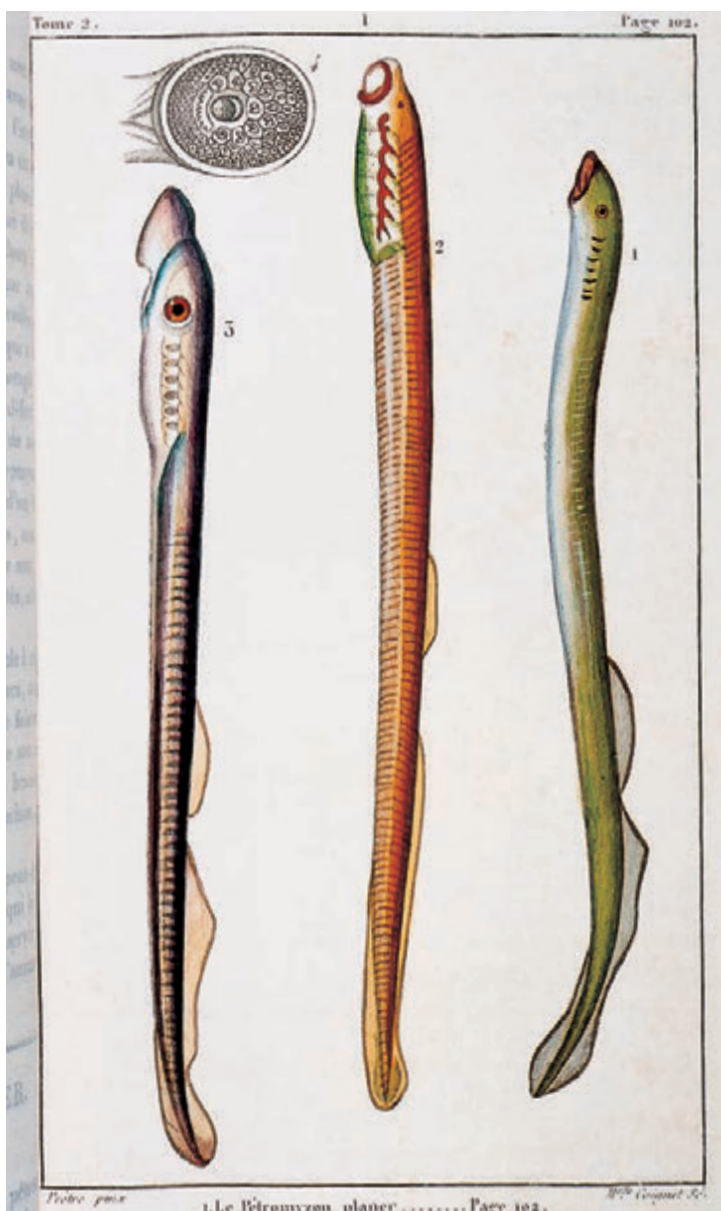
DMS : 175 倍



### (70) (71) 水棲生物 3 ケース：23-1 上・下

著者名（原語）：Lacépède, Bernard Germain Etienne de La Ville sur Illon, M. le comte de [1756–1825]（日本語）ラセペード：書名（原語）：Histoire naturelle des quadrupèdes-ovipares : suite et complément des Œuvres de Buffon (t. 1 のみ) ; Histoire naturelle des poissons (t. 2–5)（日本語）：『卵生四足獣の自然誌』；『魚類の自然誌』

詳しくは(56)を参照のこと。



展示図版：ウミヤツメのなかま（ペトロミゾン属ヤツメウナギ科） 巻号頁数：t. 2, p.102 制作者：Prêtre（素描家）；Melle. Coignet（彫版師） 版画技法：エッチング（彩色） 刊行年：1819



展示図版：1. トビウオ；2. ツバメノコノシロの一種；3. ツバメコノシロの一種 巻号頁数：t. 5, p.96  
 制作者：Prêtre（素描家）；Melle. Cornu（彫版師） 版画技法：エッチング（手彩色） 刊行年：1819



全体図



DMS：50 倍

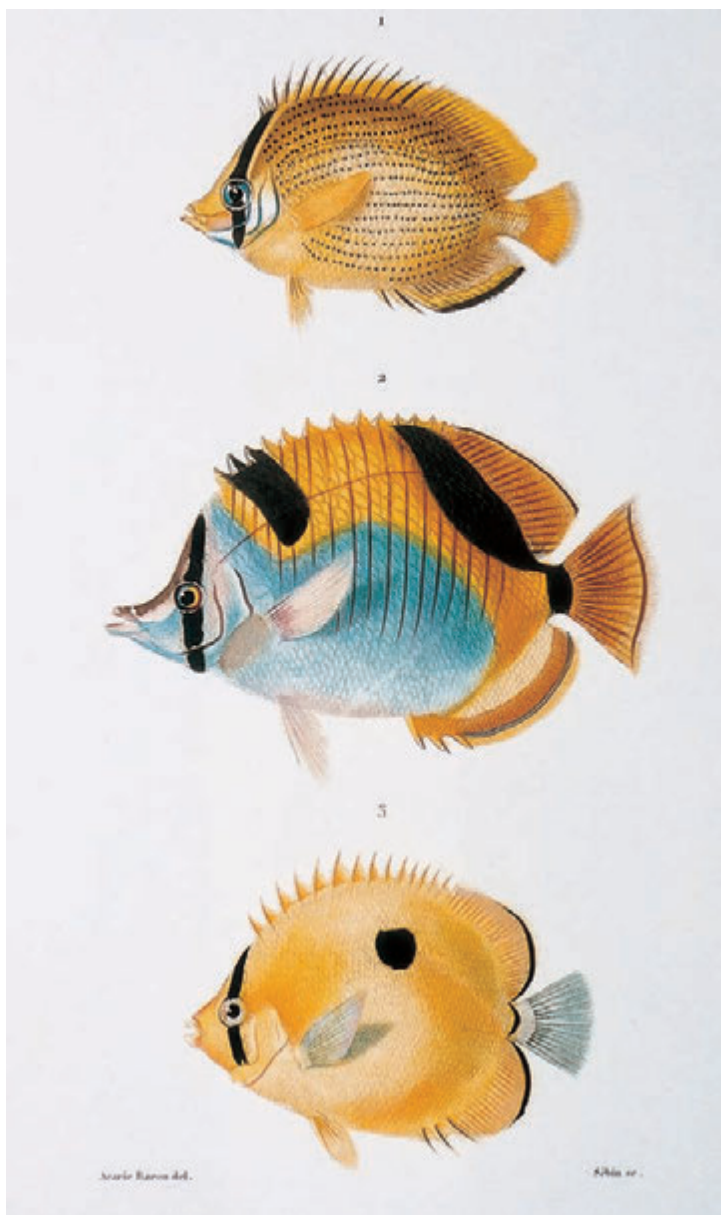


DMS：175 倍

### (72) 水棲生物 3 ケース：23-2

著者名 (原語) : Cuvier, Georges, baron de [1769-1832] (日本語) : キュヴィエ 書名 (原語) : Le règne animal distribué d'après son organisation... (日本語) : 『動物界』

詳細については(48)を参照のこと



展示図版：1. ゴマチョウチヨウウオ 2. セワタシチョウチヨウウオ 3. ウミヅキチョウチヨウウオ 巻  
号頁数：t. 8, PL. 39 制作者：Acarie Baron (素描家)；Sébin (彫版師)；N. Rémond (刷り師) 版画技  
法：エッチング、ステイップル (手彩色)

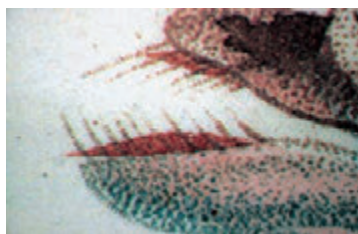




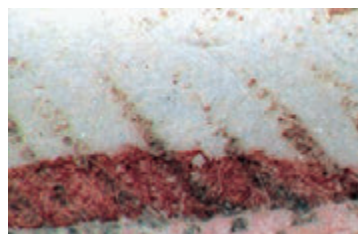
参考図版：1. フグのなかま 2. モンガラカワハギの一種 3. ハコフグの一種 巻号頁数：p. t. 8, PL. 112  
 制作者：Acarie Baron（素描家）；Schmelz（彫版師）；N. Rémond（刷り師） 版画技法：エッチング、  
 ステイプル（手彩色）



全体図



DMS：50 倍



DMS：175 倍

### (73) 水棲生物 3 ケース：23-3

著者名（原語）：Lacépède, Bernard Germain Etienne de La Ville sur Illon, M. le comte de [1756–1825]（日本語）ラセペード：書名（原語）：Histoire naturelle, comprenant les cétacés, les quadrupèdes-ovipares, les serpens et les poissons. Nouv. Ed. Précédée de l'éloge de Lacépède par Cuvier, avec des notes et la nouvelle classification de A. G. Desmarest.（日本語）：『ラセペードの自然誌』  
発行者・出版社・印刷所：Furne 発行地：Paris 刊行年：1841 巻号数：2v. 総頁数：t.1: xii, 662p. (6); t.2: 647p. 総図版数：36 図版制作者：J. Bindweed, D.W. Campbell, L. Chorley, W.M. Craig, J. Davies, F. Dixon, T. Dixon, G. Dobie, H. Frederick, L.M. Gahey, Halpin, R. Hicks, F. Hilliard, W. Mallinson, H. Robinson, T. Smith, W. Smith, Edouard Traviès（以上素描家）；Beyer, Manceau, Fournier, Forget, Annedouche（以上彫版師） 使用言語：仏語 序文：有（キュヴィエによるラセペード賞賛文） 目次：有 書籍サイズ：235×285×480 慶應義塾大学図書館の分類番号：120Y-455-2-1～2

ビュフォンの死後、弟子のラセペードは 1788 年から 1804 年にかけて『博物誌』の「魚類」を執筆担当し 8 巻を加えたが、この部分は傑作の誉れ高く、後に独立して刊行されるようになった。本書はその一環をなす 19 世紀の刊行。(60)と同じ年に刊行されているが、まったく別の出版物である。



展示図版：マンジュウダイの一種、セミホウボウ、トゲウオのなかま、ホウボウ 巻号頁数：t. II, p.400  
制作者：Edouard Traviès（素描家）；Manceau, Beyer（以上彫版師） 版画技法：銅版（手彩色） 刊行年：1841



参考図版：金魚 巻号頁数：t. II, p.579 制作者：Edouard Traviès (素描家)；Beyer (彫版師) 版画技法：銅版 (手彩色) 刊行年：1841

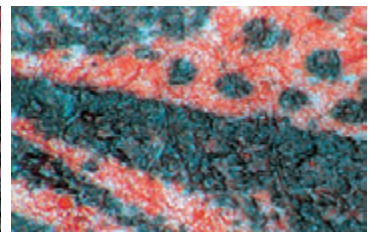
キンギョは硬骨魚綱コイ目コイ科。いわゆるフナが観賞用に改良されたもの。東アジアの原産だが、移入が成功し、世界中に広がっている。中国では早くも 14 世紀以降、明・清時代になると、「盆魚」といって、この図版のように鉢に金魚を飼うことが流行したという。中国の金魚は 16 世紀に日本に渡り、17 世紀から 18 世紀にかけては、欧米に持ち込まれた。18 世紀の半ば、ルイ 15 世の寵姫ポンパドゥール夫人に贈られたという記録もある。



全体図



DMS：50 倍



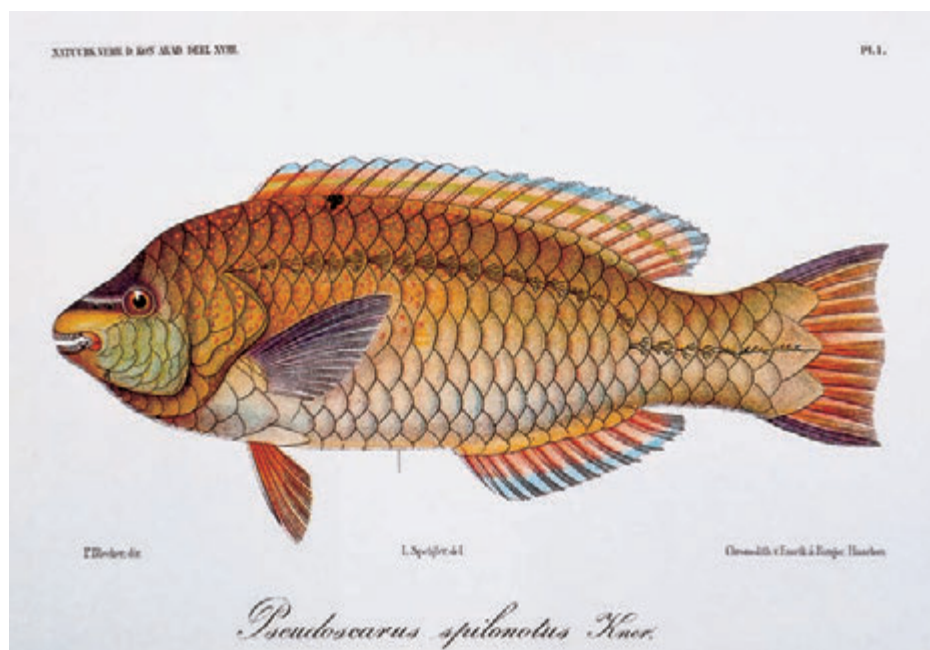
DMS：175 倍



## (74) 水棲生物 4 ケース：24-1

著者名 (原語) : Bleeker, Pieter [1819-1878] (日本語) : ブリーカー 書名 (原語) : Contribution à la faune ichthyologique de l'île Maurice (日本語) : 『モーリス島の魚類』 発行者・出版社・印刷所 : C.G. Van der Post 発行地 : Amsterdam 刊行年 : 1878 版 : 初版 巻号数 : 1v. 総頁数 : 23p. 総図版数 : 3 図版制作者 : Brown, Bleeker (監督) ; L. Speigler (素描) ; Emrik, Binger (多色刷りリトグラフ) 使用言語 : 仏語 書籍サイズ : 235×285×480 慶應義塾大学図書館の分類番号 : 120Y-477-1

ピーテル・ブリーカーは当代きってのオランダ魚類学者として知られる。代表作『オランダ領東インド魚類地図』(1862-1878) が示すように、アジア地域を中心とした調査が多い。ほかに『ライデンとアムステルダム博物館に保存されたスリナムのナマズ種研究』(1864)、『中国のコイに関する覚え書き』(1871)、『ギニア沿岸の魚類に関する覚え書き』(1863) などがある。また、長崎から送らせたサンプルを元に、日本の魚類についても著書があり(『日本で現在知られる魚類の紹介と未知の三種に関する記述』)、初版(1854-1857)では120種、再版(1879)では実に546種を数える。



参考図版 : ブダイモドキの一種 巻号頁数 : Pl. I 制作者 : Bleeker (監督) ; L. Speigler (素描家) ; Emrik, Binger (多色刷りリトグラフ)

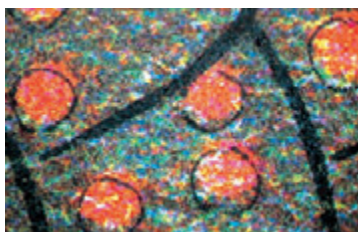
モーリシャス島は、インド洋西部、マダガスカル島の東方に位置する共和国。モーリシャス島(1865km<sup>2</sup>)、その東のロドリゲス島(104km<sup>2</sup>)、北にあるアガレーガ諸島、北東のカルガドスカラジョス礁(面積は合計70km<sup>2</sup>)からなる。16世紀末にオランダ人が、1715年にはフランス人が、1810年にイギリス人が占領、1814年にイギリス領となる



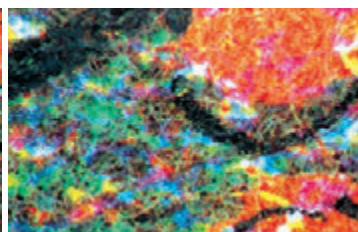
展示図版：ハオコゼのなかま 巻号頁数：Pl. III 制作者：Bleeker(監督)；L. Speigler(素描家)；Emrik, Binger (多色刷りリトグラフ)



全体図



DMS : 50 倍



DMS : 175 倍

## (75) 水棲生物 4 ケース：24-2

著者名 (原語) : Goldsmith, Oliver [1728-1774] (日本語) : ゴールドスミス 書名 (原語) : A History of the earth and animated nature : with numerous notes from the works of the most distinguished British and foreign naturalists (日本語) : 『大地と生物の自然誌』 発行者・出版社・印刷所 : Blackie 発行地 : Glasgow 刊行年 : 1873 版 : (初版1774) 巻号数 : 2v. 総頁数 : t.1: xlviii, 568p.; t.2: LXXXI, 663p. 総図版数 : t.1: 26; t.2: 41 図版制作者 : J. Stewart (素描家) ; R.C. Bell, J.W. Loery, R. Scott, Jas Johnstone, T. Brown, John Miller, J. Bower, J. Bishop, J.S. Murdoch, John Sanderson (以上彫版師) 使用言語 : 英語 序文 : 有 目次 : 有 図版目次 : 有 (第2巻末) 書籍サイズ : 180×255×395 慶應義塾大学図書館の分類番号 : 120Y-499-2-1~2

ゴールドスミスは英国の詩人、小説家、劇作家で歴史家。アイルランドの貧しい牧師の5番目の子供として生まれ、ダブリンのトリニティ・カレッジに学ぶ。学費免除ではあったが、屈辱的な差別感を味わい、勉学には身が入らなかったらしい。富裕で鷹揚な叔父の支援で暮らし、ライデンで医学を学び、1755年からは世界各地を放浪する。翌年帰国、貧困に苦しみつつ、あらゆる職業を遍歴する。雑誌の編集を手がけたことがきっかけとなって、おのれの文筆の才に目覚め、評判となる傑作をものする。随筆『世界市民』(1762)、長詩『旅人行』(1764)、小説『ウェイクフィールドの牧師』(1766)などがそうである。本書は、ゴールドスミスがビュフォンの博物誌に刺激されて書き上げたベストセラー。多数の図入り版が刊行されたが、彼は多作家で、上記の「まっとうな」ジャンルのほかにも、撰文詩集、翻訳、伝記、それに科学の普及本など多くの分野に手を染めた。本書の図版は多くの先行作品からの借用である。



展示図版 : 1.シャド 2.3.ニシン 4.5.スプラットイワシ 6.末詳 7.イワシ 8.9.ヨロホウシ  
巻号頁数 : t.2, p.304 制作者 : J. Stewart (素描家) ; J. Miller (彫版師)  
版画技法 : 木口木版 (手彩色) 刊行年 : 1873

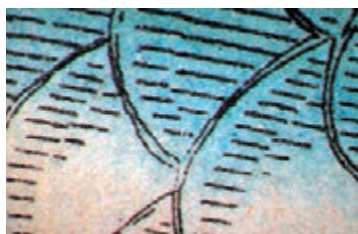




参考図版：1. マダラ 2. ハドック（タラの一種） 3. ビブ 4. ギンダラ 5. リングコッド（タラのなかま）  
6. オヒョウ 7. サバ 8. キュウリウオのなかま 巻号頁数：t.2, p.300, Plate 67 制作者：J. Stewart（素描家）；J. Miller（彫版師） 版画技法：木口木版（手彩色） 刊行年：1873



全体図



DMS：50 倍



DMS：175 倍

# 繁茂する植物たちほか

花と植物

地下世界

大航海

## (76) 花と植物1 ケース：25-1

著者名（原語）：Furber, Robert [1724-1732]（日本語）：ファーバー：The Flower-Garden display'd, in above four hundred curious representations of the most beautiful flowers : regularly dispos'd in the respective months of their blossom, curiously engraved on copper-Plates from the designs of Mr. Furber, and others, and coloured to the life... 『花園十二ヶ月』 発行者・出版社・印刷所：R. Montagu 発行地：London 刊行年：1734 版：第2版 巻号数：1v. 総頁数：139p. 総図版数：12 図版制作者：Brown, J. Stewart（以上素描家）；R.C. Bell, J. Bishop, T. Brown, J. Bower, J. Johnstone, J.W. Lomry, J. Miller, J.S. Murdoch, R. Scott, Smith（以上彫版師） 使用言語：英語 序文：有 書籍サイズ：210×255×430 慶應義塾大学図書館の分類番号：120Y-530-1

オランダの寓意静物画のような植物図鑑である。古い植物図鑑に共通に現れる花の静物画のような絵柄は、19世紀に入るとほとんど消滅する。こうした「四季」ものの連作でも、美術と博物誌は密接に結びつく。英国や、とりわけオランダのようなプロテスタント国に多く見られるが、一見、何の変哲もない静物画や写生に密やかな「死」の寓意が込められていることがある。



展示図版：一月 巻号頁数：p.1 制作者：Gas.Smith（彫版師） 版画技法：エッチング（手彩色） 刊行年：1734





参考図版：五月 巻号頁数：p.39 制作者：Gas.Smith(彫版師) 版画技法：エッチング(手彩色) 刊行年：1734



全体図



DMS：50 倍



DMS：175 倍

## (77) 花と植物1 ケース：25-2

著者名 (原語) : Henderson, Peter Charles [1791-1829] (日本語) : ヘンダーソン 書名 (原語) : The Seasons, or Flower-Garden : being a selection of the most beautiful flowers that blossom at the four seasons of the year, spring, summer, autumn, winter, the whole carefully drawn from nature : with a treatise or general instructions for drawing and painting flowers (日本語) : 『季節の花々』 発行者・出版社・印刷所 : R. Ackermann 発行地 : London 刊行年 : 1806 版 : 初版 巻号数 : 1v. 総頁数 : 28 総図版数 : 25 図版制作者 : J. Gardner 使用言語 : 英語 序文 : 有 図版目次 : 有 書籍サイズ : 285×340×580 慶應義塾大学図書館の分類番号 : 141Y-35-1



展示図版 : サンシキヒルガオ 巻号頁数 : No.XV 版画技法 : エッチング (手彩色) 刊行年 : 1806



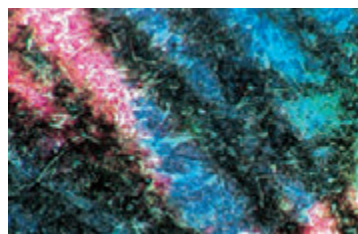
参考図版：スズラン 巻号頁数：No.III 版画技法：エッチング（手彩色） 刊行年：1806



全体図



DMS：50 倍



DMS：175 倍



## (78) 花と植物 2 ケース：26-1

著者名 (原語) : Loddiges, Conrad [?-?] & Loddiges, George [1784-1846] (日本語) : ロディゲス (父子) 書名 (原語) : The Botanical Cabinet, consisting of coloured delineations of plants, from all countries, with a short account of each, directions for management, &c. (日本語) : 『植物陳列室』 発行者・出版社・印刷所 : Conrad Loddiges & Sons 発行地 : London 刊行年 : 1817-1833 版 : 初版 (t.5:1820) 巻号数 : 20v. (慶應義塾大学には第5巻のみ) 総頁数 : t.5:115p. 総図版数 : 総数約 2000 (t.5:100) 図版制作者 : G. Loddiges, W. Loddiges, Miss J. Loddiges, G. Cooke, E.W. Cooke, W. Cooke, Thomas Shotter Boys, W. Miller, P. Heath, J.P. Heath, Miss Rebello (以上素描家) ; George Cooke (素描家兼彫版師) 使用言語 : 英語 書籍サイズ : 175×220×375 慶應義塾大学図書館の分類番号 : 120 Y-467-1

19世紀前半期における英国の園芸熱を反映した定期刊行物。庭園に次々とあふれる未知の植物に関して、熱心な一般大衆の関心や要望に応える役割を果たした。1817年5月から1833年12月まで刊行。各号5シンリングで10枚の図版が掲載された。

ロディゲスはオランダ生まれの園芸家。1761年頃、英国のハックニーに苗床を拓き、住み着く。本誌はむしろ息子のジョージが刊行したもの。ロディゲス一家はとりわけアメリカの新種を英国に輸入したことで知られる。



展示図版 : ツバキ 巻号頁数 : t.5 制作者 : G. Loddiges (素描家) ; G.C. (彫版師) 版画技法 : エッチング (手彩色) 刊行年 : 1820

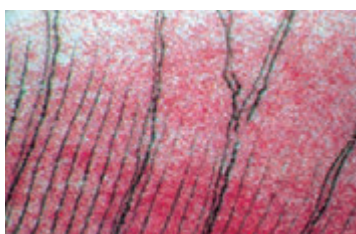
ロディゲスは自宅に苗床を有し、珍種・新種の栽培を試みていた。一家は最初期の商用ラン栽培で知られ、また1800年代に輸入したツバキを育てたことでも名を残した。



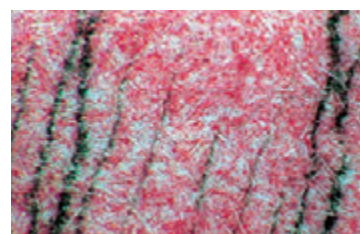
参考図版：ジャーマン・アイリス 巻号頁数：t.5 制作者：G. Loddiges（素描家） G.C（彫版師）  
版画技法：エッチング（手彩色） 刊行年：1820



全体図



DMS : 50 倍



DMS : 175 倍

## (79) 花と植物 2 ケース：26-2

著者名（原語）：Thornton, Robert John [1768-1837]（日本語）：ソーントン 書名（原語）：Temple of Flora, or, garden of the botanist, poet, painter and philosopher（日本語）：『フローラの神殿』  
発行者・出版社・印刷所：[Dr. Thornton] 発行地：[London] 刊行年：[1812] 版：第2版 巻  
号数：1v. 総頁数：[155] p. 総図版数：31 図版制作者：Henderson, Reinagle, Ferner, S. Ed-  
wards, Ehret, Miller, Pether, Sowerby, Sang-so, Thornton, Wo-sion（以上素描家）；Burke, Cald-  
wall, R. Cooper, Wm R. Dunkarton, Dunkarton jr., R. Earlom, Elmes, Eves, Gaugain, Hopwood, H.  
Landseer, Lewis, D. Maddan, Maddox, Mazell, Medland, Quilley, R. Roffe, Stadler, T. Sutherland, W.  
Ward, Warner, Weston（以上彫版師） 使用言語：英語 書籍サイズ：315×375×630 慶應義塾  
大学図書館の分類番号：142Y-12-1

ロバート・ソーントンはロンドンの友人を介してリンネの分類学に関心を持ち、やがてリンネの植物分類学を美術的に解説する大図鑑の刊行を考えるようになった。構想は3部構成で、第1部がリンネ分類学の前提となる植物各器官の解説、第2部は分類体系それ自体の説明、そして第3部は以上の分類学を美しい図像として展開する大図鑑。そして目玉となる第3部の図鑑には、尊敬するエラズマス・ダーウィン（チャールズ・ダーウィンの祖父）が抱いていたロマンチックな自然観を象徴する言葉、「フローラの神殿」を選んだ。ソーントンは図鑑制作に私財を投じ、仕事途中で経済的困窮状態に陥った。そこで大判の初版に続いて、小型のクォート版に縮小したフローラの神殿をさらに600部刷り直したのである。本展示に紹介する図版はこの第2版である。



展示図版：スタペリア 巻号頁数：p.36 左 制作者：Henderson（素描家）；Burke（彫版師） 版画技法：エッチング、スッティプル（多色刷、手彩色） 刊行年：1812  
スタペリアは、熱帯アフリカ産の悪臭のある花が咲くガガイモ科の無葉多肉植物。

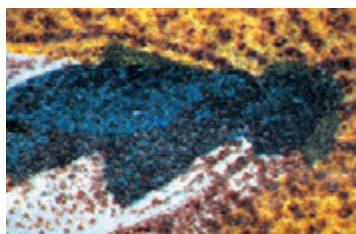




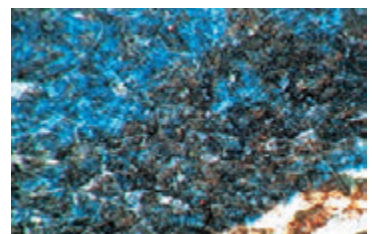
参考図版：植物に愛を吹き込むキューピッド 巻号頁数：p.11 左 制作者：Reinagle（素描家）；Barbalozzi & Landseer（彫版師） 版画技法：エッチング 刊行年：1812



全体図



DMS：50 倍



DMS：175 倍

### (80) 花と植物 3 ケース：27-1

著者名（原語）：Morris, Richard, F. L. S.（日本語）：モリス 書名（原語）：Flora conspicua: a selection of the most ornamental flowering hardy, exotic and indigenous trees, shrubs, and herbaceous plants, for embellishing flower-gardens and pleasure-grounds（日本語）『目につく花々』：発行者・出版社・印刷所：Longman 発行地：London 刊行年：1826 版：初版 巻号数：1v. 総頁数：122p. 総図版数：60 図版制作者：William Clark, P. Mazell 使用言語：英語 索引：有 書籍サイズ：155×245×320 慶應義塾大学図書館の分類番号：120Y-496-1



展示図版：クサボケ 巻号頁数：Pl. 1 制作者：W. Clark（素描家兼彫版師） 版画技法：エッチング（手彩色） 刊行年：1826



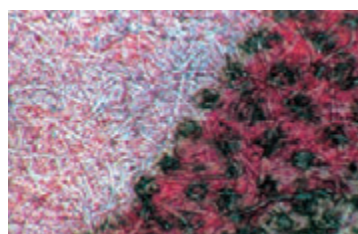
参考図版：中国産のキクの一種 巻号頁数：Pl. 51 制作者：W. Clark (素描家兼彫版師) 版画技法：エッチング (手彩色) 刊行年：1826



全体図



DMS : 50 倍



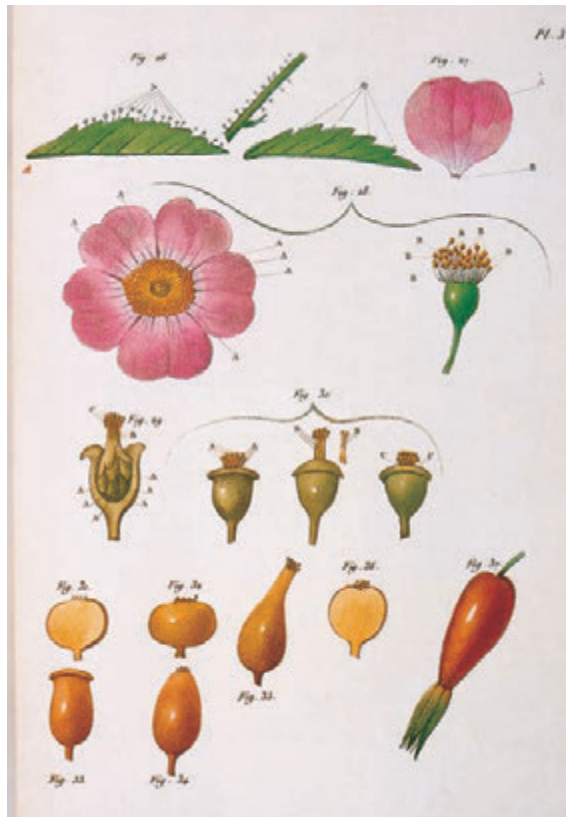
DMS : 175 倍



### (81) (82) 花と植物 3 ケース：27-2 上・下

著者名（原語）：Redouté, Pierre Joseph [1759-1840]（日本語）：ルドゥーテ 書名（原語）：Les roses peintes par P.J. Redouté, décrites et classées selon leur ordre naturel par Claude Antoine Thory（日本語）『バラ図譜』：発行者・出版社・印刷所：P. Dufart 発行地：Paris 刊行年：1835 版：第3版（初版 1817-1824） 巻号数：3v. 総頁数：t. 1: vi, 99p.; t. 2: 155p.; t. 3: 160p. 総図版数：189 (t.1: 52; t. 2: 72; t.3: 65) 図版制作者：Redouté（素描家）；Rémond（刷り師）；Manceau（彫版師）. C.Motte（リトグラフ） 使用言語：仏語 目次：有 書籍サイズ：167×243×350 慶應義塾大学図書館の分類番号：120Y-820-3-1～3

ピエール・ジョゼフ・ルドゥーテは、ベルギー国境に近いアルデンヌに生まれ、パリに出て植物画家となった。イギリスで学んだスティップル（点刻）と呼ばれる独特の銅版技法を発展させて、この上なく精妙で軽やかな植物画の画風を打ち立てた。微細な点の集まりによって色と形を表現するこのスティップル技法は、淡く上品なグラデーションを表現するのに適し、多くの女性たちの共感呼んだ。ルドゥーテの代表作「バラ図譜」（1817-24）は、パトロンであったジョゼフィーヌが、マルメゾン離宮でバラの品種をたくさん栽培していたことから、ルドゥーテはジョゼフィーヌを記念する著作として、このバラ図譜を企画したのであった。当時のフランスで育てられていたすべての品種を網羅している。



展示図版：バラ各部（特に花） 巻号頁数：t.1, Pl.3 版画技法：エッチング、スティップル（手彩色）  
刊行年：1835



展示図版：バラの一種 巻号頁数：t. 3, Pl. 146 制作者：Redouté 版画技法：エッチング、ステイップル（手彩色） 刊行年：1835

当代随一の花絵師ルドゥーテは、透明感を出すために、グワッシュに水彩を溶かし、青い色調で反射が茶色の葉を描くのが好きだった。その瑞々しさを強調するために、ときには水滴を一滴加えたりもし、1820年代には「花のラファエロ」と呼ばれるほどだった。



全体図



DMS : 50 倍



DMS : 175 倍

### (83) 花と植物 3 ケース：27-3

書名（原語）：Flore des jardiniers, amateurs et manufacturiers : d'après les dessins de Bessa extraits de l'herbier de l'amateur（日本語）：『庭師の花』 発行者・出版社・印刷所：Audot, Libraire 発行地：Paris 刊行年：1836 版：初版 巻号数：3v. 総頁数：全巻図版のみ 総図版数：143 図版制作者：G.Adam, Altenwanger, Audebert, De Bakker, Bourdachot, Buvée, Bylaert, G. Cowper, G.Dadelbeck, Dewailty, G.Edwards, A.Fleischmann, G.Forster, A.Gabler, M.Griffith, Hans, D.Hermann, Hopfer, Huet, Ihle, L.Karell, Kretsch, E.F.Lang, Lear, J.W.Lewin, Maréchal, C.F.Miller, D.R.Nitschmann, Oppel, C.F.S.Reuss, J.G.Reuss, J.E.Ridinger, W.Saxesen, A.Schleich, De Sève, H. Smith, Sonnerat, De Wailly, Weber, Werner（以上素描家）；V.Bischoff, J.C.Bock, J.A.Eisenmann, A. Fleischmann, Gestochen, C.D.Henning, A.Hoffer, J.Kellner, P.Küffner, J.Kuhn, J.S.Leitner, J.Nusbiegel, A.Schleich, I.G.Sturm, H.J.Tyroff, J.F.Volkart, G.C.Walwert, Wömdl（以上彫版師） 使用言語：仏語 書籍サイズ：240×310×490 慶應義塾大学図書館の分類番号：141Y-52-3-1～3



展示図版：フランス産バラ 巻号頁数：t.3 制作者：P. Bessa（素描家）Barrois（彫版師） 版画技法：エッチング（手彩色） 刊行年：1836





参考図版：カリステモン：1：雄蕊；2：花弁；3：子房；4：果実；5,6：莢果；7：種子 巻号頁数：t.1 制作者：P. Bessa（素描家）Barrois（彫版師） 版画技法：エッチング（手彩色） 刊行年：1836



全体図



DMS：50 倍



DMS：175 倍

#### (84) 花と植物 4 ケース：28-1

著者名(原語)：Geel, Pierre Corneille, van [1796-1836] (日本語)：ジェール 書名(原語)：Flore de l'amateur : choix des plantes les plus remarquables par leur élégance et leur utilité (日本語)：『愛好家の花』 発行者・出版社・印刷所：F. Leroi 発行地：Paris 刊行年：1847 版：初版 巻号数：2v. 総頁数：t.1：171p. ; t.2：342p. 総図版数：170 図版制作者：Bessa (素描家)；Huet (彫版師)；Coutant (刷り師) 使用言語：仏語 書籍サイズ：270×360×570 慶應義塾大学図書館の分類番号：142Y-40-2-1～2



展示図版：オニバス 巻号頁数：XIII CL 版画技法：リトグラフ（手彩色） 刊行年：1847



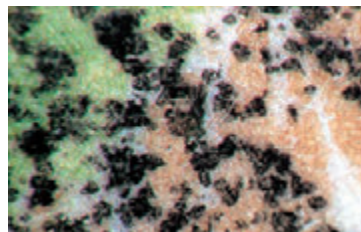
参考図版：ハエマンツスの一種 巻号頁数：VICL 版画技法：リトグラフ（手彩色） 刊行年：1847



全体図



DMS : 50 倍



DMS : 175 倍



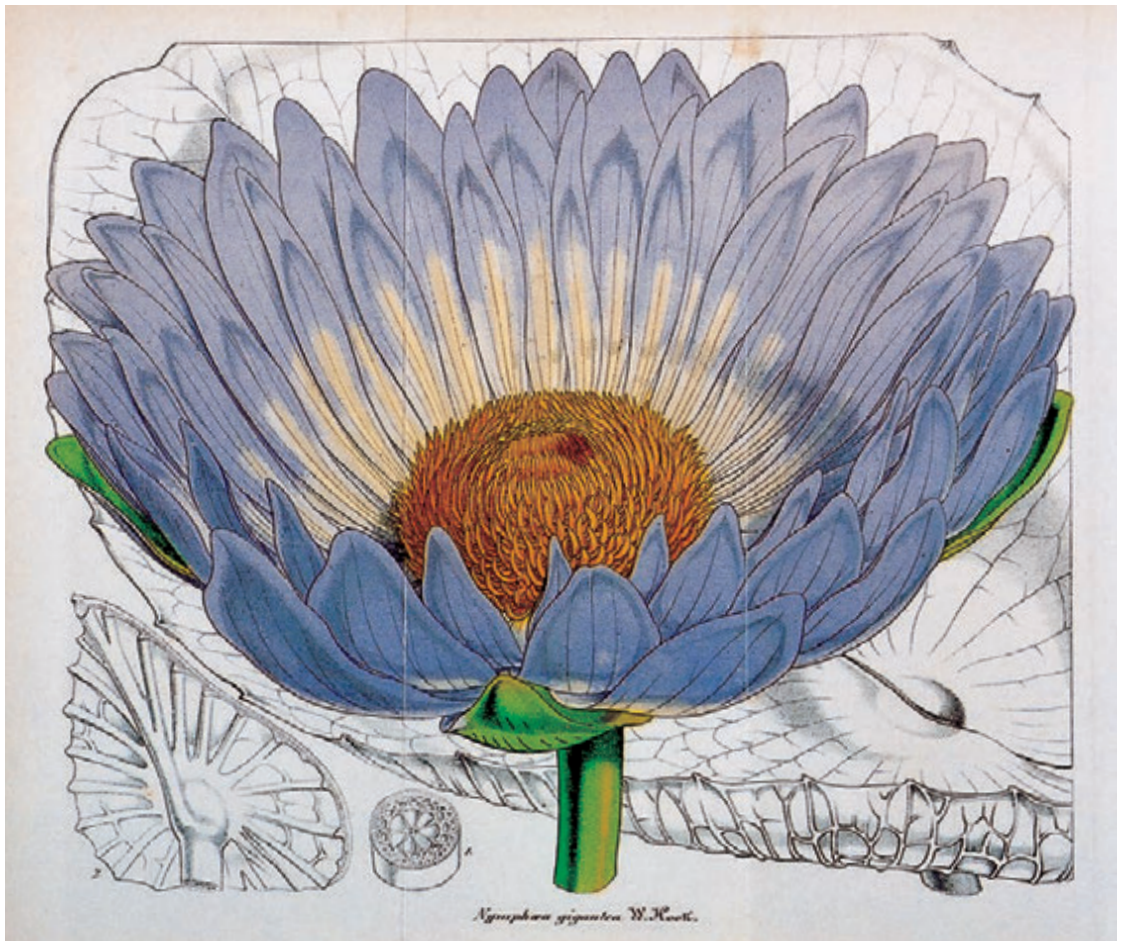
## (85) 花と植物 4 ケース：28-2

著者名（原語）：Lemaire, Charles Antoine [1801-1871]（日本語）：ルメール 書名（原語）：Le Jardin fleuriste : journal général des progrès et des intérêts horticoles et botaniques, contenant l'histoire, la description et la culture des plantes les plus rares et les plus méritantes nouvellement introduites en Europe publié sous les auspices et avec la collaboration des principaux botanistes et horticulteurs du continent... et rédigé par Ch.Lemaire（日本語）：『園芸家の庭』 発行者・出版社・印刷所：F. et E. Gyselynck 発行地：Gent 刊行年：1851-1854 版：初版 巻号数：4v. 総頁数：t.1: 128p.; t.2: 159p.; t.3: 162p.; t.4: 90p. 総図版数：t.1: 108; t.2: 108; t.3: 109; t.4: 105 図版制作者：Edoward Traviès（素描家）；Annedouche, Beyer, Forget, Mme. Fournier, Manceau,（以上彫版師） 使用言語：仏語 序文：有、出版者序文有 書籍サイズ：175×245×380 慶應義塾大学図書館の分類番号：120Y-438-4-1～4

植物図鑑のさまざまな刊行パターンの中で、園芸場や種苗会社が手持ちの株を宣伝する彩色カタログとして定期的に発行する慣習がある。これをフロリレジウム「花譜」と呼ぶ。200年以上も続く花譜『カーチスの植物学雑誌』もキュー・ガーデンを背景として新入荷植物入手法、栽培法を解説したカタログ雑誌なのである。こうした花譜を一番華々しく制作したのがベルギーのヘントであった。そこにシャルル・ルメールという人物がいて、きらびやかな園芸種が次々と登場する雑誌を刊行した。その一つが『園芸家の庭』（1851-1854）である。



展示図版：アカバナヒツジグサ 巻号頁数：t.2 版画技法：リトグラフ（手彩色） 刊行年：1852



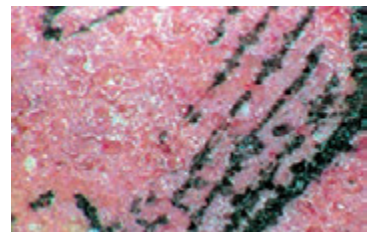
参考図版：ニンフェア・ギガンテア 巻号頁数：t.3 版画技法：リトグラフ（手彩色） 刊行年：1853



全体図



DMS : 50 倍



DMS : 175 倍

## (86) 花と植物 4 ケース：28-3

著者名（原語）：Moggridge, John Traherne [1842-1874]（日本語）：モグリッジ 書名（原語）：Contributions to the flora of Mentone and to a winter flora of the Riviera : including the coast from Marseilles to Genoa（日本語）：『マントンの花とリヴィエラの冬花図譜』 発行者・出版社・印刷所：L. Reeve 発行地：London 刊行年：1874 版：第3版 巻号数：1v. 総頁数：170p 総図版数：97（51<sup>bis</sup>, 52<sup>bis</sup>含めて99） 図版制作者：Moggridge（素描家）；William Clark, W. Dickes, Vincent Brooks（以上リトグラフと刷り師） 使用言語：英語 書籍サイズ：180×260×370 慶應義塾大学図書館の分類番号：120Y-487-1



展示図版：アネモネ 巻号頁数：Plate 51 制作者：Vincent Brooks（リトグラフと刷り師） 版画技法：リトグラフ（手彩色） 刊行年：1874





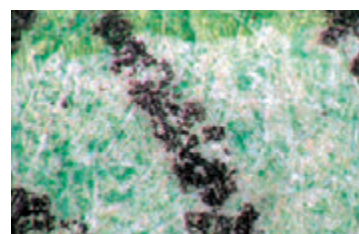
参考図版：ポテンティラ・サクシフラガ（キジムシロ属） 巻号頁数：Plate 10 版画技法：リトグラフ  
（手彩色） 刊行年：1874



全体図



DMS : 50 倍



DMS : 175 倍

## (87) 花と植物 5 ケース：29-1

著者名(原語)：Tournefort, Joseph Pitton de [1656-1708](日本語)：トゥルヌフォール 書名(原語)：Elémens de botanique, ou, méthode pour connoître les plantes (日本語)：『植物学入門』 発行者・出版社・印刷所：Imprimerie royale 発行地：Paris 刊行年：1694 版：初版 巻号数：3v. 総頁数：[18], 562p., [20] 総図版数：235 図版制作者：[Aubriet の原画にもとづく] Vermeulen (彫版師) 使用言語：仏語 序文：有 目次：有 索引：有 書籍サイズ：143×220×305 慶應義塾大学図書館の分類番号：120X-844-3-1～3

トゥルヌフォールは南仏エクス＝アン＝プロヴァンス生まれの高名な植物学者。幼時より植物に強い関心を示す。父の命でエクスの神学校に入るも、神学をおろそかにして、ラテン語、自然学、化学、医学、とりわけ植物学を学ぶ。1677年、父が死んで自由になった彼は、エクスの薬剤師から植物に関する実践的な知識を学び、南仏、ドフィネやサヴォワの山地を歩いて植物採集に専念、ついでモンペリエに赴いて医学と解剖学を修めた。まだ著作もないのにトゥルヌフォールの評判は高く、1683年、パリ王立植物園の植物学教授に任命される。植物園のコレクションを補強する目的で、スペイン、ポルトガル、英国、オランダを訪問、帰国後、科学アカデミー会員に推挙される。1694年、処女作である『植物学の基礎』を著して、ヨーロッパ中に名声を確立。1700年、国王ルイ14世の前で学位論文を披露。国王の命により、1700年から17001年にかけて、素描家のオーブリエらと中近東地域に大規模な学術調査を敢行、各地からパリにおびただしい収集品を送るかたわら、現地での研究と観察に専念した。帰国後はコレージュ・ド・フランスの医学教授に任命される。晩年の6年間はパリを離れることなく、コレクションの整理や、植物園の管理や教育に専念した。



展示図版：パパベル 巻号頁数：t.2, Pl. 120 版画技法：エッチング 刊行年：1694



参考図版：ハラタケ 巻号頁数：t.3, Pl. 330 版画技法：エッチング 刊行年：1694

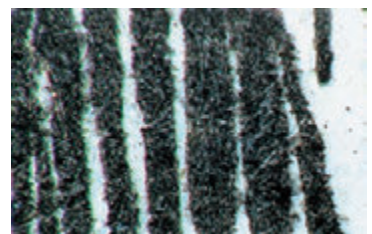
英国のレイと並んで、トゥルヌフォールの植物分類は、リンネ以前のもっとも優れた体系だった。レイの体系は果実や種子、とりわけ子葉の数に注目し、トゥルヌフォールは花冠、すなわち花卉の集合様態を重視した。花冠は植物中もっとも変化に富み、美しい部分であるから、そこに着目して、植物を有弁と無弁に分け、さらに有弁を単弁、多弁などに分類していくやり方である。本書『植物学の基礎』は図が豊富であることが特長で、「植物の名を知るための方法」という副題が示すように、専門家のみならず、多くの植物愛好家にも利用され、人気を博した。



全体図



DMS : 50 倍



DMS : 175 倍



## (88) 花と植物 5 ケース：29-2

書名（原語）：Botanical Magazine, or, Flower-Garden displayed（日本語）：『植物学雑誌』 発行者・出版社・印刷所：Sherwood, Neely, & Jones 発行地：London 刊行年：1801-1844（創刊は1787） 巻号数：56v.（慶應義塾大学所蔵分） 使用言語：英語 書籍サイズ：150×247×322 慶應義塾大学図書館の分類番号：120Y-509-7-39/40～48

18世紀後半は大航海の副産物として、異国の珍品・奇品がもてはやされ、とりわけ異国産植物の栽培が流行した。リンネ派のウィリアム・カーチス（1746-1799）は英国の博物学者。ロンドンで薬剤商を営むかわら、植物学と昆虫学に関する多くの著作を刊行した。『カーチスの植物学雑誌』は、英国最初の植物学雑誌で、新種・珍種の植物が美しい手彩色銅版画で紹介され、愛好家の間で熱狂的な人気を博した。現在なお刊行され続けている希有な雑誌である。



展示図版：ペラドンナ・リリー 巻号頁数：vol. 47, No. 2273 1821年11月1日号 制作者：W. Herbert（素描家）；Weddell（彫版師） 版画技法：エッチング（手彩色） 刊行年：1821



参考図版：ひがんばん科ブルンスビギア属 巻号頁数：vol. 39, No. 1619. 1814 年 2 月 1 日号

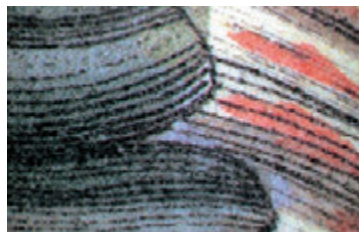
制作者：Syd'm Edwards（素描家）；F. Sanson（彫版師） 版画技法：エッチング（手彩色）

刊行年：1814

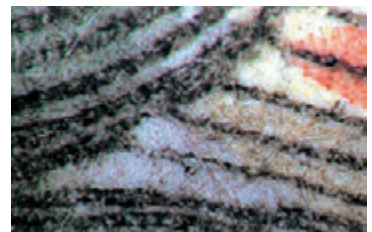
ボタニカル・マガジンこと『植物学雑誌』が人気を博していた 19 世紀初頭、スイス人の植物学者ゲスナーは、前世紀末のヨーロッパにはすでに1600の植物園があったと報告している。すでにこの頃から、たんに薬草栽培と教育の場としてだけの植物園は衰退し、より広い大衆に向かって開かれた大規模な植物栽培の現場として発達し始める。一般向けの短期園芸講座なども開設され、大人のみならず子供にまで門戸を開放した。なかでも英国のキュー・ガーデンは、珍種・新種の発見のために採集旅行団を派遣したり、育成可能な土地に安価な植物を提供したりして、植物熱昂進に大きく貢献した。キュー・ガーデンが広めた植物には、インドゴムノキ、パイナップル、バナナ、紅茶、コーヒー、カカオ、キナノキ、さまざまな樹木などである。



全体図



DMS：50 倍

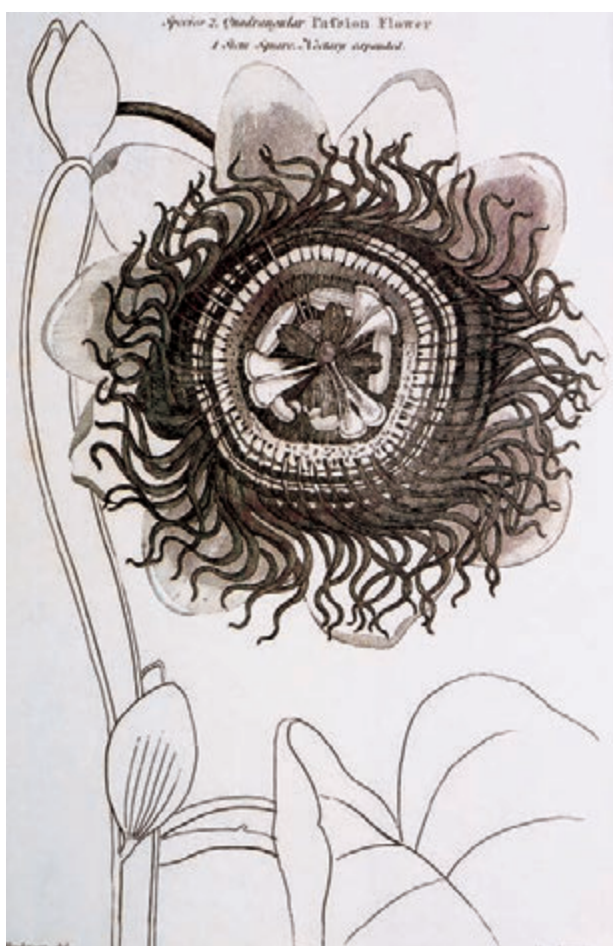


DMS：175 倍

### (89) 花と植物 5 ケース：29-3

著者名（原語）：Thornton, Robert John [1768–1837]（日本語）：ソーントン 書名（原語）：Elements of Botany（日本語）：『植物学基礎』 発行者・出版社・印刷所：[Printed for the Author by J. Whiting] 発行地：London 刊行年：1812 巻号数：1v. 総頁数：（図版のみ） 総図版数：159 図版制作者：P. Oudart（素描家）；Demanne, G. Engelmann, C. Molte（以上彫版師） 使用言語：英語 書籍サイズ：165×250×340 慶應義塾大学図書館の分類番号：120Y-524-1

ソーントンは、フランスのトゥルヌフォール同様、父親の意志により大学で神学を学ばされたが、興味が湧かず、医学と植物学に関心を抱く。やがて医学博士の称号を獲得して、ロンドンで医療を営むが、彼の名を不朽にしたのはやはり植物学の業績だった。『植物学基礎』は『フローラの神殿』と並ぶ代表作で、ほかに医学と植物学との接点から生まれたような『家庭の植物学または医療植物学全教程』（1810）がある。



展示図版：トケイソウのなかま 巻号頁数：Pl.13 制作者：Henderson（素描家）；Mazell（彫版師）  
版画技法：エッチング 刊行年：1812





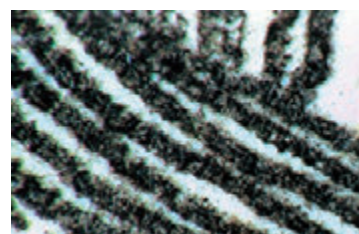
参考図版：ヤドリギ 巻号頁数：Pl.3 制作者：Henderson（素描家）；Thomson（彫版師） 版画技法：エッチング 刊行年：1812



全体図



DMS : 50 倍



DMS : 175 倍

## (90) 花と植物 6 ケース：30-1

著者名（原語）：Hooker, William Jackson, Sir, [1785-1865]（日本語）：フーカー 書名（原語）：Pomona Londinensis : containing coloured engravings of the most esteemed fruits cultivated in the British gardens（日本語）：『ロンドンの果実』 発行者・出版社・印刷所：William Hooker ; printed by D.N. Shury 発行地：London 刊行年：1818 版：初版 巻号数：1v. 総図版数：49 図版制作者：William Hooker 使用言語：序文：有 目次：有 書籍サイズ：255×339×520 慶應義塾大学図書館の分類番号：141Y-46-1

フーカーは商業を捨てて、博物学を研究し、1809年、『アイスランド紀行』で評価をえた。1815年、植物学者ターナーの娘と結婚、同時にグラスゴーで植物学を講じて人気を博し、当地の植物園設立に奔走した。1840年、王立植物園である「キュー・ガーデン」初代園長となる。当園は彼の努力で英国でも指折りの美しい植物園に成長。王立協会会員、リンネ協会の副会長も務める。英国における植物学の普及に対するフーカーの貢献には絶大なものがあった。



展示図版：セイヨウナシの一種 巻号頁数：XXVII 版画技法：エッチング、アクアチント（多色刷、手彩色） 刊行年：1818



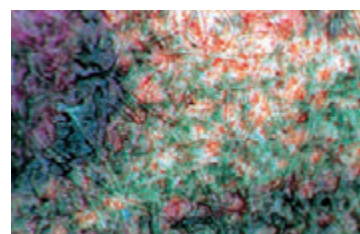
参考図版：ブドウ 巻号頁数：XLV 版画技法：エッチング、アクアチント（多色刷、手彩色） 刊行  
年：1818



全体図



DMS : 50 倍



DMS : 175 倍



## (91) 花と植物 6 ケース：30-2

著者名（原語）：Risso, Antoine [1777-1845] & Poiteau, Antoine [1766-1854]（日本語）：リソ & ポワトゥー 書名（原語）：Histoire naturelle des orangers（日本語）：『オレンジの自然誌』 発行者・出版社・印刷所：Audot 発行地：Paris 刊行年：1818-1822 版：初版 巻号数：1v. 総頁数：280p. 総図版数：109 図版制作者：Bordes, Hocquart, Poiteau（以上素描家）；Gabriel, A. Hocquart, Hocquart jeune（以上彫版師） 使用言語：仏語 序文：有 目次：有 書籍サイズ：270×340×560 慶應義塾大学図書館の分類番号：141Y-27-1

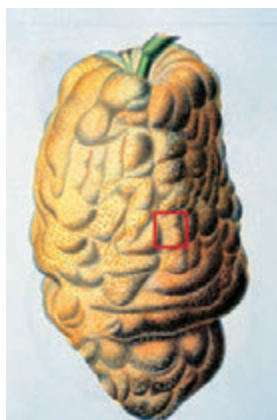
南仏ニース生まれのリソと、博物画家ポワトゥーとの協力作品。リソは地元ニースのリセで教師をしながら、もっぱら南仏の魚類の研究で名をあげた。『ニース近郊の甲殻類の自然誌』（1816年）、『ニースの魚類、またはアルプ＝マリチーム県の魚類誌』（1810年）などの著作がある。



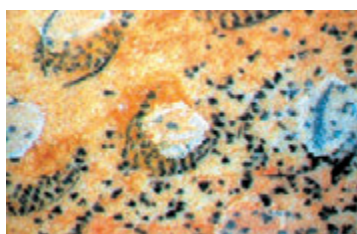
展示図版：（巨大な実をつける）サロの仏手柑 巻号頁数：Tab. 99 制作者：Poiteau（素描家）；Gabriel（彫版師） 版画技法：エッチング（手彩色） 刊行年：1818-1822



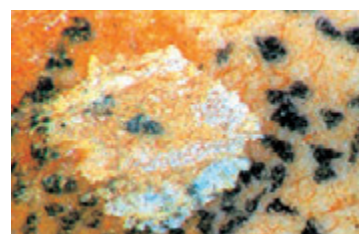
参考図版：オレンジ 巻号頁数：Tab. 7 制作者：Poiteau（素描家）；Gabriel（彫版師） 版画技法：エッチング（手彩色） 刊行年：1818-1822



全体図



DMS : 50 倍



DMS : 175 倍

## (92) 花と植物 7 ケース：31-1

著者名(原語) : Jaume Saint-Hilaire, Jean Henri [1772-1845](日本語) : ジョーム・サン＝ティレー  
ル 書名(原語) : Plantes de la France, décrites et peintes d'après nature (日本語) : 『フランスの  
植物』 発行者・出版社・印刷所 : 著者自宅 発行地 : Paris 刊行年 : 1819-1822 (t.1: 1822; t.2:  
1822; t.3: 1822; t.4: 1822; t.5: 1819; t.6: 1819; t.7: 1820; t.8: 1821; t.9: 1822; t.10: 1822) 版 : (初版  
1805-1822) 巻号数 : 10v. 総頁数 : t.1: x, xxviii, 130p.; t.2: 164p.; t.3: 132p.; t.4: 140p.; t.5: 94p.;  
t.6: 92p.; t.7: 98p.; t.8: 106p.; t.9: 124p.; t.10: 136p. 総図版数 : t.1: 94; t.2: 113; t.3: 94; t.4: 99; t.5:  
100; t.6: 100; t.7: 100; t.8: 100; t.9: 100; t.10: 98 図版制作者 : Dubreuil, Deron 使用言語 : 仏語  
序文 : 有 書籍サイズ : 175×255×380 慶應義塾大学図書館の分類番号 : 120Y-489-10-1~10

軍隊生活を送った後、ジョーム・サン＝ティレーは 1800 年にパリに行き、ジュシユー、ドー  
バントン、ラマルクらの講義を受講、博物学に熱中するかたわら、花の素描と画法を学んだ。  
著書の印刷で出費がかさみ、生涯貧困に苦しむ。折しも皇帝ナポレオンは布告を出して、必需  
品の外国産物質に取って代わりうる国産の物質を発見した者に 10 万フランの賞金を約束し  
た。ジョーム・サン＝ティレーは外来の天然染料インジゴに換えて、美しい藍色を生み出す  
染料物質を提案するが、採用されずに終わった。本書は全 10 巻におよぶ彼の代表作。



展示図版 : ナナカマドの一種 巻号頁数 : t. VIII, 740 版画技法 : エッチング、ステイップル (多色刷  
り、プベ法) 刊行年 : 1821

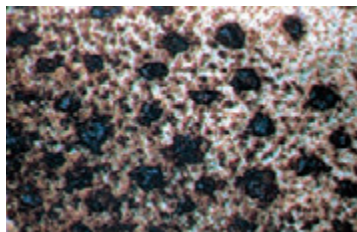




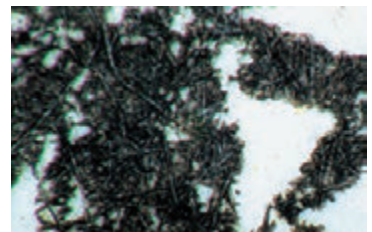
参考図版：カイガンショウあるいはピナスターマツ。フランスや地中海の海岸砂丘に育つマツ 巻  
号頁数：t. X, 993 版画技法：エッチング、ステイプル（多色刷り、ズペ法） 刊行年：1822



全体図



DMS : 50 倍



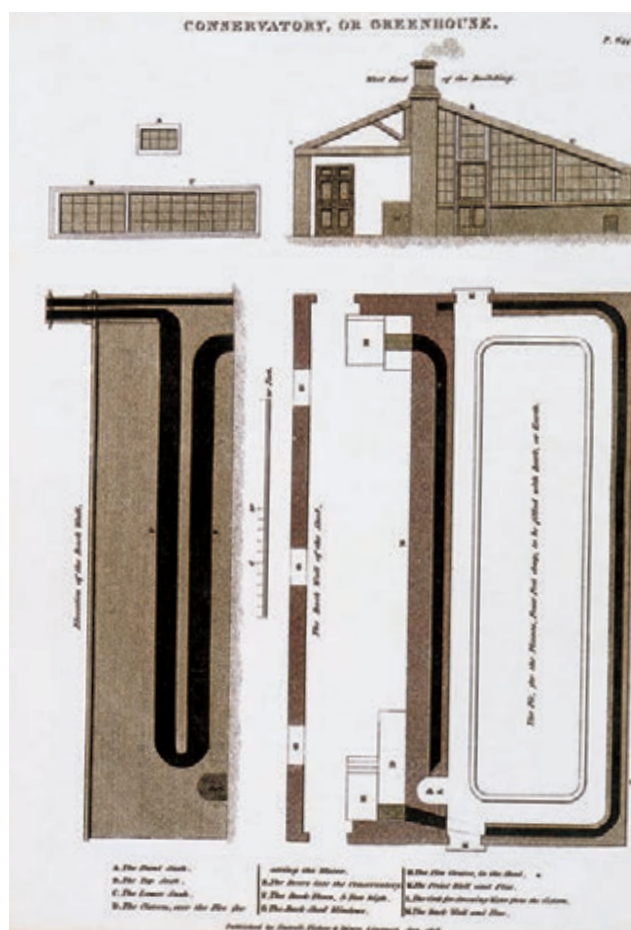
DMS : 175 倍

### (93) 花と植物 7 ケース：31-2

著者名 (原語) : Green, Thomas [?-?] (日本語) : グリーン 書名 (原語) : The Universal Herbal; or, botanical, medical, and agricultural Dictionary : containing an account of all the known plants in the world, arranged according to the Linnean system. Specifying the uses to which they are or may be applied, whether as food, as medicine, or in the arts and manufactures, with the best methods of propagation, and the most recent agricultural improvements... (日本語) : 『植物誌一般』 発行者・出版社・印刷所 : Caxton Press 発行地 : London 刊行年 : [1824] 版 : 第2版 (初版 1822) 巻号数 : 2v. 総頁数 : t. : 1, 790p.; t.2 : 885p. 総図版数 : t.1: 54 ; t.2: 50 図版制作者 : Bigant, Du-bois, Forge, Gantier, Lambert, Mme. E. Poule, J. Turpin, W.M. Craig (以上素描家) ; R. Hicks, W. Swift, F. Dixon, T. Smith, F. Hilliard, H. Frederick, W. Mallinson, D.W. Campbell, G. Dobie, H. Robinson, J. Davies (以上彫版師) 使用言語 : 英語 序文 : 出版者序文有 書籍サイズ : 230×280×500 慶應義塾大学図書館の分類番号 : 120Y-465-2-1~2



展示図版 : トウガラシ 巻号頁数 : t.1, p.245 版画技法 : エッチング (手彩色) 刊行年 : 1816



参考図版：温室 巻号頁数：t.1, p.644 版画技法：エッチング 刊行年：1818

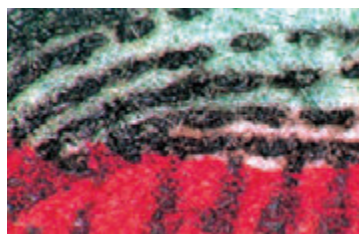
ロンドン郊外のリッチモンドとキューの間のテムズ川沿いにあるキュー・ガーデンには、現在 2ha 以上の温室があるが、トマス・グリーンが紹介しているこの温室も、当時王立植物園になる直前のキュー・ガーデンのグリーン・ハウスと同じような様態を見せていたものと想像される。キュー・ガーデンは 1759 年、ジョージ 3 世の母だったオーガスタによって設立された。19 世紀には多くの温室がつくられ、ヤシ園や果樹園などが注目されたことで知られる。



全体図



DMS : 50 倍



DMS : 175 倍



#### (94) 花と植物 7 ケース：31-3

著者名(原語)：Roques, Joseph [1772-1850] (日本語)：ロック 書名(原語)：Histoire des champignons comestibles et vénéneux : où l'on expose leurs caractères distinctifs, leurs propriétés alimentaires et économiques, leurs effets nuisibles et les moyens de s'en garantir ou d'y remédier, ouvrage utile aux amateurs de champignons... (日本語)：『キノコの自然誌』 発行者・出版社・印刷所：Treuttel et Wurts 発行地：Paris 刊行年：1832 版：初版 巻号数：1v. 総頁数：192p. 総図版数：24 図版制作者：Bordes, Hocquart (素描家)；Gabriel, A.Hocquart, Hocquart jeune (彫版師) 使用言語：仏語 序文：有 目次：有 索引：有 書籍サイズ：235×300×485 慶應義塾大学図書館の分類番号：120Y-511-1



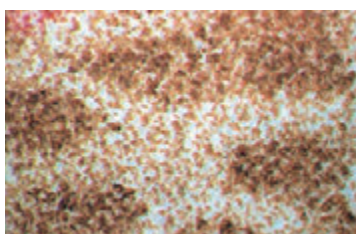
展示図版：ドクヤマドリ 巻号頁数：Pl.6 制作者：Bordes(素描家)；Gabriel(彫版師) 版画技法：エッチング、ステイップル(多色刷り、プペ法) 刊行年：1832



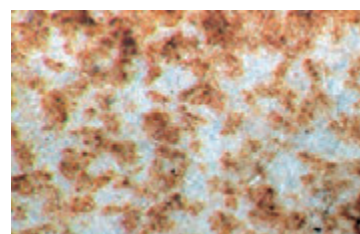
参考図版：1. 未詳 2. ヤマドリタケ 巻号頁数：Pl.4 制作者：Bordes (素描家)；A. Hocquart (彫版師)  
 版画技法：エッチング、ステイップル（多色刷り、プベ法） 刊行年：1832



全体図



DMS：50 倍



DMS：175 倍

## (95) 花と植物 8 ケース：32-1

著者名（原語）：Chaumeton, François Pierre [1775-1819]（日本語）：ショームトン 書名（原語）：Flore médicale（日本語）：『薬草図譜』 発行者・出版社・印刷所：Panckoucke 発行地：Paris 刊行年：1833-1835 版：「新版」 巻号数：6v. (t.1: A-BAS; t.2: BAU-CHE; t.3: CHI-FR; t.4: FU-MEL; t.5: MEN-QU; t.6: R-Z 総頁数：t.1: ix, 177p.; t.2: 192p.; t.3: 205p.; t.4: 213p.; t.5: 240p.; t.6: 227p. 総図版数：t.1: 60; t.2: 58; t.3: 59; t.4: 59; t.5: 59; t.6: 59 図版制作者：Mme. E. Poule, E. Parckoucke, J. Turpin（以上素描家）；Gautier, Mme Beres, Lambert, Lambert Je, Goudet, Poulet, Dubois, Bigant, Forget（以上彫版師） 使用言語：仏語 書籍サイズ：190×290×395 慶應義塾大学図書館の分類番号：120Y-471-6-1～6

ショームトンはフランスの医師。軍事病院の外科医やオランダ軍従軍医師などを歴任。博覧強記にして筆の立つ人物だった。主著には医学関係書が多く、医学事典の監修者などをつとめる。本書も薬草を扱い、著者の幅広い学識が遺憾なく発揮されている。



展示図版：ハラタケのなかま 巻号頁数：t.1, 6 制作者：Mme E.P.（素描家）；Gautier（彫版師） 版画技法：エッチング（手彩色） 刊行年：1833

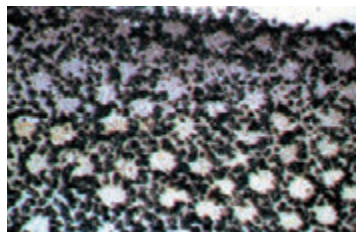




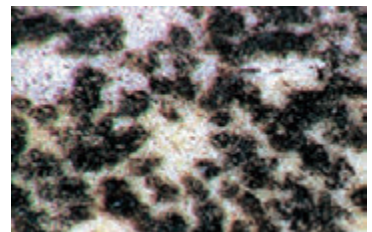
参考図版：糸杉 巻号頁数：t.3, 147 制作者：Turpin（素描家）；Lambert Je（彫版師） 版画技法：エッチング（手彩色） 刊行年：1833



全体図



DMS : 50 倍



DMS : 175 倍

## (96) 花と植物 8 ケース：32-2

著者名（原語）：Pfeiffer, Ludwig Georg Karl [1805-1877]（日本語）：プファイファー 書名（原語）：Abbildung und Beschreibung Blühender Cacteen = Figures des cactées en fleur : peintes et lithographiées d'après nature : avec un texte explicatif（日本語）：『サボテン花譜』：発行者・出版社・印刷所：T. Fischer 発行地：Kassel 刊行年：1843 巻号数：2pts into 1v. 総頁数：頁なし 総図版数：60 図版制作者：J. Prestele（素描家）；B. Dondorf, G. Francke, Th. Fischer（リトグラフ兼刷り師） 使用言語：独語、仏語序文 図版目次：有 書籍サイズ：270×340×560 慶應義塾大学図書館の分類番号：141Y-37-1-1

プファイファーはドイツの医師で博物学者。ゲッティンゲンとマールブルクで医学を修め、1825年に博士号取得。パリとベルリンの病院勤務を経て、カッセルで開業。1831年のポーランド反乱の折りには外科医として従軍。各地で活躍した。やがて、ドイツとオランダを旅行してサボテン研究のための資料を収集。さらに足を伸ばして、キューバ、パリ、ロンドン、ウィーンを歴訪し、視野を広げる。サボテンに関する著作の他にも、軟体動物、貝類、マイマイ、花などに専門は及んでいる。



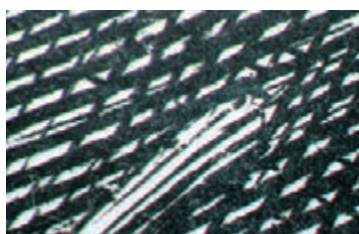
展示図版：サボテンのなかま 巻号頁数：t.1, Taf. XXVII（前半の分冊） 制作者： 版画技法：リトグラフ（手彩色） 刊行年：1843



参考図版：サボテンのなかま 巻号頁数：t.2, Taf. V（後半の分冊） 制作者：Fischer（リトグラフ）  
版画技法：リトグラフ（手彩色） 刊行年：1846-1850



全体図



DMS : 50 倍



DMS : 175 倍



## (97) 地下世界 ケース：33-1

著者名（原語）：Mantell, Gideon Algernon [1790–1852],（日本語）：マンテル 書名（原語）：A pictorial atlas of fossil remains : consisting of coloured illustrations（日本語）：『化石図譜』 発行者・出版社・印刷所：H.G. Bohn 発行地：London 刊行年：1850 版：初版 巻号数：1v. 総頁数：xii, 207p. 総図版数：75 図版制作者：J.D. Meyer, Joseph Dinkel（素描家兼リトグラフ）；S. Springsguth（素描家兼彫版師）；J. Curtis（素描家）；Weddell（彫版師）；E.T. Artis, Sheffield（以上素描家） 使用言語：英語 序文：有 目次：有 図版目次：有 書籍サイズ：240×295×510 慶應義塾大学図書館の分類番号：120Y-470-1

マンテルはスイス生まれの地質学者。薬学と医学を学んでから、英国に渡り、年金を受けてロンドンに住んだ。マンテルはとりわけ地質学の分野で大きな業績をあげたことで名をなした。白亜紀の地層から、それまで未発見の多くの動物化石を発掘。1825年、イグアノドンを発見してロンドンの王立協会会員に推挙され、さらにプレシオサウルス、メガロサウルスと続く。後半生は国家からの数々の恩賞と勲章に輝く生活だった。



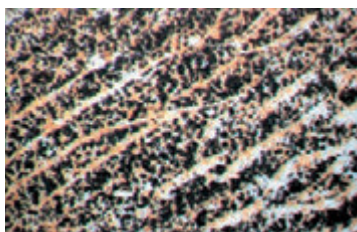
展示図版：モア（巨鳥。ニュージーランドにかつて棲息。絶滅種）の右足。実物の三分の一 巻号頁数：巻頭 版画技法：リトグラフ（手彩色） 制作者：Joseph Dinkel（素描家兼リトグラフ）；M & N（刷り師） 刊行年：1850



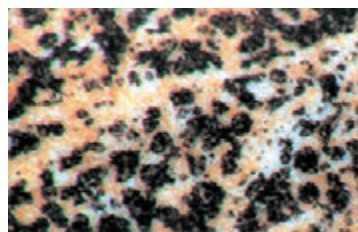
参考図版：オハイオ州で見つかったmastodonsの臼歯の化石 巻号頁数：Pl.74 制作者：S.Springsguth（素描家兼彫版師） 版画技法：木口木版（手彩色） 刊行年：1850



全体図



DMS：50 倍



DMS：175 倍

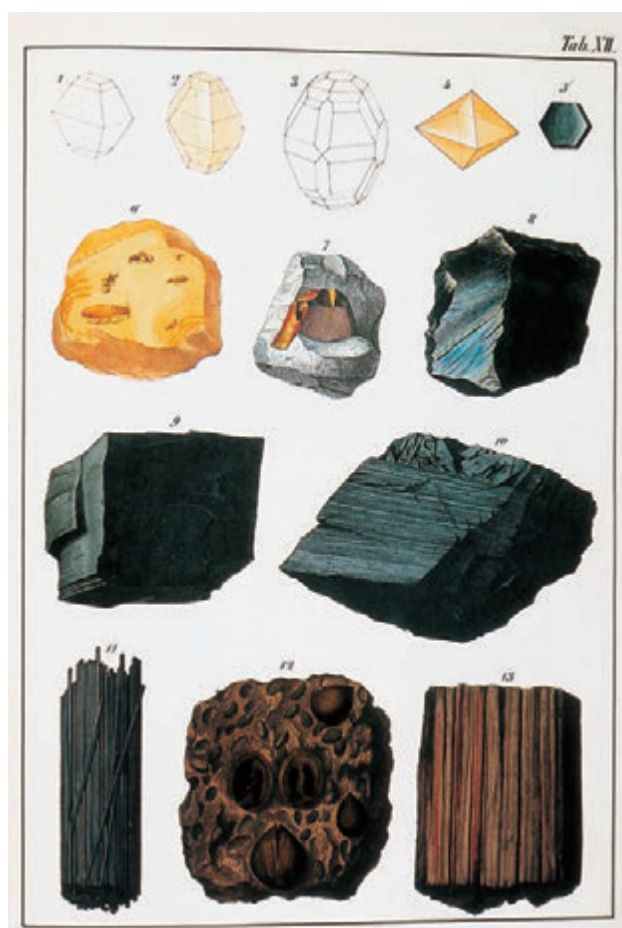
## (98) 地下世界 ケース：33-2

著者名（原語）：Kurr, Johann Gottlob von [1798-1870]（日本語）：クーア 書名（原語）：The Mineral Kingdom（日本語）：『鉱物世界』 発行者・出版社・印刷所：Edmonston and Douglas 発行地：Edinburgh 刊行年：1859 版：初版 巻号数：1v. 総頁数：iii, 70p. 総図版数：24（うち12点彩色） 使用言語：英語 序文：有 目次：有 書籍サイズ：260×365×535 慶應義塾大学図書館の分類番号：120Y-461-1



展示図版：石英とオパール 巻号頁数：Tab. IV 版画技法：リトグラフ（手彩色） 刊行年：1859  
石英はシリカ（二酸化ケイ素）からなり、岩石の構成物としてよく知られる。結晶形が無色透明のものは水晶とよばれる。オパールは、水分子をふくむ二酸化ケイ素の鉱物で、石の内部で虹のような光沢を放つ。



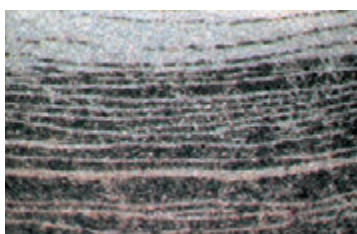


参考図版：Fig: 1-3. 硫黄；Fig: 4. ハネー・ストーン；Fig: 5-7. 黒鉛；Fig: 8-10. 石炭；Fig: 11-13. 褐炭  
 巻号頁数：Tab. XII 版画技法：リトグラフ（手彩色） 刊行年：1859

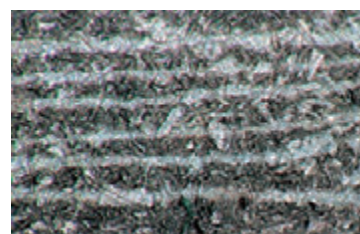
製鉄用に、石炭乾留によってコークスを製造することが、18世紀、石炭のもっとも重要な利用法だった。ただ、乾留からえられるガスとコールタールは捨てられていた。19世紀に入ると、ガスの照明用に乾留が盛んに行われるようになった。20世紀に石油がエネルギー源を支配するまで、都市ガスの原料は石炭乾留によるガスだった。また、石炭の低温乾留からえられるコールタールは、19世紀中頃から染料の製造や、各種の薬品、有機化学製品、医薬などの製造技術に不可欠の物質となった。



全体図



DMS：50 倍



DMS：175 倍

## (99) 大航海 1 ケース：34-1

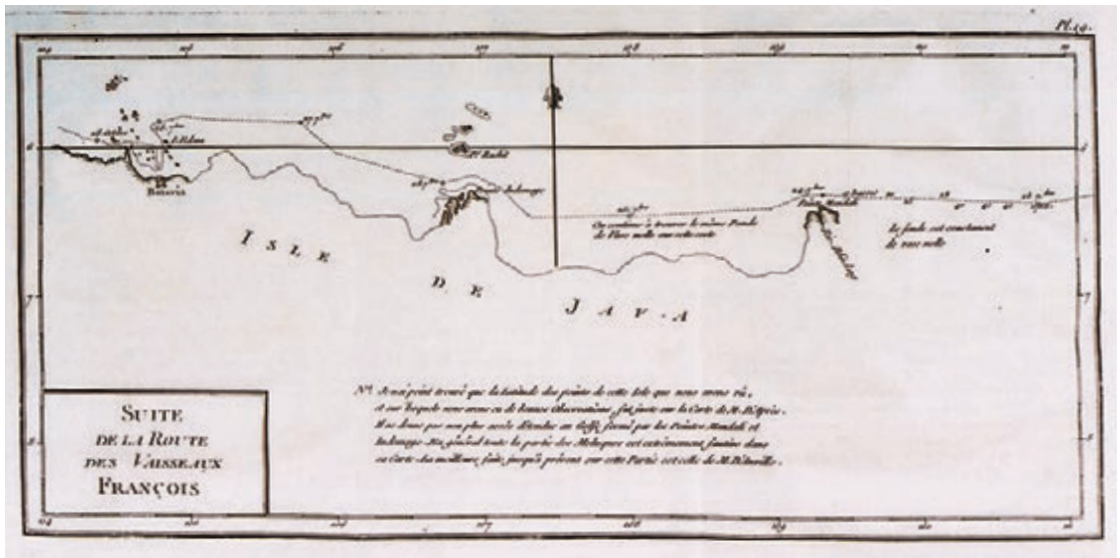
著者名（原語）：Bougainville, Louis-Antoine, comte de (1729-1811)（日本語）：ブーガンヴィル  
書名（原語）Voyage autour du monde : sur la frégate la Boudeuse et la flûte l'Etoile de 1766 à 1769  
（日本語）：『世界周航記』 発行者・出版社・印刷所：Alphonse Pigoreau 発行地：Paris 刊行  
年：1771 版：初版 巻号数：1v. 総頁数：viii, 312p. 総図版数：24 使用言語：仏語 序  
文：有 目次：有 図版目次：有 書籍サイズ：200×258×422 慶應義塾大学図書館の分類  
番号：120Y-80-1

イギリスのクックと並び称されるフランスの大航海者ブーガンヴィルは、7年戦争を戦った軍人でもあり、イギリスの大植民地建設の野望を誰よりも実感していた。南米フォークランド諸島の植民地化を企てたのもそのためである。この計画は実施に移されたのも束の間、スペイン政府の抗議にあって頓挫する。そこでブーガンヴィルは新たな海洋探検を企画し、国王の命令書を受けて、1767年から1769年にかけて世界周航の旅に出た。太平洋でサモア、ソロモンなどの島を発見したが、とりわけタヒチに滞在した体験の記述は、『世界周航記』の刊行後、ヨーロッパに「タヒチもの」を流行させるきっかけを作った。



参考図版：「ブドゥーズ」号と「エトワール」号の世界周航路の展開 巻号頁数：Pl. 1. 版画技法：エッチング 刊行年：1771

ブーガンヴィルの航海は、むろん、18世紀後半に全ヨーロッパを席卷した第2次大航海ブームに棹さす企てである。その主たる目的は、太平洋の探検、とりわけ伝説の南方大陸の発見、そして七年戦争の敗北後に新しい植民地を獲得し、また新しい貿易市場を見つけることであった。ブレスト港出航は1766年12月5日、手漕軍艦「ブドゥーズ」号と補給船「エトワール」号の二隻仕立てだった。マゼラン海峡を渡り、タヒチに滞在してそこの夢のような生活を記し（1768年6月）、ニューヘブリデス諸島、ニューギニアをへて、フランス島（現在のモーリシャス）に留まり、喜望峰をまわって1769年3月16日にサン＝マロに帰港した。紀行文『世界周航記』は空前の評判となり、タヒチのエピソードを中心に「善良な未開人」や「自然状態」神話を誕生させた。その後、ブーガンヴィルはアメリカ独立戦争にも参加し、大革命時には海軍司令官補にまで昇進するが、恐怖政治下では投獄、ナポレオン時代に復権し、数々の栄誉に輝いた。



展示図版：フランス船団の航路 巻号頁数：Pl. 19 版画技法：エッチング 刊行年：1771



全体図



DMS：50 倍



DMS：175 倍



## (100) 大航海 1 ケース：34-2

著者名 (原語) : Banks, Joseph [1743-1820] (日本語) : バンクス 書名 (原語) : Illustrations of Australian plants, collected in 1770 during Captain Cook's voyage round the world in H.M.S. Endeavour (日本語) : 『クック船長の「エンデヴァー号」による世界周航の折り、1770年に採集されたオーストラリアの植物図版集』 発行者・出版社・印刷所 : Printed by order of the Trustees of the British Museum ; sold by Longmans [etc.] 発行地 : London 刊行年 : 1900-1905 巻号数 : 3v. 総頁数 : t.1: 102p. ; t.2, 3 は図版のみ 総図版数 : t.1: 101 ; t.2: 143 ; t.3: 75 図版制作者 : F.P.Nodder, J.F. Miller, R. Morgan, John Creveley. (素描家); G. Sibelius, White, Goldar, R. Morgan, John Cleveley, D. Mackenzie, Robert Blyth. (彫版師) 使用言語 : 英語 序文 : 有 索引 : 有 書籍サイズ : 350×490×710 慶應義塾大学図書館の分類番号 : 3LB-112-1~3

1769年、太陽面を通過する金星を南太平洋で観察するために科学者を乗せての船出が、クックの最初の航海だった。レチフの小説によって代表される「南方大陸もの」は、ブーガンヴィルに続くジェームズ・クック船長の旅行なくしては不可能だったろう。その時、オーストラリア南岸にたどり着きながら、一行はこれがあこがれの南方大陸であることに気がつかなかった。英国海軍所属のエンデヴァー号には、ジョゼフ・バンクスという若い植物学者が乗り組んでいた。バンクスは少年期より植物研究に志し、何度も探検旅行の場数を踏んでいた。この遠征で、タヒチ、南アメリカ、南太平洋、そしてオーストラリアに関する膨大な情報がイギリスにもたらされた。この航海にはバンクスの他に若い青年画家シドニー・パーキンソンが同乗し、博物探検航海に博物画家が同行するというパターンを定着させた。さらにクックが遠征に学者を同乗させたことから、この大航海の博物学的成果を図鑑として刊行するという慣例が生まれたのである。帰国したバンクスはイギリスの英雄となり、大きな世俗的名誉をかちえるが、彼は生前に航海途中で病死した画家パーキンソンの残した植物図譜を刊行するという事業を完成することができなかった。公務に追われるバンクスは、ようやく原図 750 枚を選んで銅版画に刻ませ、その作業を 1784 年に終えるが、作業を終了させないままバンクスも鬼籍に入る。本図版は 1900 年に合計 300 図程度の図版が、モノクロで小部数刊行されたものである。バンクスとパーキンソンの図版集の全貌が色刷りで民間と大英博物館との共同で日の目を見るのは 1989 年のことであった。

この最初の航海の後、クックは 1772 年から 1775 年に第 2 回目、1776 年から 1780 年に第 3 回目の旅を行い、3 回目の旅の途上、ハワイで原住民に殺された。



**展示図版（左）：**単葉ジャスミン 巻号頁数：t.2, 195 制作者：James Miller（素描家：1773） 版画技法：印刷（版画の複製） 刊行年：1901

**参考図版（右）：**熱帯地方産アカテツ 巻号頁数：t.2, 193 制作者：James Miller（素描家：1775） 版画技法：印刷（版画の複製） 刊行年：1901

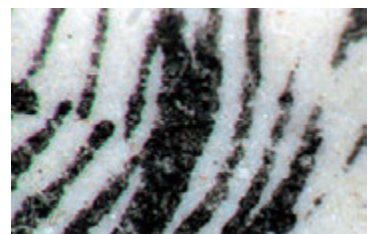
本書はバンクスたちによって、オーストラリアで採集された植物図譜である。オーストラリアの植生は、バンクスの関心を引くだけの、すこぶる特殊なものであった。固有種が多く、2万2000種におよぶ植物のうち90%以上が自生植物である。植生のほとんどが常緑で、密林やユーカリ林、マルガやマリー林、塩生灌木などいろいろである。マングローブやマツも多い。アカシアも代表的樹木で、多種ある。生きた化石といえる常緑高木のナンヨウスギ、ドライフラワーになるムギワラギクなどの人気植物はオーストラリア原産である。



全体図



DMS：50 倍



DMS：175 倍

## (101) 大航海2 ケース：35-1

著者名（原語）：Siebold, Philipp. Franz von [1796-1866]（日本語）：シーボルト 書名（原語）：Flora japonica（日本語）：『日本植物誌』 発行者・出版社・印刷所：記載なし 発行地：記載なし 刊行年：記載なし 巻号数：1v. 総頁数：213 総図版数：3 使用言語：ラテン語 序文：有 書籍サイズ：224×261×448 慶應義塾大学図書館の分類番号：120X-243-1

江戸後期に来日したドイツ人医師。肩書きはオランダ東インド会社の日本商館付医官。1823年ジャワに渡り、同年来航。弱冠27歳だった。長崎に鳴滝塾を開き、多くの日本人を蘭学者として育てた。彼が教えた学問は、医学、外科学、動植物学、薬学であり、苦手としていた理化学や鉱物学は助手のビュルゲルが担当した。併せて日本研究に専念。教職の立場を利用して、生徒に課題研究を課し、具体的なテーマについて調査させ、オランダ語でレポートを書かせた。1826年にはかつてのケンペルやチューンベリが行ったように、江戸参府旅行に出発。その折り密かに入手した地図や書類が、後の「シーボルト事件」に発展する機縁となった。29年、国外追放となり、膨大な資料と標本を持ち帰る。オランダで『日本』（1832-1852）、『日本動物誌』（1833-1850）、『日本植物誌』（1835-1842）を次々に刊行した。1859-1861年、再来日している。当時のオランダは、フランス革命とナポレオン戦争の後遺症に苦しみ、植民地の多くを奪われて、日本の現状に関する正確な情報入手を熱望していた。秀才シーボルトの活躍の背景には、こうした国家的要請が働いていたのである。



展示図版：押し葉2枚 巻号頁数：p.38

図鑑に実物を利用する試みは、ごく少数ではあるが古くからそれなりの成果を挙げてきた。本書もその例に漏れず、本物の花を押し花にして台紙に貼り付けているのである。蝶の羽を高圧で台紙に押し付け、燐粉を全て写し取ってしまう方法を用いた蝶類図鑑、魚拓方式を用いた化石図鑑なども同じ試みといえよう。



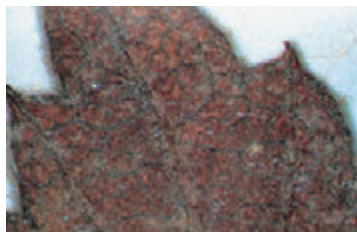


参考図版：A. レンゲショウマ (キンポウゲ科) B. シラネアオイ 巻号頁数：Tab I 版画技法：エッチング

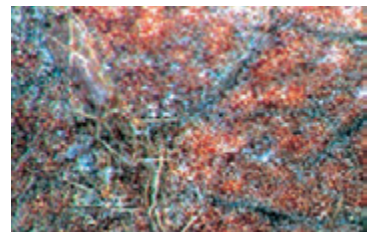
シーボルトは江戸参府の折り、熱田宮駅で尾張本草学の中心的人物である水谷豊文と会い、豊文の弟子伊藤圭介を長崎に呼んで、遊学させた。シーボルトはこの弟子をことのほか可愛がり、水谷豊文の『物品識名』に収録された和名・漢名を対訳させたりした。個物の羅列に徹する日本古来の本草学と、体系を重んじるリンネ式の西洋植物学とが、こうして初めて接触することになったのである。



全体図



DMS : 50 倍



DMS : 175 倍

## (102) 大航海2 ケース：35-2

著者名(原語)：Thunberg, Carl Peter [1743-1828](日本語)：チューンベリ 書名(原語)：Flora japonica : sistens plantas insularum japonicarum secundum systema sexuale... (日本語)：『日本植物誌』 発行者・出版社・印刷所：I.G. Müller 発行地：Lipsia (Leipzig) 刊行年：1784 版：初版 巻号数：1v. 総頁数：lii, 418p. (2) 総図版数：39 使用言語：ラテン語 序文：有 索引：有 書籍サイズ：123×208×265 慶應義塾大学図書館の分類番号：120X-231-1

1775 年に来日したスウェーデンの植物学者で医師のチューンベリは、『日本植物誌』(1784 年)が有名だが、それ以前に南アフリカの植物相の研究で重要な業績をあげていた。16 か月滞在した日本ではひそかに集めた植物と、杉田玄白ら蘭学者と交わり、植物学を教えたていどの収穫であった。帰国後はウプサラ大学で医学・植物学教授、やがて学長となり、ウプサラ大学博物館を開設した。この『日本植物誌』(1784) 以外にも、『ヨーロッパ・アフリカ・アジア紀行』(1793)があり、その中の『チューンベリ日本紀行』が有名。



展示図版：日本産シダ 巻号頁数：p.332-333, Tab. 35



参考図版：日本産アセビ 巻号頁数：p.180-181, Tab. 22

チューンベリの『日本植物誌』は日本滞在中に収集した標本をもとに、帰国後5年して完成した大著である。530種の植物すべてにリンネの2名法を適用して同定。師のシステムに準拠して分類・記述したもの。チューンベリに長崎のオランダ商館を介して標本を送り続けた、中川淳庵と桂川甫周という二人の弟子の協力も忘れてはならない



全体図



DMS : 50 倍



DMS : 175 倍



### (103) 大航海2 ケース：35-3

著者名(原語)：Helman, Isidore Stanislas Henri [1743-1806] (日本語)：エルマン 書名(原語)：Faits mémorables des empereurs de la Chine : tirés des annales chinoises : dédiés à Madame (日本語)：『中国皇帝故事』 発行者・出版社・印刷所：作者自宅 発行地：Paris 刊行年：[1788] 版：初版 巻号数：1v. 総頁数：24p. 総図版数：24 [26] 図版制作者：P. Bessa, Bittermann (以上素描家)；Baroy, Barrois, Bigant, Bittermann, Brion de la Tour, Carnonkel, M.G. Coignet, Denzel, Devisse, Goulet, Guyard filius, Guyard pater, Le Jeune, Susémihl (以上彫版師) 使用言語：仏語 序文：有 書籍サイズ：235×320×485 慶應義塾大学図書館の分類番号：141Y-56-1

エルマンはフランスの画家で、初めイタリアの風景画を手がけていたが、後に風俗的な翻刻版画を制作するようになる。この画集は、画家のアティレ (Jean Denis Attiret, 1702-1768) のオリジナル画に基づくと述べられている。アティレはジュラ地方のドール生まれ。イエズス会に入り、宣教師として中国へ赴くが、画才を認められ、皇帝乾隆のお抱え絵師となる。皇帝はタター人との戦いにおけるおのれの武勲を称揚する 16 枚の絵を所望した。アティレは北京に美術学校を設立、現地で没した。



展示図版：紂王 (Zhou-Xin) 巻号頁数：VIIe Estampe 版画技法：エッチング 刊行年：1788  
「紂王」と称した殷王朝最後の君主「紂辛」の日常を描く。いわゆる酒池肉林を行った暴君として知られる。



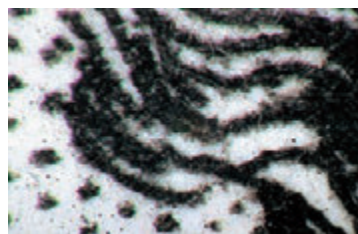
参考図版：梁朝の武帝 Wudi 巻号頁数：XVe Estampe 版画技法：エッチング 刊行年：1788



全体図



DMS : 50 倍



DMS : 175 倍

### (104) 大航海3 ケース：36-1

著者名（原語）：Daniell, Thomas [1749-1840] & Daniell, William [1769-1837]（日本語）：ダニエル（叔父と甥） 書名（原語）：A picturesque voyage to India: by the way of China（日本語）：『中国經由、インドへの眺めのいい旅』 発行者・出版社・印刷所：Printed for Longman, Hurst, Rees, and Orme, Paternoster-Row by T. Davison 発行地：London 刊行年：1810 版：初版 巻号数：1v. 総頁数：ii（頁なし） 総図版数：49 図版制作者：Thomas & William Daniel（素描家兼彫版師） 使用言語：英語 序文：有 書籍サイズ：275×360×580 慶應義塾大学図書館の分類番号：141Y-41-1

トーマス・ダニエルは英国の風景画家で版画家。初めは紋章画家の仕事をしていたが、甥のウィリアム・ダニエルを伴ってインドを旅し、数々の絵を制作して、のちに出版した。王立協会、アジア協会、古物愛好家協会の会員でもあり、インドに関する著作をのこしている。



展示図版：信天翁 巻号頁数：9 番目の図版 版画技法：エッチング、アクアチント（手彩色） 刊行年：1810



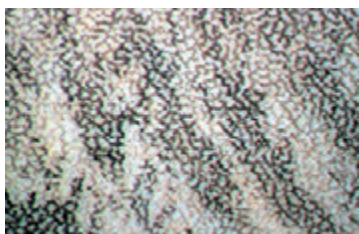


参考図版：中国庭園の眺め 巻号頁数：40 番目の図版 版画技法：エッチング、アクアチント（手彩色） 刊行年：1810

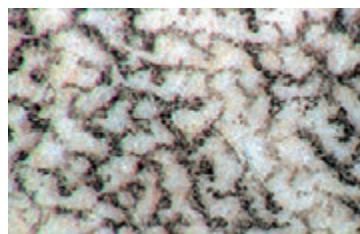
18世紀末の景観設計には、英国起源の中国趣味の建築や中国庭園をえがいた版画が大きな役割を果たした。すべて旅行家の紀行文や図版集からの影響である。17、18世紀，ヨーロッパの美術工芸に多くの影響をあたえた中国趣味は、19世紀に入ってそれ以外の異国趣味と共振する形で大きな文化的潮流となり、世紀末に頂点に達する。いわゆるオリエンタリズムの流行から、やがては東洋学が生まれてくる。



全体図



DMS：50 倍



DMS：175 倍

### (105) 大航海3 ケース：36-2

著者名（原語）：Pennant, Thomas [1726-1798]（日本語）：ペナント 書名（原語）：The View of India Extra Gangem, China, and Japan（日本語）：インド、中国、日本の景観 叢書名：Outlines of the Globe, The View of Hindoostan 発行者・出版社・印刷所：John White 発行地：London 刊行年：t.1: 1798; t.2: 1798; t.3: 1800; t.4: 1800 版：初版 巻号数：4v. 総頁数：v, 263p. 総図版数：9 図版制作者：Prêtre, Turpin, Joyeau, Massard, Victor, Calais, Mlle. Coignet, David, Perrot, H. Legrand, Schmelx, Grayard, Dien, Boutelou, Plée, Giraud, Turcaty, Forestier, Bessin, Louvier, Carnonkel, Rebel, Gabriel, J. Daniell, I.W. Hodges（以上素描家）; Barlow, F. Chesham, Medland, Palmer, Tomkins（以上彫版師） 使用言語：英語 序文：有 目次：有 図版目次：有 書籍サイズ：245-310-520 慶應義塾大学図書館の分類番号：141Y-43-4-1

ウェールズの動物学者で大旅行家。幼い頃より博物学に憧れ、学業を終えると、化石や鉱物の収集に専念。岩生植物に関する論文（1756）で、リンネにも注目され、ウプサラの王立協会外国人会員に推挙された。1761年、英国動物誌の著作刊行を開始。1765年、大陸に渡って、ビュフォン、ヴォルテール、ハラーらと交遊。1772年、スコットランド、ヘブリディーズ諸島、ウェールズ地方を歴訪。晩年は多くの著書執筆に過ごした。



展示図版：ガンジス川の嵐 巻号頁数：t.2, 291 制作者：I. W. Hodges（素描家）; Medland（彫版師）  
版画技法：エッチング 刊行年：1798



参考図版：ペナント氏による地球の概要第三巻（1800年）の地図 巻号頁数：t.3 巻頭の地図 制作者：B.Baker（彫版師） 版画技法：エッチング 刊行年：1800

ペナントは読みやすい英語で書く達人として知られる。『英国の動物誌』（1766）は、とりわけ鳥類学の分野で英国国内に大きな反響を呼び、『四足獣の自然誌』（1781）と『北極の動物誌』（1784-1785）も広範な読者層を獲得した。ギルバート・ホワイトが『セルボーンの博物誌』を捧げたのが、ほかならぬこのペナントであった。彼の数多い旅行記（スコットランド、ウェールズ、イングランド、さらにヨーロッパの諸国が多い）は、土地の風習、自然誌などについて価値ある情報を満載している。



全体図



DMS：50 倍



DMS：175 倍



### (106) 大航海 3 ケース：36-3

著者名（原語）：Malpica, Cesare [1801-1848]（日本語）：マルピカ 書名（原語）：Panorama dell'universo : storia e descrizione di tutti i popoli... : la China（日本語）：『世界の眺望 中国編』  
発行者・出版社・印刷所：Dallo Stabilimento Tipografico dell'Ateneo 発行地：Napoli 刊行年：1844 版：初版 巻号数：2v. 総頁数：244p. 総図版数：43 図版制作者：W. Stack 使用言語：伊語 目次：有 図版目次：有 書籍サイズ：180×260×370 慶應義塾大学図書館の分類番号：120Y-526-1

チェーザレ・マルピカはナポリ生まれの旅行作家。イタリア国内ではカラブリア（1845）、バジリカータ（1847）の探訪記などがある。『世界の展望 中国編』刊行の背景は、いうまでもなく1842年の南京条約で決着するアヘン戦争であり、英国、フランス、アメリカなどの欧米列強の前に清朝が事実上の「開国」を余儀なくされた状況がある。当時、ヨーロッパで刊行されたいわゆる「中国もの」は、すべて中国に対するこの軍事的優位に助けられた「オリエンタリズム」の産物である。以下に挙げるタイトルはいずれも、マルピカの書物と同じで図版に物言わせた評判の著書であった。ポーティエ『世界。全民族の歴史と記述。中国編』（1837-1853）、スミス『清国租界地探訪記』（1844）、ジロディエール『中国人』（1845）、ドゥーリトル『中国人の社会生活』（1868）、グレイ『中国人の風俗、慣習の歴史』（1878）。



展示図版：若い中国女性 巻号頁数：t.2, p.77 制作者：Dolphins dis. 版画技法：リトグラフ（手彩色、多色刷り） 刊行年：1844



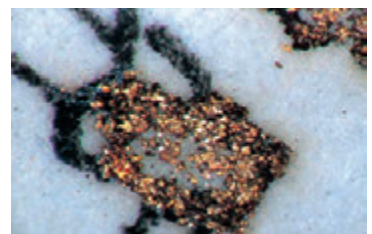
参考図版：1728 年の礼服姿の中国皇帝 巻号頁数：t.2, p.172 制作者：Dolfins dis. 版画技法：リトグラフ（手彩色、多色刷り） 刊行年：1844  
1728 年は清・雍正であるからして、皇帝は雍正帝。



全体図



DMS : 50 倍



DMS : 175 倍

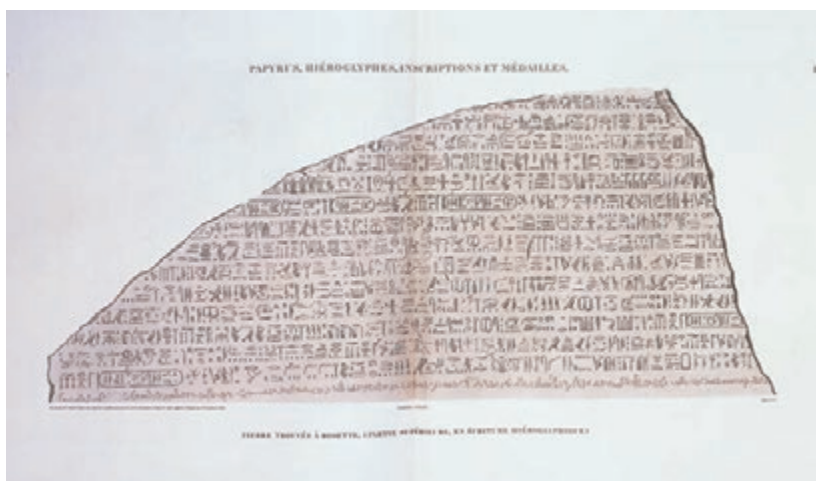
## (107) 別置巨大図版

著者名 (原語) : France. Commission des sciences et arts d’Egypte (日本語) : フランス。エジプト科学・技芸担当委員会 書名 (原語) : Description de l’Egypte, ou, Recueil des observations et des recherches qui ont été faites en Egypte pendant l’expédition de l’armée française publié par les ordres de Sa Majesté l’empereur Napoléon le Grand (日本語) : 『エジプト誌』 発行者・出版社・印刷所 : Imprimerie Impériale/Royale (1818-) 発行地 : Paris 刊行年 : 1821-1829 版 : 第2版 (初版 1809-1828) 巻号数 : 20v. (慶應義塾大学所蔵本には図版が2巻欠) 総図版数 : 894 (内彩色 72) 図版制作者 : Barraband, Bessa, Huet, Huet fils, F.B.Meunier, J.G.Prêtre, H.J.Redouté, P.Ringuet, Turpin. (以上素描家); Benoit(Benoist), Biosse, Mlle Bleuze, Bocourt, Bonvalet, Boquet aîné, Boquet jeune, Bouquet, Boutelou, Cailly, Mme. Callais, Canu, Carnonkel(Karnonkel), Charles, Chaubard(Choubard), Choquet, Compagnie, Coupé, Courbe, Coutant, Delanaux, Desmoulins, Dubreuil, Duhamel, Eymer, Forestier, Forget, Forsell, Gabriel, Goulet, Guyard, Mme Joyau, Lambert, Lanvin, Lefèvre, Leleu, Mme Lépissier, C.F.Letellier, Longpré, Maccet, Manceau, Massol, Monsaldy, Perdoux, Perée, Plée père, Plée, Pourvoyeur, Prud’hon, Prud’hon fils, Renard, Mlle Rozet, Ruotte fils, Schmeltz, Sellier père, Simonet, Talbaux, Tavernier, Tourcaty, Tresca, Victor (以上彫版師) 使用言語 : 仏語 序文 : 有 目次 : 有 書籍サイズ : 555×733×1104 慶應義塾大学図書館の分類番号 : 本文 120Y-519-10-1~10 ; 図版 (古代遺物) 144Y-4-8-1-1~5 ; 図版 (博物誌) 144Y-4-8-2-1~3

18世紀のエジプトは、オスマン帝国の支配下で、マルムーク軍が実権を握るという二重構造になっていたが、1798から1801年にかけてナポレオン軍が当地を占領し、遠征に失敗して撤退はしたものの、この支配構造はかなりの程度揺さぶられ、やがてムハンマド・アリー朝の成立 (在位 1805-48) への道を拓いた。

さて、博物図鑑の多くの傑作は、国家規模で遂行される探検旅行の記録や報告の体裁をとることが多いが、その最高傑作と呼べるものが、ナポレオン自らが指揮した『エジプト誌』で、フランス軍が1798年から99年にかけて行なったエジプト遠征の調査記録である。この遠征軍には美術家ドノン、博物学者ジョフロワ・サン・ティレールなど187名の学者が同行した。1798年8月21日、ナポレオンは「カイロ学士院」を創設、そこでの調査・研究の成果が後にフランスで刊行された『エジプト誌』にほかならない。本書は1821年から1829年にかけて出版され、テキスト10巻、大判の図版10巻となり、その博物学編にはバラバンやルデウーテによる美しい図版も収録され、全体の一割弱が彩色をほどこされている。





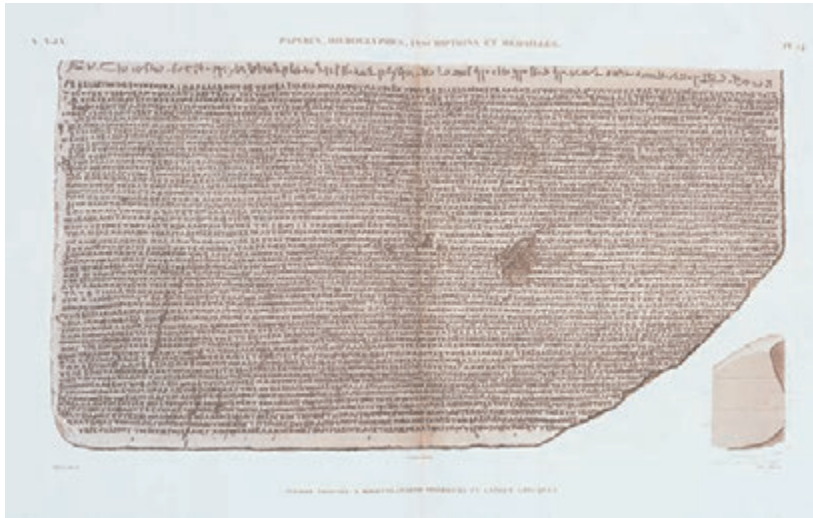
**展示図版：**ロゼッタ・ストーン上部の象形文字 **巻号頁数：**Antiquités, t.5, Pl.52 **制作者：**Jomard [現物からとった石膏の押し型に基いて制作]；Raffeneau Delile（素描家）；Bigant（彫版師） **版画技法：**エッチング **刊行年：**1823

ロゼッタ・ストーンは、1799年8月、ナイル河口の町ロゼッタ近郊で発見された。古代エジプト象形文字の解読に最重要の資料として、評判になった玄武岩製の石碑である。現在大英博物館所蔵。上中下と三段構成をなし、それぞれヒエログリフ（聖刻文字）、デモティック（民衆文字）、ギリシア文字で、プトレマイオス5世をたたえる文が刻まれている。上段のヒエログリフは、世界最古の文字の一種で、象形文字、絵文字の形をとり、きわめて具象的である。キルヒャー [カタログ番号(7)を参照のこと] も早くからヒエログリフに着目し、その解読を試みたが、ロゼッタ・ストーンに刻まれた象形文字の解読に成功したのは、フランスの天才シャンポリオン（1790-1832）で、1822年9月29日、パリの学士院において成果を発表した。この日をもって、フランスにおけるエジプト学誕生の記念日とする人は多い。



**参考図版：**ロゼッタ・ストーン中部のデモティック文字 **巻号頁数：**Antiquités, t.5, Pl.53 **制作者：**Raffeneau Delile（素描家）；Fouquet（彫版師） **版画技法：**エッチング **刊行年：**1823

デモティック文字は、エジプトの歴史には、前7世紀頃から登場する。ヒエログリフの民衆体ともいえるものであった。



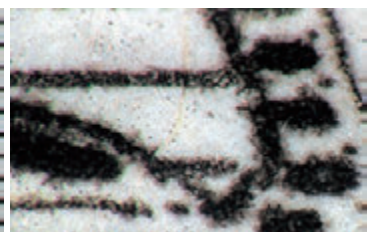
参考図版：ロゼッタ・ストーン下部のギリシャ文字 巻号頁数：Antiquités, t.5, Pl.54 制作者：Raffeneau Delile（素描家）；Miller, Allais（彫版師） 版画技法：エッチング 刊行年：1823  
 ロゼッタ・ストーンの解読は、まず下部のギリシア語文から始まり、他の2文も同一内容であろうという想定のもとに、大勢の学者たちが挑戦。幾多の試行錯誤の末に、シャンポリオンの快挙を導いたのであった。



全体図



DMS : 50 倍



DMS : 175 倍

## 主要参考文献リスト

本展覧会の準備、とりわけ図録執筆に参考とした、近代科学史、博物誌や博物図鑑に関する一般的研究書に限定しており、例外もあるが、個々の著者に関する文献は原則として含まれない。

### 洋 書

- L'âme au corps : arts et sciences 1793-1993*, Galeries nationales du Grand Palais : 19 octobre 1993-24 janvier 1994, Catalogue réalisé sous la direction de Jean Clair, Réunion des musées nationaux, Gallimard / Electa, 1993.
- Blay, Michel & Halleux, Robert, *La Science classique XVI-XVIII<sup>e</sup> siècle. Dictionnaire critique*, Flammarion, 1998.
- Braun, Lucien, *Gesner*, Slatkine, Genève, 1990.
- Chartier, Roger & Martin, Henri-Jean, *Histoire de l'édition française*, t. 2 : *Le livre triomphant 1660-1830*, Fayard, 1984.
- Dainville, François de, *La Géographie des humanistes*, Slatkine Reprints, Genève, 1969.
- Daudin, Henri, *De Linné à Lamarck. Méthodes de la classification et idée de série en botanique et en zoologie (1740-1790)*, Presses Universitaires de France, 1926 (rééd., 1983).
- Dessin et sciences : XVIIe-XVIIIe siècles*, 82e exposition du Cabinet des Dessins, Musée du Louvre : 22 juin-24 septembre 1984, Réunion des musées nationaux, 1984.
- Egyptomania. L'Égypte dans l'art occidental 1730-1930*, Réunions des musées nationaux, 1994.
- Harthan, John, *The History of the illustrated book : the western tradition*, Thames and Hudson, 1981.
- Jardine, Nicholas; Secord, James A.; Spary, Emma C. (eds), *Cultures of Natural History*, Cambridge University Press, 1996.
- Laneyrie-Dagen, Nadeije, *L'Invention du corps*, Flammarion, 1997.
- Lenoble, Robert, *Esquisse d'une histoire de l'idée de nature*, A. Michel, 1990.
- Licoppe, Christian, *La Formation de la pratique scientifique. Le discours de l'expérience en France et en Angleterre (1630-1820)*, Ed. la Découverte, 1996.
- Murat, Laure & Weill, Nicolas, *L'Expédition d'Égypte. Le rêve oriental de Bonaparte*, Gallimard, 1998.
- Nissen, Claus, *Die illustrierten Vogelbücher : ihre Geschichte und Bibliographie*, Stuttgart, Hiersemann, 1953.
- Nissen, Claus, *Die botanische Buchillustration : ihre Geschichte und Bibliographie*, Stuttgart, Hiersemann, 1966.
- Nissen, Claus, *Die Zoologische Buchillustration : Ihre Bibliographie und Geschichte*, Anton Hiersemann, Stuttgart, 2 v. 1969-1978.
- Petit, Jean & Theodoridès, Geroges, *Histoire de la zoologie, des origins à Linné*, Hermann, 1962.
- Pinault, Madeleine, *Le Peintre et l'histoire naturelle*, Flammarion, 1990.
- Pinault, Madeleine, *L'Encyclopédie*, «Collection Que sais-je?», Presses Universitaires de France, 1993.
- Pinon, Laurent, *Livres de zoologie de la Renaissance. Une anthologie (1450-1700)*, «Corpus iconographique de l'histoire du livre», Klincksieck, 1995.



Pomian, Krzysztof, *Collectionneurs, amateurs et curieux* : Paris, Venise, XVIe–XVIIIe siècle, Gallimard, 1987.

Proust, Jacques, *Marges d'une utopie : pour une lecture critique des planches de l'Encyclopédie*, Le Temps qu'il fait, 1985.

Roger, Jacques, *Les Sciences de la vie dans la pensée française du XVIIIe siècle*, A. Michel, 1993.

Salomon-Bayet, Claire, *L'Institution de la science et l'expérience du vivant : méthode et expérience à l'Académie royale des sciences. 1666-1793*, Flammarion, 1978.

Schaer, Roland, *L'Invention des musées*, 《Découvertes》, Gallimard, 1993.

Schnapper, Antoine, *Collections et collectionneurs dans la France du XVIIe siècle*, Flammarion, 2. vol, 1988–1994.

Zuylen, Gabrielle van, *Tous les jardins du monde*, 《Découvertes》, Gallimard, 1994.

## 和 書

アペル、トビー・A.『アカデミー論争—革命前後のバリを騒がせたナチュラリストたち』(西村顯治訳) 時空出版、1990。

荒俣宏『大博物学時代』工作舎、1982。

荒俣宏『図像観光—近代西洋版画を読む』朝日新聞社、1986。

荒俣宏『世界大博物図鑑』(全5巻、別巻2巻) 平凡社、1987–1994。

荒俣宏『博物学の世紀』NHK 市民大学、7月–9月期、日本放送出版協会、1989年。

荒俣宏『地球観光旅行 博物学の世紀』角川書店、1993年。

荒俣宏『増補版 図鑑の博物誌』集英社文庫、1994。

上野益三『博物学者列伝』八坂書房、1991年。

上野益三『博物学の時代』八坂書房、1990年。

上野益三『忘れられた博物学』八坂書房、1987。

『「寓意の鏡 16・17世紀ヨーロッパの書物と挿絵」展』(監修・編集・執筆：松田隆美、慶應義塾図書館主催・丸善株式会社協賛の展覧会図録) 1999年。

グリーンブラット、スティーヴン『驚異と占有』(荒木正純訳) みすず書房、1994。

スタッフォード、バーバラ・マリア『アートフル・サイエンス』(高山宏訳) 産業図書、1997。

『特別展リンネと博物学』千葉県立中央博物館編、千葉県立中央博物館、1994。

富永牧太「ナポレオン皇帝版『エジプト調査書』の書誌について」、『ビブリア』(天理図書館報)、昭和44年(1969年)6月、n°42、pp.37–44。

中田祐夫「ナポレオン『エジプト紀要』初版二種並びに第二版をめぐって」、『ビブリア』(天理図書館報)、昭和37年(1962年)10月、n°23、pp.511–520。

西村三郎『リンネとその使徒たち 探検博物学の夜明け』<朝日選書588>、朝日新聞社、1997年。

西村三郎『文明のなかの博物学 西欧と日本』(上下) 紀伊國屋書店、1999年。

バナール、J. D.『歴史における科学』(鎮目恭夫訳) みすず書房、1966。

レイビー、ピーター『大探検時代の博物学者たち』高田朔訳、河出書房新社、2000年。

ビュフォン、ジョルジュ・ルイ・ルクレール著、ソンニーニ、C.S.原編集『ビュフォンの博物誌』(ベカエル直美訳) 工作舎、1991。

プリニウス『プリニウスの博物誌』(全3巻、中野定雄・中野里美・中野美代訳) 雄山閣出版、1986年。  
ホワイト、ギルバート『セルボーンの博物誌』(新妻昭夫訳・解説) 小学館、1997。  
マドール、M.・バルテルミ『ラマルクと進化論』(横山輝雄・寺田元一訳) 朝日新聞社、1993。  
ルドウィック、マーチン・J.S.『化石の意味：古生物学史挿話』(大森昌衛、高安克己訳) 海鳴社、1981。  
レベニース、ヴォルフ『自然誌の終焉—18世紀と19世紀の諸科学における文化的自明理念の変遷』(山村直資訳) 法政大学出版局、1992。

## 人 名 索 引

- アエリヤヌイス：xi  
アダンソン、ミシェル：v, xv  
アテナエオス：xi  
アティレ：184  
アプレイウス：69  
アミヨ：74  
荒俣宏：iii, xxi  
アラマン：108  
アリー、ムハマッド：192  
アリストテレス：iii, iv, xi, xiii, 20  
アルテディ：v  
アルドロヴァンディ、ウリッセ：iv, xvii, 12, 44, 78  
アンダソン、ミシェル：xv  
アンリ 2 世：vii  
和泉雅人：xxi  
市古健次：xxi  
伊藤圭介：181  
インディク、ヘンドリック：78  
ヴァスコ・ダ・ガマ：xi  
ヴィエイヨ：xiv, 54  
ウィラビー：iv  
ウィルソン：60  
ウィルトルUIS：18  
ウェサリウス：4, 5, 28  
ウェッバー、ジョン：xvii  
ウォラー：18  
ヴォルフファルト：6  
ヴォルテール：188  
ウダール：54  
武帝 (Wu-di)：185  
ウッドウオード、ジョン：16  
英国皇太子：106  
海老澤敏：xvi  
エマヌエル 1 世：7, 9  
エラスムス：2  
エリス、ジョン：108, 110  
エルマン：184  
エロス：69  
オーガスタ：165  
大串尚代：xxi  
オディネ＝セルヴィル：74  
オーデュボン、ジョン＝ジェームズ：xviii, 60  
オードベール：xiv  
オピヤヌス：xi  
オーブリエ：xvii, 152  
オポリヌス：4, 5  
オラール：92  
オランダ商館長：78  
オルテリウス：23  
カーチス、ウィリアム：154  
カゾット：13  
桂川甫周：183  
加藤好郎：xxi  
ガリレイ：xii, 15  
カルカル：4  
ガルガンチュア：x, xi  
カルロス 5 世：4  
ガレノス：xi, 4  
キュヴィエ、ジョルジュ：v, xii, 82, 104, 122  
キュヴィエ、フレデリック：88  
キルヒャー：xvi, 16, 17, 39, 96, 100, 193  
クーア：174  
グーテンベルク：iii  
クック、ジェームズ：xvi, xvii, 176, 178  
久納鏡子：xxi  
クノール：114  
クビド：69  
クラーケン (海の怪物)：41  
クラーマー：68  
グリーン、トマス：164, 165  
グルー：15  
グルック：99  
グレイ：190  
グレゴリウス 13 世：12  
ケイツビー、マーク：xvii  
ゲスナー、コンラート：iv, xii, xiii, xvii, xx, 6, 8, 12, 20, 21, 41, 44, 78, 84, 155  
ゲーテ：xviii  
ケンペル：180  
皇帝乾隆 (Qian Long)：184  
ゴーギャン：xvii  
コシヤン：viii, 31  
ゴス：112, 113  
小林拓也：xxi  
コペルニクス：4  
小松雅高：xxi  
五味田泰：xxii  
ゴムダ (犀)：9  
コメニウス：22, 23  
コメンスキー (→コメニウス)  
ゴルチウス、ヘンドリック：87  
ゴールドスミス：128  
コルベール：18  
コロンブス：xi



佐伯伸夫：xxi  
 榊原修：xxi  
 佐川美智子：xxi  
 サグラ：58, 102, 103  
 佐藤大輔：xxi  
 サン＝ティレール、ジョーム：162  
 サン・ティレール、ジョフロア：82, 192  
 サン＝ピエール、ベルナルダン・ド：xvi, 31  
 渋谷誉一郎：xxi  
 ジェール：146  
 シーボルト：180, 181  
 シャップ：xvii  
 シャトーブリアン：xviii  
 シャルル 9 世：vii  
 シャルル 10 世：vii  
 シャンポリオン：193, 194  
 ジュシュー、アントワヌ＝ロラン：38  
 ジュシュー、ベルナル：xv, 38  
 ジュシュー、ジョゼフ・ド：xv, xvi, xvii, 162  
 ジュシュー家：xv  
 シュトール：68  
 シュレーパー：90  
 シュロッサー：94  
 ジョージ 3 世：165  
 ジョゼフィーヌ：142  
 ショームトン：168  
 ジロディエール：190  
 シンツ：64, 84  
 紂王 (Zhou-Xin)：184  
 末川博：3  
 杉田玄白：182  
 スタニスラス王：38  
 スパランツァーニ：v  
 スミス：190  
 スワンメルダム：iv  
 セイロンの総領事：48  
 セガーレン：xvii  
 セルボーン：189  
 ソランダール、ダニエル：xvii, 110  
 ソーントン、ロバート：138, 156  
 ソンニエーニ、シャルル：38, 98  
 ダ・ヴィンチ、レオナルド：4  
 ダーウィン、エラズマス：138  
 ダーウィン、チャールズ：138  
 高木幸枝：xxi  
 高橋英郎：xvi  
 竹内美紀：xxii  
 ターナー：158  
 ダニエル、ウィリアム：186  
 ダニエル、トーマス：186  
 タマチャン (アザラン)：18  
 ダランベール：vii, viii, xiii, 28, 30  
 ダンテ：xvi  
 ディオスコリデス：xi  
 テイトウス：2  
 ディドロ：vii, viii, xiii, 28, 30, 31, 32  
 チェンバーズ：xiii, 28, 29, 30  
 テオフラストス：2  
 デカルト：xii, xx  
 デマレ：104  
 テミンク：46  
 デモクリトス：40  
 デュ・ベレー：vii  
 デューラー：xx, 9, 78, 84  
 テューンベリ：182, 183  
 デュペレ：50  
 デュルヴァイル、デュモン：50  
 テュルパン、ピエール：xviii  
 テューンベリ：180  
 ド・ヴァンシー：xvii  
 ド・セーヴ：34, 39  
 ドゥーリトル：190  
 トウルヌフォール：xv, xvii, 152, 156  
 ドドネウス (ドドエンス)：78  
 ドノヴァン：66, 70  
 ドノン：192  
 ドーバントン：v, 34, 38, 162  
 トムソン：76  
 トランブレイ：v  
 ドルビニ：58  
 ドルーリー：66  
 ドルレアン、ガストン：viii  
 ドレフェス：vii  
 中川淳庵：183  
 中村美智子：xxi  
 ナポレオン・ボナパルト：vii, viii, xiv, xviii, 82, 162, 177, 180, 192  
 西松克洋：xxi  
 西村太良：xxi  
 ニュートン：iv, 14, 31  
 ノエル、アレクサンドル＝ジャン：xvii  
 野呂元丈：78  
 パーキンソン、シドニー：xvii, 178  
 廿日岩尚：xxi  
 バートラム、ウィリアム：xviii, 60  
 ハプスブルグ家：viii  
 ハラー：188  
 パラケルスス：5  
 パラス：v  
 バラバン：xiv, 39, 192

ハリス、ジョン：xiii, 26, 179  
 ハリス、モーゼス：72  
 バンクス、ジョゼフ：xvi, xvii, 178, 179  
 パンタグリュエル：xi  
 ピタゴラス：x  
 ピットフィールド：18  
 ビューイック、トマス：xviii  
 ビュイヤール：xv  
 ビュヴェ、アメリカ人：34  
 ビュフォン：v, vi, xiii, 1, 13, 31, 34, 36, 38, 46, 54,  
 62, 74, 82, 98, 99, 124, 128, 188  
 ビュルゲル：180  
 ピロン：xvii  
 ファーバー：132  
 ファイエ、ルイ：xvii  
 フェイラー：106  
 ブオナンニ：96  
 フーカー：158  
 ブーガンヴィル：xvii, 176, 177  
 ブシュケー：69, 71  
 フック、ロバート：xxi, 14  
 フックス、レオンハルト：xv  
 プファイファー：170  
 ブラウン：48  
 ブランヴィル：92, 116  
 フランソワ 1 世：vii, 9  
 フランソワ 2 世：vii  
 ブリーカー、ピーテル：126  
 ブリニウス：iv, xi, xiii, 2, 3, 12, 40, 44  
 ブリヤ＝サヴァラン：80  
 ブリュニー、アントワヌ・ド：xvii  
 ブリュミエ、シャルル：xvi  
 ブルードン：103  
 ブルボン家：viii  
 プレイヤード詩派：vii  
 プレヴォ：xvii, 56  
 プレヴォ、アベ：xvi,  
 プレートル：xiv, 50, 56  
 プロートマン：64  
 フローベン、ヨハン：2  
 ブロン、ピエール：xvi, xvii  
 ブロンデル：32  
 フンボルト：xviii  
 ベヴァレ：50  
 ベナント：188, 189  
 ヘリオドルス：xi  
 ベール、ピエール：30  
 ベルトロ：102  
 ペロー、クロード：18  
 ペロー、シャルル：18  
 ヘンダーソン：134  
 ボイル、ロバート：x, 14  
 細貝健司：xxii  
 細野公男：xxi  
 ホッジズ、ウィリアム：xvii  
 ポーティエ：190  
 ポープ：vi  
 ホラチウス：viii  
 ポリピウス：xi  
 ポルックス、ユリウス：xi  
 ポルトガル王（→エマヌエル 1 世）  
 ポルフィリウス：xi  
 ボロウスキー：118, 119  
 ホワイト、アダム：86  
 ホワイト、ギルバート：189  
 ホワイト、ジョン：xvi  
 ポワトゥ：160  
 ポワトヴァン：32  
 ボワロー：18  
 ポンパドゥール夫人：125  
 マイヤー：80  
 マーキュリー：2  
 マグヌス、オラウス：10  
 マーシャル、ジョン：26  
 マストドン（絶滅種）：37, 173  
 マゼラン：xi  
 マルピーギ：iv, 15  
 マルピカ、チェーザレ：190  
 マレシャル、ニコラ：viii  
 マンテル：172  
 水谷豊文：181  
 ミルン＝エドワーズ、アルフォンス：88  
 ミルン＝エドワーズ、アンリ：88  
 ムサファール王：7  
 メディチ家：viii  
 メデューザ：105  
 メルカトル：23  
 モグリッジ：150  
 モーツアルト：xvi  
 モリス：140  
 モルグ、ジャック・ル・モワヌ・ド：xvi  
 モンペアール、ギュノー・ド：34  
 柳下俊江：xxi  
 山本忠雄：xxi  
 ヤンセン父子：15  
 雍正帝：191  
 吉宗：78  
 ヨンストン、ヤン：44, 78, 79, 84  
 ラ・コンダミーヌ：xvii  
 ラーフアター：13

ラ・ペルーズ：xvii  
ラセペード：34, 38, 98, 104, 120, 124  
ラファエロ：143  
ラ・フォンテーヌ：69  
ラブレール：vii, x, xi, xii  
ラベル、ダニエル：viii  
ラマルク、J. B. de：iv, v, 38, 39, 100, 162  
ラモー：xii  
リシュレ：xii  
リソ：160  
リュコステネス：6, 41  
リンネ：v, vi, xii, xvii, 24, 25, 36, 68, 72, 138, 153,  
154, 158, 181, 183, 188  
ルイ 14 世：vii, viii, xiv, xvii, 152  
ルイ 15 世：125  
ルイ 18 世：vii  
ルヴァイヤン：xiv  
ルソー：31, 80  
ルデウーテ、ピエール・ジョゼフ：viii, xiv, 142,  
143, 192  
ルドウーテ、アンリ＝ジョゼフ：viii, xviii

ルドウーテ兄弟：viii  
ルドベック：xvii  
ルフィーノ：103  
ル・プランス、ジャン＝バチスト：xvii  
ル・ブルトン：28  
ルメール、シャルル：56, 148  
レイ、J.：iv, 153  
レーウエンフック：iv, 15  
レオ 10 世：9  
レオミュール：v  
レチフ：13, 178  
レッスン：xiv, 50, 52, 56, 62  
レモン：50, 56  
ロック：vi, 166  
ロディゲス、コンラード：136  
ロディゲス、ジョージ：136  
ボイル、ロバート：14  
ロベール、ニコラ：viii, xx  
ロンドレ：12  
渡邊一夫：xi



## 図版制作者名索引

以下のリストはあくまでも暫定的なものでしかない。数百年前の印刷工房で働く職人について、正確な情報をえることはほとんど不可能である。手がかりは、各図版に記された署名であるが、綴りの不統一などで、特定は難しい。従って、明らかに同一職人と考えられても、あえて別扱いしてる場合もある。

略号表：(pt)→(素描家)、(sc)→(彫版師)、(lt)→リトグラフ、(cl)→(手彩色)、(im)→(刷り師)、(dr)→(監督)、(var)→(不明または複数業務兼担)

また、名前の後に挿入される記号で身内を表すものがある。〈fam〉[→一家]；〈père〉〈pater〉[→父親]；〈Mad〉〈Madame〉〈femme〉[→妻、夫人]；〈Ve〉〈Veuve〉[→未亡人]；〈fils〉〈filius〉〈J.〉〈Je〉〈Jeune〉[→息子]；〈Mlle〉〈Melle〉Miss [→娘]、などである。固有名詞の略記をふくめ、あえて統一せず、原文そのままに記した。

なお、名前の後に続く [ ] 内の文字は、同一名前について別な綴りがありうる場合である

- |                                                 |                                          |
|-------------------------------------------------|------------------------------------------|
| Adam, G. (pt) : 144                             | Bernard [Besnard], Robert (sc) : 30, 32  |
| Allais (sc) : 194                               | Bernard (im) : 92, 93                    |
| Altenwanger (pt) : 144                          | Beros (Mme) (sc) : 168                   |
| Andreas, Jac. (sc) : 114                        | Bertheauld (sc) : 38                     |
| Annedouche, R. (sc) : 58, 82, 83, 102, 124, 148 | Bessa (pt) : 50, 144, 145, 146, 184, 192 |
| Artis, E.T. (pt) : 172                          | Bessin (pt/sc) : 116, 188                |
| Aubert (sc) : 34                                | Bévalet (pt/sc) : 50, 62                 |
| Aubin (sc) : 30                                 | Bévalet fils (pt) : 50, 51               |
| Aubriet (pt) : 152                              | Beyer (sc) : 104, 105, 124, 125, 148     |
| Audebert (pt) : 34, 144                         | Bigand (sc) : 34, 168                    |
| Audubon, John, J. (pt) : 60                     | Bigant (sc) : 38, 40, 164, 184, 193      |
| Babel (sc) : 34                                 | Bindweed, J. (pt) : 104, 124             |
| Bagchee, Annoda Prosad (pt) : 106, 110          | Binger (lt) : 126, 127                   |
| Baker, B. (sc) : 118, 189                       | Biosse (sc) : 192                        |
| Bakker, F. de (sc) : 94, 95                     | Bischoff, Valentin (sc) : 114, 144       |
| Baquoy, C. (sc) : 34, 38                        | Bishop, J. (sc) : 128, 132               |
| Barbalozzi (sc) : 139                           | Bittermann (pt/sc) : 184                 |
| Barlow (sc) : 188                               | Blakey, N. (pt) : 98                     |
| Barnes, J. (pt/sc/im) : 108, 110, 111           | Blanchard (pt/sc) : 38, 82               |
| Baron, Acaire (pt/sc) : 82, 92, 93, 123         | Blanchon (sc) : 34                       |
| Baron, Cl. (sc) : 34                            | Bleeker, P. (dr/pt) : 116, 126, 127      |
| Baroy (sc) : 184                                | Bleuze (Mlle) (sc) : 192                 |
| Barraband (pt) : 38, 192                        | Blyth, Robert (sc) : 178                 |
| Barrois (sc) : 144, 145, 184                    | Bock, J.C. (sc) : 90, 91, 144            |
| Bartolozzi (sc) : 90                            | Bocourt (sc) : 82, 192                   |
| Basan, F. (sc) : 34                             | Boissieu, Jean-Jacques de (var) : 30     |
| Basseporte, Mad. (sc) : 34                      | Bonnefoi, V. (Mme) (sc) : 56             |
| Beau (pt) : 82                                  | Bonvalet (sc) : 192                      |
| Becquet (im) : 26                               | Boquet aîné (sc) : 192                   |
| Behary (pt) : 110                               | Boquet jeune (sc) : 192                  |
| Beissein (sc) : 34                              | Bordes (pt) : 160, 166, 167              |
| Bell, R.C. (sc) : 128, 132                      | Borromée (pt) : 58, 102                  |
| Bellin, Jacques-Nicolas (var) : 30              | Boucher, Juste-François (sc) : 70        |
| Benazeth (sc) : 34                              | Boucourt, F. (sc) : 88                   |
| Benoit [Benois] (sc) : 192                      | Bougeard (im) : 58, 59, 102, 103         |
| Bequet (im) : 88                                | Bouquet aîné (sc) : 192                  |

Bourdachot (pt) : 144  
 Bourgeois (var) : 30  
 Bourrey (Mme) (sc) : 82  
 Boutelou (pt/sc) : 116, 188, 192  
 Bower, J. (sc) : 128, 132  
 Boys, Thomas Shotter (pt) : 136  
 Breton (sc) : 58, 102  
 Bricault (var) : 30  
 Brion de la Tour (sc) : 184  
 Brooks, Vincent (im) : 80, 150, 151  
 Brown (pt) : 132  
 Brown (dr) : 126  
 Brown, T. (sc) : 128, 132  
 Burke (sc) : 90, 138  
 Buvée l'Américain (pt) : 34, 36  
 Bylaert (pt) : 144  
 Cailly (sc) : 192  
 Calais (pt/sc) : 116, 188  
 Caldwell (sc) : 138  
 Callais (Mme) (sc) : 192  
 Campbell, D.W. (pt/sc) : 104, 124, 164  
 Canu (sc) : 192  
 Caquet (sc) : 34  
 Carl, G. [Guttenberg, H.] (sc) : 34  
 Carnonkel (sc) : 116, 184, 188, 192  
 Chahau, M.C. (sc) : 34  
 Chailly (sc) : 56  
 Chambars (sc) : 34  
 Chambris (sc) : 34  
 Chapuy (sc) : 34  
 Charles (sc) : 192  
 Chaubard [Choubar] (sc) : 192  
 Chesham, F. (sc) : 188  
 Chevillet (sc) : 37  
 Choquet (sc) : 192  
 Chorley, L. (pt) : 104, 124  
 Clark, W. (pt/sc/im) : 140, 141, 150  
 Cleveley, John (sc) : 178  
 Cobre, J.L. (pt) : 114  
 Cochin, Charles-Nicolas (pt) : 30  
 Cochin fils, C.N. (pt) : 31  
 Coignet (Mlle) (pt/sc) : 98, 120, 188  
 Coignet, M.G. (sc) : 116, 184  
 Compagnie (sc) : 192  
 Conradkull : 64  
 Cooke, E.W. (pt) : 136  
 Cooke, George (pt/sc) : 136, 137  
 Cooke, W. (pt) : 136  
 Cooper, R. (sc) : 138  
 Corbié (sc) : 58, 102  
 Cornu (Melle) (sc) : 121  
 Cornu, Sophie (sc) : 98  
 Cornuel (pt) : 100  
 Cosway (pt) : 90  
 Coupé (sc) : 192  
 Courbe (sc) : 192  
 Coutant (sc) : 50, 51, 192  
 Coutilot (sc) : 58, 102  
 Cowper, G. (pt) : 144  
 Craig, W.M. (pt/sc) : 104, 124, 164  
 Creveley, John (pt) : 178  
 Curtis, J. (pt) : 172  
 Dadelbeek, G. (pt) : 84, 94, 95, 144  
 Dambrun (sc) : 34  
 Daniell, J. (pt) : 188  
 Daniel, Thomas & William (pt/sc) : 186  
 Das, Behary Lal (pt) : 106  
 Daudin, Adel (pt) : 38, 40  
 Daullé, J. (sc) : 34  
 Davesne (sc) : 58, 82, 102  
 David (pt/sc) : 98, 116, 188  
 Davies, J. (pt/sc) : 104, 124, 164  
 De Bakker (pt) : 144  
 De Huyser, C.J. (pt) : 68  
 De Launay jr., R. (sc) : 34  
 De Sève (pt) : 34, 36, 37, 38, 39, 40, 41, 90, 91, 144  
 De Sève fils (sc) : 34  
 De Wailly (pt) : 144  
 Defehrt [Fehrt], A.J. de (sc) : 30, 34  
 Degerantins [Desgerantins] : 30  
 Delacroix (pt) : 30  
 Delahage (sc) : 98  
 Delanaux (sc) : 192  
 Delignon (sc) : 34, 38  
 Delusse (Madame) (var) : 30  
 Delusse, Charles (var) : 30  
 Delvaux (sc) : 38  
 Demanne (sc) : 54, 156  
 Demonchy (sc) : 38  
 Dennel (sc) : 184  
 Dequevaullier, Bonne (sc) : 82, 98, 99  
 Deron : 162  
 Desmoulins (sc) : 192  
 Deuchert, H. : 44  
 Devisse (sc) : 184  
 Dewailly (pt) : 144  
 Dey, Nityanunda (pt) : 106  
 Dheulland, Guillaume (var) : 30  
 Dickes, W. (sc/lt/im) : 80, 112, 113, 150  
 Dien (pt/sc) : 56, 116, 188

Dietzsch, J.C. (pt) : 114  
 Dinkel, Joseph (pt/lt) : 172, 173  
 Divione (sc) : 34  
 Dixon, F. (pt/sc) : 104, 124, 164  
 Dixon, T. (pt) : 104, 124  
 Dobie, G. (pt) : 104, 124, 164  
 Dolfins : 190, 191  
 Dondorf, B. (lt/im) : 170  
 Douliot (Mme) (sc) : 58, 102  
 Douliot, J. (sc) : 58, 102  
 Doyère, F. (pt) : 82  
 Droyer (sc) : 34  
 Dubois (pt/sc) : 164, 168  
 Dubreuil (sc) : 162, 192  
 Dufour (sc) : 34  
 Dugès, A. (pt) : 82  
 Duhamel (sc) : 34, 38, 192  
 Duménil, A. (sc) : 52, 62  
 Dumont, Loë (Melle) (pt) : 50  
 Dunkarton, Wm R. (sc) : 138  
 Dunkarton jr. (sc) : 90, 138  
 E. Roch : 82  
 Earlom, R. (sc) : 138  
 Edward, M. : 82  
 Edwards, G. (pt) : 144  
 Edwards, Syd'm (pt) : 90, 138, 155  
 Ehret (pt) : 138  
 Eidous, Marc-Antoine (var) : 30  
 Eisenmann, J.A. (sc) : 114, 144  
 Elmes (sc) : 138  
 Emile Brd. : 82  
 Emrik, C.V. (pt/lt) : 116, 126, 127  
 Engelmann, G. (sc) : 54, 156  
 Enghien, R. d' (lt) : 54  
 Eves (sc) : 138  
 Eymer (sc) : 192  
 Falconet, Pierre-Étienne : 30  
 Favre : 30  
 Fayrer, J. (pt) : 110  
 Ferandiny (sc) : 34  
 Fehrt (→Defehrt)  
 Ferner (pt) : 138  
 Fessard, Cl. (sc) : 34  
 Fischer, Th. (lt/im) : 170, 171  
 Fleischmann, A. (pt/sc) : 144  
 Fletcher, I. (sc) : 28  
 Fokke, S. (sc) : 84, 94  
 Foll (var) : 80  
 Forestier (pt/sc) : 116, 188, 192  
 Forgel (pt) : 164  
 Forget (sc) : 62, 74, 75, 82, 104, 105, 124, 148, 168, 192  
 Forsell (sc) : 192  
 Forster, G. (pt) : 144  
 Fouquet (sc) : 193  
 Fournier (Mme) (sc) : 82, 148  
 Fournier, A. (sc) : 58, 59, 102, 124  
 Fournier, R.F. (sc) : 82, 83, 104  
 Francke, G. (lt/im) : 170  
 Frederick, H. (pt/sc) : 104, 124, 164  
 Fse, Cl. (sc) : 34  
 Fuber (pt) : 106  
 G., C. (sc) : 34  
 Gabler, A. (pt) : 144  
 Gabriel (pt/sc) : 56, 116, 160, 161, 166, 188, 192  
 Gahey, L.M.(pt) : 104, 124  
 Gaillard (sc) : 34  
 Gantier (pt) : 164  
 Gardner, J. : 134  
 Gaugain (sc) : 90, 138  
 Gautier (sc) : 168, 169  
 Gény-Gros : 48  
 Gestochen (sc) : 144  
 Giraud (pt/sc) : 82, 116, 188  
 Goldar (sc) : 178  
 Gosse, P.H. (pt) : 112, 113  
 Goudet (sc) : 168  
 Goulet (sc) : 38, 184, 192  
 Goussier, Louis-Jacques (pt) : 30  
 Grayard (pt) : 188  
 Griffith, M. (pt) : 144  
 Guélard (sc) : 34  
 Guillard (sc) : 52, 58, 82  
 Guttenberg, H. (sc) : [34], 168  
 Guyard filius (sc) : 58, 62, 82, 98, 102, 116, 184, 192  
 Guyard pater (sc) : 184  
 Guyot, Charles (sc) : 34  
 Haarlem, B. (pt) : 116  
 Hallman, I.G. (pt) : 24  
 Halpin (pt) : 104, 124  
 Hanhart, N. (im) : 106, 110  
 Hanrart, M. (sc) : 106  
 Hans (pt) : 144  
 Harguiniez (var) : 30  
 Harris, M. (pt/sc) : 72  
 Haussard, Eth. [Cath] (sc) : 34  
 Hawkins, B.W. (pt/lt) : 54, 86, 87  
 Heath, J.P. (pt) : 136  
 Heina (sc) : 52  
 Helman (sc) : 34

Henderson (pt) : 90, 138, 156, 157  
 Henning, C.D. (sc) : 144  
 Herbert, W. (pt) : 154  
 Hermann, D. (pt) : 144  
 Hicks, R. (pt) : 104, 124, 164  
 Hilliard, F. (pt/sc) : 104, 124, 164  
 Hocquart (pt) : 160, 166  
 Hocquart, A. (sc) : 160, 166, 167  
 Hocquart jeune (sc) : 160, 166  
 Hodges, I.W. (pt) : 188  
 Hoffer, Andr. (sc) : 114, 115, 144  
 Hooker, William (pt) : 158  
 Hopfer (pt) : 144  
 Hopwood (sc) : 138  
 Hubert (sc) : 34, 38, 39  
 Hublier (pt) : 58, 102  
 Huet (pt/sc) : 46, 88, 89, 144, 146, 192  
 Huet fils (pt) : 192  
 Huet U. (pt) : 26  
 Ihle, I.E. (pt) : 90, 144  
 Jardinier (sc) : 34  
 Johnstone, Jas (sc) : 128, 132  
 Jomard, M. (pt) : 193  
 Joninger, Joh. Adam (sc) : 114  
 Jourdan (sc) : 38  
 Joyeau (pt/sc) : 116, 188  
 Joyau (Mme) (sc) : 192  
 Kahn, Hurrish Chunder (pt) : 106, 110  
 Kalkar : 4  
 Karell, L.(pt) : 144  
 Keller, J.C. (pt) : 114, 115  
 Kellner, J. (sc) : 144  
 Khan, H.C. (pt) : 110  
 Kleemann, C.F.C. (pt/sc) : 118  
 Kleemann, J.C. (pt) : 114  
 Klein (pt) : 82, 101  
 Knorr, G.W. (pt) : 114  
 Kretsch (pt) : 144  
 Küffner, Paul (sc) : 114, 144  
 Kuhn, J. (sc) : 144  
 Kull, C. (lt) : 84  
 La Rue (im) : 30  
 Lallmand (sc) : 52  
 Lambert (pt/sc) : 164, 168, 192  
 Lambert Je (sc) : 168, 169  
 Landseer, H. (sc) : 90, 138, 139  
 Lang, E.F. (pt) : 144  
 Lanvin (sc) : 82, 192  
 Laurent, Pierre (pt) : 30  
 Le Canu (var) : 30  
 Le Charpentier (sc) : 34  
 Le Gras [Gras], Favre (var) : 30  
 Le Jeune (sc) : 184  
 Le Roux des Hauterayes, Michel-Ange-André (var) : 30  
 Lear (pt) : 144  
 Lebrun (sc) : 46, 76, 77, 82  
 Lecerf (sc) : 62  
 Lefèvre (sc) : 192  
 Legrand (sc) : 62  
 Legrand, H. (pt/sc) : 56, 82, 100, 101, 116, 188  
 Legrand, Louis (sc) : 34  
 Legrand, Melle (sc) : 52  
 Leitner, J.S. (sc) : 144  
 Leleu (sc) : 82, 192  
 Lemercier (im) : 26, 88, 92, 93  
 Lempereur, L. (sc) : 34  
 Lens, B. (pt) : 26  
 Lépissier (Mme) (sc) : 192  
 Lerambert, Julie (sc) : 38  
 Lesauvage (pt) : 52, 53  
 Lesson (sc) : 62  
 Letcher (sc) : 28  
 Lesson (Mme) (pt/sc) : 50, 62  
 Letellier, C.F. (sc) : 34, 38, 192  
 Levé, Md. (sc) : 38  
 Levillain (sc) : 34  
 Levillain (Madame) (sc) : 34  
 Lewin, J.W. (pt) : 144  
 Lewis (sc) : 138  
 Lhalbou (sc) : 34  
 Lizars, W.H. (sc) : 60, 61, 86  
 Loddiges, G. (pt) : 136, 137  
 Loddiges, J.(Miss) (pt) : 136  
 Loddiges, W. (pt) : 136  
 Loery, J.W. (sc) : 128  
 Lomry, J.W. (sc) : 132  
 Longpré (sc) : 192  
 Lorieux (sc) : 34  
 Lotter, C.F. (pt) : 118  
 Louveau (sc) : 26, 88  
 Louvier (pt) : 188  
 Louviers (sc) : 116  
 Lucas (sc) : 34  
 Lucotte, J.-R. (pt) : 30, 32  
 Maccet (sc) : 192  
 Mackenzie, D. (sc) : 178  
 Maddau, D. (sc) : 90, 138  
 Maddocks (sc) : 90  
 Maddox (sc) : 138



Madras, C.Abbay (pt) : 106, 110  
 Mallinson, W. (pt/sc) : 104, 124, 164  
 Manceau (sc) : 82, 104, 124, 148, 192  
 Mand (im) : 110  
 Mansard, Jnne (sc) : 34  
 Maréchal (pt) : 144  
 Martinet, François-Nicolas (sc) : 30  
 Massard (pt) : 188  
 Massard, M. (sc) : 52, 62, 98, 116, 117  
 Massard (Melle) (sc) : 58, 102  
 Massol (sc) : 192  
 Masson (Melle) (sc) : 58, 102  
 Mazell, P.(pt/sc/im) : 108, 110, 138, 140, 156  
 Mécou (sc) : 82  
 Medland (sc) : 138, 188  
 Mesnel (lt/sc) : 26, 88  
 Mesnil (sc) : 34  
 Meunier, F.B. (pt) : 192  
 Meyer, J.D. (pt/lt) : 80, 172  
 Michel (sc) : 34  
 Migneret (sc) : 52  
 Miller (pt) : 138  
 Miller (sc) : 194  
 Miller, C.F. (pt) : 144  
 Miller, J.F. (pt) : 178, 179  
 Miller, John (sc) : 128, 129, 132  
 Miller, W. (pt) : 136  
 Millot (sc) : 58, 102  
 M & N (im) : 172  
 Moggridge (pt) : 150  
 Moithey (sc) : 38  
 Moitte, P.E. (sc) : 34, 36  
 Molte, C. (sc) : 156  
 Monfort, Denys (pt) : 38  
 Monnier, L. (sc) : 34  
 Monsaldy (sc) : 192  
 Montfort, Denys (pt) : 41  
 Morgan, R. (pt/sc) : 178  
 Motte, C. (lt) : 54, 142  
 Mougeot (sc) : 62, 74, 82  
 Murdoch, J.S. (sc) : 128, 132  
 Nicolet (pt) : 76, 77  
 Niodot (var) : 30  
 Nitschmann, D.R. (pt) : 144  
 Nodder, F.P. (pt) : 178  
 Noël (lt) : 88  
 Noël (sc) : 26  
 Norib (sc) : 80  
 Nufstiegel, I. (sc) : 90  
 Nusbiegel, J. (sc) : 144  
 Opie (pt) : 90  
 Oppel (pt) : 144  
 Oudart, P. (pt) : 48, 52, 54, 82, 156  
 Oudet (sc) : 52, 53, 62, 82  
 Ouvrier (sc) : 34  
 Paillason (var) : 30  
 Palmer (sc) : 188  
 Panckoucke, E. (pt) : 168  
 Papillon, Jean-Baptiste (var) : 30  
 Pardinel (sc) : 58, 102  
 Patras (pt) : 74, 75  
 Pauquet (pt) : 56  
 Peale, Titian.R. (pt) : 60  
 Pelletier (sc) : 34  
 Perdoux (sc) : 192  
 Perée (sc) : 38, 192  
 Perronet, Jean-Rodolphe (var) : 30  
 Perrot (Mlle) (pt) : 48, 82  
 Perrot (pt/sc) : 90, 116, 138  
 Pether (pt) : 90, 138  
 Philipeau (sc) : 38  
 Pitre (sc) : 34  
 Plée (pt/sc) : 188, 192  
 Plée fils (sc) : 98  
 Plée père (sc) : 98, 116, 192  
 Poiteau (pt) : 56, 160, 161  
 Poule, E. Mme. (pt) : 164, 168  
 Poulet (sc) : 168  
 Pourvoyeur (sc) : 192  
 Prestele, J. (pt) : 170  
 Prêtre, J.G. (pt) : 46, 47, 50, 52, 53, 58, 62, 98, 99,  
 103, 116, 117, 120, 121, 188, 192  
 Prévost, Bonaventure-Louis (sc) : 30, 31, 33  
 Prud'hon : 192  
 Prud'hon fils (sc) : 192  
 Quilley (sc) : 90, 138  
 Quoy (sc) : 62  
 Rabel (Mme) (sc) : 82  
 Racine, J.B. (sc) : 34, 38, 40  
 Radel (var) : 30  
 Raffeneau, Delile (pt) : 193, 194  
 R.B. & R. (sc) : 86, 87  
 Rebel (pt/sc) : 116, 188  
 Rebel (Mme) (sc) : 98  
 Rebello (Miss) (pt) : 136  
 Redouté, H.J. (pt) : 192  
 Reinagle (pt) : 90, 138, 139  
 Rémond, N. (im) : 50, 51, 52, 62, 82, 83, 100, 101, 123  
 Renard (sc) : 192  
 Reuss, C.F.S. (pt) : 144

Reuss, J.G. (pt) : 144  
 Richomme (Mademoiselle) (var) : 30  
 Rider, A. (pt) : 60  
 Ridinger, J.E. (pt) : 144  
 Ringuet, P. (pt) : 192  
 Riollet (var) : 30  
 Robert, Fam. (im) : 110  
 Robert, J. (sc) : 34  
 Roberts, Fam. (pt) : 110  
 Roberts, J. (sc) : 108  
 Robinson, H. (pt/sc) : 104, 124, 164  
 Roch, E. (pt/sc) : 82  
 Roffe, R. (sc) : 90, 138  
 Rogeau [Rojau] (var) : 30  
 Roulin (pt) : 82  
 Rousselet, Magd. Th. (sc) : 34  
 Rozet (Mlle) (sc) : 192  
 Ruotte fils (sc) : 192  
 Russell (pt) : 90  
 Sanderson, John (sc) : 128  
 Sang-so (pt) : 138  
 Sanson, F. (sc) : 154  
 Saxesen, W. (pt) : 144  
 Schenau [Schönau], Johann-Eleazar (var) : 30  
 Schleich, A. (pt/sc) : 52, 144  
 Schmeltz (sc) : 34, 62, 82, 123, 192  
 Schmelx (pt/sc) : 116, 188  
 Schuh (var) : 80  
 Scott, R. (sc) : 128, 132  
 Sébin (sc) : 82  
 Seingerger, Christian (pt) : 114  
 Sellier père (sc) : 192  
 Severeys, G. (sc/lt) : 26, 88, 89  
 Sheffield (pt) : 172  
 Sibelius, G. (sc) : 178  
 Simonet (sc) : 192  
 Slocombe, S. : 44  
 Smith (sc) : 106  
 Smith, Gas. (sc) : 132, 133  
 Smith, H. (pt) : 144  
 Smith, T. (pt/sc) : 104, 124, 164  
 Smith, W. (pt) : 104, 124  
 Sonnerat (pt) : 144  
 Soubeyran, Pierre (var) : 30  
 Soufflot, Jacques-Germain (var) : 30  
 Sowerby (pt) : 138  
 Speigler, L. (pt) : 116, 126, 127  
 Springsguth, S. (pt/sc) : 172, 173  
 Stack, W. : 190  
 Stadler (sc) : 90, 138  
 Stewart, J. (pt) : 128, 129, 132  
 Sturm, I.G. (sc) : 144  
 Sturt, J. (sc) : 26, 28  
 Susémihl, T. (sc) : 56, 184  
 Sutherland, T. (sc) : 138  
 Swift, W. (sc) : 164  
 Tardieu, P.F. (sc) : 34, 36, 38  
 Tardieu, Veuve (sc) : 34, 37, 38, 41  
 Tavernier (sc) : 192  
 Teillard (pt/sc) : 62, 82  
 Texier (sc) : 56  
 Thomson (sc) : 157  
 Thiolat (pt) : 82  
 Thomas, N. (sc) : 34  
 Thornton (pt) : 138  
 Tomkins (sc) : 188  
 Tourcaty (sc) : 192  
 Tourfaut (im) : 46, 76, 77  
 Trautner, Gust. Phil. (sc) : 114  
 Traviès, Edouard (pt) : 58, 59, 82, 102, 104, 105, 124, 125, 148  
 Tresca (sc) : 116, 192  
 Turcaty (pt/sc) : 188  
 Turpin (pt) : 168, 169, 188, 192  
 Turpin, J. (pt/sc/dr) : 116, 117, 164  
 Tuscher, M. (var) : 80  
 Tyroff, H.J. (sc) : 144  
 Vaillant (pt) : 82  
 Vaillant, V. (Madame) (im/cl) : 46, 76, 77  
 Valperga (sc) : 34  
 Van Gucht, T. (sc) : 28, 29  
 Vauthier (pt) : 50  
 Veelwaard, D. (sc) : 118  
 Vermeulen (sc) : 152  
 Verner (pt) : 82  
 Viallet [Violet], Guillaume (var) : 30  
 Victor (pt/sc) : 62, 82, 116, 188, 192  
 Villant (pt) : 82  
 Viste (sc) : 52  
 Visto (sc) : 82, 103  
 Volkart, J.F. (sc) : 144  
 Voyez (sc) : 38  
 Voysard, E. (sc) : 38, 41  
 Walwert, G.C. (sc) : 144  
 Ward, W. (sc) : 138  
 Warner (sc) : 138  
 Weber (pt) : 144  
 Weddell (sc) : 154, 172  
 Werner (pt) : 82, 144  
 Weston (sc) : 138

White (sc) : 178

Wilson, A. (pt) : 60, 61, 86

Wörmndl (sc) : 144

Wo-sion (pt) : 138

# 展示品リスト

(著者のアルファベット順)

| 著者                                                                                        | 書名                                                                                              | 発行地                                   | 発行者<br>出版者<br>印刷所                                                                            | 刊行年                              | カタログ<br>番号           |
|-------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------|----------------------|
| Aldrovandi, Ulisse                                                                        | Monstrorum historia                                                                             | Bologna                               | Nicolas Tebaldinus                                                                           | 1642                             | (5)                  |
| Audinet-Serville, J.-G.                                                                   | Histoire naturelle des insectes<br>Orthoptères                                                  | Paris                                 | Librairie encyclopé-<br>dique de Roret                                                       | 1839                             | (44)                 |
| Banks, Joseph                                                                             | Illustrations of Australian plants                                                              | London                                | Printed by order of<br>the Trustees of the<br>British Museum ;<br>sold by Longmans<br>[etc.] | 1900-<br>1905                    | (100)                |
| Blainville, Henri-Marie<br>Ducrotay de                                                    | Conchyliologie et malacologie                                                                   | Paris                                 | F.G. Levrault                                                                                | 1816-<br>1830                    | (67)                 |
| Bleeker, Pieter                                                                           | Contribution à la faune<br>ichthyologique de l'île Maurice                                      | Amsterdam                             | C.G. Van der Post                                                                            | 1878                             | (74)                 |
| Borowski, Georg Heinrich                                                                  | Gemeinnützige<br>Naturgeschichte des<br>Thierreichs                                             | Berlin                                | G.A. Lange                                                                                   | 1780-<br>1789                    | (68)<br>(69)         |
| —————                                                                                     | Botanical Magazine                                                                              | London                                | Sherwood, Neely, &<br>Jones                                                                  | 1801-<br>1844                    | (88)                 |
| Bougainville, Louis-<br>Antoine, comte de                                                 | Voyage autour du monde                                                                          | Paris                                 | Alphonse Pigoreau                                                                            | 1771                             | (99)                 |
| Brown, Peter                                                                              | New Illustrations of zoology                                                                    | London                                | B. White                                                                                     | 1776                             | (30)                 |
| Buffon, Georges Louis<br>Leclerc, comte de                                                | Histoire naturelle, générale et<br>particulière                                                 | Paris                                 | Imprimerie Royale                                                                            | 1749-<br>1804                    | (16)<br>~(21)        |
| Buffon, Georges Louis<br>Leclerc & Sonnini de<br>Mononcourt, Charles<br>Nicolas Sigisbert | Histoire naturelle, générale et<br>particulière                                                 | Paris                                 | F. Dufart                                                                                    | 1799-<br>1808                    | (22)~<br>(27)        |
| Buonanni, Filippo                                                                         | Rerum naturalium historia                                                                       | Roma                                  | Zempellianus                                                                                 | 1773                             | (55)                 |
| Chambers, Ephraim                                                                         | Cyclopaedia                                                                                     | London                                | J. & J. Knapton                                                                              | 1728                             | (13)                 |
| Chaumeton, François<br>Pierre                                                             | Flore médicale                                                                                  | Paris                                 | Panckoucke                                                                                   | 1833-<br>1835                    | (95)                 |
| Comenius, Johann Amos                                                                     | Orbis sensualium pictus                                                                         | Dortmund                              | Harenberg                                                                                    | 1991                             | (10)                 |
| Cramer, Pieter                                                                            | De uitlandsche Kapellen,<br>voorkomende in de drie<br>waereld-deelen Asia, Africa en<br>America | Amsterdam /<br>Utrecht /<br>Amsterdam | S.J. Baalde / Barth.<br>Wild & J. v.<br>Schoonhoven /<br>Gravius                             | 1779-<br>1791                    | (41)                 |
| Curtis (→ Botanical<br>Magazine)                                                          |                                                                                                 |                                       |                                                                                              |                                  |                      |
| Cuvier, Georges, baron<br>de                                                              | Le règne animal                                                                                 | Paris                                 | Fortin, Masson                                                                               | [1836-<br>1849]                  | (48)<br>(57)<br>(72) |
| Daniell, Thomas & William                                                                 | A picturesque voyage to India                                                                   | London                                | Printed for<br>Longman, Hurst,<br>Rees, and Orme,<br>Paternoster-Row by<br>T. Davison        | 1810                             | (104)                |
| Diderot, Denis &<br>Alembert, Jean Le Rond<br>d'                                          | Encyclopédie                                                                                    | Paris                                 | Briasson [etc.]                                                                              | 1751-<br>1765 /<br>1762-<br>1772 | (14)<br>(15)         |
| Donovan, Edward                                                                           | The natural history of British<br>insects                                                       | London                                | F. & C. Rivington                                                                            | 1792-<br>1813                    | (42)                 |
| Drury, Dru                                                                                | Illustrations of natural history                                                                | London                                | J.C. Sepp [販売] (t. 2,<br>3のみ B. White 販売)                                                    | 1770-<br>1782                    | (40)                 |
| Ellis, John                                                                               | Essai sur l'histoire naturelle<br>des corallines                                                | Den Haag                              | Pierre de Hondt                                                                              | 1756                             | (62)                 |
| Ellis, John & Solander,                                                                   | The natural history of many                                                                     | London                                | Benjamin White and                                                                           | 1786                             | (63)                 |



| 著者                                                                              | 書名                                                                  | 発行地                                                                        | 発行者<br>出版者<br>印刷所                                          | 刊行年                                | カタログ<br>番号   |
|---------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------|------------------------------------|--------------|
| Daniel Charles                                                                  | curious and uncommon<br>zoophytes                                   |                                                                            | son [etc.]                                                 |                                    |              |
| Fayrer, Joseph, Sir                                                             | The Thanatophidia of India                                          | London                                                                     | Churchill                                                  | 1874                               | (61)         |
|                                                                                 | Flore des jardiniers                                                | Paris                                                                      | Audot                                                      | 1836                               | (83)         |
| France. Commission des<br>sciences et arts d'Egypte                             | Description de l'Egypte                                             | Paris                                                                      | Imprimerie<br>impériale                                    | 1809-<br>1828                      | (107)        |
| Furber, Robert                                                                  | The Flower-Garden display'd                                         | London                                                                     | R. Montagu                                                 | 1734                               | (76)         |
| Geel, Pierre Corneille, van                                                     | Flore de l'amateur                                                  | Paris                                                                      | F. Leroi                                                   | 1847                               | (84)         |
| Gesner, Konrad                                                                  | Bibliotheca universalis                                             | Zürich                                                                     | Christophorus                                              | 1545                               | (9)          |
| Gesner, Konrad                                                                  | Thierbuch / Vogelbuch /<br>Fischbuch / Schlangenbuch                | Heidelberg /<br>Frankfurt<br>am Main /<br>Frankfurt am<br>Main /<br>Zürich | A. Cambier / R.<br>Cambier / R.<br>Cambier /<br>Froschower | 1606 /<br>1600 /<br>1598 /<br>1589 | (4)          |
| Goldsmith, Oliver                                                               | A History of the earth and<br>animated nature                       | Glasgow                                                                    | Blackie                                                    | 1873                               | (75)         |
| Gosse, Philip Henry                                                             | A History of the British sea-<br>anemones and corals                | London                                                                     | Van Voorst,<br>Paternoster Row                             | 1860                               | (64)         |
| Green, Thomas                                                                   | The Universal Herbal                                                | London                                                                     | Caxton Press                                               | [1824]                             | (93)         |
| Harris, John                                                                    | Lexicon technicum                                                   | London                                                                     | Dan. Brown [and 9<br>others]                               | 1716                               | (12)         |
| Harris, Moses                                                                   | An Exposition of English<br>insects                                 | London                                                                     | White & Robson                                             | 1782                               | (43)         |
| Helman, Isidore Stanislas<br>Henri                                              | Faits mémorables des<br>empereurs de la Chine                       | Paris                                                                      | 作者自宅                                                       | [1788]                             | (103)        |
| Henderson, Peter Charles                                                        | The Seasons, or Flower-Garden                                       | London                                                                     | R. Ackermann                                               | 1806                               | (77)         |
| Hollard, Henry                                                                  | Nouveaux éléments de zoologie,<br>ou, Etude du règne animal         | Paris                                                                      | Labé                                                       | 1839                               | (53)         |
| Hooke, Robert                                                                   | Micrographia                                                        | London                                                                     | J. Martyn & J.<br>Allestry                                 | 1665                               | (6)          |
| Hooker, William Jackson,<br>Sir,                                                | Pomona Londinensis                                                  | London                                                                     | William Hooker ;<br>printed by D.N.<br>Shury               | 1818                               | (90)         |
| Jaume Saint-Hilaire, Jean<br>Henri                                              | Plantes de la France, décrites<br>et peintes d'après nature         | Paris                                                                      | 著者自宅                                                       | 1819-<br>1822                      | (92)         |
| Jonston, Johannes                                                               | Naeukeurige beschryving van<br>de Natuur der Vier-voetige<br>Dieren | Amsterdam                                                                  | J. J. Schipper                                             | 1660                               | (46)         |
| Jonston, Johannes                                                               | Theatrum universale de avibus                                       | Hailprunna                                                                 | Franc. Jos.<br>Eckebrecht.<br>Christianus de<br>Lannoy     | 1756                               | (28)         |
| Kircher, Athanasius                                                             | Mundus Subterraneus                                                 | Amsterdam                                                                  | Joannes Janssonius                                         | 1678                               | (7)          |
| Knorr, Georg Wolfgang                                                           | Les délices des yeux et de<br>l'esprit                              | Nürnberg                                                                   | [Knorr]                                                    | 1764-<br>1773                      | (65)<br>(66) |
| Kurr, Johann Gottlob von                                                        | The Mineral Kingdom                                                 | Edinburgh                                                                  | Edmonston and<br>Douglas                                   | 1859                               | (98)         |
| Lacépède, Bernard<br>Germain Etienne de La<br>Ville sur Ilon, M. le comte<br>de | Histoire naturelle de<br>quadrupèdes-ovipares                       | Paris                                                                      | Rapet                                                      | 1819                               | (56)         |
| Lacépède, Bernard<br>Germain Etienne de La<br>Ville sur Ilon, M. le comte<br>de | Histoire naturelle des poissons                                     | Paris                                                                      | Rapet                                                      | 1819                               | (70)<br>(71) |
| Lacépède, Bernard<br>Germain Etienne de La<br>Ville sur Ilon, M. le comte       | Histoire naturelle de Lacépède                                      | Paris                                                                      | Furne et cie                                               | 1841                               | (60)         |

| 著者                                                                                                             | 書名                                                                                                           | 発行地       | 発行者<br>出版者<br>印刷所                                 | 刊行年           | カタ<br>ログ<br>番号 |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|---------------------------------------------------|---------------|----------------|
| de<br>Lacépède, Bernard<br>Germain Etienne de La<br>Ville sur Illon, M. le comte<br>de                         | Histoire naturelle, comprenant<br>les cétacés, les quadrupèdes-<br>ovipares, les serpens et les<br>poissons. | Paris     | Furne et cie                                      | 1841          | (73)           |
| Lemaire, Charles Antoine                                                                                       | Le Jardin fleuriste                                                                                          | Gent      | F. et E. Gyselynck                                | 1851-<br>1854 | (85)           |
| Lesson, René Primevère                                                                                         | Histoire naturelle des oiseaux-<br>mouches                                                                   | Paris     | Bertrand                                          | 1829-<br>1830 | (31)           |
| Lesson, René Primevère                                                                                         | Histoire naturelle des oiseaux<br>de paradis et des épimaques                                                | Paris     | Bertrand                                          | 1834-<br>1835 | (32)           |
| Lesson, René Primevère                                                                                         | Compléments de Buffon                                                                                        | Paris     | Pourrat Frères                                    | 1838          | (38)           |
| Linné, Karl von                                                                                                | Philosophia botanica                                                                                         | Stockholm | Godofried<br>Kiesewetter                          | 1751          | (11)           |
| Loddiges, Conrad &<br>George                                                                                   | The Botanical Cabinet                                                                                        | London    | Conrad Loddigies &<br>Sons                        | 1817-<br>1833 | (78)           |
| Lykosthenes, Konrad                                                                                            | Prodigiorum ac ostentorum<br>chronicon                                                                       | Basel     | Henricus Petri                                    | [1557]        | (3)            |
| Malpica, Cesare                                                                                                | Panorama dell'universo                                                                                       | Napoli    | Dallo Stabilimento<br>Tipografico dell'<br>Ateneo | 1844          | (106)          |
| Mantell, Gideon Algernon                                                                                       | A pictorial atlas of fossil<br>remains                                                                       | London    | H.G. Bohn                                         | 1850          | (97)           |
| Meyer, Johann Daniel                                                                                           | Angenehmer und nützlicher<br>Zeit-Vertreib                                                                   | Nürnberg  | J.J. Fleischmann                                  | 1748-<br>1752 | (47)           |
| Milne-Edwards, Henri                                                                                           | Recherches pour servir à<br>l'histoire naturelle des<br>mammifères                                           | Paris     | G. Masson                                         | 1868-<br>1874 | (51)           |
| Moggridge, John<br>Traherne                                                                                    | Contributions to the flora of<br>Mentone and to a winter flora<br>of the Riviera                             | London    | L. Reeve                                          | 1874          | (86)           |
| Morris, Richard, F. L. S.<br>Napoléon Bonaparte (→<br>France. Commission des<br>sciences et arts d'<br>Egypte) | Flora conspicua                                                                                              | London    | Longman                                           | 1826          | (80)           |
| Orbigny, Alcide<br>Dessalines d'                                                                               | Ornithologie de l'île du Cuba                                                                                | Paris     | Bertrand                                          | 1839          | (35)<br>(36)   |
| Pennant, Thomas                                                                                                | The View of India Extra<br>Gangem, China, and Japan                                                          | London    | John White                                        | 1798-<br>1800 | (105)          |
| Perrault, Claude                                                                                               | Memoir's for a natural history<br>of animals                                                                 | London    | Basset                                            | 1688          | (8)            |
| Pfeiffer, Ludwig Georg<br>Karl                                                                                 | Abbildung und Beschreibung<br>Blühender Cacteen                                                              | Kassel    | T. Fischer                                        | 1843          | (96)           |
| Plinius Secundus, Gaius                                                                                        | Historia mundi                                                                                               | Basel     | Froben                                            | 1525          | (1)            |
| Prévost, Florent &<br>Lemaire, C. L.                                                                           | Histoire naturelle des oiseaux<br>exotiques                                                                  | Paris     | Savy                                              | [1836]        | (34)           |
| Redouté, Pierre Joseph                                                                                         | Les Roses                                                                                                    | Paris     | P. Dufart                                         | 1835          | (81)<br>(82)   |
| Risso, Antoine                                                                                                 | Histoire naturelle des orangers                                                                              | Paris     | Audot                                             | 1818-<br>1822 | (91)           |
| Roques, Joseph                                                                                                 | Histoire des champignons<br>comestibles et vénéneux                                                          | Paris     | Treuttel et Wurts                                 | 1832          | (94)           |
| Sagra, Ramon de la                                                                                             | Histoire physique, politique et<br>naturelle de l'île de Cuba                                                | Paris     | Bertrand                                          | 1839          | (58)<br>(59)   |
| Schinz, Heinrich Rudolf                                                                                        | Monographien der Säugethiere                                                                                 | Zürich    | Meyer und Zellen                                  | 1848          | (49)           |
| Schinz, Heinrich Rudolf                                                                                        | Naturgeschichte der Vögel                                                                                    | Zürich    | F. Hanke                                          | 1854          | (39)           |
| Schlosser, Johannis                                                                                            | De Lacerta Ambroinensi                                                                                       | Amsterdam | [著者自宅]                                            | 1768          | (54)           |

| 著者                                          | 書名                                                                            | 発行地      | 発行者<br>出版者<br>印刷所                     | 刊行年             | カタログ<br>番号 |
|---------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|----------|---------------------------------------|-----------------|------------|
| Alberti                                     |                                                                               |          |                                       |                 |            |
| Schreber, Johann<br>Christian Daniel        | Die Säugthiere in Abbildungen<br>nach der Natur                               | Erlangen | W. Walther                            | [1774]-<br>1846 | (52)       |
| Siebold, Philip. Franz von                  | Flora japonica                                                                | 記載なし     | 記載なし                                  | 記載なし            | (101)      |
| Temminck, Coenraad<br>Jacob                 | Nouveau recueil de planches<br>coloriées d'oiseaux                            | Paris    | L. Imbert / F.G.<br>Levrault          | 1838            | (29)       |
| Thomson, James                              | Monographie des Cicindélides                                                  | Paris    | Société<br>entomologique de<br>France | 1857            | (45)       |
| Thornton, Robert John                       | Temple of Flora                                                               | [London] | [Dr. Thornton]                        | [1812]          | (79)       |
| Thornton, Robert John                       | Elements of botany                                                            | London   | [J. Whiting]                          | 1812            | (89)       |
| Thunberg, Carl Peter                        | Flora japonica                                                                | Leipzig  | I.G. Müller                           | 1784            | (102)      |
| Tournefort, Joseph Pitton<br>de             | Elémens de botanique                                                          | Paris    | Imprimerie Royale                     | 1694            | (87)       |
| Vesalius, Andreas                           | De humani corporis fabrica libri<br>septem                                    | Basel    | Johannes Oporinus                     | [1543]          | (2)        |
| Vieillot, Louis Jean Pierre<br>Oudart, Paul | La galerie des oiseaux du<br>cabinet d'histoire naturelle du<br>Jardin du Roi | Paris    | Constant-Chantpie                     | 1825            | (33)       |
| White, Adam                                 | A popular history of mammalia                                                 | London   | Reeve and Benham                      | 1850            | (50)       |
| Wilson, Alexander                           | American Ornithology                                                          | London   | Cassell, Peter &<br>Galpin            | [1878]          | (37)       |

---

「繁殖する自然 — 博物図鑑の世界」展

監修

鷲見洋一（慶應義塾大学文学部）

展示図録

編集・執筆

鷲見洋一

発行

2003 年 1 月

慶應義塾図書館

〒108-8345 東京都港区三田 2-15-45

Tel 03-5427-1644（直通）

印刷・製本 昭和情報プロセス(株)

2021年8月 誤記 訂正

“Breeding Nature : The Universe of the Illustrated Natural History”

exhibition catalogue written and edited by Yoichi Sumi

published by Keio University Library, 2-15-45, Mita, Minato-ku, Tokyo 108-8345

Japan

© 2003 Keio University Library

---